

ベトナム語の指示詞に関する諸問題

—理論と記述—

NGUYEN THI HA THUY

目次

目次.....	i
序文.....	v
第一章 はじめに.....	1
1.1 本研究で扱われる指示詞の分類.....	1
1.1.1 指示詞の代表形.....	4
1.1.2 様態・性質の指示に用いる形.....	5
1.1.3 時間の指示に用いる形.....	5
1.1.4 文末詞としての形.....	7
1.2 本論文の研究方向と構成.....	8
第二章 「±現場」.....	12
2.1 本研究の理論的枠組み—日本語の指示詞との対照を基に—.....	12
2.1.1 日本語の指示詞についての先行研究.....	12
2.1.1.1 黒田(1979).....	12
2.1.1.2 Hoji et al.(2003).....	16
2.1.1.3 田窪(2008, 2015).....	19
2.1.2 日本語における指示詞の先行研究のまとめ.....	21
2.2 日・韓・越の指示詞における共通点・相違点.....	22
2.2.1 đâỵ-đâỵ(đó)-kia とコ・ソ・ア.....	22
2.2.1.1 日・越の指示詞における共通点.....	22
2.2.1.2 日・越の指示詞における相違点.....	27
2.2.2 đâỵ-đâỵ(đó)-kia と韓国語의・구・저(i-ku-ce).....	31
2.2.2.1 韓・越の指示詞における共通点.....	31
2.2.2.2 韓・越の指示詞における相違点.....	35
2.3 ベトナム語指示詞を特徴付ける「±現場」.....	36
2.3.1 日本語・韓国語との対照から見たベトナム語の指示詞の特徴付け.....	36
2.3.2 「±現場」について.....	42
2.4 第2章のまとめ.....	44
第三章 「±現場」による指示詞の解釈.....	45
3.1 ベトナム語の指示詞に関する先行研究.....	45
3.1.1 Nguyễn P.P.(2002).....	45
3.1.2 Bui L.T.(2014).....	46

3.1.3	安達(2016)	49
3.1.4	先行研究のまとめとその問題点	51
3.2	指示詞における「近・遠」と「中」の対立：日本語の指示詞の場合	55
3.3	「近・遠」と「中」の対立：ベトナム語の指示詞の場合	60
3.3.1	直示用法の <i>đây-kia</i> と <i>đây(đó)</i>	63
3.3.2	非直示用法の <i>đây-kia</i> と <i>đây(đó)</i>	65
3.3.2.1	近称の <i>đây</i> と遠称の <i>kia</i>	65
3.3.2.2	中称の <i>đây(đó)</i>	72
3.3.3	<i>đây-kia</i> と <i>đây(đó)</i> とその対立から見た指示詞の用法	83
3.4	「±現場」による指示詞の解釈	85
3.4.1	「±現場」と現場指示用法・非現場指示用法	85
3.4.2	ベトナム語における空間の指示詞の再解釈へ	86
3.4.2.1	<i>đây</i> 系	87
3.4.2.2	<i>kia</i> 系	88
3.4.2.3	<i>đây(đó)</i> 系	91
3.4.2.4	<i>đây</i> と <i>kia</i>	94
3.4.2.5	<i>đây(đó)</i> と <i>kia</i>	96
3.5	第3章のまとめ	99
第四章 様態・性質の指示詞		101
4.1	様態・性質の指示詞についての先行研究： <i>thé</i> を中心に	101
4.2	様態・性質の指示詞が指す「対象」をめぐって	104
4.3	様態・性質の指示詞 <i>thé này-thé-thé kia</i> と「±現場」	112
4.3.1	「+現場」：近称の <i>thé này</i> と遠称の <i>thé kia</i>	113
4.3.2	「-現場」：中称の <i>thé</i>	119
4.4	第4章のまとめ	123
第五章 空間から時間へ		125
5.1	指示詞の時間指示をめぐって	125
5.2	ベトナム語の指示詞における時間指示の機能	128
5.2.1	直示的指示としての近称の <i>đây/này/này/nây</i>	129
5.2.1.1	<i>đây</i>	129
5.2.1.2	<i>này</i>	132
5.2.1.3	<i>này</i>	135
5.2.1.4	<i>nây</i>	138
5.2.2	直示的指示としての遠称の <i>kia/kia</i>	139

5.2.3	非直示的指示としての中称の <i>đây(đó)/ấy</i>	141
5.2.4	指示詞の時間を表す機能について.....	144
5.3	空間から時間へ.....	149
5.4	第5章のまとめ.....	158
第六章	文末詞としての指示詞	159
6.1	本研究で扱われる文末詞について—品詞論とモダリティ論から見て—.....	159
6.2	文末詞としての指示詞.....	166
6.2.1	近称の <i>đây/này</i> の文末詞としての機能.....	167
6.2.1.1	<i>đây</i>	167
6.2.1.1.1	平叙文と <i>đây</i>	167
6.2.1.1.2	疑問文・命令文と <i>đây</i>	172
6.2.1.2	<i>này</i>	175
6.2.1.3	<i>đây</i> と <i>này</i>	179
6.2.2	遠称の <i>kia(cơ)/kia</i> の文末詞としての機能.....	191
6.2.2.1	<i>kia(cơ)</i>	191
6.2.2.2	<i>kia</i>	195
6.2.3	中称の <i>đây/ấy(y)</i> の文末詞としての機能.....	200
6.2.3.1	<i>đây</i>	200
6.2.3.2	<i>ấy(y)</i>	206
6.3	指示詞及び指示詞から転用した文末詞—[±現場]との関連性を基に—.....	212
6.4	第6章のまとめ.....	220
第七章	結語	222
7.1	これまでの議論のまとめ.....	222
7.1.1	ベトナム語の指示詞を特徴付ける[±現場]とそれに基づく指示詞の用法解釈..	222
7.1.2	空間指示と時間指示.....	223
7.1.3	指示詞から転用したいわゆる文末詞.....	224
7.2	先行研究との比較.....	227
7.3	今後の課題.....	230
付録	表現類型と文末詞	232
8.1	発話機能による文の表現類型の分類.....	232
8.1.1	平叙文.....	232
8.1.1.1	肯定文.....	232
8.1.1.2	否定文.....	234

8.1.2 疑問文.....	235
8.1.2.1 一般疑問文.....	235
8.1.2.2 疑似の疑問文.....	238
8.1.3 命令文.....	240
8.1.4 感嘆文.....	243
8.2 文の表現類型と文末詞.....	244
8.2.1 文の表現類型を表示する文末詞.....	244
8.2.2 文の表現類型と共起する文末詞.....	246
ベトナム語の品詞体系.....	257
参考文献.....	258
用例採集.....	263

序文

言語学との出会いは、母国の大学で日本語を専攻していたのがきっかけでした。卒業論文は、日本語の移動動詞をテーマとし、ベトナム語の移動動詞に完全に対応していないことに気づき、はじめて対照言語学の面白味を知りました。その後、修士論文では、日本語と韓国語とを比較しながら、ベトナム語の指示詞の体系的記述及び理論化を行いました。指示詞の研究は、博士後期課程に進学してからも続け、修士論文では取り組むことのできなかつた他の用法、文末詞的に使われる指示詞の用法を考察対象とするなどして、ベトナム語の指示詞についてより包括的な分析を行ってきました。本論文は、こうした研究の成果をまとめたものです。

本論文は、日本語の指示詞を一般化するために提案されている理論的枠組みを応用することによって、ベトナム語を観察するだけでは分からない指示詞の意味論・語用論的特徴を明らかにすることを目的としています。両言語に対するデータ収集や意味分析を行う際に、外国語である日本語はもちろん、母国語であるベトナム語についても、理解や説明に苦しむところが少なくありませんでした。あたかも未知なる言語への挑戦のような気持ちで、執筆に取り組む毎日でしたが、それこそが対照言語学の面白味であると思われまふ。

本研究を進めるにあたり、京都大学文学研究科言語学研究室の皆様をはじめ、たくさんの方々にお世話になりました。本論文の研究方向の決め手となった貴重なご助言をいただいた田窪行則名誉教授、熱心なご指導を賜った指導教官の千田俊太郎准教授、および研究室の教授の方々、大学院生の皆様に心より感謝申し上げます。また、データ収集・論文執筆の際にご協力いただいた方々に、深く感謝いたします。

2020年1月6日

Nguyen Thi Ha Thuy

第一章 はじめに

1.1 本研究で扱われる指示詞の分類

đây/này/đấy/kia などのようなベトナム語の指示詞を主なテーマとする研究は少なく、指示詞という用語を用いているものとしては Thompson (1965)、Nguyễn P.P. (2002)、Bui L.T. (2014) や安達 (2016 など) が挙げられる。一方、他の先行研究では đây/này/đấy/kia を人称詞 (人称代名詞) と共に、「代詞¹ (substitutes)」の一種として扱うものが多数である。ひとまず、以下に指示詞を代詞として言及している先行研究を確認した上で、本論文で扱う指示詞の分類を紹介する。

Trần N. T. (1985) は、ベトナム語のテキストにおける結束性についての研究であり、文と文を結ぶ方法として「代詞による結束」があると述べている。「代詞による結束」とは、先行する文にある語、句、節 (命題) あるいは文全体を代詞 (または代詞化されたもの) で照応することを指す。

- ・照応対象による分類 (7 類) : 人 (N)、物 (V)、数量 (L)、時間 (T)、空間 (K)、指定 (D)、様態 (C)
- ・原点との関わりによる分類 (4 類) : 原点 (1)、近点 (2)、遠点 (3)、疑問・不定 (4)

この二つの代詞の分類によって代詞をまとめると、以下の表 1 となる。なお、Trần N. T. (1985) では、代詞同士の組み合わせもあるとも述べている (例えば、thế này-C1/thế nó²-C2/thế kia-C3 など)。

一方、Nguyễn Hữu Quỳnh (2001) は、ベトナム語の指示代詞を「物事を指す指示代詞」、「空間・時間を指す指示代詞」、「様態を指す指示代詞」の三つに分けている。物事を指す指示代詞では、này は「近くにある人やもの、現在のこと」、nó と kia は「遠くにあるもの」、ấy と đó は「既に言及されたもの」を指す。空間・時間を指す指示代詞では、đây は「近いところ」を指す。đấy/đó と kia は「より遠いところ」を指す。様態を指す指示代詞には thế と vậy があり、「先行する文に言及された物事の性質・様態」を指示すると述べている。

¹ 代詞とは、名詞・名詞句の代わりとなる「代名詞」、動詞・動詞句の代わりとなる「代動詞」、さらには、句・節 (命題) の代わりとなるもの全てを含んだ概念である (富田 2000:84)。また、品詞論においては位置づけられにくく、実辞 (内容語) と虚辞 (機能語) の間にあるものである (Đinh V. Đ. 2015:196-7)。

² thế nó は thế này と対になって、thế này~thế nó (「ああ~こう」) という対になっている形はあるが、単独では使われることがないため、本論文の研究対象から外すことにする。

		1	2	3	4
		Điểm gốc (原点)	Điểm gần (近点)	Điểm xa (遠点)	Nghi vấn/Phiếm chi (疑問・不定)
N	Người (人)	TÔI, TAO, tớ... (一人称)	MÀY, cậu, anh, ông, đồng chí... (二人称)	HÃN, Y, thì, HỌ (三人称)	AI (誰)
		TA (聞き手を含む一人称)		NÓ, CHÚNG, TẤT CẢ (三人称)	
		MÌNH, NHAU (一人称・二人称単数、お互い)			
V	Sự vật (物)				GÌ (何)
L	Số lượng (数量)	BẤY NHIÊU (これぐらい)	BẤY NHIÊU (それぐらい)		BAO NHIÊU (どれぐらい)
T	Thời gian (時間)	BÂY GIỜ, NAY (今)	BÂY (GIỜ) (その/あの時)		BAO GIỜ (いつ)
			NẤY, MAI (さっき、明日)		
K	Không gian (空間)	ĐÂY (ここ)	ĐÂY (そこ) trên, sau... (上、後ろ)	ĐÓ (そこ・その)	KIA (あそこ)
D	Dấu hiệu (指定)	NÀY (この)	NỌ, ẤY (その)		
C	Cách thức (様態)	THẾ, VẬY (そう・そのよう)			SAO (どう・どのよう)

(表 1) Trần N.T. (1985) によるベトナム語の代詞の分類³

³ 和訳は筆者による。

また、富田（2000）は、ベトナム語の代詞には人称代詞と指示・疑問代詞があり、後者を表2のようにまとめている。なお、表2に見られる「真性」とは本来の指示・疑問代詞を指し、「派生」はその指示・疑問代詞を用いた派生的な代詞を指す。指示・疑問代詞は、近称・中称・遠称・不定称（疑問）の2つに分けられるとされている。

	(真性)				(派生)									
	場所	指示	程度	様態	物	人	場所	方向	性質・様態	時点	時間	数量	原因・理由	
近称	「ここ」 đây	「この」 này (này) (này)	「これほど」 bây	「このよう」 vậy	「これ」 cái này, đây	「この人」 người này, đây[自分]	「ここ」 chỗ này	「こちら」 phía này, đang này (具体的)	「このよう」 (như) thế này	「このとき」 lúc này bây giờ [今日] hôm nay 「さっき」 lúc này khi này hồi này			「これぐら い」 bây nhiêu	
中称	「そこ」 đấy, đó	「その」 ấy, đó	「それほど」 bấy	「そのよう」 vậy, thế	「それ」 cái ấy, cái đó, đấy, đó	「その人」 người ấy, người đó, ấy 「あなた」	「そこ」 chỗ ấy, chỗ đó	「こちら」 phía ấy, phía đó, đang ấy, đang đó	「そのよう」 (như) thế ấy, (như) thế đó	「そのとき」 lúc ấy, bấy giờ lúc đó	「そのとき」 bấy giờ	「それほど 長い時間」 bấy lâu	「それぐら い」 bấy nhiêu 「そうだか ら」 vì vậy, vì thế	
遠称	「あそこ」 kia	「あの」 kia			「あれ」 cái kia, kia	「あの人」 người kia	「あそこ」 chỗ kia	「あちら」 phía kia, đang kia	「あのよう」 (như) thế kia	「あのとき」 lúc kia				
不定称 (疑問)	「どこ」 đâu	「どの」 nào	「どれほど」 bao	「どのよう」 sao	「どれ」 cái nào 「何」 gì, cái gì	「どの人」 người nào 「誰」 ai	「どこ」 chỗ nào, nơi nào	「どちら」 phía nào, đang nào	「どのよう」 (như) thế nào, lâm sao	「いつ」 lúc nào, khi nào, hồi nào	「いつ」 bao giờ 「何時(に)」 (lúc) mấy giờ	「どれほど 長い時間」 bao lâu 「何時間」 mấy giờ đang hồ 「何分間」 mấy phút, bao nhiêu phút	「どれぐら い」 bao nhiêu 「どれぐら い」 vì lẽ gì, vì cố gì	

(表2) 富田（2000）によるベトナム語の指示・疑問代詞の分類

本論文で扱う指示詞は、首都ハノイを中心とする北部方言で話される対話において使用されるものとする。また、表2に示されるように、ベトナム語には、いわゆる指示詞と、その拡張的用法である様態・性質の指示（日本語で言う指示副詞）、指示詞の派生的用法である時間の指示、及び関連語彙である指示詞から転用した一部の文末詞、感動詞が存在すると考えられる。本論文ではこれらの用法のうち、指示詞から転用した感動詞を除くすべての用法を考察対象とする。

また、ベトナム語の指示詞を **đây** 系（近称）、**đấy(đó)**⁴ 系（中称）、**kia** 系（遠称）（以下 **đây-đấy(đó)-kia**）と三系列に分けて表記する。以下に、指示詞の代表形及び各用法における形式を紹介する⁵。

⁴ 本論文の考察対象である北部方言では **đó** より **đấy** のほうがよく見られる。

⁵ 本稿では、後述の Nguyễn T.C. (1975) 及び富田 (2000) によるベトナム語の品詞体系に基づき、グロスを付ける。

1.1.1 指示詞の代表形

・近称：đây (単独形)、này (名詞修飾形)

(1) Đây là cái gì?

コ [コンピュータ]もの 何
これは何ですか。

(2) Đây là đâu?

コ [コンピュータ] どこ
ここはどこですか。

(3) Cái này là cái gì?

もの コ [コンピュータ]もの 何
これは何ですか。

(4) Chỗ này là chỗ nào?

場所 コ [コンピュータ]場所 どの
ここはどこですか。

・中称：đây(đó) (単独形)、đây/ấy(đó) (名詞修飾形)

(5) Đây(đó) là sách của Hoa.

ソ [コンピュータ]本 [関係詞(の)] [人名]
それはホアさんの本です。

(6) Đây(đó) là chỗ ngồi của Hoa.

ソ [コンピュータ]場所 座る [関係詞(の)] [人名]
そこはホアさんの席です。

(7) Sách đây(ấy) là sách của Hoa.

本 ソ [コンピュータ]本 [関係詞(の)] [人名]
その本はホアさんの本です。

(8) Chỗ đây(ấy) không phải chỗ ngồi của Hoa.

場所 ソ [副詞(否定)] 正しい 場所 座る [関係詞(の)] [人名]
その席はホアさんの席ではありません。

・遠称：kia（単独形・名詞修飾形）

(9) Kia là xe máy Nhật.

ア [コピュラ] バイク 日本
あれは日本製のバイクです。

(10) Thư viện ở kia.

図書館 ある ア
図書館はあそこにあります。

(11) Xe máy Nhật là cái kia.

バイク 日本 [コピュラ] もの ア
日本製のバイクはあれです。

(12) Hoa đang ở trong tòa nhà kia.

[人名] [副詞（現在進行）] 居る 中 建物 ア
ホアさんはあの建物の中にいます。

1.1.2 様態・性質の指示に用いる形

・近称：thế này

(13) Hãy làm thế này!

[副詞（命令）] する コ
こうしなさい。

・中称：thế

(14) Đừng làm thế!

[副詞（禁止）] する ソ
そうするな。

・遠称：thế kia

(15) Sao lại to thế kia?

なぜ [副詞（また）] 大きい ア
なぜあんなに大きいのか？

1.1.3 時間の指示に用いる形

・近称：đây/nay（単独形）、nay/này/nây（名詞修飾形）

(16) Đây là thời đại nào?

コ [コピュラ] 時代 どの

今はどの時代ですか？

(17) Từ xưa đến nay tôi chưa gặp

[関係詞 (から)] 昔 [関係詞 (まで)] コ 1 (私) [副詞 (否定)] 会う

ai tốt như chị.

誰 良い [関係詞 (如く)] 2 (姉)

今まで、あなたのような良い人には会ったことはありません。

(18) Hôm nay là thứ mấy?

日 コ [コピュラ] 何曜日

今日は何曜日ですか？

(19) Tháng này tôi không ở Nhật.

月 コ 1 (私) [副詞 (否定)] 居る 日本

今月は日本にはいません。

(20) Anh ấy vừa về lúc này.

彼 [副詞 (ばかり)] 帰る 時 コ

彼はいまさっき帰ったところです。

・中称 : đây(đó) (単独形)、đây/ấy(đó) (名詞修飾形)

(21) Sau đây(đó), bà Qué qua đời.

後 ソ 婆 [人名] 死ぬ

その後、クエさんは亡くなりました。

(22) Lúc ấy(đó), tôi còn rất trẻ.

時 ソ 1 (私) [副詞 (まだ)] [副詞 (とても)] 若い

その時、私はまだ若かったです。

・遠称 : kia/kia (単独形・名詞修飾形)

(23) Ngày kia cô ấy lấy chồng.

日 ア 彼女 取る 夫

明後日、彼女は結婚します。

- (24) Ngày kia cô ấy lấy chồng.
日 ア 彼女 取る 夫
明々後日、彼女は結婚します。

1.1.4 文末詞としての形

・近称：đây/này

- (25) Ai đây?
誰 [文末詞] (コ)
誰?

- (26) Nhìn này!
見る [文末詞] (コ)
見て!

・中称：đây/ấy(y)⁶

- (27) Đẹp đây.
きれい [文末詞] (ソ)
きれいだね。

- (28) Hôm nay người tôi làm sao ấy(y).
今日 体 1 (私) する どのよう [文末詞] (ソ)
今日はなんとなく、体調が悪いわ。

・遠称：kia (cơ)⁷/kia

- (29) Tôi ăn phở kia (cơ).
1 (私) 食べる フォー [文末詞] (ア)
私はフォーを食べるよ。

- (30) Xe buýt đến rồi kia.
バス 来る [副詞 (完了)] [文末詞] (ア)
バスが来たぞ。

⁶ ấy の縮約形であるとされる ý は口語的な表現であり、規範的な表記とは見なされない。

⁷ kia の縮約形であるとされる cơ は口語的な表現である。

		近称	中称	遠称	
指示詞及びその 拡張的・派生的 用法	指示詞	単独形	đây	đây(đó)	kia/cái kia
		名詞修飾形	đây/này ⁸	đây/ấy(đó)	kia
	様態・性質の指示詞		thế này	thế	thế kia
	時間の指示詞	単独形	đây/nay	×	×
		名詞修飾形	đây/nay/này/nãy	đây/ấy(đó)	kia/kia
指示詞からの転用	文末詞		đây/này	đây/ấy(ý)	kia(cơ)/kia

(表3) 本論文で扱われる指示詞の分類

1.2 本論文の研究方向と構成

これまでの先行研究において、指示詞を主なテーマとして取り上げているのは Nguyễn P. P. (2002)、Bui L.T. (2014) や安達 (2016 など) が挙げられる。Nguyễn P. P. (2002) では、指示詞を形態的に分析し、それに基づいてベトナム語の指示詞についての解釈と機能を記述している。空間指示用法では、認知的概念である内空間・外空間によって指示詞が使い分けられる。また、ベトナム語の指示詞には時間を表す用法もあるが、これは空間指示用法からの意味拡張の結果ではなく、もともと空間的意味と時間的意味を併せ持っているのだと主張している。Brown & Yule (1983) を論理的枠組みとする Bui L.T. (2014) は談話分析 (discourse analysis) の視点からベトナム語の指示詞の用法を考察している研究である。話し手と指示対象との物理的・心理的距離に基づく spatial usage (空間指示用法) を元となる用法とし、指示対象が話し手から近い場合に用いられる近称と、指示対象が話し手から遠い場合に用いられる中称と遠称という二系列

⁸ 基本的に近称の指示詞の名詞修飾形は này であるが、次のような「名詞+đây」の形も見られる(a)。この đây は現場指示にしか使われず、直前に来る名詞が人である場合に限られる。さらに、đây を này に置き換えると指示対象に対する丁寧な気持ちがなくなる(b)。

a. Xin giới thiệu, chị Hà đây là vợ của bác sĩ Nam.

請う 紹介する 姉 [人名] ここ [コピュラ] 妻 [関係詞 (の)] 医者 [人名]

ご紹介いたします。こちらのハーさんはナム先生の奥様です。

b. Chị này là ai?

姉 この [コピュラ] 誰

この姉さん、誰？

の指示詞をもつとされている。そこから拡張された意味として、temporal usage (時間指示用法)、discourse usage (談話指示用法)、first mention usage (新規導入用法)、demonstrative particles (文末詞)としての用法と、demonstrative interjections (感動詞)としての用法があり、指示詞の多義性(polysemy)を表しているとされている。一方、安達 (2016 など) は、金水・岡崎・曹 (2002) の日本語の指示詞の一般化に基づき、三系列を持つベトナム語の指示詞には主に、直示用法・照応用法・記憶指示用法があるとしている。また、指示詞には時間を指示する機能もあり、指示詞から文法化された文末詞と感動詞も存在していると主張している。第3章で後述するが、これまでの先行研究では、いずれも元の用法とされている空間指示用法を距離区分または人称区分による眼前指示用法と、話し手と聞き手との共有知識による非眼前指示用法と、それぞれ別々の原理によって記述されている。そのため、原型となる空間指示用法の一般化はもちろん、他の用法である時間指示用法、様態・性質の指示用法または文末詞としての用法との関連性も明確にされていない。

本研究は、このような先行研究における問題点を意識しながら、対照言語学的方法を採り、日本語の指示詞を統一の原理で記述しようとする Hoji et al. (2003)、田窪 (2008 など) による理論的枠組みを採用する。これらの先行研究による主張を踏まえ、ベトナム語の指示詞を特徴付ける「±現場」という素性を提案する。しかる後に、この意味論・語用論的特徴付けである「±現場」を拠り所となる一般化としながら、ベトナム語の指示詞における空間指示用法、時間指示用法、様態・性質の指示詞としての用法、または指示詞から転用された文末詞としての用法への解釈を試みる。結論を先取りして述べると以下ようになる。

・三系列あるベトナム語の指示詞において、発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す[+現場]の特徴を持つのは、近称の *đây* 系と遠称の *kia* 系である。*đây* 系と *kia* 系は認知主体である話し手と指示対象との距離 (近・遠) によって使い分けられる。一方、中称の *đây(đó)* 系には距離区分がない。一方、発話現場に存在しているとみなされない対象を指す[-現場]の特徴を持つのは *đây(đó)* 系である。[+現場]の *đây-kia* と[-現場]の *đây(đó)* の間で対立している。また、[+現場]の *đây* 系と *kia* 系は現場指示用法を、[-現場]の *đây(đó)* 系は非現場指示用法を、それぞれ基本用法とする。拡張用法として、非現場指示用法に用いられる *đây-kia*、または現場指示用法に用いられる *đây(đó)* も存在している。ただし、非現場指示用法に用いられる *đây* 系と *kia* 系は、基本用法である現場指示用法における「近・遠」の特徴を保持している。一方、拡張用法として現場指示用法に用いられる *đây(đó)* 系は[-現場]の特徴を依然として維持している。

・「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持つ様態・性質の指示詞である *thế này-thế-thế kia* にも同様なことが言える。すなわち、[+現場]の特徴を持つ *thế này* と *thế kia* は、話し手 (認知主体) にとって「近」または「遠」であるとみなされる対象を指示

するという典型的な現場指示用法を持つ。thé này と thé kia は基本的に現場指示用法にしか用いられない。非現場指示用法に用いられるように見られる thé này もあるが、近称の指示詞が持つ[+現場]の特徴を依然として維持している。一方、[-現場]の特徴を持つ thé は現場に存在しているとみなされない、あるいは話し手の記憶にある対象を指し示すという典型的な非現場指示用法を持つ。言い換えれば、対象が現場になれば、全て thé で指示することができる。

・空間の指示詞の派生的用法であると考えられる時間指示の機能については、[+現場]の特徴を持つ近称の đây/này/này/này と遠称の kia/kìa は、発話時を参照点とする時間を指示する直示的用法に用いられる。近称は現在または発話時から近い過去を表し、遠称は発話時から遠い過去や将来を表す。一方、[-現場]の特徴を持つ中称的 đây(đó)は、時間指示では発話時を参照点としない時間を指示するという非直示的指示に用いられる。いずれも、元となる空間指示用法と並行している。

・指示詞から転用した文末詞 (đây/này-đây/ấy-kia(cơ)/kia) は統語的には文末に置かれる助詞であり、機能的にはモダリティ表現の一種で、伝達のモダリティを表す品詞である。これらの文末詞と元となる指示詞の用法の関連性については、[+現場]の特徴を持つ近称及び一部の遠称は、文末詞として機能する時においても、基本的に指示詞の性質を維持している。それに対し、[-現場]の特徴を持つ中称及び一部の遠称は、指示詞の性質を維持しておらず、典型的な文末詞として機能している。

本論文の構成は次の通りである。まず、次章では本研究の理論的枠組みとなる日本語の指示詞についての先行研究を紹介し、日本語と韓国語の指示詞との対照を踏まえた上で、ベトナム語の指示詞の特徴を反映する[±現場]の素性を提案する。第3章では、これまでのベトナム語の指示詞についての先行研究における問題点を指摘する。その問題点を解決するためにこれまでの先行研究と異なるアプローチが必要となる。そこで、第3章では、指示詞を眼前指示と非眼前指示に分けてその用法を整理した上で、ベトナム語の指示詞には近称・遠称 đây-kia と中称 đây(đó)といった対立を成していることを示し、第2章で提案した指示詞の特徴付けである「±現場」の妥当性を検証する。さらに、第4章では、この意味論・語用論的特徴付けである「±現場」が様態・性質の指示詞(日本語で言う指示副詞)に当てはまることを示す。第5章では、空間の指示詞の派生的用法であると考えられる指示詞による時間指示用法を記述する。それを踏まえながら、元となる空間指示用法との関連性について、「±現場」の特徴付けに基づいて論じる。続いて第6章では、指示詞から転用した文末詞の用法と、元となる指示詞の用法との関連性についての主張を述べるが、その前提として品詞論とモダリティ論から見たいわゆる文末詞の位置づけについて論じる。また、これまでの先行研究とは異なったアプローチを採用し、ベトナム語における文の表現類型を確認した上で、それらにおける文末詞としての用法を考察する。第7章では、本研究の結論と今後の課題を述べる。

なお、指示詞というのは何らかの対象を指し示すために用いるものであり、指示詞と指示対象がお互いに依存関係にあり、指示を行いたい対象があるから指示詞が必要となると考えられる。そのため、本研究では、指示詞及びその指示対象を比較的に特定しやすいと対話から成り立った戯曲における会話文を分析対象として利用する。ただし、それ以外の例文に関しては、言及しない限りは母語話者である筆者の作例である。

第二章 「±現場」

2.1 本研究の理論的枠組み—日本語の指示詞との対照を基に—

2.1.1 日本語の指示詞についての先行研究

日本語の指示詞に関する先行研究が多く、その使い分けについては、大きく分けて「人称区分説」と「距離区分説」がよく知られている。佐久間（1951）や三上（1955）が提唱した人称区分説とは、コ・ソ・アが指す領域を人称に関連させて説明するものであり、「これ」という場合の物や事は、発言者・話者の手のとどく範囲、いわばその勢力圏内にあるものなのです。また、「それ」は、話し相手の手のとどく範囲、自由に取れる区域内のものをさすのです。こうした勢力圏外にあるものが、すべて「あれ」に属します」とされている（佐久間 1951:22-3）。一方、服部（1961）や阪田（1971）が提唱した距離区分説とは、話し手と指示対象との距離に基づく説明であり、コは話し手の近くにあるものを、ソは話し手からやや離れたところにあるものを、アは話し手から離れたところにあるものを指す。また、指示詞の用法については、眼前指示と非眼前指示の対立が一般的に見られるが、先行研究によってその名称が異なる。直接指示・文脈承前（三上（1955））、眼前指示用法・文脈指示用法（久野（1973））、独立的用法・照応的用法（黒田（1979））、現場指示・文脈指示（阪田（1971）、堀口（1978）、正保（1981）、吉本（1992）、金水・田窪（1992））、直示用法・非直示用法（金水（1999））などがある。

本章では、後述するベトナム語の指示詞を特徴付ける「±現場」という素性は基本的に距離区分説を拠り所として提案するものである。また、指示詞の用法を「現場指示」と「非現場指示」に分けることとする。ひとまず、以下に「±現場」または現場指示・非現場指示を主張する際の理論的枠組みとなる日本語の先行研究を Hoji et al.（2003）、田窪（2008 等）に基づき、いくつか紹介していく。

2.1.1.1 黒田（1979）

多くの語用論的研究と異なり、黒田（1979）は日本語の指示詞に対する意味論的アプローチを提案している。黒田（1979）では、コ・ソ・アの用法を「照応的用法」と「独立的用法」⁹に分ける。

⁹ 照応的用法・独立的用法は、文脈指示用法・眼前指示用法にほぼ対応する。が、「昨日のあれがなんだったのか」のような眼前指示でない、かつ文脈中の他の語句に照応するわけではない場合もある。そのため、黒田の用語によれば、文脈指示の独立的用法がありえることになる。

照応的用法：文脈中の他の語句に照応する。

独立的用法：文脈中の他の語句に照応することなく、直接に意図された対象を指示する。

黒田は、久野（1973）をはじめ、従来の語用論的研究では、指示詞における眼前指示用法と文脈指示用法の機能が別々に記述されており、これらの二つの用法が単純な写像関係にないことが先行研究の問題点であると指摘している¹⁰。黒田（1979）では、この両用法を統一する原理を考えるべきであり、これまで言語使用論上の概念である話し手・聞き手に結び付いている指示詞の機能を「話し手・聞き手というものの存在が保障されている域の外に出て、指示詞の用法を見極める必要がある」と述べている。そこで、黒田は「話し手は依然として具体的な存在として残り、聞き手のみただ消失する」疑念行為における¹¹ 独り言においての指示詞の用法を考察することにした。独り言では、聞き手が存在しないため、独立的用法における「コは話し手に近いもの、ソは聞き手に近いもの、アは話し手からも聞き手からも遠いものを指す」規定から、または照応的用法における久野（1973）の「アは話し手も聞き手も指示対象をよく知っている場合に、ソは話し手自身が指示対象をよく知っているが聞き手がよく知らないだろうと想定した場合、あるいは話し手自身が指示対象をよく知らない場合に用いられる」記述から、「聞き手」を削除すると、指示詞の用法は以下ようになる¹²。

(31) 独り言による指示詞の用法

照応的用法：「自分がよく知っている対象にはアを、よく知らない対象にはソを用いる」

独立的用法：「話し手に近いものはコ、遠いものはア」

(黒田 1979:47)

¹⁰ 黒田の主張は次のようである。(田窪 (2010) の解説に基づく)

		話し手	聞き手	選ばれる指示詞
A	照応的用法 (文脈指示)	疎 (知らない)	親 (知っている)	ソ
	独立的用法 (眼前指示)	遠 (遠い)	近 (近い)	ソ
B	照応的用法 (文脈指示)	疎 (知らない)	疎 (知らない)	ソ
	独立的用法 (眼前指示)	遠 (遠い)	遠 (遠い)	ア
C	照応的用法 (文脈指示)	親 (知っている)	疎 (知らない)	ソ
	独立的用法 (眼前指示)	近 (近い)	遠 (遠い)	コ

上記のように、A では照応用法 (文脈指示) においても独立用法 (眼前指示) においてもソが使われるので平行している。しかし、B と C ではそれぞれソ・アまたはソ・コとなっており、照応用法 (文脈指示) の場合と独立用法 (眼前指示) の場合は平行していない。これが従来の研究の問題点であると黒田 (1979) によって指摘されている。

¹¹ 黒田は、自分で自分に話しかける「擬似の会話」を避けるため、文末に「だろう」などの言語表現として表れる疑念行為における独り言を採用する。

¹² 田窪 (2010) による黒田 (1979) の解説に基づく。

上記の(31)によれば、照応的用法におけるコと独立的用法におけるソが無用になるように見えるが、文脈中の他の語句に照応しない、つまり独り言における独立的用法のソもありえる¹³。このソの用法を説明するのに、次の規定を主張している。

(32) a. ア系の指示詞に対する直接的な知識：直接体験に基づく知識

b. ソ系の指示詞に対する間接的な知識：概念的知識

直接的知識・体験的知識：知識の主体はその対象について、
原則上は、無限の知識を持っている。

概念的知識：知識の主体はその概念に限定されている。

(田窪 2010:298 に基づく)

さらに、この一般化は独り言の照応的用法にも適用し、対話における用法に拡張した結果、(33)のような結論を提出している¹⁴。

¹³ 黒田 (1979) では、独り言における独立的用法のソの例として以下の(c)~(e)が挙げられる。ただし、黒田はなんらかの形で対象に関する体験知識があれば、アあるいはコも用いられるかもしれないと考えるようである。

c. 潰瘍文

文脈：精密検査で潰瘍が発見され、知識として（概念として）自分の胃に異常があることを知っているが、見たことはない。

「いったいそれはどんな色をしているのだろうか。」

d. ガロア文

文脈：不慮の死を遂げた友人が研究していたと聞いている方程式論に思いをはせて。

「もしせめてその概要が発表されていたら学会の状況は一変していたのではないだろうか。」

e. 随筆文

文脈：なにか執筆することを頼まれて、それに応じようか応じまいかと迷っているときに、あることが心に浮かんで、いまだそれがどのようなことかよくわからない。

「うん、まあ、そのことでも書いてみようか。」

¹⁴ 黒田は、対話における用法を説明するのに、次の(f)~(j)を挙げている。

・対象が直接的知識として話し手・聞き手にも共有される場合：

f. 山田さんを待っているのです。あの人のことだからきっと遅れてくるでしょう。

g. ??山田さんという人を待っているのです。その人のことだからきっと遅れてくるでしょう。

(f)は、聞き手が話し手の推論の根拠を概念的に表示しなくても、山田さんについての直接的知識の中に持っていることが話し手に了解されている。一方、(g)は、山田に関する共有の了解はなく推論の根拠が提示されていないため不可である。

(33) ソ・アの意味論的規定

ア：対象を直接的知識・体験的知識の対象として指向する。

ソ：対象を概念的知識の対象として指向する。

(田窪 2010:300 に基づく)

しかし、(33)における「対象を概念的知識の対象として指向する」という規定は、独り言における独立的用法のソは説明できるが、対話における独立的用法のソ（つまり眼前にある対象を指すソ）を説明できない。この眼前のソに関しては、話し手・聞き手ともに直接的知識を持つが、「対象が聞き手のそばにあれば、話し手は聞き手がその対象の認識について自分よりも有利な立場にあり、(中略)話し手が「それ」ということの裏には、自分には到達しえない直接的知識の対象の存在を認めるという意義が隠されているのではないかということになる」と黒田は説明している。以上から、眼前にある対象を指すソも含めて、黒田(1979:58)では対話におけるソ系の指示詞を次のように特徴付ける。

(34) ソ

・独り言、対話における照応的用法（非眼前指示）：対象を概念的知識の対象として把握する。

・対話における独立的用法（眼前指示）：他者の直接的知識を自己（意識）の直接的知識ではないもの（自己の直接的意識と対立するもの）として把握する。

・話し手が対象をよく知らない場合、対象を概念的にしか知らない場合：

h. 君は大阪で山田太郎という先生に教わったそうだけど、その先生は講義が上手かい。

以上の(h)では、話し手は、「山田太郎」という先生とは面識がなく、「山田太郎という名前である」「聞き手が大阪で教わった先生」という概念的な知識しか持っていない。

・話し手が対象を直接体験として知っているが、聞き手がそうでない場合：

i. 話し手：先週神田で火事がありました。その火事で学生が二人死にました。

聞き手：その火事のことには新聞で読みました。

j. 今日神田で火事があったよ。あの/*その火事のことだから人が何人も死んだと思うよ。

(i)と(j)のどちらにおいても、話し手は自分が見た火事を聞き手が知らないものとして導入している。ただし、(j)に関しては「話し手が「あの火事のことだから」という言外には「神田の火事」という概念だけからでは知り得ない話し手の直接的知識に基づいて、話し手が「人が死んだだろう」という推定を下しているという意が含まれている」という説明が、黒田(1979:101)では与えられる。

2.1.1.2 Hoji et al. (2003)

Hoji et al. (2003)¹⁵は、以上の意味論・認知論的アプローチである黒田 (1979) における、文脈中の他の語句に照応するかどうか (言い換えれば先行詞があるかどうか) によって定められる独立的用法と照応的用法についての主張を踏まえて、日本語の指示詞に対する統語論的アプローチを提案している。

Hoji et al. (2003) では、まず Ueyama (1998) 及び上山 (2000) が言及しているア-NP とソ-NP¹⁶ に対する統語的な一般化を採用し、さらにコの特徴も考察している。

(35) ア-NP は、先行詞が要らない。直示 (=眼前指示) の場合を除いて、ソ-NP は言語的先行詞が要る。

ア-NP は構造と独立的に指示が決まる。ソは構造により指示が決まる。

Ueyama (1998) では、(35)の一般化を示す根拠として、次の(36)~(39)が挙げられる。

・先行詞がある場合：ア、ソどちらも可能である。

- (36) A: 昨日山田に会ったよ。
B: そう。あいつ元気だった？
C: その人、Bくんの同級生？

- (37) A: 昨日も学生さんが待ってましたよ。
B: あの学生、今日も来ると思う？
C: その学生なら、さっき見かけたよ。

・先行詞がない場合：アは使えるが、ソは使えない。

- (38) 状況：一人の刑事が犯人を追って、あるアパートの部屋の前に来る。タイミングを見て、一気に踏み込むが、そこには犯人は見当たらず、単に男達がマージャンをしている。刑事は、この男達が犯人をかくまっているに違いないと思って叫ぶ。
刑事：{あいつ/*そいつ} はどこだ！？

¹⁵Hoji et al. (2003) は英語の論文であり、田窪 (2008) は Hoji et al. (2003) の議論を基づいて書き直された日本語の論文である。また、田窪 (2008) は田窪 (2010) に再掲されている。本稿では、便宜上、黒田 (1979)、Hoji et al. (2003) または田窪 (2008) からの引用は、田窪 (2010) に従うことにする。

¹⁶Ueyama (1998) 及び上山 (2000) は名詞の照応関係の研究であり、指示詞の用法のうち、「この NP、その NP、あの NP」のような名詞句に付くもののみを扱っている。

- (39) 状況：昨日、陽子は正男に手作りのケーキをあげた。陽子は、正男の反応が気になるので、電話をかけて、開口一番に聞く。
陽子：ねえねえ、{あれ/*それ}、食べた？

また、上山（2000）は、数量詞を先行詞として指示詞を束縛変項として解釈できるような数量詞、指示詞の解釈を連動読み¹⁷と呼び、連動読みではソ系の指示詞が可能であるが、ア系の指示詞はできないと主張している。

- (40) どの政党の党员も {*あそこ/そこ} が一番だと思って党员になっているに違いない。
- (41) 甲子園も東京ドームも、{*あそこ/そこ} を本拠地とする球団がある。
- (42) どの県の職員が {*あの/その} 県の条例に一番通じているか、競い合ってみましょう。

このように、Ueyama（1998）によれば、ア系は言語的な先行詞があったとしても、解釈に関し、その先行名詞に依存するわけではなく、独立的に指示解釈ができるのに対し、ソ系の指示詞は解釈のためには言語的先行詞を必要とし、言語的先行詞と連繋を結んで始めて使用が可能になる。

Hoji et al.（2003）によると、コ-NP もア-NP と同様な性質を持ち、言語的先行詞は必要ない。同一の対象を指示する名詞句があったとしても、それと構造的な関係がある必要はない¹⁸ことを示している。

- (43) 会社の幹部会で社長が会議の冒頭に：
ブラウン君、[{この/*その} プロジェクト] は、いつ始まるのかね？

¹⁷ 上山（2000）では、上記の「どの政党の党员もそこが一番だと思って党员になっているに違いない。」という文は「A 政党の党员は A 政党が一番だと思って党员になっているに違いないし、B 政党の党员は B 政党が一番だと思って党员になっているに違いないし、C 政党の...」という意味があり、「そこ」に相当する部分は、それぞれ、先行詞の部分の解釈と連動して値が変わっていく」と述べ、このような読みを連動読みとしている。

¹⁸ Ueyama（1998）及び上山（2000）では、これを「D-index を持たなければならない」と統語的に記述している。なお、「D-index を持たなければならない」コ-NP とア-NP とは異なり、ソ-NP は「D-index を持たない」とされている。

(44) 反政府ゲリラが大使館爆破計画の失敗のあとアジトに戻ってくる。だれも口を開かない。リーダーがまず話しはじめる。

【この／*その】計画を最初に考え出したもの】が大使館爆破計画の実行責任者になるべきだった。

(田窪 2010:306 による)

また、コ-NP とア-NP の違いについては、次の(45)に見られるように、非眼前指示においても、コ-NP は時間的に近い場合は適切であるが、遠い場合は不適切になるため、コ-NP とア-NP はどちらも言語的先行詞が必要とせず、話し手との距離により、どちらを使うかが決まっていると主張されている。

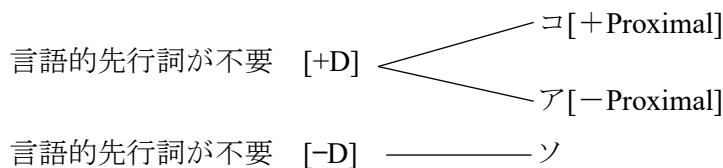
(45)a. 【この／*あの／*その】計画を最初に考え出したもの】を大使館爆破計画の実行責任者にしよう。

b. 【*この／あの／*その】計画を最初に考え出したもの】が 10 年前の大使館爆破計画の実行責任者になるべきだった。

(田窪 2010:306 による)

以上をまとめると、(46)のようになる。つまり、独立した指示対象を持ち、言語的先行詞が不必要であるならば[+D]、独立した指示対象を持たず、言語的先行詞が必要であるなら[-D]という特徴を持つことになる。[+D]ならば距離区分を持ち、対象が近ければ[+Proximal]でコとなり、遠ければ[-Proximal]でアになる。[-D]は距離区分を持たない¹⁹。なお、[±Proximal]は言語形式上の特性であるが、認知上の特性である「近・遠」と見なされる要素と結び付くと考えることができるという。

(46) 非眼前のコ・ソ・ア



(田窪 2010:307-8)

(46)における非眼前指示のコ・アの特徴付けは、独立した指示対象を持つ、認知的に²⁰「近」または「遠」と見なされるものを指す眼前指示のコ・アの特徴付けと平行する。

¹⁹ この[±D]のDは上山のD-indexのことである。

²⁰ 田窪 (2010:309-10) によると、指示対象が「近」か「遠」かは、必ずしも話し手と指示対象との物理的距離に基づいて判断するものではない。以下の(k)と(l)は、物理的距離が近ければ「近」、遠ければ「遠」と

しかし、先行詞がない（ように見える）、話し手から遠く聞き手に近いものを指す眼前指示のソは(46)では説明できないように見える。次節では、田窪（2008, 2015）では眼前指示のソは(46)のシステムでどのように捉えられるかについての主張を紹介する。

2.1.1.3 田窪（2008, 2015）

田窪（2008, 2015）²¹は、指示詞の選択の際、以上の眼前指示のコとアのように距離の判断に対する認知的な自由度がない場合もあり、それは以下に見られるように、聞き手に近い対象を指す眼前指示が使われる場合であると述べている。(47)は独り言の場合で、コ・アのどちらも使用可能である。一方、(48)では、聞き手が登場してきて、対象が聞き手の近くにあると、ソが使えるようになり、アが使えなくなる。

見なすことができる。

(k) 手をつないでいる人を指して：

{*あの／この} 人はアメリカ人です。

(l) となりにいる人に 10 メートル先の男の人を指して：

{あの／?この} 人はアメリカ人です。

しかし、(m)の殿様と家臣のように話し手が聞き手に対して社会的、心理的に優位で、対象を近く感じれば、対象が物理的に多少遠くても「+Proximal」の特徴を持つ指示詞を使うことは可能である。

(m) 10 メートル先に男を立てて：

{あの／この} 男は今度わしがアメリカから連れてきたアメリカ人じゃ。

さらに、物理的距離が同じであっても、話し手に指示対象に対する知識があれば「近」、知識がなければ「遠」と取りやすくなる。

(n) 10 メートル先の犬を指して：

{あの／*この} 犬はハスキーですか。

{あの／?この} 犬はハスキーですよ。

また、対象が他のものと離れて卓立している場合、同じ物理的距離にある対象でも「近」と見なしやすくなる。

(o) ポツンと立っている 20 メートル先の木を指して：

{あの／この} 木は檜の木です。

{あの／この} 木は檜の木ですか。

(p) いろんな木に囲まれている 20 メートル先の木を指して：

{あの／?この} 太い木は檜の木です。

(q) 上空を覆う巨大な円盤を指して：

{これ／*あれ} はどこから来たんだ。

²¹ 田窪（2015）は、田窪（2008）に基づいて書かれた発表原稿である。

(47) 王様が王宮で、一人で座っており、部屋の端の方においてある椅子を見ている。
{この／あの} 椅子はたしか北京で買ったのだ。

(48) 家来がやってきて椅子のすぐ近くに立つ。王様が家来に言う。
よく聞け。{この／その／*あの} 椅子はなあ、わしが北京で買ったのじゃ。

この眼前指示のソの性質を説明するのに、田窪（2008, 2015）は次のように考える。

(49) ソは指示する対象の距離が定義できない場合（proximity value（遠近値）を与えられない場合）に使われる。

そこで、(49)を示すのに、以下のように提案している。

(50) ・話し手は、認知主体（EGO=cognitive agency）として自分と指示対象との距離を測る際、その距離は自分の身体（VE=vehicle of EGO）と対象との距離を測る。
・話し手が対象との距離を測るときの自分の身体を VE1 と呼ぶことにすると、聞き手が登場した場合、認知主体である話し手は VE2 という拡張身体を作り、VE2=(VE1+聞き手の身体)となる。

$VE1 =_{\text{def}} ps$

$VE2 =_{\text{def}} ps + ph$

(ps/ph=話し手の身体／聞き手の身体)

対象の VE1/VE2 との proximity value は proximal か non-proximal かである。

・話し手は聞き手を聞き手と認めた上で話す場合、対象との距離は VE2 を基に計算される。眼前指示のソは、VE1 と VE2 の proximity value（遠近値）が矛盾する場合に使われる。

田窪（2008, 2015）では、上記のことを実証するために論理的方法²²を採用し、指示対象が話し手から遠く聞き手に近い場合 proximity value（遠近値）を対象に与えることができないので、+Proximal/-Proximal の特徴を持つコ・アで指示することができない。従って、最後の手段としてソが使われるという結論に導いている。

²² 詳しくは田窪（2008 など）を参照されたい。

2.1.2 日本語における指示詞の先行研究のまとめ

このように、日本語の指示詞に関する先行研究は話し手・聞き手という談話的、語用論的な概念に言及する研究が多く、指示詞の用法を距離区分または人称区分による眼前指示用法と話し手と聞き手との共有知識による非眼前指示用法と、別々の原理で記述するのが一般的である。この問題を意識した黒田（1979）は、統一の原理として、先行詞があるか否かに決定される独立的用法と照応的用法を提唱している。また、独り言における指示詞の用法を見ることによって、これまでは指示詞の使用に大きく関わるとされてきた聞き手の存在が消去し、純粋な意味論的考察ができた。黒田（1979）の優れたところを踏まえて、Hoji et al.（2003）または田窪（2008 など）が、統語論の観点から、先行詞を必要とするか否かを表す「±D」と言語的特性 proximal/distal という素性を提案し、指示詞の用法を解釈している。ただし、指示詞には眼前指示のコ・ソ・アと非眼前指示のコ・ソ・アの6つのパターンがあるとすると、「±D」と proximal/distal を使って中の5つを特徴付けることができて、黒田と同じく眼前指示のソが説明できないといった問題が残っている。そこで、田窪（2008 など）は話し手の身体（VE1）と聞き手の身体を合わせた拡張身体（VE2）を導入し、指示対象との遠近を定義した上で、VE1 と VE2 との拡張制約を適用すれば、ソは距離区分を持つコとアが使えない場合に使われるものであると言える。Hoji et al.（2003）及び田窪（2008 など）は、日本語の指示詞の用法について次のように主張している。

- ・コ・アは、ダイクシスで言語場において話し手（＝認知主体）からの距離に基づいて指示対象が決められる。ソは言語的先行詞により、言語場と独立して指示対象が決められる。

- ・ソは[+/-Proximal]の指定がない。

- ・コ・アは、近・遠の指定がない対象は指示できない。眼前の対象が近・遠のどちらも指定できない場合は、ソを使わなければならない。

田窪（2010:315）

本研究は、上記の Hoji et al.（2003）及び田窪（2008 など）を論理的枠組みとして採用することとするが、ひとまず次節では、同じ三系列の指示詞を持つ日本語、ベトナム語、または韓国語の指示詞における共通点・相違点を明らかにし、そこに反映されるベトナム語の指示詞の性質を記述する。しかる後に、Hoji et al.（2003）及び田窪（2008 など）の枠組みをベトナム語に応用し、日本語の指示詞を特徴付ける[±D]と同じような、ベトナム語の指示詞を特徴付けるフィーチャーを提案する。

2.2 日・韓・越の指示詞における共通点・相違点

ベトナム語は、日本語、韓国語と同様に近称・中称・遠称の三系列の指示詞を持っているが、đây-đây(đó)-kia はコ・ソ・アに完全に対応しているとは言えない。特に、文脈指示用法では、両言語の相違点が際立っている。本節では、ベトナム語、日本語、または韓国語の指示詞における共通点・相違点を基本的に眼前指示と非眼前指示に分けて示すことにする。

2.2.1 đây-đây(đó)-kia とコ・ソ・ア

2.2.1.1 日・越の指示詞における共通点

眼前指示では、ベトナム語も日本語と同じく、基本的に認知主体である話し手から近くにあるものを指す時に đây 系（コ系）、遠くにあるものを指す時に kia 系（ア系）の指示詞が使われる。聞き手に近い、あるいは聞き手に属しているものを指す場合は đây(đó)系（ソ系）が用いられる。なお、(51)と(52)では指示対象が話し手の手の中にあるので đây 系（NP-này）が、(53)と(54)では話し手から遠くに離れたものを指示するので kia が用いられる。一方、(55)と(56)では聞き手の手の中にあるものを指すので đây(đó)系（NP-ấy）が使用される。

・眼前指示の đây とコ

(51) {ルオンさんが蓮の花を持って入ってきた}

Sư Huệ: Ô... Hoa sen đẹp quá!

[感動詞（驚き）] 蓮の花 美しい [副詞（とても）]

Ông Lương: Bạch thầy! Con hái bông sen

申す 2（先生）1（子供） 摘む [類別詞（本）] 蓮

{này/*ấy(đó)/*kia} ngoài đầm...

コ/ソ/ア 外 沼地

フエ僧侶：おや！きれいな蓮の花じゃなあ...

ルオンさん：和尚さん！外の沼地でこの蓮の花を摘んできました。

(Nguyễn H.T. 2012:52)

(52) Xuân Lan (cầm tiền trên tay):

Tôi sẽ dùng số tiền {này/*ấy(đó)/*kia}

1（私） [副詞（未来）] 使う 数金 コ/ソ/ア

vào việc khác, vào việc từ thiện chẳng hạn.

[関係詞（に）] こと 他 [関係詞（に）] こと 慈善 例えば

スェン・ランさん（手にお金を持ちながら）：このお金は別のことに使いましょ
う！例えば慈善目的とか。

(Nguyễn H.T. 2012:116)

・眼前指示の *kia* とア

(53) {泥棒が向こうの壁を指してフェ僧侶に言う}

Tên trộm: Im ngay! Đi lại đằng { *này/*ây(đó)/kia }...

黙る [副詞 (すぐ)] 行く 来る 方 コ/ソ/ア

Đi sát tường...

行く 添う 壁

Sư Huệ: Được rồi... Không ai làm hại người

良い [副詞 (完了)] [副詞 (否定)] 誰 害する 2 (汝)

đâu. Ở đây không có ai

[文末詞 (完全否定)] [関係詞 (に)] ここ [副詞 (否定)] ある 誰
cả.

[副詞 (完全否定)]

泥棒：黙れ！あっち行け！壁に沿って歩け！

フェ僧侶：よしよし... 誰もあなたを害さぬよ。ここには誰もおらぬ。

(Nguyễn H.T. 2012:13)

(54) Tên trộm: Tao sẽ lấy thêm một pho

1 (俺) [副詞 (未来)] 取る 加える 1 [類別詞 (体)]

tượng nữa...

像 [副詞 (もっと)]

Sư Huệ: Hãy lấy pho tượng Thích Ca { *này/*ây(đó)/kia }

[副詞 (命令)] 取る [類別詞 (体)] 像 釈迦 コ/ソ/ア

kia... Pho tượng nhỏ ấy...

[文末詞 (注意喚起)] [類別詞 (体)] 像 小さい [文末詞 (情報提示)]

泥棒：像をもう一つ持っていくぞ！

フェ僧侶 (指しながら)：あの釈迦の像を持っていきなさい。あの小さいの...

(Nguyễn H.T. 2012:14)

・眼前指示の *đây(đó)* とソ

(55) {タオさんがモーさんの体を起こして、モーさんの服のポケットの中にある箱を取り出した。箱の中にネックレスがある}

Mơ: Em có thấy sợi dây bạc có

2 (弟/妹) [副詞 (疑問)] 見える [類別詞 (連)] 紐 銀 ある

cái vuốt hổ { *này/ây(đó)/ *kia } không?

[類別詞 (個)] 爪 虎 コ/ソ/ア [副詞 (疑問)]

Thảo: Cái vuốt hổ đẹp quá chị ạ!
 [類別詞 (個)] 爪 虎 美しい [副詞 (とても)] 2 (姉) [文末詞 (丁寧)]
 モーさん：その銀でできた虎爪のネックレスが見える？
 タオさん：きれいな虎爪ですね、お姉さん！

(Nguyễn H.T. 2012:195)

(56) Tên trộm (cảm pho tượng):

Pho tượng này mà quý à?
 [類別詞 (体)] 像 この [関係詞 (のに)] 貴重 [文末詞 (疑問)]
 Sư Huệ: Người mà bán pho tượng { *này/ây(đó)/ *kia }
 2 (汝) [助詞 (なら)] 売る [類別詞 (体)] 像 コ/ソ/ア
 cho hàng đồ cổ có thể được 5 triệu đồng
 [関係詞 (に)] 店 骨董品 [副詞 (できる)] もらう 百万 ドン
 mà không phải tội...
 [関係詞 (のに)] [副詞 (否定)] 有罪
 泥棒 (仏像を持って) : この仏像は高価なものなのか?
 フェ僧侶 : その仏像を骨董品屋さんに売れば仏様に罰せられることなく 5 百万
 ドンもらえるのじゃ。

(Nguyễn H.T. 2012:14-5)

非眼前指示に関しては、金水・田窪 (1992:139) では、「解説のコ」とは「あるまとまった内容について説明・解説するために談話に導入した事物を解説者が指し示す場合に典型的に用いられるコである」と述べており、さらにこの「解説のコ」は一種の現場指示とみなせるといふ。以下の(57)で見られるように、ベトナム語の *đây* にもそういった用法を持っていると言える。また、(58)のような後方の文を指し示す時も、日本語と同様に *đây* (コ系) の指示詞しか用いられない。さらに、(59)~(61)のような連動読みの場合も、中称 (ソ系、*đây(đó)*系) しか許されないという点では共通している。遠称のア系と *kia* 系については、話し手と聞き手の共有知識にある対象を指し示す時に使われるという点では共通していると考えられる。ちなみに、(62)と(63)は指示対象が *người phụ nữ vô danh* (事件捜査中に出てくる「謎の女性」) と *bé trai* (ベン市場の辺りに生まれたばかりの「男児」) であり、どちらも過去の話に出ており、話し手も聞き手も知っている人物である。

・「解説の *đây* とコ」、後方照応の *đây* とコ

(57) Sư Huệ: Ta là ai? Câu hỏi { này/ây(đó)/ *kia } không trừ
 私 [コピュラ] 誰 質問 コ/ソ/ア [副詞 (否定)] 除く

ai cả. Nam mô A di đà Phật!

誰 [副詞 (完全否定)] 南無阿彌陀仏

フエ僧侶：「私は誰？」この質問をしたことのない人間はおらんじゃろう。南無阿彌陀仏！

(Nguyễn H.T. 2012:31)

(58) Bảo: Hơn nữa, {đây/*đây(đó)/*kia} mới là điều
[関係詞 (しかも)] コ/ソ/ア [助詞 (こそ)] [コピュラ] こと
quan trọng nhất, tôi không quen tiêu tiền lẻ.

大事 一番 1 (私) [副詞 (否定)] 慣れる 使う 小銭

バオさん：しかも、これこそが一番大切です。僕は小銭を使い慣れていないのです。

(Nguyễn H.T. 2012:169)

・連動読みの đây(đó)とソ

(59) Bảo: Ông ta là một bác sĩ chuyên môn cừ, bằng chứng là
彼 [コピュラ] 1 医者 専門 上手 証拠 [コピュラ]
bệnh nhân nào được ông ta khám bệnh đến lần thứ
患者 どの [副詞 (受身)] 彼 診療する [副詞 (まで)] 回 目
ba là bệnh nhân {*này/ấy(đó)/*kia} chết,...

3 [コピュラ] 患者 コ/ソ/ア 死ぬ

バオさん：彼は腕がいい先生ですな。どの患者さんも彼に病気を見てもらうとその患者さんは3回目には必ず死ぬので...

(Nguyễn H.T. 2012:169)

(60) Mơ: ... chính vì thế mà em cố gắng
[関係詞 (だから)] そんな [関係詞 (結果)] 1 (弟/妹) 頑張る

để sống ngày nào được thêm thì

[関係詞 (ために)] 生きる 日 どの [副詞 (できる)] 加える [関係詞 (なら)]
hay ngày {*này/ấy(đó)/*kia}.

知る 日 コ/ソ/ア

モーさん：だからこそ、一日でも生き残れるように頑張ります！

(Nguyễn H.T. 2012:199)

(61) Đại tá: Cái này ông nói rất thật lòng, nếu như
これ 1 (祖父) 言う [副詞 (とても)] 本心 [関係詞 (もし)]

con muốn thì con đi đâu ông
2 (子供) 欲しい [関係詞 (なら)] 2 (子供) 行く どこ 1 (祖父)

sẽ đi theo {*đây/đấy(đó)/*kia}...
[副詞 (未来)] ついて行く コ/ソ/ア

大佐：これは本心から言うのだが、お前も良いと言ってくれれば、お前がどこに行ってもわしがそこについて行く...

(Nguyễn H.T. 2012:285)

・共有知識の kia とア

- (62) {グエン・タイ・ホックという人物についての事件捜査中に謎の女性の名前が出てきて、少将は部下の中尉にその女性の真相を調べるように命令する}

Thiếu tướng: Anh chỉ còn một cách thôi,
2 (兄) [副詞 (だけ)] 残る 1 方 [文末詞 (限度)]

anh hiểu không? Anh phải
2 (兄) 分かる [副詞 (疑問)] 2 (兄) [動詞 (べき)]

đựng lại toàn bộ câu chuyện này, câu chuyện về
再現する 全部 ストーリー この ストーリー について

Nguyễn Thái Học và người phụ nữ vô danh {*này/?ây(đó)/kia}.
[人名] [関係詞 (と)][類別詞 (人)] 女性 無名 コ/ソ/ア

少将：分かったか？君には道が一つしかない。このストーリー、つまりグエン・タイ・ホックとあの謎の女性のすべてを再現しなければならないのだ。

(Nguyễn H.T. 2012:94)

- (63) {フエ僧侶が、ベン市場の辺りの子供が生まれた家について尋ねに行ったキエムさんとしばらく市場周辺の様子について話した後、キエムさんに聞く}

Sư Huệ: ... thế bố có hỏi về
[関係詞 (それでは)] 老いた下男 [副詞 (疑問)] 聞く 関する

cái nhà mới sinh đứa bé trai
[類別詞 (個)] 家 [副詞 (ばかり)] 生む [類別詞 (人)] 幼児 男

{*này/?ây(đó)/kia} không?
コ/ソ/ア [副詞 (疑問)]

フエ僧侶：そういえば、あの男児が生まれたばかりの家について聞いたのか？

(Nguyễn H.T. 2012:24)

2.2.1.2 日・越の指示詞における相違点

両言語の指示詞の相違点については、眼前指示における指示対象との距離への認知（対象が指す地点から近いか遠いか）という言語外的要因から来る違い、または、指示現場にいない人を指す時、日本語では指示詞が使われるが、ベトナム語では第三人称代名詞がよく用いられるという言語表現の選択による違いなどがある。これらを除くと、両言語の指示詞の相違点は、主に以下の二点が見られる。まず一つ目は、眼前指示では、(64)~(66)のような指示対象が話し手からも聞き手からも遠いところにある場合、日本語ではア系が使われるのに対して、ベトナム語では中称の *đây(đó)* 系のほうが適切であり、遠称の *kia* 系が用いられにくい。

・ *đây(đó)* と眼前指示のア

(64) {空を見ながら}

Ông Lương: ... Ở chỗ góc trời phía nam có một

[関係詞 (に)] 場所 果て 空 方 南 ある 1

ngôi sao sáng rực... Bạch thầy! {**đây /đây(đó) /kia*}

[類別詞 (個)] 星 明るく きらめく 申す 2 (先生) コ/ソ/ア

là sao gì?

[コピュラ] 星 何

ルオンさん (フエ僧侶に聞く): 南の空の果てに明るくきらめいている星があります。和尚さん! あれは何という星ですか?

(Nguyễn H.T. 2012:53)

(65) {遠くにある魔法瓶を指して}

Bảo: ...chị có nhìn thấy cái phích hai lít

2 (姉) [副詞 (疑問)] 見える [類別詞 (個)] 魔法瓶 2 リットル

rưỡi {**này /ây(đó) /kia*} không?

半 コ/ソ/ア [副詞 (疑問)]

Xuân Lan: Anh bảo sao?

2 (兄) 言う どのよう

Bảo: Chị hãy hình dung ở {**đây /đây(đó) /kia*}

2 (姉) [副詞 (命令)] 想像する [関係詞 (に)] コ/ソ/ア

chứa đầy máu.

詰める いっぱい 血

バオさん: あそこにある容量が2リットル半の魔法瓶が見えますか?

スェン・ランさん: どういうことですか?

バオさん：あの魔法瓶／そこに血がいっぱい入っていることを想像してください！

(Nguyễn H.T. 2012:193)

- (66) {フェ僧侶が遠くにあるテーブルを指して、泥棒に言う}

Sư Huệ: Bỏ dao xuống. Người đến chỗ bàn kia,
捨てる ナイフ 下りる 2 (汝) 来る 場所 テーブル あの
ở { *đây /đây(đó)/*kia } có cái tráp đen.

[関係詞 (に)] コ/ソ/ア ある [類別詞 (個)] 小箱 黒い

フェ僧侶：ナイフを捨てろ！あのテーブルのところに行ったら、あそこ／そこに黒い小箱がある。

(Nguyễn H.T. 2012:14)

この *đây(đó)* については、ベトナム語の指示詞における先行研究では「既に言及されたもの」を指し示すという説明が与えられる。指示対象が遠くに離れているものであっても、一度言語的文脈に登場するものなら *đây(đó)* 系で指す。ただし、(67) のような指し直しがあれば、遠称の *kia* を使用しなければならない。

- (67) {ルオンさんが別のところにある星を指して、さらにフェ僧侶に聞く}

Ông Lương: Thế còn sao { *đây/*đây(đó)/kia } là sao gì?
[関係詞 (それでは)] 星 コ/ソ/ア [コピュラ] 星 何

ルオンさん：で、あそこの星は？

もう一つは、非眼前指示における相違点である。話し手も聞き手も知っているいわゆる共有知識にある対象を指す時、日本語では遠称のア系が用いられる。それに対して、ベトナム語では(62)と(63)で見られるように遠称の *kia* 系で指し示すこともあれば、以下の(68)～(72)で見られるように中称の *đây(đó)* 系で指し示すこともある。実際には、*đây(đó)* 系のほうがよく使用される。

・ *đây(đó)* と共有知識のア (その①)

- (68) {フオン・タオさんはお父さんの同僚であるバオさんと病院で起こった自殺事件について話している}

Phương Thảo: ... thiếu gì nơi tự tử mà cô ta
欠く 何 ところ 自殺する [関係詞 (のに)] 彼女
lại đến ngay cơ quan bố mình tự tử.
[副詞 (また)] 来る [副詞 (すぐ)] 機関 父 自分 自殺する

Bảo: Bác đoán là cô ta định lên cầu
 1 (叔父) 推測する [コピュラ] 彼女 [副詞 (つもり)] 上がる 橋
 Chương Dương nhưng ở { *đây /đây(đó)/*kia }
 [地名] [関係詞 (しかし)] [関係詞 (に)] コ/ソ/ア
 cấm người đi bộ.

禁止する 人 歩行

フオン・タオさん:自殺できる所がいっぱいあるのにどうして彼女はお父さんの病院でしたのかな...

バオさん:彼女はチュオン・ズオン橋に行くつもりだったと思うがあそこは歩行禁止だからね。

(Nguyễn H.T. 2012:176)

(69) Ông Kiệm: Chết! Bạch Thầy! Pho tượng Phật Thích Ca
 死ぬ 申す 2 (先生) [類別詞 (体)] 像 仏 釈迦

chỉ thiên chỉ địa đâu rồi?

指す 天 指 地 どこ [副詞 (完了)]

Sư Huệ: À... bõ vừa đi thì

[感動詞 (想起)] 2 (老いた下男) [副詞 (ばかり)] 行く [関係詞 (すると)]

có lão ăn trộm mò đến, ta cho lão pho tượng

いる 老人 泥棒 やってくる 1 (わし) やる 老人 [類別詞 (体)] 像

{ *này/ây(đó)/*kia } rồi.

コ/ソ/ア [副詞 (完了)]

キエムさん: あれ! 和尚さん! 指天指地釈迦の仏像はどこに行ってしまったのですか?

フェ僧侶: あ、あなたが出て行って間もなく泥棒の老人がやってきて、その老人にあの仏像をあげたのじゃ。

(Nguyễn H.T. 2012:25)

(70) {小さいオアンさんをフーさんという男性に合わせるために、トウイ・チャンさんが説得しに来たが、小さいオアンさんは自分には彼氏のジョンさんがいるので会わないと言って断った}

Oanh Bé: Tôi phải đi với John!...

1 (あたし) [動詞 (べき)] 行く [関係詞 (と)] [人名]

Tôi đang có cả một kế hoạch chi tiết

1 (あたし) [副詞 (現在進行)] ある すべて 1 企画 詳細な

lâu dài với John. Minh ơi,
 長期的な [関係詞 (と)] [人名] 2 (あんた) [感動詞 (呼び掛け)]
 mình hiểu tớ không?
 2 (あんた) 分かる 1 (あたし) [副詞 (疑問)]
 Thủy Trần: Thôi được rồi, tớ hiểu...
 [副詞 (とにかく)] 良い [副詞 (完了)] 1 (あたし) 分かる
 Nhưng tớ nghe nói bà Thực Oanh chị dâu
 [関係詞 (しかし)] 1 (あたし) 聞く 言う 婆 [人名] 義姉
 của mình mới ở Đông Âu trở về,
 [関係詞 (の)] 2 (あんた) [副詞 (ばかり)] [関係詞 (に)] 東欧 帰る
 mình cũng sẽ không gặp ư?
 2 (あんた) [副詞 (も)] [副詞 (未来)] [副詞 (否定)] 会う [文末詞 (疑問)]
 Oanh Bé: Cái bà Oanh Nhón { *này/ấy(đó)/ *kia } à?...
 [類別詞 (個)] 婆 [人名] 大きい コ/ソ/ア [文末詞 (疑問)]
 小さいオアンさん：あたしはジョンと行かなければならないの！ジョンとは長期的で詳細な企画があるの。あんた、分かってくれる？
 トウイ・チャンさん：はいはい、分かったわ。しかし、お義姉さんのトゥック・オアンさんが東欧から帰ってきたばかりだと聞いたけど、お義姉さんにも会わないの？
 小さいオアンさん：あの大きいオアンの婆？

(Nguyễn H.T. 2012:269)

以上の(68)~(70)では、指示対象である *cầu Chương Dương* (チュオン・ズオン橋)、*pho tượng Phật Thích Ca* (釈迦の仏像)、*Thực Oanh* (トゥック・オアンさん) は、前の文脈に登場しているものである。よって、(64)~(66)と同じように既に言及されたものなら、ベトナム語では眼前指示においても、非眼前指示においても、中称の指示詞で指し示すと考えられる。だが、以下の(71)と(72)では先行する発話がなく、話し手がいきなり聞き手に聞き出すような場合でも *kia* 系より、*đây(đó)* 系のほうが適切であると思われる。一方、日本語では遠称のア系しか使われず、ベトナム語とは異なることが分かる。

・ *đây(đó)* と共有知識のア (その②)

(71) *Chuyện {đó/?kia} thế nào rồi?*
 話 その/あの どのよう [(副詞) 完了]
 あの話、どうなった?

(安達 2009:7)

(72) {いきなり、昨日の話を思い出して聞く}

Chị đã nói “chuyện {âý(đó)/?kia}” chưa?
2 (姉) [副詞 (過去)] 話す 話 ソ/ア [副詞 (疑問)]
Đừng nên giáu!
[副詞 (禁止)] [副詞 (べき)] 隠す
あのことは話したか? 隠さないほうがいいよ。

ちなみに、安達 (2009:7) では、(71)²³について、中称の *đây(đó)* も遠称の *kia* のどちらも用いられるとされ、「*đó* は話し手の記憶の中にある対象を指示できる。(中略) *kia* が用いられるのは、話し手と聞き手の二人だけの秘密、あるいは少人数のグループのみが知っている秘密について、聞き手以外の第三者には明示せずに指示する場合である」と説明している。しかしながら、(72)に示されているように、明らかに二人だけの秘密である *chuyện* (「こと」) の場合であっても *kia* が用いられにくい。

以上のように、ベトナム語・日本語における指示詞の相違点は主に次の二点であると考えられる。

(73) 眼前指示では、指示対象が話し手から遠くに離れている場合、日本語では遠称の *A* 系が用いられるが、ベトナム語では既に文脈に登場しているものであれば、つまり、文脈中に先行詞がある場合、中称の *đây(đó)* 系が用いられる。

(74) 非眼前指示では、指示対象が話し手と聞き手の共有知識にある場合、日本語では *A* 系が用いられる。一方、ベトナム語では遠称の *kia* も用いられるが中称の *đây(đó)* のほうがよく見られる。

2.2.2 *đây-đây(đó)-kia* と韓国語の *이・그・저(i-ku-ce)*

2.2.2.1 韓・越の指示詞における共通点

韓国語には *이・그・저(i-ku-ce)* の三系列の指示詞が存在している。眼前指示では、距離区分によって *이* (*i*-近称)、*그* (*ku*-中称)、*저* (*ce*-遠称) の指示詞が使い分けられるが、非眼前指示では主に *그* (*ku*-中称) が使用される。韓国語の *이・그・저(i-ku-ce)* はそれぞれがベトナム語の *đây-đây(đó)-kia* に対応しているといわれているが、共通点も相違点もある。

眼前指示では、韓国語もベトナム語及び日本語と同様に、話し手から近くにあるものを指す場合は *이(i)* 系 (*đây* 系、*コ*系に当たる) が用いられ、遠くにあるものを指す場

²³ (71)は安達 (2009:7) から引用したものである。

合は저(ce)系 (kia 系、ア系に当たる) で指し示す。一方、聞き手に近い、あるいは聞き手に属しているものを指す場合は코(ku)系 (đây(đó)系、ソ系に当たる) が用いられる。なお、(51)~(56)の đây-đây(đó)-kia は全てが韓国語に対応しており、代表として(51)、(53)、(56)に、韓国語訳²⁴を加えて以下に再掲する。

・眼前指示の đây と 이(i)

(51) {ルオンさんが蓮の花を持って入ってきた}

Sư Huệ: ...Ồ... Hoa sen đẹp quá!

[感動詞 (驚き)] 蓮の花 美しい [副詞 (とても)]

Ông Lương: Bạch thầy! Con hái bông sen

申す 2 (先生) 1 (子供) 摘む [類別詞 (本)] 蓮

{này/*ây(đó)/*kia} ngoài đầm...

コ/ソ/ア 外 沼地

フエ僧侶：おや！きれいな蓮の花じゃなあ...

ルオンさん：和尚さん！外の沼地でこの蓮の花を摘んできました。

Hue 스님: 아! 예쁜 연꽃이구나...

Luong 씨: 스님! 바깥의 연못에서 이 연꽃을 따 왔습니다.

(Nguyễn H.T. 2012:52)

・眼前指示の kia と 저(ce)

(53) {泥棒が向こうの壁を指してフエ僧侶に言う}

Tên trộm: Im ngay! Đi lại đặng {này/*ây(đó)/kia}

黙る [副詞 (すぐ)] 行く 来る 方 コ/ソ/ア

Đi sát tường...

行く 添う 壁

Sư Huệ: Được rồi... Không ai làm hại người đâu.

良い[副詞 (完了)] [副詞 (否定)] 誰 害する 2 (汝) [文末詞 (完全否定)]

Ở đây không có ai cả.

[関係詞 (に)] ここ [副詞 (否定)] ある 誰 [副詞 (完全否定)]

泥棒：黙れ！あっち行け！壁に沿って歩け！

フエ僧侶：よしよし... 誰もあなたを害さぬよ。ここには誰もおらぬ。

도둑: 닥쳐! 저리 가! 벽쪽으로 붙어서 따라 걸어!

Hue 스님: 좋아 좋아... 아무도 당신을 해치지 않아. 여기에는 아무도 없어.

(Nguyễn H.T. 2012:13)

²⁴ 本稿の韓国語訳は、韓国語母語話者 4 名 (20 代~30 代の女性) のご協力による。

・眼前指示の **đây(đó)** と **그(ku)**

(56) Tên trộm (cầm pho tượng):

... Pho tượng này mà quý à?
[類別詞 (体)] 像 この [関係詞 (のに)] 貴重 [文末詞 (疑問)]
Su Huệ: Người mà bán pho tượng { *này/ây(đó)/ *kia }
2 (汝) [助詞 (なら)] 売る [類別詞 (体)] 像 コ/ソ/ア
cho hàng đồ cổ có thể được 5 triệu đồng
[関係詞 (に)] 店 骨董品 [副詞 (できる)] もらう 百万 ドン
Mà không phải tội...

[関係詞 (のに)] [副詞 (否定)] 有罪

泥棒 (仏像を持って) : この仏像は高価なものなのか?

フェ僧侶 : その仏像を骨董品屋さんに売れば仏様に罰せられることなく 5 百万
ドンもらえるのじゃ。

도둑 : 이 불상은 비싼 것인가?

Hue 스님 : 그 불상을 골동품 가게에 팔면 부처님에게 벌 받는 일 없이
5 백만동받을 수 있을 거야.

(Nguyễn H.T. 2012:14-5)

また、「解説のコと **đây**」と後方照応のコと **đây** は韓国語の近称の이(i)系、連動読みの
ソと **đây(đó)** は韓国語の中称の그(ku)系にも見られるので、日本語・ベトナム語と同じで
あると言える。なお、(57)~(62)の **đây** と **đây(đó)** は全てが韓国語の이(i)と그(ku)に対応
しており、代表として(58)と(59)を以下に再掲する。

・解説の **đây** と 이(i)、連動読みの **đây(đó)** と 그(ku)

(58) Bảo: Hơn nữa, { **đây**/***đây(đó)**/*kia } mới là điều
[関係詞 (しかも)] コ/ソ/ア [助詞 (こそ)] [コピュラ] こと
quan trọng nhất, tôi không quen tiêu tiền lẻ.

大事 一番 1 (私) [副詞 (否定)] 慣れる 使う 小銭

バオさん : しかも、これこそが一番大切です。小銭を使い慣れていないのです。

Bao 씨 : 게다가, 이거야말로 가장 중요합니다. 동전을 사용하는 것이 익숙치
않다는 겁니다.

(Nguyễn H.T. 2012:169)

(59) Bảo: Ông ta là một bác sĩ chuyên môn cừ, bằng chứng là
彼 [コピュラ] 1 医者 専門 上手 証拠 [コピュラ]

bệnh nhân nào được ông ta khám bệnh đến lần thứ
 患者 どの [副詞 (受身)] 彼 診療する [副詞 (まで)] 回 目
 ba là bệnh nhân { *này/ây(đó)/ *kia } chết,...

3 [コピュラ] 患者 コ/ソ/ア 死ぬ

バオさん：彼は腕がいい先生ですな。どの患者さんも彼に病気を覚えてもらうと
 その患者さんは3回目には必ず死ぬので...

Bao 씨 : 그는 실력이 좋은 선생님이구나. 어떤 환자라도 그에게 진찰을
 받으면 그 환자는 3 번째에는 반드시 죽기 때문에...

(Nguyễn H.T. 2012:169)

さらに、韓国語の指示詞については、梅田（1982）では「対話を含め、同一の談話内
 において一度言及されたもの、話し手の記憶の中にあるもの、話し手と聞き手の暗黙の
 共通の了解事項を指示する場合にはすべて ku が用いられる (p.182-3)」と述べており、
 以下の(65)、(71)、(72)で見られるように、ベトナム語指示詞の中称の đày(đó)系にも同
 様の用法があると言える。なお、これらの例においては、日本語の場合ではベトナム語・
 韓国語と異なり、遠称のア系が用いられる。

・一度言及されたものを指す đày(đó)と그(ku)

(65) {遠くにある魔法瓶を指して}

Bảo: ...chị có nhìn thấy cái phích hai lít

2 (姉) [副詞 (疑問)] 見える [類別詞 (個)] 魔法瓶 2 リットル

rưỡi { *này/*ây(đó)/kia } không?

半 コ/ソ/ア [副詞 (疑問)]

Xuân Lan: Anh bảo sao?

2 (兄) 言う どのよう

Bảo: Chị hãy hình dung ở { *đây /đây(đó)/ *kia }

2 (姉) [副詞 (命令)] 想像する [関係詞 (に)] コ/ソ/ア

chứa đầy máu.

詰める いっぱい 血

バオさん：あそこにある容量が2リットル半の魔法瓶が見えますか？

スアン・ランさん：どういことですか？

バオさん：あの魔法瓶／そこに血がいっぱい入っていることを想像してくださ
 い！

Bao 씨: 저기에 있는 용량 2.5 리터짜리 보온병 보입니까?

Xuan Lan 씨: 무슨 말씀이세요?

Bao 씨: 거기/저기에 피가 가득 들어있다고 상상해 보십시오.

(Nguyễn H.T. 2012:193)

・非眼前指示の *đây(đó)* と *그(ku)*

- (71) *Chuyện {đó/?kia} thế nào rồi?*
話 その/あの どのよう [(副詞) 完了]
あの話、どうなった?
그 이야기, 어떻게 되었어?

(安達 2009:7)

- (72) {いきなり、昨日の話を思い出して聞く}
Chị đã nói “chuyện {ây(đó)/?kia}” chưa?
2 (姉) [副詞 (過去)] 話す 話 ソ/ア [副詞 (疑問)]
Đừng nên giấu!
[副詞 (禁止)] [副詞 (べき)] 隠す
あのことは話したか? 隠さないほうがいいよ。
그 일은 말했어? 감추지 않는 게 좋아.

2.2.2.2 韓・越の指示詞における相違点

両言語の指示詞の相違点は(62)と(63)で示されるように、非眼前指示では韓国語は中称の *그(ku)*系が用いられるが、ベトナム語では遠称の *kia* が用いられる。なお、(62)と(63)での指示対象である「謎の女性」と「男児」は話し手も聞き手も知っている人物である。一方、ベトナム語と同様に、日本語では遠称の *ア*系が使われる。

・ *kia* と非眼前指示の *그(ku)*

- (62) {グエン・タイ・ホックという人物についての事件捜査中に謎の女性の名前が出てきて、少将は部下の中尉にその女性の真相を調べるように命令する}
Thiếu tướng: Anh chỉ còn một cách thôi,
2 (兄) [副詞 (だけ)] 残る 1 方 [文末詞 (限度)]
anh hiểu không? Anh phải
2 (兄) 分かる [副詞 (疑問)] 2 (兄) [動詞 (べき)]
dựng lại toàn bộ câu chuyện này, câu chuyện về
再現する 全部 ストーリー この ストーリー について
*Nguyễn Thái Học và người phụ nữ vô danh {*này/?ây(đó)/kia}.*
[人名] [関係詞 (と)] [類別詞 (人)] 女性 無名 コ/ソ/ア
少将: 分かったか? 君には道が一つしかない。このストーリー、つまりグエン・

タイ・ホックとあの謎の女性のすべてを再現しなければならないのだ。
소장 : 알았어? 네게는 길이 하나 밖에 없어. 이 이야기, 즉 Nguyen Thai Hoc 와 그 수수께끼의 여자의 모든 것을 재현하지 않으면 안되는거야.

(Nguyễn H.T. 2012:94)

(63) {フエ僧侶が、ベン市場の辺りの子供が生まれた家について尋ねに行ったキエムさんとしばらく市場周辺の様子について話した後、キエムさんに聞く}

Sư Huệ: ... thé bã có hỏi về
 [関係詞(それでは)] 老いた下男 [副詞(疑問)] 聞く 関する
 cái nhà mới sinh đứa bé trai
[類別詞(個)] 家 [副詞(ばかり)] 生む [類別詞(人)] 幼児 男
{*này/?ây(đó)/kia} không?
 コ/ソ/ア [副詞(疑問)]

フエ僧侶: そういえば、あの男児が生まれたばかりの家について聞いたのか?

Hue 스님: 그리고 보니, 막 태어난 그 남자아기의 집에 대해서 물었니?

(Nguyễn H.T. 2012:24)

ここで、前述の(71)と(72)も合わせて見ると、ベトナム語・韓国語における指示詞の相違点は次のようであると考えられる。

(75) 指示対象が話し手の記憶にあるもの、または話し手と聞き手の共有知識にある場合、韓国語では中称の코(ku)系が用いられるが、ベトナム語では中称の đây(đó)系も遠称の kia 系も見られる。

2.3 ベトナム語の指示詞を特徴付ける[±現場]

2.3.1 日本語・韓国語との対照から見たベトナム語の指示詞の特徴付け

前述のように、ベトナム語・日本語における指示詞の相違点は(73)と(74)のとおりである。ここで、両言語の共通点・相違点に基づいて、日本語の指示詞の特徴付けをベトナム語の指示詞に応用してみよう。まず、Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の主張を以下に再掲する。

・コ・アは、ダイクシスで言語場において話し手(＝認知主体)からの距離に基づいて指示対象が決められる。ソは言語的先行詞により、言語場と独立して指示対象が決められる。

・ソは[+/-Proximal]の指定がない。

・コ・アは、近・遠の指定がない対象は指示できない。眼前の対象が近・遠のどちらも指定できない場合は、ソを使わなければならない。

田窪 (2010:315)

(76) 日本語の指示詞の特徴付け：

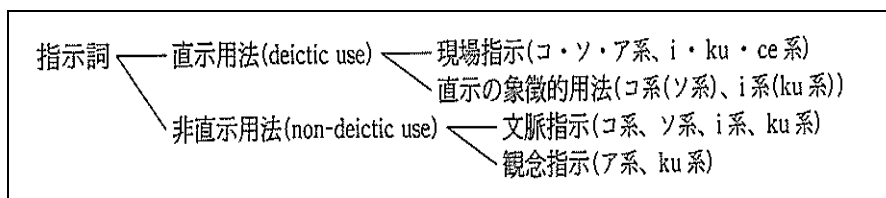
[+D]	コ： 近 ア： 遠
[-D]	ソ

一方、韓国語の指示詞については、金水他 (2002) では以下のように分布している。

- i: 今、眼前にある、話し手に近い対象、および文脈に導入された対象を指す。
- ku: 今、眼前にある、聞き手に近い対象、および今眼前にはないが、話し手が直接的に知っている対象、文脈に言語的に導入された対象を指す。
- ce: 今、眼前およびそれに準ずる空間で、話し手から遠い対象を指す。

(金水他 2002:238)

また、梅田 (1982) によれば、韓国語の指示詞を「具体的指示」と「文脈指示」に分けて、日本語の指示詞との相違点に関しては、具体的指示の ku は日本語のソが指し示す範囲よりも限定されており、明らかに聞き手の領域にあると認められる場合にのみ使用される。ce は日本語のアよりは指し示す範囲が広く、日本語ではアで指示するには近すぎる場合にも韓国語では ce が使われる。文脈指示では、i も ce も現れず、ku のみが用いられるのも日本語の指示詞との相違点であると述べている。さらに、金 (2006) では、韓国語と日本語の指示詞を以下のように分類し、一連の会話での両言語における指示詞の用法を比較分析した。



(表 4) 金 (2006) による日本語と韓国語の指示詞用法の分類

その結果、韓国語・日本語の指示詞における相違点については、現場指示では「日本語のソ系の方が韓国語の ku 系に比べ、より話し手から離れた地点まで指示でき、韓国語の ku 系は話し手を中心にピンポイント的に狭い範囲内の地点しか示せない (p.61)」

とされている。一方、観念指示²⁵では、日本語はア系が使われ、韓国語は ku 系が使用される。なお、韓国語では観念指示用法には ce 系も見られるが指示対象が百科事典的知識である場合、あるいは、観念指示ではなく現場指示の延長としての ce 系²⁶である場合に限られると述べている。

要するに、韓国語・日本語の指示詞の相違点は主に次の二点であろう。

(77) 現場指示では、指示対象との距離への認知が多少違うところがある。(ただし、i-ku-ce とコ・ソ・アはそれぞれ近・中・遠であるという点では対応している)

(78) 観念指示では、日本語ではア系、韓国語では ku (ソ) 系が使われる。

(77)は距離のとらえ方という言語外的要因から来ると考えられる。(78)こそが日・韓の指示詞における最も大きな違いである。そこで、前述の Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の枠組みを応用し、韓国語の指示詞を一般化させると次の(79)のようになると考えられる。なお、現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる対象を指示するならば[+現場]、視覚的に確認できるかどうかに関わらず現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指示するならば[-現場]という特徴を持つことになる。以上のことを踏まえ、韓国語の指示詞では、i-ce 系は[+現場]であり、ku は[-現場]であると言える。

(79) 韓国語の指示詞の特徴付け：

[+現場]	i : 近 ce : 遠
[-現場]	ku

ただし、(79)が成り立つためには、眼前指示の ku が[-現場]の要素を最終の手段として用いると示さなければならないが、田窪 (2010) での日本語のいわゆる直示のソに対する説明方法を応用すれば良いであろう

次に、ベトナム語・日本語またはベトナム語・韓国語の指示詞における共通点・相違点に基づいて日本語・韓国語の指示詞のそれぞれの特徴付けをベトナム語の指示詞に応

²⁵ 金 (2006) で使用される観念指示は「話し手と聞き手の共有知識領域の中に存在する事件や知識・世界や歴史的事実に関する百科事典的知識・自分が過去に体験したエピソード記憶等が文の指示対象になる場合、それを指示する指示詞の用法のことをいう (p.95)」とされている。

²⁶ 金水他 (2002) では、この ce の用法について、指示対象が現場から出た直後であり、未だに話し手と聞き手と同一空間を共有しているという直観が働く場合に限られると述べている。

用してみよう。まず、日本語の指示詞の特徴付けをベトナム語に当てはめると、(80a)となる。一方、ベトナム語・韓国語の指示詞に関しては(75)のような違いが挙げられており、韓国語の指示詞の特徴付けをベトナム語の指示詞に当てはめると(80b)となる。

(80a) 日本語との対照から見たベトナム語の指示詞

[+D]	đây: 近 kia: 遠
[-D]	đây(đó)

※ただし、非眼前指示の[+D]の đây(đó)も見られる。

(80b) 韓国語との対照から見たベトナム語の指示詞

[+現場]	đây: 近 kia: 遠
[-現場]	đây(đó)

※ただし、非眼前指示の[-現場]の kia も見られる。

このように、先行詞を必要とするという[-D]の特徴を持つ日本語のソ系と異なり、ベトナム語の đây(đó)系は(71)と(72)のように非眼前指示においては、文脈中に先行詞がなくても使われることもある。すなわち、この場合の đây(đó)は[+D]の特徴を持つこととなる。そうすると、中称の đây(đó)には[+D]と[-D]の両方の特徴を持つこととなるが、[±D]が日本語の指示詞の統語論的特徴付けであり、相互的な対立にある素性であるという Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2010) の枠組みに矛盾してしまう。他方、韓国語では[-現場]の特徴を持つのは ku 系しかないが、ベトナム語では kia 系にもその特徴が見られる。言い換えれば、問題となるのは[-現場]の kia である。だが、[±現場]は意味論・語用論的特徴付けであり、[-現場]の kia は[-現場]の đây(đó)とは何かからの語用論的な区別があると想定できる。前述した日本語とベトナム語の指示詞における相違点を表す(71)と(72)について考えれば、これらの例では kia より đây(đó)のほうが適切であるが、例えば次の(81)のような場合では、逆に kia が適切であり、đây(đó)が用いられにくい。(81)では、最初の話題として anh Việt 「ベトナムさん」が取り上げられ、その次の話題である anh Nhật (ニヤットさん) に切り替わった時、もう一方の登場人物という意味で、anh Nhật (ニヤットさん) を kia で承る。ちなみに、安達 (2016 など) にも言及されているように、眼前指示用法では、cái này-cái kia (これ・あれ)、đang này-đang kia (こちら・あちら)、bên này-bên kia (こちら側・あちら側)、thế này-thế kia (こういう・ああいう) のような kia が đây と対になって、「もう一方」という意味を表す用法も見られる。よって、(81)における kia はその特徴から派生した用法であると考えられる。

(81) {二人の男性から一人を選んだキム・トゥにハー・トゥイが聞く}

Hà Thủy: Kim Thu oi, cuối cùng em chọn anh nào?

[人名] [呼びかけ] 結局 2 (妹) 選ぶ 兄 どの

Kim Thu: Em quyết định chọn anh Việt.

1 (妹) 決定する 選ぶ 兄 [人名]

Hà Thủy: Thế à? Nhưng chị thấy anh Nhật
 そんな [文末詞 (疑問)] [接続詞 (しかし)] 1 (姉) 見える 兄 [人名]
 {*này/*ây(đó)/kia} được hơn đây.

コ/ソ/ア 良い より良い [文末詞 (評価)]

Kim Thu: Nhưng em lại thích anh Việt hơn.
 [接続詞 (しかし)] 1 (妹) [副詞 (また)] 好む 兄 [人名] より良い

ハー・トゥイ: キム・トゥさあ、結局どっちに決めた?

キム・トゥ: ベトさんに決めた。

ハー・トゥイ: でも、(あの) ニャットさんのほうがいいと思うけど?

キム・トゥ: でも、ベトさんのほうが好きなんだ。

また、韓国語とベトナム語の指示詞における相違点を表す(62)と(63)について考えれば、これらの例では、**đây(đó)**より **kia** のほうが適切であるが、例えば(63)の文脈を(82)のように変えてみると、逆に **kia** が用いられなくなる。つまり、(63)は上記の(81)と同様に、今の話題であるベン市場の辺りの様子から、話し手と聞き手の共有知識にある「男児が生まれたばかりの家」という過去にあった話題に再び転換した際に、その話題を提示するのに **kia** が用いられると考えられる。一方、(82)では、そのような今の話題から別の話題に切り替えるという文脈ではないため、**kia** が用いられないだろう。

(63) {フエ僧侶が、ベン市場の辺りの子供が生まれた家について尋ねに行ったキエムさんとしばらく市場周辺の様子について話した後、キエムさんに聞く}

Sư Huệ: ... thế bõ có hỏi về
 [関係詞 (それでは)] 老いた下男 [副詞 (疑問)] 聞く 関する

cái nhà mới sinh đứa bé trai
 [類別詞 (個)] 家 [副詞 (ばかり)] 生む [類別詞 (人)] 幼児 男

{*này/?ây(đó)/kia} không?

コ/ソ/ア [副詞 (疑問)]

フエ僧侶: そういえば、あの男児が生まれたばかりの家について聞いたのか?

Hue 스님: 그리고 보니, 막 태어난 그 남자아기의 집에 대해서 물었니?

(Nguyễn H.T. 2012:24)

(82) {ベン市場の辺りの子供が生まれた家について尋ねに行ったキエムさんがフエ僧侶を見た途端、すぐに言う}

Ông Kiệm (vội vã): Bạch thầy! Nhà {*này/ây(đó)/?kia} chuyên đi nơi
 申す 2 (先生) 家 コ/ソ/ア 移す 行く 所

khác mất rồi!

違う [文末詞 (残念)] [文末詞 (完了)]

Sư Huệ: Cái nhà mới sinh đứa bé trai

[類別詞 (個)] 家 [副詞 (ばかり)] 生む [類別詞 (人)] 幼児 男

{*này/ây(đó)?kia} á?

コ/ソ/ア [文末詞 (疑問)]

Ông Kiệm: Vâng, hôm qua họ chuyên đi nơi khác rồi

[感動詞 (応答)] 昨日 彼ら 移す 行く 所 違う [文末詞 (完了)]

ạ!

[文末詞 (丁寧)]

キエムさん (慌てて) : 和尚さん! あの家は違う所に引っ越ししてしまいました。

フェ僧侶 : あの男児が生まれたばかりの家か?

キエムさん : はい! 昨日、彼らは既に違う所に引っ越ししてしまったのです。

このように、(71)、(72)と(81)または(62)、(63)と(82)をそれぞれ比較すれば、kia は、現在進行している話題から次の話題に切り替えた際に、その新しい話題を提示する場合に使用され、đây(đó)はそうではない場合に使用される。これは、đây(đó)とkiaの語用論的な違いであると言える。このようなđây(đó)とkiaの機能解釈には、語用論的な一般化が必要であろう。したがって、ベトナム語の指示詞は、(80a)のように意味論的・統語論的に特徴付けるより、(80b)のように意味論・語用論的に特徴付けるほうが妥当であると考えられる。そのため、本研究では、ベトナム語の指示詞を韓国語と同様に[±現場]の素性で特徴付けることとする。すなわち、ベトナム語において、[+現場]の特徴を持つのはđây系とkia系である。đâyとkiaは「近・遠」で対立している。一方、[-現場]の特徴を持つのはđây(đó)系である。đây(đó)には距離区分がない。しかし、[-現場]のkiaも存在するように見える。次節では、まず意味論・語用論的素性である[±現場]についての定義を整理する。さらに、次章では、ベトナム語の指示詞の諸用法を確認した上で、đây-đây(đó)-kiaを[±現場]で特徴付けることにより、指示詞の用法解釈が可能であることを示す。

(83) ベトナム語の指示詞の特徴付け (仮)

[+現場]	đây : 近 kia : 遠
[-現場]	đây(đó)

2.3.2 [±現場]について

前述の通り、日本語の指示詞についての先行研究には、指示詞の機能を眼前指示用法と非眼前指示用法とに分けて、別々の原理で記述するものが多い。この両用法を統一する原理、つまりこの両用法を超えて指示詞の意味を特徴付ける要因となるものを追求している研究である黒田（1979）は、文脈中の他の語句を照応することなく、直接に意図された対象を指示する独立的用法においても、文脈中の他の語句に照応する照応的用法においても、ア（とコ）は直接的知識を指向している。それに対し、ソは照応的用法では、指示対象を概念的知識の対象として、独立的用法では他者の直接的知識（＝自己（意識）の直接的知識ではないもの、または自己の直接的意識と対立するもの）として把握する対象を指向していると、日本語の指示詞を意味論的に特徴付けている。一方、黒田の照応的用法が必ずしも言語的先行詞との照応関係を表しているとは限らないことを示した指示詞の統語論的研究である Ueyama（1998）と上山（2000）では、ア系は独立的に指示解釈ができるのに対し、ソ系の指示詞は解釈のためには言語的先行詞を必要とするとされている。上山の統語的アプローチを採用している Hoji et al.（2003）、田窪（2008 など）は、久野（1973）や黒田（1979）では残されたコ系の特徴を考察した上で、近称・遠称の指示詞（コ・ア）は独立した指示対象を持ち、言語的先行詞が不必要であるという特徴を持つ一方、中称の指示詞（ソ）は独立した指示対象を持たず、言語的先行詞が必要であるという特徴を持つと主張している。この統語的な特徴付けを[±D]で表し、さらに指示対象が近ければ「近」、遠ければ「遠」という距離区分に基づく素性で表すと、[+D]の特徴を持つのはコ系とア系の指示詞であり、[-D]の特徴を持つのはソ系の指示詞である。コとアは「近・遠」で使い分けられる一方、ソには距離区分がないこととなる。

本研究は、この Hoji et al.（2003）及び田窪（2008 など）の枠組みを採用することとする。つまり、二つの素性を使って三系列の指示詞に特徴を与え、指示詞のどれかが例外として生じた場合、他の二つが使用できない時に最後の手段として使用する補足的なものとなる。日本語、ベトナム語、または韓国語のどれにおいても中称の指示詞がまさにその存在であり、日本語では、言語的先行詞を必要とするか否かという意味論的・統語論的なフィーチャーの[±D]によって指示詞を特徴付けられる。一方、前述のように、ベトナム語または韓国語では、指示対象が発話現場に存在しているとみなされるか否かという意味論・語用論的フィーチャーの[±現場]によって指示詞の特徴付けができることを提案した。次章では、ベトナム語における指示詞の諸用法を確認した上で、ベトナム語の指示詞を[±現場]で特徴付けることにより、指示詞の機能解釈が可能であることを示唆するが、ひとまず、その前提として以下に[±現場]及び指示詞の用法についての定義を整理しよう。

・ [±現場] ([±spatial]) とは、認知主体である話し手と指示対象との距離的・知覚的な関係に基づく、ベトナム語の指示詞を特徴付ける意味論・語用論的素性である。つまり、発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す指示詞は[+現場]の特徴を持ち、発話現場に存在しているとみなされない対象を指す指示詞は[-現場]の特徴を持つ。[+現場]のものにのみ「近・遠」という距離区分があるのに対し、[-現場]のものには距離区分がない。

・ 指示詞の用法については、現場指示用法と非現場指示用法に分かれている。現場指示用法²⁷とは、対話・講演など話し手と聞き手が同一の空間を共有する場面において、多くの場合身ぶり・手ぶり・表情などの表現行為を伴いつつ、話し手が現に知覚していて聞き手にも知覚されるはずだとする事物を対象として指示する用法である。一方、非現場指示用法とは、現場に存在していない、あるいは話し手の記憶の中にある事物を対象として指示する用法である²⁸。

・ [±現場]は指示詞の特性であり、現場指示・非現場指示は指示用法であるが、基本的に[+現場]の特徴を持つ指示詞は現場指示用法に用いられる。一方、[-現場]の特徴を持つ指示詞は非現場指示用法に用いられる。ただし、[+現場]の指示詞が非現場指示で、[-現場]の指示詞が現場指示で使われる場合もあるが、[±現場]という特性は依然として維持されている。

これによれば、三系列の指示詞を持つベトナム語では、[+現場]の特徴を持つのは *đây* 系と *kia* 系である。*đây* と *kia* は「近・遠」で使い分けられる。一方、*đây(đó)*には距離区分がない。[-現場]の特徴を持つのは *đây(đó)*系である。[+現場]の *đây-kia* と[-現場]の *đây(đó)*で対立していることとなる。

また、「近・遠」と[±現場]は語用論的性質で独立しているが、「近」と「遠」は[+現場]しか取れず、[+現場]の *đây* と *kia* は基本的に現場指示用法にしか用いられない。「近・遠」の距離区分がない[-現場]の *đây(đó)*は基本的に非現場指示用法にしか用いられない。つまり、[+現場]の *đây* と *kia* は現場指示用法を、[-現場]の *đây(đó)*が非現場指示用法を、それぞれ基本用法としているのである。ただし、拡張用法として非現場指示用法に用いられる *đây-kia*、または、現場指示用法に用いられる *đây(đó)*も存在している。しかし、

²⁷ 堀口 (1978:24) による現場指示の定義に従う。なお、堀口 (1978) では、日本語の指示詞の用法には現場指示、文脈指示、観念指示、及びそれらとは異質の絶対指示があるとされている。

²⁸ なお、本研究で提案している現場指示用法・非現場指示用法は、基本的に先行研究における直接指示・文脈指示 (三上 (1955))、眼前指示用法・文脈指示用法 (久野 (1973))、独立的用法・照応的用法 (黒田 (1979))、現場指示・文脈指示 (阪田 (1971)、堀口 (1978)、正保 (1981)、吉本 (1992)、金水・田窪 (1992))、直示用法・非直示用法 (金水 (1999)) にはほぼ対応している。

拡張用法として非現場指示用法に用いられる *đây-kia* は[+現場]、または、[+現場]しか取れない「近・遠」の特徴を依然として維持している。この場合の「近・遠」は、話し手の指示対象への親近感・疎遠感といった心理的距離である。一方、拡張用法として現場指示用法に用いられる *đây(đó)*は[-現場]の特徴を依然として維持している。

2.4 第2章のまとめ

本章では、ベトナム語の指示詞を特徴付ける[±現場]というフィーチャーを提案した。このフィーチャーは日本語の指示詞についての意味論・統語論的研究である Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2008 など) による枠組みに基づいて仮定したものである。Hoji et al. (2003) 及び田窪 (2008 など) は、指示詞を統一の原理で記述しようとする黒田 (1979) を踏まえながら、統語論の観点から、先行詞を必要とするか否かを表す[±D]というフィーチャーを提案し、日本語の指示詞の特徴付けについて、[+D]の特徴を持つ近称・遠称の指示詞 (コ・ア) は、ダイクシスで言語場において話し手 (= 認知主体) からの距離に基づいて指示対象が決められる。[-D]の特徴を持つ中称の指示詞 (ソ) は、言語的先行詞により、言語場と独立して指示対象が決められると主張している。一方、ベトナムの指示詞については、日本語とは異なり、中称の指示詞の *đây(đó)*は先行詞がない場合にも用いられるため、意味論・統語論的特徴付けである[±D]より、韓国語の指示詞にも当てはめられる意味論・語用論的特徴付けである[±現場]がベトナム語の指示詞の一般化には妥当であることを示した。[±現場] ([±spatial]) とは、認知主体である話し手と指示対象との距離的・知覚的な関係に基づく指示詞を特徴付ける素性であり、発話現場に存在している、または、視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す指示詞は[+現場]の特徴を持つ。発話現場に存在しているとみなされない対象を指す指示詞は[-現場]の特徴を持つ。[+現場]のものにのみ「近・遠」という距離区分があるのに対し、[-現場]のものには距離区分がないこととなる。三系列の指示詞を持つベトナム語では、[+現場]の特徴を持つのは近称の *đây* 系と遠称の *kia* 系である。*đây* と *kia* は「近・遠」で使い分けられる。一方、中称の *đây(đó)*には距離区分がない。[-現場]の特徴を持つのは *đây(đó)*系である。すなわち、[+現場]の *đây-kia* と[-現場]の *đây(đó)* で対立している。

次章では、採集用例または作例から見たベトナム語の指示詞の用法を確認しながら、指示詞の特徴付けである[±現場]による一般化の妥当性を検討していく。

第三章 「±現場」による指示詞の解釈

3.1 ベトナム語の指示詞に関する先行研究

ベトナム語の指示詞についての先行研究は Emeneau (1951)、Thompson (1965)、Nguyễn H.Q. (2001)、富田 (2000) のような簡単に指示詞の使い分けに触れるだけにとどまるものが多く、指示詞を中心的なテーマとして初めて取り上げた研究は、Nguyễn P.P. (2002)、Bui L.T. (2014)、安達 (2016 など) が挙げられる。安達 (2016 など) は、指示詞を近称 (proximal)・中称 (neutral)・遠称 (distal) に3分割している。一方、Bui L.T. (2014) は、近称 (proximal)・遠称 (distal) の2分割を主張している。それに対し、Nguyễn P.P. (2002) は指示詞を形態的には3分割、機能的には2分割している。本章では、これらの研究の概説とそれにおける問題点を以下に議論する。

3.1.1 Nguyễn P.P. (2002)

Nguyễn P.P. (2002) は、指示詞を形態的に分析し、それに基づいてベトナム語の指示詞についての機能解釈を主張している。まず、各指示詞が自由形態素になれるかどうかを指定するために[±NOM] (名詞性) を導入し、形態的類似から指示詞を /-Aw/、/-Ay/、/-ɔ/ の三種類に分けている。さらに、「近・遠」の対立に基づいた Thompson (1965) の分類方法と異なり、空間指示詞を D1 (近)、D2 (中)、D3 (遠) の三系列に分類している (不定称の D0 を除く)。また、/-Ay/ は D1(đây/này) と D2(đây/(n)ây) に、/-ɔ/ は D2(đó) と D3(nọ) に、kia は D3 に対応するとしている。このように、D2 に /-Ay/(đây/(n)ây) と /-ɔ/(đó) の二種類が存在しているというのは、D2 が意味的にも形態的にも D1 と D3 の中間にあることを表していると主張している。Nguyễn P.P. (2002) の説明を表にすると、以下となる。

系列	類似形態素	名詞性	指示詞
D1(近)	/-Ay/	+NOM	đây
		-NOM	này
		±NOM	—
D2(中)	/-Ay/, /-ɔ/	+NOM	đây
		-NOM	(n)ây
		±NOM	đó
D3(遠)	/-ɔ/	+NOM	—
		-NOM	nọ
		±NOM	kia
D0(不定)	/-Aw/	+NOM	đâu
		-NOM	nào
		±NOM	—

(表5) Nguyễn P.P. (2002) によるベトナム語の空間指示詞の特徴

また、Thompson (1965) によると、*đây* は話し手に近い、あるいは新たに導入された (close to speaker or newly introduced) ものを、*đấy* は遠くにある、または既に同定された (remote or already identified) ものを、*kia* は *đấy* より遠い (more remote than *đấy*) ものを指すとされている。しかし、Nguyễn P.P. (2002) では、それは話し手と聞き手が横並びで同じ方向を向いている場合にしか言えないと指摘している。話し手と聞き手が向かい合っている場合は、話し手に近いものを *đây*、聞き手に近いものを *đó*、双方から遠いかつ聞き手にとって、可視的でないものを *kia* で指示するとされている。さらに、発話場面において、発話者・対話者に共通している空間を「内空間」、それ以外の空間を「外空間」とし、*đây* は常に内空間に、*kia* は外空間にある。その一方、*đấy(đó)* は内空間に入ったり外空間に入ったりするため、機能的に D1/D2/D3 の三分法よりは D1 と D2/D3 の二分法のほうが適切であろうと主張している。Nguyễn P.P. (2002) による内空間・外空間と指示詞の選択については、以下のようである。

	私 // あなた (平行)	<i>đây</i>	<i>đấy(đó)/kia</i>
我々		内空間	外空間
	私<->あなた (対面)	<i>đây/đấy(đó)</i>	<i>kia</i>

(表 6) Nguyễn P.P. (2002) による指示詞の使い分け

ちなみに、Nguyễn P.P. (2002) では、ベトナム語の指示詞では「D2 の *đấy(đó)* は照応的に用いられる可能性が高いようである (p.143)」と述べている。特に、コンピュータ文 (~ là X) という形においては、照応的に用いられるのは *đây* と *đấy(đó)/ấy* であり、*kia* には見られないとも述べている。また、Nguyễn P.P. (2002:112-4) では、同じ D3 に分類された *kia* と *người kia* (あの人) と *người nó* (あの人) のような場合なら、前者は現在指示現場に「いる」と「いない」時のどちらにも使えるのに対して、後者は「いない」の時にしか使えない。また、第 5 章で後述するが、*ngày kia* (明後日、あるとつとに過ぎた日) と *ngày nó* (ある過去にある確定している日) のような時間の表現の場合は、前者は過去の意味にも未来の意味にも取れる。一方、後者は過去の意味でしか取れないと言及している。

3.1.2 Bui L.T. (2014)

Bui L.T. (2014) は、ベトナム語の指示詞には、spatial usage (空間指示用法)、第 5 章で後述する temporal usage (時間指示用法)、discourse usage (談話指示用法)、first mention usage (新規導入用法)、第 6 章で後述する demonstrative particles (文末詞) としての用法と、demonstrative interjections (感動詞) としての用法があるとしている。中に、指示詞の spatial usage (空間指示用法) について、話し手の指示対象への認知的遠近感に基づく relative distance、指示対象が話し手にとって、物理的・心理的にアクセスできる範

圏にあるか否かに基づく *contact*、または指示対象が可視的であるか否かに基づく *visibility/invisibility* といった3つのパラメータによって、指示詞が使い分けられるとしている。*relative distance* によって、近称 (*proximal*) の *này/đây* と遠称 (*distal*) の *đây(đó)/kia* が区別されている。*visibility/invisibility* は *này/đây/đây(đó)/kia* と *no* の性質を区別するものである。一方、*contact* は *này/đây* にしか見られない特徴であり、他の指示詞とは異なる。Bui L.T. (2014) の主張をまとめると以下となる。

パラメータ	<i>này/đây</i>	<i>đây(đó)/kia</i>	<i>no</i>
親近感 <i>relative distance</i>	○	—	—
可視的 <i>visibility</i>	○	○	—
アクセス可能性 <i>contact</i>	○	—	—

なお、ベトナム語の指示詞を近称 (*proximal*) と遠称 (*distal*) の2分割にする方が適切であると主張している Bui L.T. (2014) は、(空間の) 指示詞については、*này/đây* は話し手から近い対象を指し示す。*đây(đó)* は話し手から遠いところにある対象を指す。それに対し、*kia* には話し手 (または話し手と聞き手) から離れたところにある対象を指すか、対比を表すかといった機能を持つと述べている (*này and đây indicate a close referent; in contrast đây(đó) refer to a remote referent while kia can either refer to something at a distance from the speaker (and the hearer) or to a contrast* (Bui L.T. 2014:47)。また、遠称の *đây(đó)* と *kia* の違いについては、物理的距離によるものではない。聞き手が発話の前に、既に指示対象の存在を気付いていると話し手が認識している場合、*đây(đó)* が選ばれる (例(84))。一方、聞き手にとって指示対象が新しく導入されたものであるとされる場合、*kia* が使用される (例(85)) と主張している (When the speaker is aware that the intended referent has been noticed by the hearer before the referent is uttered, *đây(đó)* is selected over *kia*. When the intended referent is assumed to be newly-introduced to the hearer, *kia* is employed instead (Bui L.T. 2014:47))。

- (84) Luom points to a house on the hill (which all of them are looking at) and says to Long and Quy timidly)

- Đó là ngôi nhà ma!
DEM.DIST COP CL house ghost
'Đó is a haunted house!'

- (85) A father is sitting on a plank bed. He points to the corner of the plank bed and says to his daughter Lua:

- Con ngồi xuống kia.
 child sit down DEM.DIST
 ‘You sit kia.’

(Bui L.T. 2014:44)

指示詞のdiscourse usage（談話指示用法）について、*này/đây-ây/đây(đó)-kia-nọ*のどれも前方照応用法を持つものに対し、*này/đây*にしか後方照応用法を持たない。後方照応として機能する*này/đây*に関しては、後続する指示対象の登場を知らせる意味を表すと言及している（an informing signal for the subsequent appearance of the referent (Bui L.T. 2014:94)）。また、談話における前方照応として機能する場合の*này/đây-ây/đây(đó)-kia-nọ*の使い分けはtopic’s importance/continuity（話題の重要性・持続性）、referential/cognitive distance（指示・認知的距離）、story-telling effect（物語りの役割）といった要因によって決められるとされている（表7）。

Factors	DEMs	[distal]		
	[proximal] <i>này, đây</i>	<i>ây, đây/đó</i>	<i>kia</i>	<i>nọ</i>
High topic’s importance	+	-	-	+ *
High topic continuity	+	-	-	+ *
Low topic’s importance	-	+	-	-
Low topic continuity	-	+	-	-
The referential distance	-	-	+	-
The cognitive distance	-	-	+	-
The storytelling effect	-	-	-	+

* inconclusive evidence

（表7）Bui L.T.（2014）による前方照応用法における指示詞の使い分け

また、ベトナム語の指示詞には、first mention usage（新規導入用法）という機能が存在しており、指示対象を談話に新しく導入する時に使われる用法である（in which demonstratives are used to introduce new references into the discourse (Bui L.T. 2014:126)）。中には、presentational usage（紹介的機能）を持つ*kia/nọ/ây*は、談話において聞き手の知らない指示対象を導入する時に用いられる。一方、*này/đây-ây/đây(đó)-kia-nọ*はrecognitional usage（認識的機能）を持ち、話し手・聞き手の共有知識にある指示対象を導入する時に使われる。*ây*には、指示詞が特定の語彙項目の代わりに使用されるというplaceholder usage（代用語的機能）とavoidance usage（回避的機能）がある。また、Bui L.T.（2014:146）では、近称の*này/đây*には、話し手の知識にはあるが、言語的文脈には明示されていない特定の物事・場所を指すprivacy usage（秘密的機能）を持つと言及している（indicate a particular entity/location that the speaker has in mind but which will not be subsequently identified in the discourse）。

	Types of first mention usage	First-mention demonstratives
1	Presentational usage	[distal] <i>kia, nọ, ấy</i>
2	Recognitional usage	[proximal] <i>này</i> [distal] <i>ấy, đây/đó, kia, nọ</i>
3	Placeholder usage	[distal] <i>ấy</i>
4	Avoidance usage	
5	Privacy usage	[proximal] <i>này, đây</i>

(表 8) Bui L.T. (2014) による指示詞の first mention usage (新規導入用法)

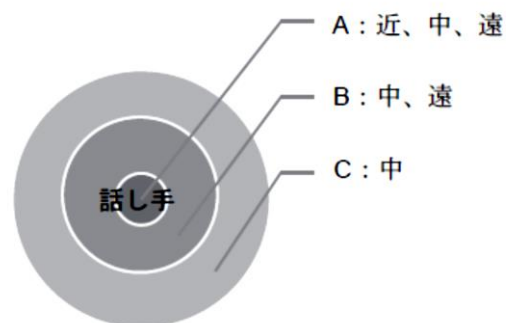
3.1.3 安達 (2016)

安達 (2016) では、ベトナム語の指示詞には、発話の場にある対象を指示する直示用法、談話の中の先行詞を指示する照応用法、過去の知識の中の対象を直接指示する記憶指示用法、または曖昧指示やBui L.T. (2014) を参考にしているplaceholderといった不確定な対象を指示する用法が存在していると言及されている²⁹。

安達 (2016) は、指示詞の直示用法・照応用法・記憶指示用法に関しては、理論の拠り所として以下の金水・岡崎・曹 (2002) による指示詞の一般化を採用している。

- ・直示用法：直示用法とは外界において知覚できるもの、典型的には見えているものを直接指し示す用法
- ・照応用法：言語テキストによって導入された先行詞と同一指示関係を持つ用法
- ・記憶指示用法：過去の直接体験に基づいた話し手の知識の中の対象を指示する用法

上記の一般化を踏まえながら、ベトナム語の指示詞における直示用法を以下のように述べている。



(図 1) 安達 (2016) によるベトナム語の指示詞の指示範囲

²⁹ 安達 (2016) では、他に人称指示・時間指示の用法も記述されているが、人称指示については本稿では考察の対象外とする。なお、時間指示については第 5 章で議論する。

図1に示されるように、指示詞は「A.話し手に近い範囲（近称・中称・遠称の3つから選択可能）、B.対象を具体的に認識できる範囲（中称と遠称の2つが使用可能）、C.話し手の直接認識が難しい範囲を含む広い範囲（中称のみ使用可能）という話し手を中心とする小・中・大の3つの同心円の中で相対的に運用されている」と（安達2016:48）が主張している。

一方、照応用法においては、中称の指示詞のみが使用される。なお、近称の指示詞には、言語的テキストとして提示された先行詞を指示するtextual deixis³⁰として機能する。

(86) 照応用法 : *đây*

Lúc trước tôi ở Sài-gòn lâu năm.

時 前 私 に住む サイゴン 長年

Ở {**đây / đây(đó) / *kia*} thì vui lắm.

に住む *ここ そこ そこ *あそこ TOP 楽しい とても

「以前私はサイゴンに長年住んでいた。そこに住むのはとても楽しかった。」

(安達 2016:50、Thompson 1965:143より引用)

(87) textual deixis: *này*

a. 前方照応

“\$” { *đây / đây(đó) / *kia* } là ký hiệu tiền của Mỹ.

\$ これ それ それ *あれ COP 記号 お金 の アメリカ

“\$” {これ/それ/それ/*あれ} はアメリカの通貨記号です。

b. 後方照応

{*Đây / Đây / Đó / *Kia*} là ký hiệu tiền của Mỹ: “\$”.

これ それ それ *あれ COP 記号 お金 の アメリカ \$

{これ/それ/それ/*あれ} はアメリカの通貨記号です。“\$”

(安達 2016:50、日本語の例は金水・岡崎・曹 2002:225より引用)

一方、記憶指示用法には言語的な先行詞が存在しないため、近称は使うことができないのに対し、中称は照応用法においても記憶指示用法においても使用可能である。先行詞なしで過去の知識を直接指し示す記憶指示用法の場合は遠称も用いることができると述べている（例(88)）。なお、照応用法と記憶指示用法におけるベトナム語の指示詞の使い分けは表9のようにまとめられる。

³⁰ 安達 (2016) はLyons (1977) のtextual deixisの定義を採用している。(Demonstrative pronouns and other deictic expressions may be used to refer to linguistic entities of various kinds (forms, parts of forms, lexemes, expressions, text-sentences, and so on) in the co-text of the utterance (Lyons 1977:667))。

- (88) Chuyện { *này / ây / ý / đây(đó) / kia } thế nào rồi?
 話 *この その その その その あの どう てしまう
 (ところで) あの話、どうなった?

(安達 2016:52)

系列／特徴	先行詞の有無	指示対象の確定性	用法
近称 <i>đây</i>	+	+	Textual deixis
‘中称’ <i>đây</i>	+	+	照応
	+	-	(不特定の対象、連動的解釈)
遠称 <i>kia</i>	-	+	記憶指示
	-	+	記憶指示

(表9) ベトナム語の指示詞の照応用法と記憶指示用法

また、安達 (2016) では、不確定な対象を指示する用法の曖昧指示は近称も中称も見られるが、Bui L.T. (2014) と同様にplaceholderとしての用法は、中称の指示詞しか用いられないとされている。

- (89) Chiều nay có ai { *này / *ây / *ý / đây(đó) / *kia }
 午後 この いる 誰 *この その その その その *あの
 đến tìm anh đây.
 来る 見つける あなた [兄] SFP [情報共有の志向]
 「今日の午後、誰かがあなたに会いに来たよ。」

(安達 2016:54)

- (90) Bác ấy { *này / ây / ý / *đây / *đó / *kia }
 伯父 その *この その *その *その *その *あの
 (= béo) nhi.
 (=太っている) SFP [同意の要求]
 「彼はあれだ (=太っている) ね。」

(安達 2016:56)

3.1.4 先行研究のまとめとその問題点

以上、ベトナム語の指示詞を主なテーマとしている先行研究を概説した。指示詞の形態的・意味的特徴に焦点を置いているNguyễn P.P. (2002) は、認知的概念である内空間・外空間に基づいて指示詞の機能を説明している。đâyは常に内空間に、kiaは外空間にあ

る一方、đây(đó)は内空間に入ったり外空間に入ったりすると主張し、đây(đó)を特別扱っている。đâyとđây(đó)は照応的用法を持つが、kiaはその用法を持たないと述べている。また、Nguyễn P.P. (2002) では、指示詞には、眼前の対象を指示する場合と照応的に用いられる場合という二つの機能があるとされている。前者ではđây-đây(đó)-kiaのどれも使用され、「近」である対象はđâyで、「遠」である対象はđây(đó)-kiaで指し示される。それに対し、後者ではđây-đây(đó)しか用いられない。

指示詞	近称 đây	中・遠称	
		đây(đó)	kia
眼前的用法	○	○	○
照応的用法	○	○	—

(表10) Nguyễn P.P. (2002) における指示詞の用法

また、Brown and Yule (1983) が提唱しているdiscourse analysis (談話分析) を理論的枠組みとして採用しているBui L.T. (2014) は、指示詞の用法をspatial usage (空間指示用法)、temporal usage (時間指示用法)、discourse usage (談話指示用法)、first mention usage (新規導入用法) の4つの機能に分けて考察した。第5章で後述するtemporal usage (時間指示用法) を除くと、spatial usage (空間指示用法) では、này/đâyは「近」であるđây(đó)-kiaは「遠」である対象を指し示す。discourse usage (談話指示用法) では、này/đây-đây(đó)/ây-kiaのどれも前方照応に用いられるに対し、này/đâyにしか後方照応の機能がない。また、first mention usage (新規導入用法) においては、kiaはpresentational usage (紹介的機能) を、này/đâyはpresentational usage (紹介的機能) とprivacy usage (秘密的機能) を持つ。一方、đây(đó)はfirst mention usage (新規導入用法) における全ての機能を持つという広い範囲に用いられる。

DEMs		Proximal	Distal		
		này/đây	đây(đó)	kia	
Functions	spatial usage	spatial	○	○	○
		contrastive	—	○	○
	discourse usage	cataphoric	○	—	—
		anaphoric	○	○	○
	first mention usage	presentational	—	○	○
		recognitional	○	○	○
		placeholder	—	○	—
		avoidance	—	○	—
		privacy	○	—	—

(表11) Bui L.T. (2014) におけるベトナム語の指示詞の用法

一方、安達（2016）では、ベトナム語の指示詞は近称・中称・遠称の3系列を持ち、その機能は直示的用法と非直示的用法に分けられる。直示用法において近称のđâyは話し手の周囲を、遠称のkiaは近称より広い可視的な範囲を、中称のđáy(đó)は距離に中立的であり広い範囲において用いられる。先行詞を持つ照応用法においては中称が使われ、不特定の対象や連動的解釈を持つ対象も指示できる。近称については言語的テキストとして提示された先行詞を指示するtextual deixisの用法がある。遠称は照応用法では使用できないが、過去の知識を先行詞なしで直接指示する記憶指示用法においては使用可能なことがある。この時、中称も使用できる。また、中称は曖昧な対象を指示する用法やplaceholderという用法も持つとされている。

指示詞		近称 đây	中称 đáy(đó)	遠称 kia
直示的用法		○	○	○
非直示的用法	照応	—	○	—
	textual deixis	○	—	—
	記憶指示	—	○	○
	曖昧領域指示	○	○	—
	placeholder	—	○	—

(表12) 安達（2016）におけるベトナム語の指示詞の用法

ここで、先行研究によるベトナム語の指示詞の用法をまとめると、次のようことが言える。

- (91) ベトナム語指示詞は形式的に、đây-đáy(đó)-kia の三系列を持ち、用法的に指示詞を近称 (proximal)・中称 (neutral)・遠称 (distal) に3分割するのと、近称 (proximal)・遠称 (distal) に2分割する先行研究が存在している。いずれにせよ、指示対象が眼前にある場合、đây は話し手から近くにあるものを、đáy(đó)と kia は話し手から遠くにあるものを指すと言える。また、đáy(đó)については聞き手に近いものを指すという見解も見られる。ただし、聞き手に近いものでも、話し手からも手が届く範囲にある場合なら、đây 系で指し示すこともある。đáy(đó)は話し手と聞き手が向かい合っている時、その中間地点にある対象を指示することもできる。話し手と聞き手が横並びで同じ方向を向いている時、指示対象が三つ存在している場合ならその中間にあるものを đáy(đó)で指すこともできる。đáy(đó)と kia の違いについては、安達（2016）では、前述のように、đáy(đó)は指示詞を相対的に運用している同心円の A.話し手に近い範囲、B.対象を具体的に認識できる範囲、または C.話し手の直接認識が難しい範囲のどれにも属しているのに対し、kia は A と B でしか使用されていない。一方、Bui L.T. (2014) においては、遠称の đáy(đó/áy)

と *kia* の違いについては、物理的距離によるものではない。聞き手が発話の前に、既に指示対象の存在を気付いていると話手が認識している場合、*đây(đó)* が選ばれる。一方、聞き手にとって指示対象が新しく導入されたものであるとされる場合、*kia* が使用されるとされている。

- (92) 一方、眼前にないものまたは文脈にあるものを指す場合は、*đây* と *đây(đó)* は照応用法を持っているが、*kia* にはその用法がない³¹。*đây(đó)* と *kia* はどちらも記憶にある対象を指し示すことができる。また、*đây(đó)* には曖昧な対象を指示する用法や、ある単語が思い出せない時に一時的に代用する表現としての用法も見られる。安達 (2016:53) では、記憶指示用法においては、*kia* が使用可能なのは指示対象を先行詞なしで談話に新規導入する時の一回限りであり、指示対象が先行詞と共に談話に導入済みとなった後は *đây(đó)* のみが使われる。しかし、先行詞なしでも *đây(đó)* が使用可能であると述べ、その違いについては安達 (2016) では明示されていない。

このように、先行研究における指示詞の機能解釈は諸説が存在している。Nguyễn P.P. (2002) は、*đây* は常に内空間にあり、*kia* は外空間にある一方、*đây(đó)* は内空間に入ったり外空間に入ったりするとしている。安達 (2016) では、「直示用法においても非直示用法においても、近称と遠称は確定した指示対象を指すことが多いが、中称は確定していない指示対象も指すことができ、広範囲に使用される (p.64)」と主張している。さらに、Bui L.T. (2014) では、中称の *đây(đó/ây)* は指示詞の諸用法の中で、後方照応と *privacy usage* 以外、すべての用法を持つとされている。このことから、次の (ア) が言えると考えられる。

- (ア) これらの研究では近称の *đây* と遠称の *kia* に対して、中称の *đây(đó)* を特別扱いしている。

その一方、安達 (2016) はベトナム語の指示詞を形態的に近称・中称・遠称の3分割、Bui L.T. (2014) は近称・遠称の2分割、Nguyễn P.P. (2002) は指示詞を形態的には3分割、機能的には2分割を、それぞれ主張している。が、いずれの研究も *đây* と *đây(đó)* または *đây* と *kia* より、主に *đây(đó)* と *kia* を取り上げてその使い分けを説明しようとしていることから、機能的には Nguyễn P.P. (2002) が主張している「近」と「中・遠」という対立がこれらの先行研究における指示詞の用法記述にも反映されていると考えられる。従って、次の (イ) が言える。

³¹ Bui L.T. (2014) では、*kia* には照応用法があると記述しているが、Bui が用いている例文での *kia* の振る舞いは照応用法というより、安達 (2016 など) で言う記憶指示用法に当たると思われる。

(イ) これらの研究では指示詞の用法においては、「近」と「中・遠」の対立が見られ、中称のđáy(đó)と遠称のkiaに対して、近称のđáyが特別扱いされている。

ここで、(ア)と(イ)が矛盾していることが分かる。その原因は、第2章で前述した日本語の指示詞と同様に、指示詞の用法を距離区分または人称区分による眼前指示用法と、話し手と聞き手との共有知識による非眼前指示用法と、別々の原理で記述されていることにある。そのため、上記のベトナム語の指示詞についての先行研究では、原型である空間指示用法の一般化はもちろん、後述する他の用法である時間指示用法、様態・性質の指示用法、または文末詞としての用法との関連性も明確にされていない。本研究は、これまでの研究とは異なり、ベトナム語の指示詞を形態的に近称・中称・遠称を3分割とし、機能的に「近・遠」と「中」の対立を成しているという立場をとる。次節では、日本語の指示詞が「コ・アとソ」の対立を主張する研究の一つである金水(1999)を参考にしながら、ベトナム語の指示詞におけるđáy-kiaとđáy(đó)の対立について論じた上で、第2章で提案した統一の原理としての[±現場]をđáy-kiaとđáy(đó)に応用し、指示詞の用法を解説していく。

3.2 指示詞における「近・遠」と「中」の対立：日本語の指示詞の場合

日本語の指示詞をコ・ア対ソという対立関係で捉えようとする見方は堀口(1978)、黒田(1979)などがあるが、本節では、金水(1999)の見解をベトナム語の指示詞に当てはめながら、指示詞の用法を一般化する際にđáy-kia vs. đáy(đó)の対立関係を前提とするほうが良いことを示していく。

金水(1999)は、日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について、まず、直示の定義を「談話に先立って、言語外世界にあらかじめ存在すると話し手が認める対象を直接指し示し、言語的文脈に取り込むことである(p.68)」とし、指示対象は言語的文脈とは独立に言語外世界に存在するので、先行する言語的文脈に対しては基本的に自由であるとしている。まして、言語的文脈によって概念的に設定された対象を指し示すことはない。これにより、直示に用いられる指示詞表現のコ系列とア系列について「コ系列が「近称」、ア系列が「遠称」と捉えられるように話し手からの距離によってこれらの指示詞が特徴付けられることも、直示の本質にとって重要な点である。すなわち、対象があらかじめ言語外世界に存在するが故に、話し手はそれを「近い」とか「遠い」とか判定できるのである(p.69)」と主張している。また、コ系列・ア系列の原型的用法は狭義の直示用法となり、非直示用法も存在するが、非直示用法においても直示の本質(つまりコ・アの指示詞にはその指示対象が言語外世界に存在するという性質)が保持されると述べている。金水(1999)では、この主張を検証するために、非直示用法に用いられるコ・アの指示詞の用法をソの用法と対照しながら、次のように説明して

いる。なお、金水（1999）は、非直示用法に用いられるコとソ、またはアとソの違いを、Fauconnier（1982）に始まるメンタル・スペース理論の流れを組み、田窪・金水（1996）、坂原（1996）等に受け継がれた談話管理に関する理論によって説明しているが、詳しくは田窪・金水（1996）、金水（1999）などを見られたい。

・コ系の原型と拡張

コの直示は、眼前の状況において指差しや眼差しによって焦点化された話し手の近傍の領域と関連付けられた対象を指す。コ系列には、いわゆるコの文脈照応用法と言われるものがあるが、これは言語的表現を介した間接直示の一種と考えられる。この間接直示とは、写真を見ながら「この人は誰ですか」と言ったり、バーのマッチ箱を取り出して「この店に行こう」と言ったり、仕出し弁当を食べながら「ここ（=今食べている弁当を作った店）も味が落ちたねえ」などという用法である。この場合は、直示された対象（写真、マッチ、弁当）は、最終的な真の指示対象（本人、店、弁当屋）を代表し、指示対象そのものと臨時的に同一視されているわけである。真の指示対象を代表する対象が眼前に存在することによって、真の指示対象の存在が臨時に保証されるのである。一方、コの文脈照応用法（=非直示用法）では、マッチ箱で店を代表して直示するように、言語的表現を手がかりとして対象を直示している。すなわち、言語で対象を導入することによって、あたかもその対象が目の前に存在しているかのように振る舞うのである。また、文脈照応用法のコ系列はしばしば「談話主題」を指し示すと言われるが、談話の主題であると言うことは、談話に先だってそれについて述べるべき指示対象が存在しなければならないということであり、直示的な性質とも一致する。

さらに、非直示用法に用いられるコとソの違いについては、久野（1973）が示している次の(93)のように、話し手は自分で導入した要素をコで指し示すことはできるが、相手が導入した要素はコを用いて指すことができない。それに対し、(94)のように、情報の受け取り手であっても、対象について自分自身の主題でもあると捉えることができれば、コの使用は可能である。

- (93) A：僕の友達に山田という人がいるんですが、この男はなかなかの理論家で...
B：{その/??この}人は何歳くらいの人ですか？

- (94) A：...以上でファッション・シティ・プロジェクトの概要の説明を終わります。
B：このプロジェクトは、いつから開始するのかね。

この違いがあるのは、(93)では情報の受け手がコを使えないのは、対立的な視点のもとで対象が捉えられているからである。一方、(94)では、情報の与え手も受け手もコが使えるの、対象が抱合的な視点のもとで捉えられているからである。視点が対立的か、

抱合的かによってコの分布が変わることは、直示用法でしばしば見られることで、コ
の文脈照応用法が直示用法と近いものであることを示す証拠だと金水（1999）は考
える。

また、庵（1995）によれば、ソ系列の先行詞は、基本的にその文中またはその直前
にあるのが普通で、それより前にあると、同一指示の解釈が非常に難しくなる。これに
対し、コ
の先行詞は一文以上前であってもよい。さらに、坂原（1996）は、日本語・英語・
フランス語ともに、指示詞表現では先行詞のカテゴリーをまったく別のカテゴリーに
転換できることを示しているが、このような大きなカテゴリー転換が可能になるのは
指示詞の中でもコ系列およびア系列であって、ソ系列ではカテゴリー転換はむずかしい。
これらの振る舞いもコ系列とア系列の直示的な性質を表していると言えると金水（1999）
が言及している。

・ア系の原型と拡張

金水（1999）によると、ア系列の原型的用法は、狭義の直示用法に求めることができ
る。直示におけるアの領域は、眼前の空間において、コと対立する形で、話し手が直接
操作できない遠方の空間を指差し、眼差し等の行為によって焦点化することによって形
成される、いわゆる遠称である。「今・ここ」において眼前に広がる状況は、指示詞表
現（コ・ソ・ア）と指差し・眼差し等の行為によって焦点化され、区分される。これが
狭い意味での直示用法である。時間が経過し、眼前の状況が変化するとともに、以前
の眼前の状況は出来事記憶に格納される。格納された状況とは、時間・場所のインデッ
クスがついて何らかの出来事がそこで生起する場面である。この過去の記憶中の場面は、
回想によって焦点化され、憶指示用法は、この回想された場面と関連づけられた対象を
値とする。場面は特定の時間・場所である場合もあるし、不特定である場合もあるが、
ア系列の場合は、必ず話し手が直接体験した場面でなければならない。記憶指示一般に
ついて言えば、現に眼前に存在する対象ではないので、直示的である必然性はないが、
記憶内の場面を眼前の状況と同等に扱えば、直示と同じ方法によって記憶内の要素を指
示することも可能はずである。アの記憶指示用法とは、このような拡張的な直示によ
るものと考えることができる。一般に、アの文脈照応用法と呼ばれるものは、すべてこ
の記憶指示用法である。先行文脈によって喚起された場面に、指示対象が存在するこ
とが示されているのである。一見、先行文脈に依存した表現のように見えるが、言語的
文脈は聞き手の便利のためにアによって焦点化される場面を限定しているに過ぎない。

(95) きょう、山田さんに会いました。あの人、変わった人ですね。

また、以下の(96)のような独り言や(97)の夫婦の会話のように生活時間を濃密に共有
していて、話し手が焦点化した場面を聞き手が容易に推測できる対話者との会話とい
った先行文脈を持たない記憶指示用法も存在すると金水（1999）が述べている。

(96) 神戸で食べたあの肉饅頭、おいしかったなあ。

(97) {夫が長年連れ添った妻に}
おい、あれを出してくれ。

・ソ系の用法

コ系列・ア系列の指示詞には、上記に示されているように、非直示用法も存在するが、非直示用法においても直示の性質が保持される。一方、ソはいわゆる直示用法を持つ一方で非直示用法も持つが、ソの非直示用法は直示とはまったく異なる性質を持っている。すなわち、ソのいわゆる照応用法は、言語外世界とは関係なく、先行文脈によって概念的に設定された対象を指し示す。その場合、指示対象の概念が検索の重要な要素となるので、カテゴリーを変えると指示対象の同定が困難になる。また、指示対象が未定・不定・曖昧である場合も、束縛変項のように、指示対象に変域が生じる場合がある。以上の点から、ソの非直示用法は本来の直示とは全く異なるものである。

具体的に、ソ系列の典型的な用法である文脈照応用法については、例えば以下の(98)に見られるように、ソの照応が指し示すのは、前文に現れた名詞句「小麦粉」「牛乳」のいずれでもなく、「小麦粉と牛乳を混ぜた混合物」である。

(98) 小麦粉と牛乳をよく混ぜ、それをフライパンに注ぐ。

言語的文脈とは、話し手にとっての外的世界とは独立に存在しており、それだけで状況を形成することができ、語彙の概念的意味やフレーム的意味と最小限の推論等によって形成される。ソの照応が単に語句の一致ではなく、推論によって形成される状況を領域とすることを示す。上記の例に関しても、言語的には現れないが、フレーム的知識と推論によって状況に導入されたものである（Yoshimoto 1986による）。つまり、ソ系列の文脈指示用法における指示の値は、自立的なものではなく、言語的な先行文脈にのみ依存していると金水（1999）が主張している。

また、動作主の意図を表すものである「その気」、「そのつもり」や「会員とその家族（=会員の家族）」のような代行指示用法もソ系特有の用法であり、コ系列やア系列の表現が存在しない。他に、以下のような分配的解釈（連動読み）も、ソしか用いられない。

(99) a. 55%の自動車会社がそこの弁護士を解雇したらしい。
b. どの会社がそこの弁護士を解雇したのですか。

上の例では、「そこの弁護士」は特定の会社の弁護士ではなく、トヨタはトヨタの、日産は日産の弁護士のように分配的に解釈される。コ系列、ア系列では特定・確定的な解釈しかできない。この変域付き状況を「N(そ)」という指示詞表現に関数適用すると、変域に応じて値域が生じる。つまり、値は確定的でなく、可変的なのである。このように可変的な状況や値が生じるのは、それが言語的文脈によって形成されたものであるからに他ならない。直示される状況では、要素はすべて確定的で、そのような変域はありえないので、直示用法が原型的用法であるコ系列やア系列には分配的な解釈が生じ得ないという。

さらに、照応すべき言語的文脈をもたない上に、指示対象がはっきり特定できない曖昧指示表現においても、以下の(100)と(101)のように、ソ系列をコ系列やア系列に変えると、確定的な指示対象があるように解釈されてしまうので、曖昧指示表現にはならない。

- (100) A：お出かけですか。
B：ええ、ちょっとそこまで。

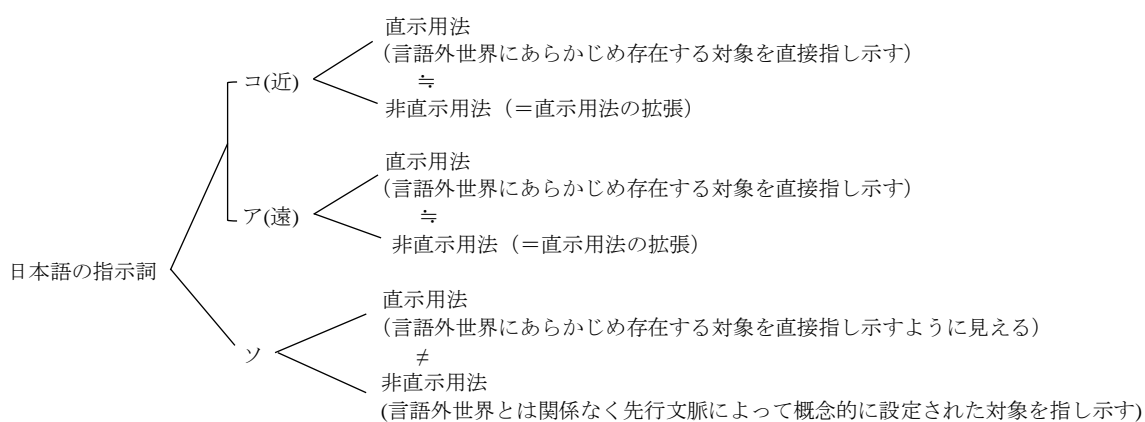
この表現では、話し手にとって自分の目的地はあらかじめ確定的に存在するわけであるが、上の表現は目的地を直示するように指し示してはいない。しかし、次のようにア系列に変えると、聞き手は目的地がどこであるのか、推論を開始せずにはいられない。それは聞き手に指示の値が現実世界に存在する確定的な場所として明示されているからである。

- (101) A：お出かけですか
B：ええ、ちょっとあそこまで。

「そこ」の場合は、わざと指示対象を非確定的に示しており、そのことに「目的地を言いたくない」という話し手の意図が暗然と表現されているので、聞き手もそれ以上は推論を押し進めない。話し手の立場から言えば、「行き先をそれ以上聞かないでほしい」という意志を表明しているのであると金水（1999）に言及されている。

このように、金水（1999）によれば、コ系列とア系列は直示用法が原型的な用法であり、文脈照応用法と見られるものでも、直示的な性質を色濃く残している。ア系列の文脈照応用法と見えるものは、実際には話し手が直接経験した場面が領域となり、直接経験という点で眼前の直示と共通する性質を持つ。コ系列の文脈照応用法は、言語表現を指示対象の代表物として取り扱い、あたかも対象が眼前にあるかのように指し示すものである。コ系列にしてもア系列にしても、その指示の値は確定的・唯一的であり、発話に先だって指示対象の存在が非言語的に決定されている。一方、ソ系列には、現場にお

ける直示用法、文脈照応用法および慣用的な曖昧指示用法がある。文脈指示用法は、言語的文脈によって形成される状況を指示の領域とする。指示の値は言語的文脈に依存し、その指示対象の言語外の世界における存在が直接保証されるわけではない。曖昧指示もまた、言語外世界との間接性という点で文脈照応用法と共通する性質を持つのである。つまり、ソ系列の非直示用法は、アやコとは違って、直示としての性質をいっさい持たないことによって特徴付けられるのである。ところが、ソ系列には直示用法もある。直示である以上、その指示の値は当然眼前に唯一的に存在する訳であるから、非直示用法とは相反する性質を持つということになる（金水1999:87）。ここで、金水（1999）の主張をまとめると以下となる。



(表13) 日本語における指示詞の「コ・ア」と「ソ」の対立

3.3 「近・遠」と「中」の対立：ベトナム語の指示詞の場合

日本語の指示詞では、コ・アは言語外世界に存在する対象を指し示し、直示用法と非直示用法が並行している一方、ソは非直示用法では先行文脈によって概念的に設定された対象を指し示し、直示用法では言語外世界に存在する対象を指し示すように見える直示用法とは並行していない。このような違いがあるため、「コ・ア対ソ」の対立を成していると金水（1999）で主張されている。ベトナム語では、前章で言及したように中称のđáy(dó)は日本語のソと異なり、直示用法においても非直示用法においても先行詞がある場合とそうでない場合のどちらにも用いられる。以下の(102)と(103)においても、例えば話し手が昨日聞き手からある話を聞いて、それがどうなっているかと気になって、電話で聞き手に聞くという状況を設定してみると、どちらの例においても、遠称のkiaより中称のđáy(dó)のほうが適切であり、ア系しか用いられない日本語とは異なることが分かる。従って、ベトナム語の中称の指示詞は日本語のように、言語外世界とは関係なく先行文脈によって概念的に設定された対象を指し示すとは言えない。だが、(103)を(103')のように状況を変えると、đáy(dó)よりkiaのほうが適切である。

(102) Mày đi đâu mất tăm mất tích vậy?
 2SG go where disappear such
 Vụ đó/?kia sao rồi?
 event DEM.DIST how already
 ‘Where have you been? How is event đó going?’

(Bui L.T. 2014:135)

(103) {電話で、いきなり聞く}
 A lô, Thảo à? Vụ {áy(đó)/?kia} thế nào rồi?
 もしもし [人名][文末詞 (疑問)] 件 ソ/ア どう [副詞 (完了)]
 Đã báo cáo với sếp chưa?
 [副詞 (過去)] 報告する [関係詞 (に)] ボス [副詞 (疑問)]
 もしもし、タオちゃん？あの件は、どうなっているの？ボスに報告した？

(103') Hà Thủy: A lô, Thảo à? Hôm qua bị
 もしもし [人名][文末詞 (疑問)] 昨日 [動詞 (受身)]
 ốm à?
 病気 [文末詞 (疑問)]
 Thảo: Bị cảm thôi. Mai lại có thể
 [動詞 (受身)] 風邪 [文末詞 (限度)] 明日 [副詞 (また)] [[副詞 (できる)]
 đi làm rồi.
 行く する [副詞 (完了)]
 Hà Thủy: Thế thì tốt rồi.
 そんな [関係詞 (なら)] 良い [副詞 (完了)]
 À, vụ {?áy(đó)/kia} thế nào rồi?
 [感動詞 (想起)] 件 ソ/ア どう [副詞 (完了)]
 Thảo: Vụ gì?
 件 何
 Hà Thủy: Vụ cãi nhau với bà Thu áy.
 件 喧嘩 [関係詞 (と)] 祖母 [人名][文末詞 (情報提示)]
 ハー・トゥイ：もしもし、タオちゃん？昨日は具合が悪かったの？
 タオ：ただの風邪だった。明日から出勤できるよ。
 ハー・トゥイ：それは良かった。そうだ、あの件はどうなっているの？
 タオ：何の件？
 ハー・トゥイ：あのトゥさんとの喧嘩の件だよ。

一方、kiaの使用が可能なのは以下の(104)である。(104)では、đáy(đó)が用いられず、kia系の指示詞しか使えない。この(103')及び(104)におけるkiaにはいわゆる「話題提示」という談話的機能があるからであると考えられる。つまり、一連の対話である話題((103')ではbị cảm「風邪」、(104)ではchuyện kết hôn「結婚のこと」)から別の話題((103')の vụ cãi nhau với bà Thu「トウさんとの喧嘩の件」)、またはそれに関連している別の話題((104)の chuyện không sinh con ngay「すぐには子供を生まない話」)に切り替えた時、その新話題の指示対象が話し手と聞き手の共有知識にある場合は、kiaで指し示されるのである。この話題提示の機能は中称のđáy(đó)にはない。

- (104) A: Em đã nói với bố mẹ em chuyện
 1 (弟/妹) [副詞 (過去)] 言う [関係詞 (に)] 親 1 (弟/妹) こと
 chúng ta sẽ kết hôn.
 1 (私たち) [副詞 (未来)] 結婚する
 Anh đã nói với bố mẹ chưa?
 2 (兄) [副詞 (過去)] 言う [関係詞 (に)] 親 [副詞 (疑問)]
 B: Anh nói rồi. Bố mẹ mừng lắm.
 1 (兄) 言う [副詞 (完了)] 親 喜ぶ [副詞 (とても)]
 A: À, còn chuyện { *này/*áy(đó)/kia } thì
 [感動詞 (想起)] [関係詞 (まだ)] こと コソ/ア [助詞 (主題)]
 sao?
 どのよう
 Anh cũng nói rồi chứ?
 2 (兄) [副詞 (も)] 言う [副詞 (完了)] [文末詞 (疑問)]
 B: Chuyện chúng ta sẽ không sinh con
 こと 私たち [副詞 (未来)] [副詞 (否定)] 生む 子供
 ngay á? Anh chưa nói.
 [副詞 (すぐ)] [文末詞 (疑問)] 1 (兄) [副詞 (否定)] 言う
 A: 結婚のこと親に言ったわ。(あなたの) 両親に話した?
 B: 言った。喜んでたよ。
 A: そうだ、あの話もした?
 B: すぐには子供を生まないつもりって話? まだ言ってない。

本稿では、ベトナム語の指示詞については、結論を先取りして述べると、近称・中称・遠称の指示詞のどれも言語外世界に存在する対象を直接指し示し、その指示対象との関係によって、指示詞の使い分けが決められる。近称のđáy系及び遠称のkia系は、直示用法・非直示用法にわたって、話し手が指示詞を選択する際に常に指示対象との物理的・

心理的距離を考慮しなければならないという直示の本質が認められる。それに対し、中称のđáy(đó)は、直示用法ではđâyとkiaが選ばれない時に用いられる。非直示用法では、限られた場合にしか用いられないđâyとkiaより、đáy(đó)は広い範囲で使用される。言い換えれば、日本語の指示詞と同様に、đây-kiaとđáy(đó)という「近・遠」と「中」の対立がベトナム語にも見られると考えられる。この主張を検証するために、以下に、先行研究に言及されていない指示詞の現象を記述しながら、đây-kiaとđáy(đó)を直示用法と非直示用法に分けて見ていく。

3.3.1 直示用法の đây-kia と đáy(đó)

đâyとkiaは話し手から「近」または「遠」と判断する対象を指し示す。この「近・遠」は認知主体である話し手と指示対象との距離によって決められるが、必ずしも物理的距離に基づくわけではない。認知主体である話し手によってある程度主観的に決定できるのである。以下の(105)に示されるように、物理的距離が同じであっても、話し手が近く感じれば「近」、遠く感じれば「遠」であると取りやすくなる。すなわち(105)では、指示対象が話し手である「祖父 (grandfather)」からも「孫 (grandchild)」からも同じ距離にあるが、孫の発話では遠称のkia系が使われるのに対し、祖父の発話では対象との距離が「近」であると捉えられるため、近称のđây系 (NP-này) が用いられるのである。

(105) {A child is standing beside her grandfather who is gardening. She points to a broken leaf and says }

Grandchild: Cháu xin ông cái lá gãy kia nhá!
grandchild ask grandfather CL leaf broken DEM.DIST PART

‘Could you give me broken leaf kia?’

Grandfather: Cháu không nghịch được những thứ này.
grandchild NEG play obtain PL CL.sort DEM.PROX

‘You’re not allowed to play with things này.’

(Bui 2014:24)

また、指示対象が聞き手に近いあるいは聞き手に属するものなら中称のđáy(đó)が用いられるのが一般的である。が、聞き手に近いものでも、話し手からも手が届く範囲にある場合なら、話し手の判断によって自分と指示対象との距離が聞き手と指示対象との距離よりも優先されれば、đâyが用いられることもある (例(106))。

(106) {聞き手の隣に座っている話し手が聞き手の手に持っている本を指しながら }

Cho mình mượn quyển sách {này/áy(đó)/*kia}

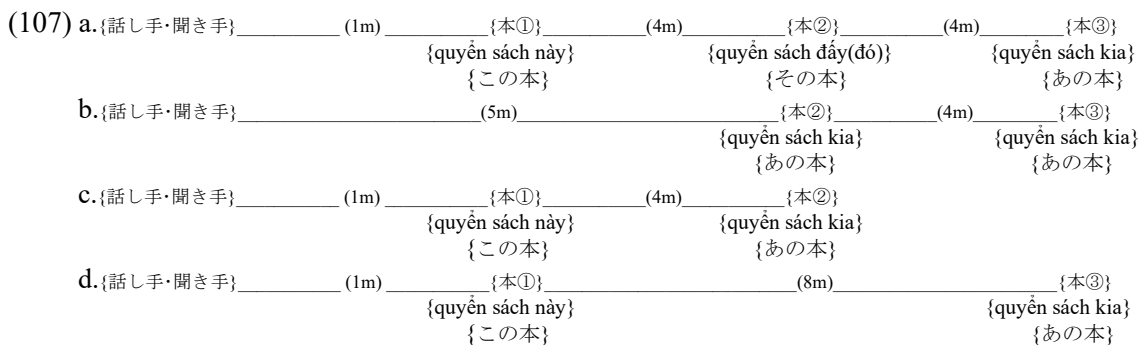
くれる 1 (僕) 借りる [類別詞 (冊)] 本 コ/ソ/ア

nhé?

[文末詞 (確認要求)]

この本／その本を貸してください。

一方、中称の *đây(đó)* は、聞き手に近いあるいは聞き手に属する対象を指示する。また、話し手と聞き手が向かい合っている時、その中間地点にある対象を指示することもでき、話し手と聞き手が横並びで同じ方向を向いている時、指示対象が三つ存在している場合ならその中間にあるものを *đây(đó)* で指すこともできると Nguyễn P.P. (2002) などの先行研究に言及されている。この「聞き手の領域」や「中距離」を指すという二つの用法を持つ *đây(đó)* は、日本語の中称の指示詞のソ系の振る舞いと同じである。まず、「中距離」を指す *đây(đó)* について考えると、ベトナム語では、話し手と聞き手が横並びで同じ方向を向いている時、指示対象が三つ存在している場合ならその中間にあるものを *đây(đó)* で指すこともできるが、三つの対象のうちどれかがなくなった時は *đây(đó)* が使えなくなる。(107)を見られたい。



つまり、(107a)では、話し手から本①が近くて、本③が遠ければ、真ん中にある本②は近いか遠いかを判断できなくなり、本②を指すのに *đây(đó)* が用いられる。一方、(107b)、(107c)、(107d)のような指示対象が二つしかない時、話し手が近く感じるものを *đây* (NP-này)、遠く感じるものを *kia* で指し示すこととなる。

それに対し、話し手と聞き手が向かい合っているとき、その中間地点にある対象を指示する場合、Nguyễn P.P. (2002) が言及しているように、話し手は指示対象が話し手自身に近いと判断すれば *đây* を、聞き手に近いと判断すれば *đây(đó)* を用いて指し示す。指示対象が聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）というのは、話し手は対象との距離を特定する際に、聞き手が大きな妨害となる。なぜならば、日本語の指示詞の直示用法におけるソについて言及している Hoji et al. (2003) や田窪 (2010) によれば、話し手は認知主体として自分と指示対象との距離を測る。その際、認知空間にあるのは話し手と対象のみであり、対象が自分から近いか遠いかという二つの選択肢しかない。だが、対象が聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）ものだと、話し手は聞き手が認知空間

に存在していることを無視できない。そのため、指示対象との距離を測りづらくなる。そこで、最終的手段として「近・遠」の特定ができない場合に選ばれる *đây(đó)* が用いられるのである³²。

以上のように、直示用法におけるベトナム語の指示詞では、*đây* と *kia* は認知主体である話し手から「近」または「遠」と判断する対象を指し示す。「近」か「遠」か（あるいは対象に対する親近感が働くか疎遠感が働くか）特定できない時、言い換えれば、近称の *đây* か遠称の *kia* か選べようがない場合に、中立的な *đây(đó)* が選ばれる。すなわち、ベトナム語の指示詞の直示用法においては、話し手とその指示対象との距離の認知によって使い分けられる近・遠の *đây-kia* と、近・遠の特定ができない場合に選ばれる *đây(đó)* との「近・遠」と「中」という対立が見られると言える。次に、非直示用法に用いられるベトナム語の指示詞の振る舞いを確認しよう。

3.3.2 非直示用法の *đây-kia* と *đây(đó)*

3.3.2.1 近称の *đây* と遠称の *kia*

・近称の *đây* :

非直示用法に用いられる *đây* には、前方照応用法 (*anaphora*) と後方照応用法 (*cataphora*) がある。前方照応用法については、以下の (108) を見られたい。Bui L.T. (2014) では、(108a) については、指示対象の *việc phân công* (*assignment*) を指すのに近称の *đây* (*NP-này*) が用いられるのに対し、(108b) では同じ対象を中称の *đây(đó)* (*NP-ấy*) で承ることになる。さらに、(108c) の *the work assignment for officers* という話題から、前の話題に切り替えた時に、再び *đây* (*NP-này*) が使用されると述べている。

(108) {A provincial president is talking to his officers who were recently involved in some problems that they had discussed in previous discourse}

a. Chúng tôi có nhận được đơn khiếu nại của ông
1PL AST receive obtain letter grievance PREP.of grandfather

Phúc về việc phân công này...

Phuc PREP.about CL assignment DEM.PROX

‘We have just received a grievance letter from Mr Phuc about work assignment này...’

b. Nhưng thôi, việc ấy bàn sau.

but stop CL DEM.DIST discuss after

‘Anyway, issue ấy should be discussed later.’

c. Giờ phải tìm cách dẹp cho yên cái pha này đã.

now must find way solve PREP quiet CL matter DEM.PROX ANT

³² 詳しくはHoji et al. (2003)、田窪 (2010) を見られたい。

‘Now (we) have to find a solution for matter này.’

(Bui L.T. 2014:104)

(109) 上記の(108)における này と ấy の違い :

	1 st topic	the work assignment for officers
2a.		việc phân công này ‘this work assignment’
2b.		việc ấy ‘that issue’
	2 nd topic	The sudden death of a villager (discussed in previous discourse)
2c.		cái pha này ‘this matter’

これは、談話における topic importance (話題の重要性) と topic continuity (話題の連続性) によれば、(108a)と(108c)では、話し手が最初の話題 (the work assignment for officers) を取り上げ、その話題についての後続発話の情報に聞き手の注意を向けさせるために high topic importance/continuity の đây (NP-này) が選ばれる。一方、(108b)の đấy (đó) (NP-ấy) にはそのような効果がないため、中称の指示詞は low topic importance/continuity であると Bui L.T. (2014) が考える。金水・田窪 (1992) では、上記の Bui L.T. (2014) が記述しているこの「話題提示」の đây に類似する日本語の非直示指示のコを「解説のコ」と呼んでいる。解説のコとは、「あるまとまった内容について説明・解説するために談話に導入した事物を解説者が指し示す場合に典型的に用いられるコ (p.139)」であり、一種の直示指示とみなせるとされている。さらに、久野 (1973) によれば、目に見えないものを指すコはその指示対象 (事象) があたかも目前にあるかのように、生き生きと叙述した時に用いられ、直示指示的色彩が強いという。ベトナム語においても、上記の (108)と(109)に示されるように、話題提示の đây は、直示指示用法の性質を維持しており、直示の拡張であると考えられる。

また、đây は中称と遠称の指示詞にはない以下の(110)と(58)のような後方照応用法 (cataphora) を持つ。(110)と(58)に示されるように、đây (NP-này) で指し示されるのは、後方の文の構成素ではなく、文または文章である³³。金水・田窪 (1992) では、日本語の

³³ 安達 (2016) では、これを「Demonstrative pronouns and other deictic expressions may be used to refer to linguistic entities of various kinds (forms, parts of forms, lexemes, expressions, text-sentences, and so on) in the co-text of the utterance (Lyons 1977: 667)」という textual deixis の一種とし、中称の指示詞は後方照応が含まれる textual deixis の用法を持っているとされている。が、Bui L.T. (2014) や本稿で挙げている後方照応用法においては、中称が不適切である。

後方照応のコも「解説のコ」の一種であり³⁴、直示指示と機能的に同じであるとされている。このように、日本語と同様に、ベトナム語の近称の指示詞の非直示用法は、直示の拡張であると考えられる。

- Em dẫn bác điều { này /* ây/*kia } :...
- (110) younger-sibling remind uncle thing DEM.PROX
 ‘I want to remind you thing này:…’

(Bui L.T. 2014:94)

- (58) Bảo: Hơn nữa, { đây/*đây(đó)/*kia} mới là điều
 [関係詞 (しかも)] コ/ソ/ア [助詞 (こそ)] [コピュラ] こと
 quan trọng nhất, tôi không quen tiêu tiền lẻ.
 大事 一番 1 (私) [副詞 (否定)] 慣れる 使う 小銭
 バオさん: しかも、これこそが一番大切です。小銭を使い慣れていないのです。

(Nguyễn H.T. 2012:169)

・遠称のkia :

前述の通り、直示用法に用いられる遠称のkiaは、日本語と同様に、近称のđâyと対立して、話し手が直接操作できない遠方の空間を指差する。đâyとkiaの使い分けは「近」か「遠」かという話し手と指示対象との距離によって決められるが、必ずしも物理的距離に基づくものではない。田窪 (2010:309) では、この「近・遠」の特定については、話し手にとって物理的に同じ位置にあったとしても、ある場合には「近」という特性を付けて、[+Proximal]という言語特性を持つコ系の指示詞を使うこともできるし、「遠」という特性を付けて、[-Proximal]という言語特性を持つア系の指示詞を使うこともできると述べている。日本語の場合、認知主体である話し手がある対象が「近」と見なすのか「遠」と見なすのかの判断要因の一つとして、指示対象に対する知識の有無が挙げられる。例えば、(111)では、物理的距離が同じであっても、話し手に対象に対する知識があれば「近」、知識がなければ「遠」と取りやすくなるため、遠くに離れている対象を指す場合でも、コが用いられる。

- (111) {10メートル先の犬を指して}
 (あの/*この) 犬はハスキーですか。
 (あの/?この) 犬はハスキーですよ。

(田窪2010:309)

³⁴ 後方照応のコについての見解は金水・田窪 (1992) を見られたい。

ベトナム語においても、日本語と同様に、話し手の指示対象に対する知識の有無が指示詞の選択を決める例として、(112)が挙げられる。つまり、(112)のように、指示対象である聞き手 (chị kia=そこのお姉さん) と聞き手がいる場所 (đây=そこ) が、話し手からは同じ距離にあるにもかかわらず、ベトナム語では、前者は遠称のkiaで、後者は中称のđây(đó)で指し示される。それに対し、日本語では、(112)は聞き手に属する(この場合は指示対象が聞き手自身である) または聞き手に近いものを指すため、いずれにおいても中称のソ系を用いるのが一般的である。なお、ベトナム語の場合は、前者については、話し手は指示対象である聞き手を知らないため、指示対象との距離を「遠」であると特徴付け、遠称の指示詞のkiaを選ぶのであろう。さらに、kiaを使うことにより、指示対象(この場合は聞き手に当たる)への疎遠感を表す語用論的な効果もたらされている。一方、後者については、指示対象が聞き手のいる場所(=話し手の家の前)であり、話し手には指示対象に対する知識があるため、kiaを用いることができない。

(112) {話し手が自分の家の前にいる女性を指して}

Này	chị	{*này/*ây(đó)/kia},			
[感動詞 (注意喚起)]	2 (姉)	コ/ソ/ア			
chị	làm	gì	ở	{*đây/đây(đó)/*kia}	há?
2 (姉)	する	何	[関係詞 (で)]	コ/ソ/ア	[文末詞 (疑問)]

おい、そこのお姉さん！そこで何をしているんだ？

また、ベトナム語では、以下の(113)と(114)に示されるように、聞き手に属する可視的な対象を指す時、中称のđây(đó)はもちろん、遠称のkiaも適切である。先述のように、指示詞の選択は話し手が指示対象との距離を計算した上で決められる。その距離の区分は「近・遠」のどちらかである。話し手が自らの主観的判断に基づき、対象が「近」であるとすれば近称のđâyを選び、「遠」であるとすれば遠称のkiaを選ぶ。が、話し手にとっては指示対象との距離を判断できない場合がある。指示対象が聞き手に近いまたは聞き手に属する場合はその一つである。この時、(話し手から見て)「近・遠」が特定できない最後の手段としてのđây(đó)が選ばれる。(113)と(114)においても、指示対象であるcái áo xé tà (裾が開いたブラウス)、một chút son phấn trên khóe miệng (口元にみえるほんの少しの化粧) やbộ trang phục “mô đen” (モダンな服装)、またはnụ cười độc ác (意地悪な微笑) はすべて聞き手に近いまたは聞き手に属するものである。普段なら、三系列の指示詞の中で中称のđây(đó)が選択されるはずであるが、(113)と(114)では、遠称のkiaが用いられる。この場合のđây(đó)とkiaの違いは、kiaを用いると話し手が相手に属しているもの(=指示対象)を非難するという語用論的なニュアンスが出てくる。言い換えれば、話し手が自分と指示対象との(心理的)距離を「遠」とし、遠称のkiaを用いることで、指示対象に対する疎遠感を表すわけである。

(113) Xuân Lan: Chúng ta phải hi sinh bản thân chúng ta
 私たち [動詞 (べき)] 犠牲する 自分自身 私たち
 đi. Chúng ta phải từ bỏ dục tính.
 [副詞 (命令)] 私たち [動詞 (べき)] 諦める 欲情
 Chung: Tôi không tin Xuân Lan...
 1 (私) [副詞 (否定)] 信じる [人名]
 Xuân Lan không dám thành thực với mình.
 [人名] [副詞 (否定)] あえて~する 誠実 [関係詞 (に)] 自身
 Cái áo xẻ tà { *này/ây(đó)/kia }, một chút
 [類別詞 (個)] ブラウス 裂く 裾 コ/ソ/ア [副詞 (少し)]
 son phấn trên khóe miệng { *này/ây(đó)/kia }, bộ trang phục “mô đen”
 化粧 上 口元 コ/ソ/ア [類別詞 (着)] 服装 モダン
 { *này/ây(đó)/kia }... Tất cả là tố cáo, là bằng chứng
 コ/ソ/ア すべて [コピュラ] 告訴 [コピュラ] 証拠
 của dục vọng.

[関係詞 (の)] 欲望

スアン・ランさん：私たちは自分自身を犠牲にすべきです。欲望を捨てるべきです。

チュンさん：僕はスアン・ランを信じません。あなたは自分自身に素直になっていないのです。その裾が開いたブラウス、その口元にみえるほんの少しの化粧、そのモダンな服装、すべてが欲望を訴える証拠です。

(Nguyễn H.T. 2012:184)

(114) Xuân Lan: Miệng lưỡi anh độc ác lắm anh Bảo
 口 舌 2 (兄) 毒悪 [副詞 (とても)] 兄 [人名]
 a. Nhưng tôi biết rõ anh,
 [文末詞 (親密)] [関係詞 (しかし)] 1 (私) 知る 詳しい 2 (兄)
 đằng sau nụ cười độc ác { *này/ây(đó)/kia } là một trái tim
 裏 微笑 毒悪 コ/ソ/ア [コピュラ] 1 心
 trung thực.

忠実

スアン・ランさん：バオさん、あなたは毒舌ですが、その意地悪な微笑の裏に誠実な心が隠れていることがわかりますよ。

(Nguyễn H.T. 2012:169)

このような話し手には指示対象に対する知識がないため、指示対象との心理的距離を置くことで指示対象への疎遠感を表すkia³⁵は、非直示用法においても見られる。次の(115)では、ai kia (その人=元彼女の新しい恋人) は話し手が知らない特定の第三者を指し示す。一方、(116)では、話し手が指示対象 (=元彼女) を知っているにもかかわらず、自分と指示対象との心理的距離を「遠」であるとし、kiaを用いる。独り言³⁶の(116)に使われるai kiaは(115)とは異なり、自分の元彼女という話し手が知っている特定の第三者を指し示すが、いずれにおいても話し手の指示対象への疎遠感を表しているため、ai kiaが用いられるのである。なお、ベトナム語には、先行研究でいう曖昧指示のai đậy(đó) (誰か) があるが、特定の対象を指示するai kiaとは異なり、不定の対象を指示するので、(115)と(116)ではai đậy(đó)は用いられない。以上のように、kiaは物理的に遠くに離れている対象を指す時、または話し手の主観的な判断によって心理的に「遠」く感じられる対象を指す時に用いられるものだと考えられる。

(115) {元彼女に新しい恋人ができたと聞いて}

Cầu mong cho em bên ai kia sẽ hạnh phúc.
 祈る 望む [関係詞 (に)] 2 (弟/妹) そば 誰 あの [副詞 (未来)] 幸せ
 その人 (=元彼女の新しい恋人) と幸せになることを祈っている。

(116) {やがて、自分にも恋人ができて}

Đông này mình cũng hết cô đơn,
 冬 この 1 (自分) [副詞 (も)] 亡くなる 孤独
 cũng có người yêu như ai kia rồi.
 [副詞 (も)] ある 恋人 [関係詞 (如く)] 誰 あの [副詞 (完了)]
 今年の冬はもう孤独ではなくなる。誰かさん (=元彼女) のように恋人ができたのだから。

また、前述のように、非直示用法に用いられる近称の đậy には話題提示の機能があるが、遠称の kia にも(103')や(104)で見られるように、話題提示と思われる機能を持つ。一連の対話である(104)には、chuyện kết hôn (結婚のこと) と chuyện không sinh con ngay (すぐには子供を産まない話) という二つの話題があるが、最初の話題の「結婚のこと」

³⁵ この場合のkiaについて、Bui (2014:106) にも“the demonstrative kia is used when the speaker wants to distance herself from the referent due to its emotionally negative qualities, such as: sadness, badness, bitterness or sarcasm...”と言及されている。

³⁶ 本稿では、独り言については、その話し手が話し手であり、聞き手でもあるため、話し手以外の人物が第三者であると考えられる。なお、(116) では話し手も聞き手も指示対象に対する知識があることとなる。

から、次の話題の「すぐには子供を産まない話」に切り替わった時、それを提示するのに *kia* が使用される (*chuyện kia*=あの話)。この場合は、指示対象である「すぐには子供を産まない話」は話し手と聞き手が共有する過去にあった話題である。同様に、前述したように(63)においても、今の話題であるベン市場の辺りの様子から、話し手と聞き手の共有知識にある「男児が生まれたばかりの家」という過去にあった話題に再び転換した際に、その話題を提示するのに *kia* が用いられる。

- (104) A: Em đã nói với bố mẹ em chuyện
 1 (弟/妹) [副詞 (過去)] 言う [関係詞 (に)] 親 1 (弟/妹) こと
 chúng ta sẽ kết hôn.
 1 (私たち) [副詞 (未来)] 結婚する
 Anh đã nói với bố mẹ chưa?
 2 (兄) [副詞 (過去)] 言う [関係詞 (に)] 親 [副詞 (疑問)]
 B: Anh nói rồi. Bố mẹ mừng lắm.
 1 (兄) 言う [副詞 (完了)] 親 喜ぶ [副詞 (とても)]
 A: À, còn chuyện { *này/*ây(đó)/kia } thì
 [感動詞 (想起)] [関係詞 (まだ)] こと コソ/ア [助詞 (主題)]
 sao?
 どのよう
 Anh cũng nói rồi chứ?
 2 (兄) [副詞 (も)] 言う [副詞 (完了)] [文末詞 (疑問)]
 B: Chuyện chúng ta sẽ không sinh con
 こと 私たち [副詞 (未来)] [副詞 (否定)] 生む 子供
 ngay á? Anh chưa nói.
 [副詞 (すぐ)] [文末詞 (疑問)] 1 (兄) [副詞 (否定)] 言う
 A: 結婚のこと親に言ったわ。(あなたの) 両親に話した?
 B: 言った。喜んでたよ。
 A: そうだ、あの話もした?
 B: すぐには子供を産まないつもりって話? まだ言ってない。

- (63) {フエ僧侶が、ベン市場の辺りの子供が生まれた家について尋ねに行ったキエムさんとしばらく市場周辺の様子について話した後、キエムさんに聞く}
 Su Huệ: ... thế bố có hỏi về
 [関係詞 (それでは)] 老いた下男 [副詞 (疑問)] 聞く 関する
 cái nhà mới sinh đứa bé trai
 [類別詞 (個)] 家 [副詞 (ばかり)] 生む [類別詞 (人)] 幼児 男

{*này/?ây(đó)/kia} không?
 コ/ソ/ア [副詞 (疑問)]

フエ僧侶：そういえば、あの男児が生まれたばかりの家について聞いたのか？

(Nguyễn H.T. 2012:24)

この主題提示の *đây* と *kia* の違いは、*kia* は現在進行している話題から別の話題に切り替えた際に指示される対象を承けるという、*đây* より狭い範囲で使われるのである。ちなみに、前述のように、*cái này-cái kia* (これ・あれ)、*đang này-đang kia* (こちら・あちら)、*bên này-bên kia* (こちら側・あちら側)、*thế này-thế kia* (こういう・ああいう) などのように、*kia* は *đây* と対になって、「もう一方」という意味を表している。以上の(104)で用いられる *kia* もその意味から派生されたものだと考えられる。なぜなら、「現在進行している話題」と「別の話題」も「この話題・あの話題」のような対立を持っているからであろう。

以上のように、非直示用法における *đây* は、その指示対象があたかも目前にあるかのように、生き生きと叙述した時に用いられ、話題提示という談話的機能を持つ。非直示用法における *kia* は、話し手には知識がなく、心理的に「遠」であるとされる対象を指し示し、現在進行している話題から次の話題に切り替えた際にその新しい話題を提示するという談話的機能を持つ。非直示用法の *đây* と *kia* はいずれも直示用法の性質が保持されており、直示用法の拡張であると考えられる。

3.3.2.2 中称の *đây(đó)*

次に、非直示用法に用いられる中称の *đây(đó)* の振る舞いを近称の *đây* と遠称の *kia* と対照しながら見ていこう。Bui L.T. (2014) では、*đây* のように *đây(đó)* も後方照応用法を持つが、その違いは *đây* は high topic importance/continuity であるのに対し、*đây(đó)* は low topic importance/continuity であると述べている。以下の(117a)のような話し手のみが知っている未来の出来事 (=話し手が明日から日本に遊びに行くこと) を指す時、近称の *đây* が用いられる。しかし、その出来事が(117b)のような過去に起こったことである場合は、近称が用いられなくなり、中称の *đây(đó)* (= *chuyện ấy* 「その話」) も使用される。また、(117c)と(117d)に示されるように、指示対象が話し手と聞き手との共通知識にある現在または未来のものなら、過去の出来事であっても現在または未来の出来事であっても、中称の *đây(đó)* で指示される。それに対し、*đây* が用いられるのは(117d)の未来の出来事を指す場合のみである。よって、非直示用法では、*đây(đó)* は *đây* より使用範囲が広いといえることができる。なお、(117)では、遠称の *kia* は使われない。

(117)a. Em: Chì mua va li làm gì *đây*?
 2 (姉) 買う スーツケース する 何 [文末詞 (情報提示要求)]

Chị: Ngày mai chị đi Nhật chơi.

明日 1 (姉) 行く 日本 遊ぶ

Em: Chị đi với ai? Đã xin bố mẹ
2 (姉) 行く [関係詞 (と)] 誰 [副詞 (過去)] 申す 父母
chưa?

[副詞 (疑問)]

Chị: Chị đi với anh Nam. Chị định
1 (姉) 行く [関係詞 (と)] 兄 [人名] 1 (姉) [副詞 (つもり)]
không nói cho bố mẹ biết. Em
[副詞 (否定)] 言う [関係詞 (に)] 父母 知る 2 (弟/妹)
đừng nói chuyện {?này/?ây(đó)/ *kia} với bố mẹ
[副詞 (禁止)] 言う 話 コソア [関係詞 (に)] 父母
nhé.

[文末詞 (軽い注意)]

妹: 何のためにスーツケースを買ったの?

姉: 明日から日本に遊びに行くの。

妹: 誰と行くの? 父さんと母さんに言った?

姉: ナムさんと行くの。父さんと母さんには内緒だから、この話を父さんと母さんに言わないでね。

b. Em: Chị mua vali mới bao giờ đây?
2 (姉) 買う スーツケース 新しい いつ [文末詞 (情報提示要求)]

Chị: Chị mua ở Nhật tuần trước.

1 (姉) 買う [関係詞 (で)] 日本 先週

Em: Tuần trước chị đi Nhật á?

先週 2 (姉) 行く 日本 [文末詞 (疑問)]

Chị: Ừ, chị không nói với bố mẹ.

[感動詞 (応答)] 1 (姉) [副詞 (否定)] 言う [関係詞 (に)] 父母

Em đừng nói chuyện {?này/ây/*kia} với bố mẹ
2 (弟/妹) [副詞 (禁止)] 言う 話 コソア [関係詞 (に)] 父母
nhé.

[文末詞 (軽い注意)]

妹: 新しいスーツケースをいつ買ったの?

姉: 先週日本で買ったよ。

妹: 先週日本に行ったの?

姉: うん、父さんと母さんには言わなかったから、その話を父さんと母さんに言わないでね。

- c. Em: Tuần trước chị đi Nhật chơi mà không
先週 2 (姉) 行く 日本 遊ぶ [関係詞 (の)に] [副詞 (否定)]]
nói với bố mẹ, đúng không?
言う [関係詞 (に)] 父母 正しい [副詞 (疑問)]]
Chị: Sao em biết?
なぜ 2 (弟/妹) 知る
Em: Anh Nam bảo với em. Sao chị
兄 [人名] 言う [関係詞 (に)] 1 (弟/妹) なぜ 2 (姉)
lại giấu bố mẹ?
[副詞 (また)] 隠す 父母
Chị: Chị không muốn bố mẹ lo lắng. Em
1 (姉) [副詞 (否定)] 欲しい 父母 心配する 2 (弟/妹)
đừng nói chuyện {?này/ây/*kia} với bố mẹ
[副詞 (禁止)] 言う 話 コソア [関係詞 (に)] 父母
nhé.
[文末詞 (軽い命令)]
妹: 父さんと母さんに隠して先週日本に遊びに行ったんでしょ?
姉: どうして知っているの?
妹: ナムさんから聞いたよ。どうして父さんと母さんに隠さないといけな
いの?
姉: 心配させたくないからよ。その話は父さんと母さんに言わないでね。
- d. Em: Ngày mai chị đi Nhật chơi mà không
明日 2 (姉) 行く 日本 遊ぶ [関係詞 (の)に] [副詞 (否定)]]
nói với bố mẹ, đúng không?
言う [関係詞 (に)] 父母 正しい [副詞 (疑問)]]
Chị: Sao em biết?
なぜ 2 (弟/妹) 知る
Em: Anh Nam bảo với em. Sao chị
兄 [人名] 言う [関係詞 (に)] 1 (弟/妹) なぜ 2 (姉)
lại giấu bố mẹ?
[副詞 (また)] 隠す 父母
Chị: Chị không muốn bố mẹ lo lắng. Em
1 (姉) [副詞 (否定)] 欲しい 父母 心配する 2 (弟/妹)
đừng nói chuyện {này/ây(đó)/*kia} với bố mẹ
[副詞 (禁止)] 言う 話 コソア [関係詞 (に)] 父母

nhé.

[文末詞 (軽い命令)]

妹：父さんと母さんに隠して明日から日本に遊びに行くつもりでしょ？

姉：どうして知っているの？

妹：ナムさんから聞いたよ。どうして父さんと母さんに隠さないといけないの？

姉：心配させたくないからよ。この／その話は父さんと母さんに言わないでね。

kiaが使われるのは、その指示される対象に対する知識が話し手にも聞き手にもなく、話し手の指示対象への疎遠感が表される時に限られる。đáy(đó)も話し手と聞き手の共通知識にない対象を指し示すが、kiaのように何らかの語用論的效果をもたらすことはない。前述の(62)のように、事件捜査中に出てくる話し手も聞き手も全く知らない人物である người phụ nữ vô danh (=謎の女性) に対して、話し手の指示対象への疎遠感を表すのにkiaが使用される。この場合はđáy(đó)が使用されにくいのである。それに対し、(118)では、指示対象である người phụ nữ (=女性) は話し手と聞き手にとって、まだ依然として真相が知られてない人物ではあるが、過去の話題にも出ていたため、話し手からは対象への疎遠感を感じなくなる。そこで、đáy(đó)が選ばれる考えられる。それに、先述の(104)で見られるように、非直示用法のkiaには現在の話題から話題に切り替えた際にその話題を提示する機能を持つが、đáy(đó)にはそのような機能がない。

- (62) {グエン・タイ・ホックという人物についての事件捜査中に謎の女性の名前が出てきて、少将は部下の中尉にその女性の真相を調べるように命令する}

Thiếu tướng: Anh chỉ còn một cách thôi,
2 (兄) [副詞 (だけ)] 残る 1 方 [文末詞 (限度)]

anh hiểu không? Anh phải
2 (兄) 分かる [副詞 (疑問)] 2 (兄) [動詞 (べき)]

dựng lại toàn bộ câu chuyện này, câu chuyện về Nguyễn Thái Học
再現する 全部 ストーリー この ストーリー について [人名]

và người phụ nữ vô danh {*này/?áy(đó)/kia}.

[関係詞 (と)][類別詞 (人)] 女性 無名 コソノア

少将: 分かったか? 君には道が一つしかない。このストーリー、つまりグエン・タイ・ホックとあの謎の女性のすべてを再現しなければならないのだ。

(Nguyễn H.T. 2012:94)

(118) {命令を受けた部下が捜査に出かけて、3時間後に戻って少将に報告する}

Thiếu tướng: Không tìm được thông tin gì ư?

[副詞(否定)] 探す [副詞(できる)] 情報 何 [文末詞(疑問)]

Rốt cuộc người phụ nữ { *này/ấy(đó)/?kia } là ai nhỉ?

結局 [類別詞(人)] 女性 コソ/ア [コピュラ] 誰 [文末詞(疑問)]

少将: 情報が一つもないのか? その女性は一体何者なんだ?

さらに、đấy(đó)は話し手と聞き手の共通知識にある対象を指し示すこともでき、どちらか一方の知識にある対象を指すこともできる。(69)における指示対象のpho tượng (= 仏像)は話し手も聞き手も知っているものである。一方、(119)の指示対象であるcái túi xách trắng (= 白いバッグ)について話し手は知っているが聞き手は知らないものであり、(120)の指示対象であるbạn người Việt Nam (= ベトナム人の学生)について、聞き手は知っているが話し手は知らないものである。いずれにおいても、中称のđấy(đó)が用いられており、近称のđâyや遠称のkiaが不適切である。

(69) Ông Kiệm: Chết! Bạch Thầy! Pho tượng Phật Thích Ca

死ぬ 申す 2 (先生) [類別詞(体)] 像 仏 釈迦

chỉ thiên chỉ địa đâu rồi?

指す 天 指 地 どこ [副詞(完了)]

Sư Huệ: À... bõ vừa đi thì

[感動詞(想起)] 2 (老いた下男) [副詞(ばかり)] 行く [関係詞(すると)]

có lão ăn trộm mò đến, ta cho lão pho tượng

いる 老人 泥棒 やってくる 1 (わし) やる 老人 [類別詞(体)] 像

{ *này/ấy(đó)/ *kia } rồi.

コソ/ア [副詞(完了)]

キエムさん: あれ! 和尚さん! 指天指地釈迦の仏像はどこに行ってしまったのですか?

フェ僧侶: あ、あなたが出ていって間もなく泥棒の老人がやってくる、その老人にあの仏像をあげたのじゃ。

(Nguyễn H.T. 2012:25)

(119) Vợ: Anh có thấy cái túi xách trắng hôm qua

2 (兄) [副詞(疑問)] 見る [類別詞(個)] バッグ 白い 昨日

em mới mua không?

1 (弟/妹) 新しい 買う [副詞(疑問)]

Chồng: Không, anh không thấy

[副詞 (否定)] 1 (兄) [副詞 (否定)] 見る

Vợ: Chết thật. Cái túi { *này/ấy(đó)/ *kia } rất đắt

死ぬ 本当 [類別詞 (個)] バッグ コ/ソ/ア とても 高い
đắt.

[文末詞 (情報提示)]

妻: 私が昨日買ったばかりの白いバッグを見なかった?

夫: いや、見てないよ。

妻: 困ったわ。そのバッグは高かったのよ。

(120) Kim: Phòng nghiên cứu của Yamaoka có một bạn
研究室 [関係詞 (の)] [人名] ある 1 友達

người Việt Nam phải không?

人 ベトナム 正しい [副詞 (疑問)]

Yamaoka: Đúng rồi.

正しい [副詞 ((完了)]

Kim: Mình có việc cần hỏi bạn { *này/ấy(đó)/ *kia }, Yamaoka

1 (自分) ある こと 要る 聞く 友達 コ/ソ/ア [人名]

giới thiệu bạn { *này/ấy/ *kia } cho mình được không?

紹介する 友達 コ/ソ/ア [関係詞 (に)] 1 (自分) 良い [副詞 (疑問)]

キム: 山岡君の研究室に確かベトナム人の学生が一人いるよね?

山岡: はい、そうです。

キム: その人に聞きたいことがあるから、(その人を私に) 紹介してくれないか。

一方、第2章に言及しているように、指示対象が遠くに離れているものであっても、一度言語的文脈に登場したものなら遠称の *kia* ではなく、中称の *đấy(đó)* で指す。この *đấy(đó)* については、先行研究では「既に言及されたもの」を指し示す時に用いられるという説明が与えられる。例えば、前述の(64)では、指示対象である *ngôi sao* (=星) は話し手からも聞き手からも離れているものであるにもかかわらず、先行発話に既に言及されているため、*đấy(đó)* で指示されることとなる。この場合は *kia* は使われない。ただし、(67)のように指し直しがあれば、遠称の *kia* を使用しなければならない。

(64) {空を見ながら}

Ông Lương: ... Ở chỗ góc trời phía nam có

[関係詞 (に)] 場所 果て 空 方 南 ある

một ngôi sao sáng rực... Bạch thầy!
 1 [類別詞 (個)] 星 明るく きらめく 申す 2 (先生)
 {*đây/*đây(đó)/kia} là sao gì?
 コ/ソ/ア [コピュラ] 星 何

ルオンさん：南の空の果てに明るくきらめいている星があります。和尚さん！あれは何という星ですか？

(Nguyễn H.T. 2012:53)

- (67) {ルオンさんが別のところにある星を指して、さらにフェ僧侶に聞く}
 Ông Lương: Thế còn sao {*đây/*đây(đó)/kia} là sao gì?
 [関係詞 (それでは)] 星 コ/ソ/ア [コピュラ] 星 何
 ルオンさん：で、あそこの星は？

ちなみに、類型論的な指示詞研究に導入された注意概念³⁷を日本語の指示詞の分析に導入し、先行研究で残された問題とされていた「中距離指示」のソ系に対する新しい分析を提案した平田 (2014) では、上記の(64)における *đây(đó)* と同じ振る舞いをするソ系の例として以下の(121)を挙げている。このソは、ア系等の言語表現やジェスチャーで一度指示されたことにより、指示詞を含む発話の発話時に聞き手の視覚的注意が既に向けられていると話し手が解釈可能な対象を指している。発話時に聞き手の視覚的注意が既に対象に向けられていることを前提とする「聞き手の注意の存在」を示す形式である。(121)では、ア系とソ系のどちらで対象を指示するかは、対象に関する空間情報と聞き手の注意に関する情報のどちらが、聞き手に対象を特定させるために、すなわち共同注意を確立するためにより有効かという、話し手の個々の文脈の解釈により決定されると平田 (2014) が説明している。

³⁷ 平田 (2014) が採用している注意概念とは、Diessel (2006) が言語習得における共同注意の重要性を論じる Tomasello (1999) を踏まえながら提示した対話相手の共同注意的な焦点を調節する機能を果たすという指示詞の伝達機能を分析するための概念である。共同注意の形成における指示詞は、「共有されている注意の焦点に入っていなかった対象へ聞き手の注意に向け、新しい注意の焦点を作り出す」機能と、「聞き手の注意を、現在の (共同注意が確立されている) 指示対象から、前に (共同注意が) 確立された指示対象へ向けるために用いられる。もしくは、現在聞き手の視野に入っている複数の対象から (話し手が) 意図する対象を特定するために用いられる」機能を持つ (Diessel 2006:470、平田2014:89より引用)。また、平田 (2014) では、金水 (1999) を踏まえた上で、「聞き手の注意」という概念を用いて、中称のソの直示用法と非直示用法の統一的な分析を示唆しているが、詳しくは平田 (2014) を見られたい。

(121) ゼブラ柄のビル

{女性2人が展望台の窓の前の隣り合ったいすに座り、正面に広がる景色を見ている。Aは共通の友人が住んでいるビルの場所に教えようとする}

a. A: (指さしをしながら) あそこ見て。斜めに森あるでしょ。

b. B: (Aの指さしに合わせて顔を動かす)

c. A: その裏! 白黒のゼブラ柄のビル、ゼブラ柄の。

d. B: え、どれ、どれ? (指さしをしながら) あの鉄塔に近いやつ?

e. A: (Bの方を見た後、正面に顔を戻し指さし) それ! それ! 白と黒... 黒じゃないな、グレーの。Bのまっすぐ前。

f. B: あー、あれ... かなあ。

g. A: (Bの方を見て) そうそう、(顔を正面に戻し) ねずみ色のやつ。それがCちゃん住んでるんだよね。

(平田 2014:92)

これに対し、ベトナム語の場合は、次の(122)に見られるように、話し手による最初の発話及び対話者による最初の応答では、指示対象である「白い建物」を遠称の *kia* で承けられるが、次の発話からはいずれも *kia* が不適切になり、代わりに中称の *đáy(đó)* が用いられる。この場合は遠称と中称の交換が許されない。さらに、(123)に示されるように指示対象が一度言語的文脈に登場したものであっても、話し手がそれを認識できない限り、*kia* を使わなければならない。(122)と(123)を共同注意概念で考えれば、ベトナム語では、共有されている注意の焦点に入っていなかった対象へ聞き手の注意を向け、新しい注意の焦点を作り出すのに遠称の *kia* が用いられる。話し手と聞き手との指示対象への共同注意が成り立たない限り、中称の *đáy(đó)* を用いることができない。逆に、話し手と聞き手との指示対象への共同注意が成り立った時点で、*đáy(đó)* が用いられるようになり、*kia* を用いることができなくなるといった遠称と中称の使い分けがあり、日本語とは異なる。すなわち、最初の発話では、話し手が自分と指示対象との距離に基づいて遠称の *kia* で対象を指し示す。この場合の *kia* は空間的距離に基づく直示用法に用いられる *kia* である。

その一方、次の発話では、話し手と聞き手の指示対象に対する注意を向けられる情報に基づいて中称を *đáy(đó)* で対象を指し示す。この場合の *đáy(đó)* は、直示用法に用いられる *đáy(đó)* ではないと考えられる。なぜならば、対象に対する注意を向けられる情報とは対象に対する知識と同じように扱うことができるので、記憶の中にある事物と同じように思われるからである。よって、この場合の *đáy(đó)* は非直示用法の性質を持つと考えられる。実際にも、最初の発話では話し手は対象を見ながら(あるいは手で指しながら)言うのが普通であるが、その次の発話では対象を見ずに、話し手と聞き手が向かい合って話すこともできる。なお、Bui L.T. (2014) においても、遠称の *đáy(đó)* と *kia* の

違いについては、物理的距離によるものではない。聞き手が発話の前に、既に指示対象の存在を気付いていると話し手が認識している場合、đáy(đó)が選ばれる。一方、聞き手にとって指示対象が新しく導入されたものであるとされる場合、kia が使用されると言及されている。

(122) {ハー・トゥイが 20 メートル離れた建物を指して}

Hà Thủy: Em nhìn thấy tòa nhà màu trắng { *này/*áy(đó)/kia }

2 (弟/妹) 見える [類別詞 (件)] 家 色 白い コ/ソ/ア

không?

[副詞 (疑問)]

Kim Thu: Nhà 10 tầng { *này/*áy(đó)/kia } á?

家 階 コ/ソ/ア [文末詞 (疑問)]

Hà Thủy: Đúng rồi. Ngày xưa chị ở { *đây/đây(đó)/*kia }

正しい [副詞 (完了)] 昔 1 (姉) 居る コ/ソ/ア

khoảng 2 năm.

約 年

Kim Thu: Nhà { *này/áy(đó)/*kia } đẹp thế sao chị không ở

家 コ/ソ/ア きれい そんな なぜ 2 (姉) [副詞 (否定)] 居る

{ *đây/đây(đó)/*kia } nữa?

コ/ソ/ア [副詞 (もう)]

Hà Thủy: Nhà { *này/áy(đó)/*kia } đất lắm.

家 コ/ソ/ア 高い とても

Kim Thu: Thế à? Hay em cũng

そんな [文末詞 (疑問)] [関係詞 (それか)] 1 (弟/妹) [副詞 (も)]

chuyển đến { *đây/đây(đó)/*kia } nhi?

移る 来る コ/ソ/ア [文末詞 (疑問)]

ハー・トゥイ: あの白い建物が見える?

キム・トゥ: あの 10 階建ての?

ハー・トゥイ: そうそう。昔そこ/あそこに 2 年ほど住んでいたよ。

キム・トゥ: あんなにきれいな建物なのに、どうして住むのをやめたの?

ハー・トゥイ: あそこは高いからね。

キム・トゥ: そうか。それより、あたしがあそこに引っ越ししようかな。

(123) {ハー・トゥイが別の建物を指して}

Hà Thủy: Nhưng mà nếu em có tiền

[関係詞 (しかし)] [関係詞 (もし)] 2 (弟/妹) ある 金

thì nên thuê nhà { *này/*ây(đó)/kia }.
[関係詞 (なら)] [副詞 (べき)] 借りる 家 コソア

Kim Thu: Nhà nào?
家 どの

Hà Thủy: Nhà màu đỏ { *này/*ây(đó)/kia }.
家 色 赤い コソア

Kim Thu: Chị đang nói nhà nào nhỉ?
2 (姉) [副詞 (現在進行)] 言う 家 どの [文末詞 (疑問)]

Hà Thủy: Cái nhà màu đỏ 20 tầng { *này/*ây(đó)/kia } kia!
[類別詞 (個)] 家 色 赤い 階 コソア [文末詞 (注意喚起)]

Kim Thu: À, nhà { *này/*ây(đó)/kia } đúng không?
[感動詞 (想起)] 家 コソア 正しい [副詞 (疑問)]

Hà Thủy: Hoàng Thảo đang ở { *đây/đây(đó)/*kia }
[人名] [副詞 (現在進行)] 居る コソア
đấy.

[文末詞 (情報提示)]

ハー・トゥイ：しかし、お金があればあの建物にしたほうがいい。

キム・トゥ：どれ？

ハー・トゥイ：あの赤いの。

キム・トゥ：どれを言っているの？

ハー・トゥイ：あの 20 階建ての赤いのだよ。

キム・トゥ：あー、あの建物ね。

ハー・トゥイ：ホァン・タオが今そこ／あそこに住んでいるよ。

また、先述のように、非直示用法に用いられる **đấy(đó)** には、前方照応用法、記憶指示用法の他、以下のような連動読み (例(60)と(61))、安達 (2016など) が言及している曖昧指示用法 (例(124)と(125))、Bui L.T. (2014) が主張している placeholder (例(126)と(127)) といった用法が見られる。このように、非直示用法の **đấy(đó)** は、**đây** と **kia** よりも使用範囲が広いと言える。

・連動読み

(60) Mơ: ... chính vì thế mà em cố gắng
[関係詞 (だから)] そんな [関係詞 (結果)] 1 (弟/妹) 頑張る
để sống ngày nào được thêm
[関係詞 (ために)] 生きる 日 どの [副詞 (できる)] 加える

thì hay ngày {*này/ây(đó)/*kia}.

[関係詞 (なら)] 知る 日 コ/ソ/ア

モーさん：だからこそ、一日でも生き残れるように頑張ります！

(Nguyễn H.T. 2012:199)

- (61) Đại tá: Cái này ông nói rất thật lòng, nếu như
 これ 1 (祖父) 言う [副詞 (とても)] 本心 [関係詞 (もし)]
 con muốn thì con đi đâu ông
 2 (子供) 欲しい [関係詞 (なら)] 2 (子供) 行く どこ 1 (祖父)
 sẽ đi theo {*đây/đây(đó)/*kia}...
 [副詞 (未来)] ついて行く コ/ソ/ア
- 大佐：これは本心から言うのだが、お前も良いと言ってくれば、お前がどこに行ってもわしがそこについて行く...
- (Nguyễn H.T. 2012:285)

・曖昧指示

- (124) Chiều nay có ai { *này / *ây / *ý / đây(đó) / *kia }
 午後 この いる 誰 *この その その その その *あの
 đến tìm anh đây.
 来る 見つける あなた[兄] SFP[情報共有の志]
 今日の午後、誰かがあなたに会いに来たよ。
- (125) Chiều nay mẹ nấu món gì
 午後 この 私[母] 料理する CLF[料理] 何
 { *này / *ây / *ý / đây(đó) / *kia } thật ngon nhé.
 *この *その *その その その *あの 実に 美味しい SFP[宣言]
 今晚お母さんが何かとても美味しい料理を作ってあげるね。
- (安達 2016:53-5)

・Placeholder

- (126) Woman: Há? Đi đâu? Anh đang muốn chúng ta...
 INTERJ go where older-brother PROG want 1PL
 ‘What? Go where? You want us...’
 Man: Đi ấy, đi bụi thôi cũng được...
 go DEM.DIST go dust stop also obtain
 ‘Go ấy (WHAT-d’you-call-it), go for a street life is alright...’

(127) Kia, áy đi, hát đi!
 DEMINTERJ DIST.DEM IMP sing IMP

‘Come on! (let’s) áy (WHAT-d’you-call-it), let’s sing!’

(Bui L.T. 2014:139-40)

3.3.3 đâý-kiaとđáy(đó)とその対立から見た指示詞の用法

以上のように、指示詞における「近・遠」対「中」の対立は日本語にもベトナム語にも見られる。日本語の場合は、コ・アは言語外世界に存在する対象を指し示し、ソは非直示用法では先行文脈によって概念的に設定された対象を指し示し、直示用法では言語外世界に存在する対象を指し示すように見える。すなわち、ア系列およびコ系列では直示・非直示用法にわたって直示の本質が認められるのに対し、ソ系列はそうではないことを示すという「コ・ア対ソ」の対立が存在していると金水（1999）が主張している。一方、ベトナム語では、直示用法に用いられる近称のđâyと遠称のkiaは、認知主体である話し手から「近」または「遠」と判断する対象を指し示す。「近」か「遠」か（あるいは対象に対する親近感が働くか疎遠感が働くか）を特定できない時、言い換えれば近称のđâyか遠称のkiaか選びようがない場合に、中立的なđáy(đó)が選ばれる。つまり、直示用法においては、話し手とその指示対象との距離の認知によって使い分けられる近・遠のđây-kiaと、近・遠の特定ができない場合に選ばれるđáy(đó)という「đây-kiaとđáy(đó)」の対立が見られる。非直示用法では、近称のđâyはその指示対象があたかも目前にあるかのように、生き生きと叙述した時に用いられ、遠称のkiaは、話し手には知識がなく、心理的に「遠」であるとされる対象を指し示す。また、非直示用法のđâyとkiaは話題提示という談話的機能を持つ。非直示用法のđâyとkiaはいずれも直示用法の性質が保持されており、直示用法の拡張であると考えられる。それに対し、話し手が知っていて聞き手が知らない（すなわち話し手にとって「近」であるとされる）対象を指す近称のđâyや、話し手も聞き手も知らず疎遠感が感じられる（すなわち「遠」であるとされる）対象を指す遠称のkiaと異なり、非直示用法に用いられる中称のđáy(đó)は話し手と聞き手の共通知識にある、またはない対象を指し示すこともでき、どちらか一方の知識にある対象を指すこともできる。さらに、đáy(đó)は、非直示用法であるとみなせる先行発話に既に言及されたものを指す用法や連動読み、曖昧指示、placeholderといった用法も持ち、đâyとkiaより広い範囲で使用されている。

要するに、上記のベトナム語の三系列の指示詞の特徴から考えると、近称・中称・遠称の指示詞のどれも言語外世界に存在する対象を直接指し示し、その指示対象との関係によって、指示詞の使い分けが決められる。近称のđây及び遠称のkiaは直示用法・非直示用法にわたって、話し手が指示詞を「近」または「遠」である対象を指す。一方、中称のđáy(đó)は、直示用法ではđâyとkiaが選ばれない時に用いられる。非直示用法では、限られた場合にしか用いられないđâyとkiaに比べ、đáy(đó)はより広い範囲で使用される。

言い換えれば、日本語の指示詞と同様に、đây-kiaとđáy(đó)（「近・遠」と「中」）の対立がベトナム語にも見られると言える。ここで、近：親（＝知っている）、遠：疎（＝知らない）という対応を仮定して、これまでのベトナム語の指示詞に関する記述をまとめると(128)となる。また、この近：親、遠：疎の対立から以下のようなことが言える³⁸。

(128)

		話し手	聞き手	選ばれる指示詞
A.	直示用法	近	近	đây
	非直示用法	親	親	đáy(đó) (場合によってđây)
B.	直示用法	近	遠	đây
	非直示用法	親	疎	đáy(đó) (場合によってđây)
C.	直示用法	遠	近	đáy(đó) (場合によってkia)
	非直示用法	疎	親	đáy(đó) (場合によってkia)
D.	直示用法	遠	遠	kia (場合によってđáy(đó))
	非直示用法	疎	疎	đáy(đó) (場合によってkia)

すなわち、đâyは、直示用法では、話し手からは「近」であり聞き手からは「遠」である対象、あるいは話し手からも聞き手からも「近」である対象を指す。非直示用法では、特定の場面にしか用いられないが、先述の(117a)のように話し手にとっては「親」であり、聞き手にとっては「疎」である対象、または(117d)のように話し手にとっても聞き手にとっても「親」である対象を指すこともある。kiaは、直示用法では、話し手からも聞き手からも「遠」である対象を指す。また、(113)のように、場合によって話し手からは「遠」であり、聞き手からは「近」である対象も指す。非直示用法では、例(62)のような特定の場面にしか用いられず、話し手にとっても聞き手にとっても「疎」であるものを指す。また、(115)のような限られた場合ではあるが、話し手にとっては「疎」であり聞き手にとっては「親」である対象を指すこともできる。このように、đâyとkiaはその直示用法と非直示用法が並行していると考えられる。

他方、đáy(đó)は、直示用法では、話し手からは「遠」であり、聞き手からは「近」である対象、または(65)のような限られた場面にしか用いられないが、話し手からも聞き手からも「遠」である対象も指すこともできる。非直示用法では、上記の(128)におけるA/B/C/Dの全てのパターンに表れていることから分かるように、đáy(đó)は話し手及び聞き手にとって「親・親」、「親・疎」、「疎・親」、「疎・疎」とされる対象を指示する。従って、đáy(đó)はその直示用法と非直示用法が並行していないことが言える。このように、中称のđáy(đó)は近称・遠称のđây-kiaとは違う性質を持っているため、ベトナム語の指示詞にも日本語と同様に「近・遠」と「中」の対立が見られると考えられる。さらに、đâyとkiaは直示用法と非直示用法が平行しており、「近・遠」の特徴付けで使い分けられる。

³⁸ (128)は田窪（2010）による黒田（1979）に対する解説を参照しながら作られたものである。

đáy(đó)は、直示用法では聞き手に近い対象や一度言語的文脈に登場したものを指すのに対し、非直示用法では広い範囲で使用される上に、他の指示詞には見られない連動読みや曖昧指示といった用法を併せて持っているため、一般化しづらい。次節では、第2章で提案した[±現場] ([±spatial]) という意味論・語用論的素性を用いて、これまでの研究において明確されていないđáy(đó)への特徴付けをはじめ、ベトナム語における指示詞の解釈を試みる。

3.4 「±現場」による指示詞の解釈

3.4.1 「±現場」と現場指示用法・非現場指示用法

第2章では、日本語の指示詞の特徴付けである指示詞を意味論・統語論的素性の[±D]で特徴付けるより、韓国語のように話し手と指示対象との距離的・知覚的な関係を表す意味論・語用論的素性である[±現場]のほうがベトナム語の指示詞を特徴付けるのに妥当なフィーチャーであると主張している。本節では、ベトナム語の指示詞を[±現場]で特徴付けることにより、指示詞の解説が可能であることを示唆する。ひとまず、前章で言及した[±現場]及び指示詞の用法についての提案を(129)として以下に再掲する。

(129) [±現場] ([±spatial]) と現場指示用法・非現場指示用法

- ・[±現場] ([±spatial]) とは、認知主体である話し手と指示対象との距離的・知覚的な関係に基づく、ベトナム語の指示詞を特徴付ける意味論・語用論的素性である。つまり、発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す指示詞は[+現場]の特徴を持ち、発話現場に存在しているとみなされない対象を指す指示詞は[-現場]の特徴を持つ。[+現場]のものにのみ「近・遠」という距離区分がある。[-現場]のものには距離区分がない。

- ・指示詞の用法については、現場指示用法と非現場指示用法に分かれている。現場指示用法とは、対話・講演など話し手と聞き手が同一の空間を共有する場面において、多くの場合身ぶり・手ぶり・表情などの表現行為を伴いつつ、話し手が現に知覚していて聞き手にも知覚されるはずだとする事物を対象として指示する用法である。一方、非現場指示用法とは、現場に存在していない、あるいは話し手の記憶の中にある事物を対象として指示する用法である。

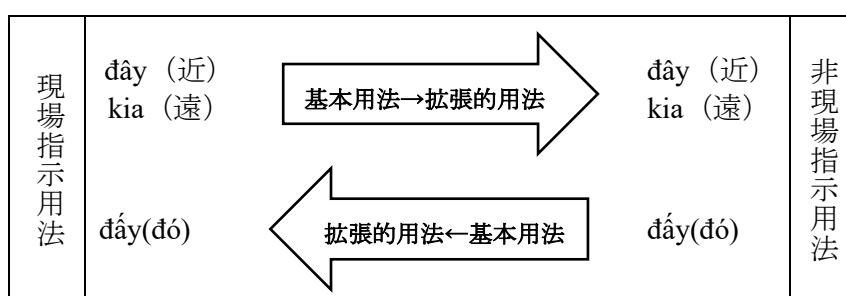
- ・[±現場]は指示詞の特性であり、現場指示・非現場指示は指示用法であるが、基本的に[+現場]の特徴を持つ指示詞は現場指示で用いられる。一方、[-現場]の特徴を持つ指示詞は非現場指示で用いられる。ただし、[+現場]の指示詞が非現場指示で、[-現場]の指示詞が現場指示で使われる場合もあるが、[±現場]という特性は依然として維持されている。

上記の(129)によれば、三系列の指示詞を持つベトナム語では、[+現場]の特徴を持つのは *đây* 系と *kia* 系である。*đây* と *kia* は「近・遠」で使い分けられる。一方、*đây(đó)*には距離区分がない。[-現場]の特徴を持つのは *đây(đó)*系である。[+現場]の *đây-kia* と[-現場]の *đây(đó)*で対立している。

[+現場]	<i>đây</i> : 近 <i>kia</i> : 遠
[-現場]	<i>đây(đó)</i>

(表 14) ベトナム語における指示詞の特徴付け

また、「近・遠」と[±現場]は語用論的性質で独立しているが、「近」と「遠」は[+現場]しか取れず、[+現場]の *đây* と *kia* は基本的に現場指示用法でしか用いられない。「近・遠」の距離区分がない[-現場]の *đây(đó)*は基本的に非現場指示用法でしか用いられない。すなわち、[+現場]の *đây* と *kia* は現場指示用法を、[-現場]の *đây(đó)*は非現場指示用法を、それぞれ基本用法としているのである。ただし、拡張用法として非現場指示用法に用いられる *đây-kia*、または現場指示用法に用いられる *đây(đó)*も存在している。しかし、拡張用法として非現場指示用法に用いられる *đây-kia* は[+現場]または[+現場]しか取れない「近・遠」の特徴を依然として維持している。この場合の「近・遠」は、話し手の指示対象への親近感・疎遠感といった心理的距離である。一方、拡張用法として現場指示用法に用いられる *đây(đó)*は「近」か「遠」か特定できない、すなわち「近・遠」の距離区分がない[-現場]の特徴を依然として維持している。



(図 2) ベトナム語における指示詞の用法

3.4.2 ベトナム語における空間の指示詞の再解釈へ

さて、上記の主張を踏まえ、空間指示における近称の *đây* 系、遠称の *kia* 系、または中称の *đây(đó)*系のそれぞれの特徴付けに基づき、その用法を再解釈していこう。

3.4.2.1 đâỵ 系

[+現場]の đâỵ 系の指示詞は、現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる、かつ話し手から「近」であると認知される対象を指示する (例(52))。この「近」は話し手の主観によって決められる。物理的に離れている対象でも、それは話し手にとって近いと心理的に感じられるものなら、近称の đâỵ を使うことができる (例(130))。ただし、話し手の手が届かず聞き手に近い (あるいは聞き手に属する) 対象は、話し手にとって「近」であると判断できなくなり、đâỵ が使えなくなる。なお、この場合は中称の đâỵ(đó)が用いられるが、次節で述べる。

(52) Xuân Lan (cầm tiền trên tay):

Tôi sẽ dùng số tiền {này/*âỵ(đó)/*kia}
 1 (私) [副詞 (未来)] 使う 数金 コ/ソ/ア
 vào việc khác, vào việc từ thiện chẳng hạn.
 [関係詞 (に)] こと 他 [関係詞 (に)] こと 慈善 例え
 スァン・ランさん (手にお金を持ちながら) : このお金は別のことに使いま
 しょう! 例え慈善目的とか。

(Nguyễn H.T. 2012:116)

(130) {10メートル離れたバナナの木を指して}

Nakata: Kia là cây chuối phải không?
 あれ [コピュラ] 木 バナナ 正しい [副詞 (疑問)]
 Thủy: ù, nhưng không giống chuối bán
 [感動詞 (応答)] [関係詞 (しかし)] [副詞 (否定)] 似る バナナ 売る
 ở Nhật đầu. Loại {này/?âỵ(đó)/*kia}
 [関係詞 (で)] 日本 [文末詞 (完全否定)] 種類 コ/ソ/ア
 chỉ có ở Việt Nam thôi.
 [副詞 (だけ)] ある [関係詞 (に)] ベトナム [副詞 (限定)]
 中田: あれはバナナの木ですか?
 トウイ: うん。でも日本で売っているバナナと違うよ。この種類はベトナムに
 しかないものだ。

一方、指示対象が可視的ではない時は、視覚では確認できないものの、頭の中で想像することができる。現場にないものを指す đâỵ も、話し手の想像によって対象がまるで目に見えるように再現されるので、現場指示の đâỵ と同様に、[+現場]の特徴を維持していると考えられる。第2章で記述している解説の đâỵ と後方照応の đâỵ は、指す対象が直前または直後に言及されているため、すぐに再現できるし、近いと感じられやすい。

したがって、*đây* 系が用いられる (例(57)と例(58))。この非現場指示用法に使われる *đây* は基本用法である現場指示の拡張的用法だと考えられる。

- (57) Su Huệ: Ta là ai? Câu hỏi {này/ấy(đó)/*kia} không trừ
私 [コピュラ] 誰 質問 コ/ソ/ア [副詞 (否定)] 除く
ai cả. Nam mô A di đà Phật!
誰 [副詞 (完全否定)] 南無阿弥陀仏
フエ僧侶: 「私は誰?」この質問をしたことのない人間はおらんじやろう。南無阿弥陀仏!

(Nguyễn H.T. 2012:31)

- (58) Bảo: Hơn nữa, {đây/*đây(đó)/*kia} mới là điều
[関係詞 (しかも)] コ/ソ/ア [助詞 (こそ)] [コピュラ] こと
quan trọng nhất, tôi không quen tiêu tiền lẻ.
大事 一番 1 (私) [副詞 (否定)] 慣れる 使う 小銭
バオさん: しかも、これこそが一番大切です。小銭を使い慣れていないのです。

(Nguyễn H.T. 2012:169)

3.4.2.2 *kia* 系

[+現場]の *kia* は現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる、かつ話し手から「遠」であると認知される対象を指示する (例(53))。「近」と同様に、この「遠」は話し手の主観によって決められ、必ずしも物理的な距離に基づくものではない。指示対象は現場からいなくなった場合でも、発話はその直後に行われるため、対象がまだ現場に存在しているという話し手の直観が働いて、現場指示の延長として[+現場]の *đây* か *kia* が使われることもある。なお、話し手にとってその対象が「近」なら *đây*、「遠」なら *kia*³⁹を用いる (例(131))。

- (53) {泥棒が向こうの壁を指してフエ僧侶に言う}
Tên trộm: Im ngay! Đi lại đằng {này/ấy(đó)/kia}
黙る [副詞 (すぐ)] 行く 来る 方 コ/ソ/ア
Đi sát tường...
行く 添う 壁
Su Huệ: Được rồi... Không ai làm hại người
良い [副詞 (完了)] [副詞 (否定)] 誰 害する 2 (汝)

³⁹ この *kia* の用法は、第 2 章に言及している韓国語における現場指示の延長としての저(ce)と同じである。

đâu. Ở đây không có ai
 [文末詞 (完全否定)] [関係詞 (に)] ここ [副詞 (否定)] ある 誰
 cả.

[副詞 (完全否定)]

泥棒：黙れ！あっち行け！壁に沿って歩け！

フェ僧侶：よしよし... 誰もあなたを害さぬよ。ここには誰もおらぬ。

(Nguyễn H.T. 2012:13)

・現場指示の延長の *kia* (または *đây*)

(131) {スアン・ランさんがバオさんに知り合いのモーさんを紹介して、しばらく3人で話してから、モーさんが出ていった}

Bảo: Hoàn cảnh của cô Mơ {này/?ây(đó)/kia} có khác
 状況 [関係詞 (の)] 嬢 [人名] コソ/A [助詞 (否定)] 違う

nào hoàn cảnh của Vương Thúy Kiều... Hậu duệ
 [副詞 (否定)] 状況 [関係詞 (の)] [人名] 後裔

của Vương Thúy Kiều là cô Mơ {này/?ây(đó)/kia}
 [関係詞 (の)] [人名] [コピュラ] 嬢 [人名] コソ/A

cũng đã hành động hết như
 [副詞 (も)] [副詞 (過去)] 行動する 疑似的 [関係詞 (如く)]

tổ phụ của mình...
 祖父 [関係詞 (の)] 自分

バオさん：あの／このモーさんの今の状況はヴオン・トゥイ・キエウとまったく一緒ですね。ヴオン・トゥイ・キエウの後裔であるあの／このモーさんもまた自分の師匠とそっくりな行動をとりました。

(Nguyễn H.T. 2012:172)

話し手の手が届かず聞き手に近い (あるいは聞き手に属する) 対象は *đây* で指し示されないのと同じように、聞き手に近い (あるいは聞き手に属する) 対象は話し手から物理的に「遠」であると判断できないため、*kia* が用いられない。ただし、指示対象が物理的に「遠」であると捉えられなくても、心理的に「遠」であると判断されれば、*kia* が使われることもある (例(113))。この「遠」は、その指示される対象に対する知識がないことや指示対象への疎遠感を表すと考えられる。なお、前述のように、(113)のような場合は、*kia* を用いることによって、話し手が相手に属しているもの (=指示対象) を非難するという語用論的なニュアンスを表すことができる。

(113) Xuân Lan: Chúng ta phải hi sinh bản thân chúng ta
 私たち [動詞 (べき)] 犠牲する 自分自身 私たち
 đi. Chúng ta phải từ bỏ dục tính.
 [副詞 (命令)] 私たち [動詞 (べき)] 諦める 欲情
 Chung: Tôi không tin Xuân Lan...
 1 (私) [副詞 (否定)] 信じる [人名]
 Xuân Lan không dám thành thực với mình.
 [人名] [副詞 (否定)] あえて～する 誠実 [関係詞 (に)] 自身
 Cái áo xẻ tà { *này /ây(đó)/kia }, một chút
 [類別詞 (個)] ブラウス 裂く 裾 コ/ソ/ア [副詞 (少し)]
 son phấn trên khóe miệng { *này /ây(đó)/kia }, bộ trang phục “mô đen”
 化粧 上 口元 コ/ソ/ア [類別詞 (着)] 服装 モダン
 { *này /ây(đó)/kia }... Tất cả là tố cáo, là bằng chứng
 コ/ソ/ア すべて [コピュラ] 告訴 [コピュラ] 証拠
 của dục vọng.

[関係詞 (の)] 欲望

スアン・ランさん：私たちは自分自身を犠牲にすべきです。欲望を捨てるべきです。

チュンさん：僕はスアン・ランを信じません。あなたは自分自身に素直になっていないのです。その裾が開いたブラウス、その口元にみえるほんの少しの化粧、そのモダンな服装、すべてが欲望を訴える証拠です。

(Nguyễn H.T. 2012:184)

一方、非現場指示用法の用いられる *kia* は、現場に存在しているとみなされない、あるいは、記憶の中にある対象を指示するが、話し手から「遠」であると判断される対象でなければならない。すなわち、話し手には指示対象に対する知識がない時や、話し手が指示対象への疎遠感を表したい時にしか *kia* が使われない (例(115)、例(116))。よって、この非現場指示用法に用いられる *kia* は、基本用法である現場指示用法における「遠」の特徴を維持しているため、現場指示用法の拡張的用法であると言える。

(115) {元彼女に新しい恋人ができたと聞いて}

Cầu mong cho em bên ai kia sẽ hạnh phúc.
 祈る 望む [関係詞 (に)] 2 (弟/妹) そば 誰 あの [副詞 (未来)] 幸せ
 その人 (=元彼女の新しい恋人) と幸せになることを祈っている。

em mới mua không?
 1 (弟/妹) 新しい 買う [副詞 (疑問)]
 Chồng; Không, anh không thấy
 [副詞 (否定)] 1 (兄) [副詞 (否定)] 見る
 Vợ: Chết thật. Cái túi {*này/ấy(đó)/*kia} rất đắt
 死ぬ 本当 [類別詞 (個)] バッグ コ/ソ/ア とても 高い
 đấy.

[文末詞 (情報提示)]

妻：私が昨日買ったばかりの白いバッグを見なかった？

夫：いや、見てないよ。

妻：困ったわ。そのバッグは高かったのよ。

- (120) Kim: Phòng nghiên cứu của Yamaoka có một bạn
 研究室 [関係詞 (の)] [人名] ある 1 友達
 người Việt Nam phải không?
 人 ベトナム 正しい [副詞 (疑問)]
 Yamaoka: Đúng rồi.
 正しい [副詞 ((完了)]
 Kim: Mình có việc cần hỏi bạn {*này/ấy(đó)/*kia}, Yamaoka
 1 (自分) ある こと 要る 聞く 友達 コ/ソ/ア [人名]
 giới thiệu bạn {*này/ấy/*kia} cho mình được không?
 紹介する 友達 コ/ソ/ア [関係詞 (に)] 1 (自分) 良い [副詞 (疑問)]
 キム：山岡君の研究室に確かベトナム人の学生が一人いるよね？
 山岡：はい、そうです。
 キム：その人に聞きたいことがあるから、(その人を私に) 紹介してくれな
 いか。

一方、拡張用法としての現場指示用法に用いられる **đấy(đó)**は、指示対象が遠くに離れているものであっても、一度言語的文脈に登場したものを指し示す場合の **đấy(đó)**も現場指示でありながら、[-現場]の特徴を維持していると言える。先述の通り、この一度言語的文脈に登場したものを指し示す **đấy(đó)**は、話し手と聞き手が指示対象に対して注意を向けられる場合に用いられ、すなわち対象に関する情報の認知を表すものであると考えられる。対象に対する情報の認知とは対象に対する知識と同じように扱うことができるので、記憶の中にある事物と同じであろう。よって、この **đấy(đó)**は非直示用法の性質を持つと言える。前述の(122)に見られるように、最初の発話では、指示対象である「白い建物」を遠称の **kia** で承けられるが、次の発話からはいずれも **kia** が不適切に

なり、代わりに中称の **đáy(đó)** が用いられる。

(122) {ハー・トゥイが 20 メートル離れた建物を指して}

Hà Thủy: Em nhìn thấy tòa nhà màu trắng { *này/*áy(đó)/kia }
2 (弟/妹) 見える [類別詞 (件)] 家 色 白い コソア
không?

[副詞 (疑問)]

Kim Thu: Nhà 10 tầng { *này/*áy(đó)/kia } á?
家 階 コソア [文末詞 (疑問)]

Hà Thủy: Đúng rồi. Ngày xưa chị ở { *đây/đáy(đó)/kia }
正しい [副詞 (完了)] 昔 1 (姉) 居る コソア

khoảng 2 năm.
約 年

Kim Thu: Nhà { *này/áy(đó)/kia } đẹp thế sao chị không ở
家 コソア きれい そんな なぜ 2 (姉) [副詞 (否定)] 居る
{ *đây/đáy(đó)/kia } nữa?
コソア [副詞 (もう)]

Hà Thủy: Nhà { *này/áy(đó)/kia } đất lắm.
家 コソア 高い とても

Kim Thu: Thế à? Hay em cũng
そんな [文末詞 (疑問)] [関係詞 (それか)] 1 (弟/妹) [副詞 (も)]
chuyên đến { *đây/đáy(đó)/kia } nhỉ?
移る 来る コソア [文末詞 (疑問)]

ハー・トゥイ: あの白い建物が見える?

キム・トゥ: あの 10 階建ての?

ハー・トゥイ: そうそう。昔そこ/あそこに 2 年ほど住んでいたよ。

キム・トゥ: あんなにきれいな建物なのに、どうして住むのをやめたの?

ハー・トゥイ: あそこは高いからね～。

キム・トゥ: そうか。それより、あたしがあそこに引っ越ししようかな～。

非現場指示を基本用法とする[-現場]の **đáy(đó)** は、現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指すため、指示対象との距離を計算する必要がない。言い換えれば、**đáy(đó)** には「近・遠」といった距離区分がない。拡張用法としての現場指示用法に用いられる **đáy(đó)** も、基本用法である非現場指示用法の性質を維持しており、指示対象が近いか遠いかを特定できない時に使用される。現場指示用法で「近・遠」が特定できないのは、先述の通り、「指示対象が三つあって、中距離にあるものを指す

場合」と「聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）対象を指す場合」が代表的である。前者については、話し手と聞き手が横並びで同じ方向を向いているとき、指示対象が三つ存在している場合ならその中間にあるものを *đây(đó)* で指すこともできる。が、三つの対象のうちのどれかがなくなった時は、話し手が近く感じるものを *đây (NP-này)*、遠く感じるものを *kia* で指し示すこととなり、*đây(đó)* が使えなくなる。後者については、話し手は対象との距離を特定する際に、認知空間にあるのは話し手と対象のみであり、対象が自分から近いか遠いかという二つの選択肢しかない。だが、対象が聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）ものだと、話し手は聞き手が認知空間に存在していることを無視できない。そのため、指示対象との距離を測りづらくなる。そこで、最終的手段として「近・遠」の特定ができない場合に選ばれる *đây(đó)* が用いられるのである。このように、現場指示用法に使用される *đây(đó)* は依然として[-現場]の特徴を維持していると言うことができる。

3.4.2.4 *đây* と *kia*

[+現場]の *đây* と *kia* はどちらも、現場に存在しているものを指すという現場指示用法を基本用法とし、「近・遠」で対立している。例(132a)と(132b)では、同じ対象を指すが、前者は指示対象が話し手から「遠」くに離れているものであるため *kia* を、後者は指示対象が話し手の「近」くにあるものであるため *đây (NP-này)* を用いる。また、(133)のような聞き手にとっては不特定な対象（＝これから行く場所）を指す場合においても、現場指示と同様に、話し手が対象を「近」であると判断すれば *đây* を、「遠」であると判断すれば *kia* を用いる。なお、(133)では、日本語では中称の指示詞が使われるが、ベトナム語では中称の *đây(đó)* は不適切である。

(132)a. {姉が5メートル先のリンゴの木を指しながら、弟に言う}

Chị: Đi hái 1 quả táo ở cây
行く 摘む [類別詞 (玉)] リンゴ [関係詞 (に)] 木
{*này/*ây(đó)/kia} cho chị...
コ/ソ/ア [関係詞 (に)] 1 (姉)

姉：あの木のリンゴ一個取ってきて！

b. {姉が弟の取ってきたリンゴを手を持って}

Chị: Quả {này/*ây(đó)/*kia} chưa chín. Đi hái
[類別詞 (玉)] コ/ソ/ア [副詞 (否定)] 熟する 行く 摘む
quả khác về đây!
[類別詞 (玉)] 違う 帰る ここ

姉：これはまだ熟していない。違うのを取ってきて！

- (133) Nakata: Chị đi đâu thế?
 2 (姉) 行く どこ [文末詞 (具体的な説明の要求)]
 Thủy: Tôi đi ra {đây/*đây(đó)/kia} một tí.
 1 (私) 行く 出る コ/ソ/ア [副詞 (少し)]
 中田：どこに行くのですか？
 トウイ：ちょっとそこまで。

さらに、拡張的用法として非現場指示に用いられる *đây* と *kia* も依然として現場指示用法における「近・遠」の性質を保持している。例えば、(117a)では話し手が知っている出来事(=話し手が明日から日本に遊びに行くこと)を指す場合、その指示対象が話し手からは心理的に「近」であると判断され、近称の *đây* (NP-*này*) で指示される。それに対し、(115)では、指示対象(=元彼女の新しい恋人)が話し手が知らないが聞き手が知っている人であるため、話し手からは心理的に「遠」であると判断され、遠称の *kia* で指示される。

- (117)a. Em: Chị mua va li làm gì đây?
 2 (姉) 買う スーツケース する 何 [文末詞 (情報提示要求)]
 Chị: Ngày mai chị đi Nhật chơi.
 明日 1 (姉) 行く 日本 遊ぶ
 Em: Chị đi với ai? Đã xin bố mẹ chưa?
 2 (姉) 行く [関係詞] (と)] 誰 [副詞 (過去)] 申す 父母
 [副詞 (疑問)]
 Chị: Chị đi với anh Nam. Chị định không nói cho bố mẹ biết. Em đừng nói chuyện {này /ấy/ *kia} với bố mẹ
 [副詞 (否定)] 言う [関係詞 (に)] 父母 知る 2 (弟/妹)
 [副詞 (禁止)] 言う 話 コ/ソ/ア [関係詞 (に)] 父母
 nhé.
 [文末詞 (軽い注意)]
 妹：何のためにスーツケースを買ったの？
 姉：明日から日本に遊びに行くの。
 妹：誰と行くの？父さんと母さんに言った？
 姉：ナムさんと行くの。父さんと母さんには内緒だから、この話を父さんと母さんに言わないでね。

(115) {元彼女に新しい恋人ができたと聞いて}

Cầu mong cho em bên ai kia sẽ hạnh phúc.
祈る 望む [関係詞 (に)] 2 (弟/妹) そば 誰 あの [副詞 (未来)] 幸せ
その人 (=元彼女の新しい恋人) と幸せになることを祈っている。

また、前述のように、「kia は đây と対になって、「もう一方」という意味」はその特徴から派生すると考えられる。例えば、cái này-cái kia (これ・あれ)、đang này-đang kia (こちら・あちら)、bên này-bên kia (こちら側・あちら側)、thế này-thế kia (こういう・ああいう) などがある。ちなみに、前述のように、「現在進行している話題」から「別の話題」に切り替えた時に用いられる kia もこの意味から派生されたものである (例(134)と(135))。このように、近称の đây と遠称の kia は[+現場]の特徴を持ち、現場指示用法においても非現場指示用法においても「近・遠」で使い分けられると言える。

(134) (Tay này) giữ cái chai, tay { *này / *ây / *ý / *đây / *đó / kia }
手 この 持つ CLF 瓶 手 *この *その *その *その *その あの
mở nút chai.

開ける 蓋 瓶

「(こちらの手で) 瓶を持って、もう一方の手で瓶の蓋を開ける。」

(安達2016:46)

(135) Ở đâu cũng có người này người kia.
[関係詞] (に)] どこ [副詞 (も)] いる 人 この 人 あの
どこにでもこんな人やあんな人がいる。

3.4.2.5 đây(đó)と kia

[+現場]の遠称の kia は現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる、かつ話し手から「遠」であると認知される対象を指示する。kia の基本用法は現場指示用法であるが、非現場指示用法の kia も見られる。ただし、非現場指示用法に用いられる kia は、基本用法である現場指示用法における「遠」の特徴を維持しているため、現場指示用法の拡張的用法であると考えられる。その一方、[-現場]の đây(đó)は現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指すという、典型的な非現場指示用法を持つ。指示対象が発話の現場には存在しなければ、基本的にどんな対象でも đây(đó)で指示することができる。đây(đó)には「近・遠」という距離区分がない。拡張用法として現場指示用法に用いられる đây(đó)も見られるが、この đây(đó)は依然として非現場指示用法の特徴を維持している。

現場指示用法に用いられる **đây(đó)** と **kia** の違いは、**kia** が話し手と指示詞との（物理的または心理的）距離を「遠」とであると判断されるものを指し示すのに対し、**đây(đó)** が指示対象が「近」か「遠」か判断できない場合に用いられるところにある。しかし、(114)のように、「近・遠」が特定できないと思われる聞き手に近い（または聞き手に属する）ものを指し示す場合でも、**kia** が用いられることもある。この **kia** は前述の通り、話し手が相手に属しているもの（＝指示対象）を非難するという語用論的なニュアンスを表し、すなわち話し手にとって「遠」と判断される指示対象を指し示す。**đây(đó)** も用いられるが、その時はただ聞き手に属するものを指し、**kia** を用いる時に生じる語用論的効果が **đây(đó)** にはない。

- (114) Xuân Lan: Miệng lưỡi anh độc ác lắm anh Bảo
 口 舌 2 (兄) 毒悪 [副詞 (とても)] 兄 [人名]
 a. Nhưng tôi biết rõ anh, đằng sau
 [文末詞 (親密)] [関係詞 (しかし)] 1 (私) 知る 詳しい 2 (兄) 裏
 nụ cười độc ác { *này/ấy(đó)/kia } là một trái tim trung thực.
 微笑 毒悪 コ/ソ/ア [コピュラ] 1 心 忠実
 スァン・ランさん：バオさん、あなたは毒舌ですが、その意地悪な微笑の裏に
 誠実な心が隠れていることがわかりますよ。

(Nguyễn H.T. 2012:169)

一方、指示対象が遠くに離れたものであっても、先行発話に既に言及されているなら、**đây(đó)** で指示されることとなる。(65)のように、最初の発話では、遠称の **kia** が用いられるが、次の発話からは **kia** が不適切になり、代わりに中称の **đây(đó)** が用いられる。先述の通り、最初の発話での **kia** は話し手と指示対象との距離が「遠」とであると判断される場合に使用され、いわゆる直示用法に用いられる **kia** である。それに対し、次の発話での **đây(đó)** は指示対象に対する注意を向けられる情報といった記憶の中にある事物と同じように思われる場合に用いられる **đây(đó)** である。この **đây(đó)** は現場指示に使用されているが、非直示用法の性質を維持しているのである。なお、Bui L.T. (2014) においても、遠称の **đây(đó)** (**ấy**) と **kia** の違いについては、物理的距離によるものではないとされている。聞き手が発話の前に、既に指示対象の存在を気付いていると話し手が認識している場合、**đây(đó)** が選ばれる。一方、聞き手にとって指示対象が新しく導入されたものであるとされる場合、**kia** が使用されると言及されている。

- (65) {遠くにある魔法瓶を指して}
 Bảo: ...chị có nhìn thấy cái phích hai lít rưỡi
 2 (姉) [副詞 (疑問)] 見える [類別詞 (個)] 魔法瓶 2 リットル 半

{*này/*ây(đó)/kia} không?

コ/ソ/ア [副詞 (疑問)]

Xuân Lan: Anh bảo sao?

2 (兄) 言う どのよう

Bảo: Chị hãy hình dung ở {*}đây /đây(đó)/*kia }

2 (姉) [副詞 (命令)] 想像する [関係詞 (に)] コ/ソ/ア

chứa đầy máu.

詰める いっぱい 血

バオさん：あそこにある容量が2リットル半の魔法瓶が見えますか？

スアン・ランさん：どういことですか？

バオさん：あの魔法瓶／そこに血がいっぱい入っていることを想像してください！

(Nguyễn H.T. 2012:193)

非現場指示に用いられる *đây(đó)* と *kia* の違いについて振り返っておく。指示対象が発話の現場には存在しているとみなされなければ、基本的にどんな対象でも *đây(đó)* で指示できる。それに対し、非現場指示の *kia* は限られた場合にしか用いられない。それは、前述のように、話し手には知識がなく心理的に「遠」であるとされる対象を指し示す場合と、現在進行している話題から次の話題に切り替わった際にその新しい話題を提示する場合である。前者においては以下の(136)に見られるように *kia* と *đây(đó)* が交換可能であるが、後者は(104)に見られるように、*kia* しか用いられず、*đây(đó)* は不適切である。なお、(136)では、話し手は前から指示対象であるジョンさんのことを聞いているが、実際に会ったことがない。ここで、ジョンさんを良く知らないということを強調したければ *kia* を、そうでなければ *đây(đó)* を使用することになる。

- (136) {小さいオアンさんには彼氏のジョンさんがいると聞いているにも関わらず、彼女をフーさんという男性に会うように説得しようとしたトゥイ・チャンさん。しかし、小さいオアンさんはジョンさんと結婚してアメリカに行くと言って断った}

Thùy Trân: ...tức là mình đã có kế hoạch chắc chắn

[関係詞 (つまり)] 2 (自分) [副詞 (過去)] ある 計画 確か

với anh chàng John người Mỹ {*}này/*ây(đó)/kia }

[関係詞 (に)] 男性 [人名] 人 アメリカ コ/ソ/ア

rồi phải không?

[副詞 (完了)] 正しい [副詞 (疑問)]

トウイ・チャンさん：...つまり、そのアメリカ人のジョンさんと確かなプランがあるということだよね？

(Nguyễn H.T. 2012:268)

- (104) A: Em đã nói với bố mẹ em chuyện
 1 (弟/妹) [副詞 (過去)] 言う [関係詞 (に)] 親 1 (弟/妹) こと
 chúng ta sẽ kết hôn.
 1 (私たち) [副詞 (未来)] 結婚する
 Anh đã nói với bố mẹ chưa?
 2 (兄) [副詞 (過去)] 言う [関係詞 (に)] 親 [副詞 (疑問)]
 B: Anh nói rồi. Bố mẹ mừng lắm.
 1 (兄) 言う [副詞 (完了)] 親 喜ぶ [副詞 (とても)]
 A: À, còn chuyện { *này/*ấy(đó)/kia } thì
 [感動詞 (想起)] [関係詞 (まだ)] こと コ/ソ/ア [助詞 (主題)]
 sao?
 どのよう
 Anh cũng nói rồi chứ?
 2 (兄) [副詞 (も)] 言う [副詞 (完了)] [文末詞 (疑問)]
 B: Chuyện chúng ta sẽ không sinh con
 こと 私たち [副詞 (未来)] [副詞 (否定)] 生む 子供
 ngay á? Anh chưa nói.
 [副詞 (すぐ)] [文末詞 (疑問)] 1 (兄) [副詞 (否定)] 言う
 A: 結婚のこと親に言ったわ。(あなたの) 両親に話した?
 B: 言った。喜んでたよ。
 A: そうだ、あの話もした?
 B: すぐには子供を生まないつもりって話? まだ言ってない。

3.5 第3章のまとめ

本章では、ベトナム語の指示詞について、近称・遠称 *đây-kia* 対中称 *đây(đó)* といった対立を成していることを示した。この対立は、第2章で提案した指示詞の特徴付けである[±現場]によれば、*đây-kia* の性質と *đây(đó)* の性質とは異なるからだと言える。すなわち、[+現場]の特徴を持つのは *đây* 系と *kia* 系である。*đây* と *kia* は「近・遠」で使い分けられる。一方、[-現場]の特徴を持つのは *đây(đó)* 系である。*đây(đó)* には距離区分がない。また、「近・遠」と[±現場]は語用論的性質で独立しているが、「近」と「遠」は[+現場]しか取れず、[+現場]の *đây* と *kia* は基本的に現場指示用法でしか用いられない。「近・遠」

の距離区分がない[-現場]の **đáy(đó)** は基本的に非現場指示用法でしか用いられない。また、[+現場]の **đây** と **kia** は現場指示用法を、[-現場]の **đáy(đó)** が非現場指示用法を、それぞれ基本用法としているのである。拡張用法として非現場指示用法に用いられる **đây-kia**、または現場指示用法に用いられる **đáy(đó)** も存在している。が、非現場指示用法に用いられる **đây** と **kia** は、基本用法である現場指示用法における「近・遠」の特徴を保持している。一方、拡張用法として現場指示用法に用いられる **đáy(đó)** は[-現場]の特徴を依然として維持している。

以上を踏まえて、ベトナム語における指示詞について以下のように主張できる。

・[+現場]の特徴を持つ近称の **đây** 系のは、現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる、かつ話し手から「近」であると認知される対象を指示する。同じく[+現場]の特徴を持つ遠称の **kia** 系は現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる、かつ話し手から「遠」であると認知される対象を指示する。一方、[-現場]の特徴を持つ中称の **đáy(đó)** 系は、現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指し、典型的な非現場指示用法を基本用法としている。つまり、発話の現場には存在しなければ、基本的にどんな対象でも **đáy(đó)** で指すことができる。

・**đây** と **kia** は、基本用法である現場指示用法においても、拡張用法である非現場指示用法においても、認知主体である話し手と指示詞対象との距離に基づいて計算される「近・遠」という物理的または心理的な距離区分で区別される。一方、**đáy(đó)** と **kia** の違いについては、現場指示用法では、**kia** は話し手と指示詞との（物理的または心理的）距離を「遠」であると判断されるものを指し示すのに対し、**đáy(đó)** は指示対象が「近」か「遠」か判断できない場合に用いられる。非現場指示用法では、指示対象が発話の現場には存在しているとみなされなければ、基本的にどんな対象でも非現場指示を基本用法する **đáy(đó)** で指示できる。それに対し、非現場指示を拡張用法する **kia** は「遠」と判断される対象を指すという限られた場合にしか用いられない。

このように、本章では、ベトナム語の指示詞を意味論・語用論的素性である[±現場]という統一の原理で一般化することができた。この一般化により、先行研究では説明できなかった中称の **đáy(đó)** と遠称の **kia** の違いを明確にすることができたと思われる。

第四章 様態・性質の指示詞

4.1 様態・性質の指示詞についての先行研究：thế を中心に

ベトナム語の様態・性質の指示詞である thế này-thế-thế kia (近称・中称・遠称) についての先行研究は少なく、中称の thế しか取り上げていないものがほとんどである。先行研究では、本研究で言う様態・性質の指示詞を thế này-thế-thế kia という三系列を持つ指示詞とみなさず、thế を独立で考察するものが多い。Thompson (1965) と Nguyễn Đ.H. (1997) では、thế をそれぞれ manner demonstratives または predicative substitutes と呼び、その意味は that way, so, as was demonstrated, refers to the way something is accomplished であると記述している⁴⁰。

- (137) Con chó đó dữ lắm, con chó này
[類別詞 (匹)] 犬 その 怖い [副詞 (とても)] [類別詞 (匹)] 犬 この
thật cũng dữ như thế.
本当に [副詞 (も)] 怖い [関係詞 (如く)] そんな
That dog is very vicious, this dog is really just as bad.
(Thompson 1965:148)

- (138) Anh Ba vừa đói vừa mệt.
兄 [人名] [関係詞 (また)] 空腹 [関係詞 (また)] 疲れる
- Tôi cũng thế.
I (私) [副詞 (も)] そう
(Brother) Ba is both hungry and tired. - I am, too. / So am I.
(Nguyễn Đ.H. 1997:132)

一方、Lê T.M.H. (2010) では、thế はテキストにおける文と文を繋げる際に先行に言及されたものを指す照応用法と、対話における独立対象を指す直示用法を持つとされている。thế の照応用法については、先行する文にある句、節、あるいはその文全体、または先行文脈を照応すると主張している (例(139)~(143))。

⁴⁰ 本章で用いられる例文は、言及しない限りは作例である。また、先行研究における英語は原文まま、日本語訳や形態分析とグロス は筆者による。

- (139) A: Tôi rất thích ngắm cảnh mặt trời lặn.
 1 (私) [副詞 (とても)] 好む 眺める 風景 太陽 沈む
 B: Tôi cũng thế.
 1 (私) [副詞 (も)] そう
 A: 日が暮れるのを見るのが好きです。
 B: 私もそうです。
- (140) A: Tôi nghĩ là anh ấy sẽ không đến.
 1 (私) 思う [コピュラ] 彼 [副詞 (未来)] [副詞 (否定)] 来る
 B: Tôi cũng thế.
 1 (私) [副詞 (も)] そう
 A: 彼は来ないと思います。
 B: 私もそう思います。
- (141) Chị người Hà Nội? Tôi cũng thế.
 2 (姉) 人 [地名] 1 (私) [副詞 (も)] そう
 ハノイ出身ですか。私も (そう) です。
- (142) A: Bạn Nam học tiếng Anh 30 phút mỗi ngày.
 友達 [人名] 勉強する 英語 分 毎日
 B: Học thế thì làm sao mà không
 勉強する そう [関係詞 (なら)] どうして [関係詞 (のに)] [副詞 (否定)]
 giỏi được!
 上手 [副詞 (できる)]
 A: ナム君は毎日 30 分英語を勉強している。
 B: そんなに (いっぱい) 勉強したら上手にならないはずがないね。
- (143) Năm nào cũng thế, nghỉ hè là tôi về
 年 どの [副詞 (も)] そう 夏休み [コピュラ] 私 帰る
 thăm quê.
 訪問する 故郷
 毎年 (そうですが)、夏休みに里帰りをしています。

(Lê T.M.H. 2010:68-76)

また、thế の直示用法については、次の(144)と(145)のように、対話における発話者の眼前にある対象を指示すると述べている。

(144) Bé Mai vẽ con chó có cái đầu rất to. Anh bé Mai nhìn thấy và nói:

Em vẽ thế không đẹp đâu.

2 (弟/妹) 描く そう [副詞 (否定)] きれい [文末詞 (完全否定)]

マイちゃんが頭の大きい犬の絵を描いたらお兄さんに言われた。

「そういう風に描くときれいに見えないぞ。」

(145) Tân nấu cơm. Anh cho thật nhiều nước vào nồi. Vợ anh nói:

Anh làm thế không được đâu.

2 (兄) する そう [副詞 (否定)] 良い [文末詞 (完全否定)]

タンさんがご飯を炊く時、炊飯器に水を多めに入れたら、奥さんに言われた。

「そうしちゃいけないのよ！」

(Lê T.M.H. 2010:77)

しかし(144)は(146)と(147)のように、(145)は(148)のように場面の設定を変えると、*thế* は使えなくなる。また、後方照応の場合は、(149)で見られるように *thế* ではなく、*thế này* が使われる。なお、*thế* は後方照応用法を持たない。

(146) {お兄さんがマイちゃんの描いた絵を手に持って示しながら}

Em vẽ thế này/*thế không đẹp đâu.

2 (弟/妹) 描く コ/ソ [副詞 (否定)] きれい [文末詞 (完全否定)]

こういう風に描くときれいに見えないぞ。

(147) {お兄さんが、6メートルぐらい離れている壁にあるホアちゃんの絵を指しながら}

Hoa vẽ đẹp ?thế / thế kia cơ mà!

[人名] 描く きれい ソ/ア [文末詞 (評価)] [文末詞 (反駁)]

ホアちゃんはあるなりにきれいに描けたよ。

(148) {奥さんが炊飯器の蓋を開けて、タンさんに言う}

Anh cho nhiều nước thế này/*thế không được

2 (兄) あげる たくさん 水 コ/ソ [副詞 (否定)] 良い

đâu!

[文末詞 (完全否定)]

水はこんなに (多く) 入れちゃいけないのよ!

- (149) Tôi nghĩ thế này /*thế. Chúng ta đi mua đồ trước,
 1 (私) 思う コ/ソ 1 (我々) 行く 買う 物 前
 sau đó đi thăm quan thì hay hơn.
 後 その 行く 観光 [関係詞 (なら)] 良い より良い
 私はこう思います。我々は先に買い物に行って、それから観光したほうが良い
 でしょう。

このように、*thế-thế này-thế kia* に使い分けがあることから、上記の先行研究のように *thế* を単独で扱うのではなく、同時に *thế này-thế kia* を考慮する必要があると考えられる。ちなみに、富田 (2000)、Bui L.T. (2014)、安達 (2016 など) では、本稿で言う様態・性質の指示詞は *thế này-thế đó(ây)-thế kia* の三系列を持つ指示 (代) 詞として言及されている。だが、*thế đó(ây)* は以下の連動読みの場合にしか見られず、それ以外の場合には用いられない。また、*thế* を *thế đó(ây)* に置き換えることもできない。そのため、本稿では様態・性質の指示詞を *thế này-thế-thế kia* の三系列とし、次節で様態・性質の指示詞が指す対象はどういうものなのかを確認した上で、その用法を解説していく。

- (150)a. Tâm thế nào thì tướng thế ấy.
 心 どのよう [関係詞 (なら)] 人相 ソ
 内面はすべて顔に表れる。
- b. Cha mẹ thế nào thì con cái thế ấy.
 親 どのよう [関係詞 (なら)] 子供 ソ
 子は親の鏡。

4.2 様態・性質の指示詞が指す「対象」をめぐって

指示詞というのは何らかの対象を指し示すために用いるものであり、指示詞と指示対象がお互いに依存関係にあり、指示を行いたい対象があるから指示詞が必要となる。逆に、指示詞が使用されるというのはその指示対象は必ずどこかに存在しているはずである。ベトナム語における様態・性質の指示詞も日本語のいわゆる指示副詞も例外ではないと考えられる⁴¹。しかし、これまでの両言語の様態・性質の指示詞と指示副詞の先行

⁴¹ ベトナム語の様態・性質の指示詞は日本語の指示副詞に意味的に対応していると言えるが、形態上ではベトナム語は *thế này-thế-thế kia* という形しか持たないのに対し、日本語は「コ/ソ/ア」、「コウシテ・ソウシテ・アアシテ」、「コウヤッテ・ソウヤッテ・アアヤッテ」、「コンナ風ニ・ソンナ風ニ・アンナ風ニ」、「コウイウ風ニ・ソウイウ風ニ・アアイウ風ニ」、「コレホド・ソレホド・アレホド」、などのいくつかの形を持っている。

研究では、その対象についてできるかぎり触れないようにするものが多いようである。本節では、日本語の指示副詞とそれが指示する対象をめぐる議論を紹介し、それを踏まえながら指示副詞及びベトナム語の様態・性質の指示詞が指示する対象について論じる。

日本語における指示副詞については、佐久間（1966）では、いわゆる人称区分説を主張し、指示代名詞と同様に動作や状態を修飾する副詞的な「こう」「そう」「ああ」に関して、「こう」は話し手自身が何事かを実演して見せるしぐさ、また身近のありさまにかかわる。それに対し、「そう」は相手の、「ああ」は第三者の、それぞれ動作や状態にかかわるとされている。また、指示詞の概説的なものである金水・木村・田窪（1989）では、指示副詞⁴²について、「「こう」「こんな風に」「こうして」「こうやって」は自分の動作または自分が指している動作・作用、「そう」「そんな風に」「そうして」「そうやって」は相手の動作または相手が指している動作・作用、「ああ」「あんな風に」「ああして」「ああやって」は自分からも相手からも離れているところで起こっている動作や作用の様態・性質を指している」と述べている（p.57）。

佐久間（1966）や後述する木村（1983）の主張をふまえて、岡崎（2010）では、指示副詞には指示用法と副詞用法をあわせて持つとし、指示代名詞・指示副詞が指示する対象については「指示代名詞「《指定》コソ/ア」「《もの》コソ/ア」「《場所》コソ/ア（アスコ）」等が指し示すものを〈もの・こと〉とし、また指示副詞「コソ/ア《容子》」「コンナ・ソナ・アンナ《性状》⁴³」等の指し示す（表す）ものを、あわせて〈さま〉とする」と主張している（p.17）。また、「指示副詞は述語に係り、述語の表す動作や作用・状態を指し示すものであり、それらの述語には必ず主体が存在する。つまり、指示副詞コ・ソ・ア系の直示用法⁴⁴における指示対象は、話し手・聞き手・第三者に関わるものであると考えられる」とも述べている（p.28）。

このように、日本語における指示副詞についての記述は数多く存在しているにも関わらず、その指示対象に関しては言及されていないか、あるいは言及されてもそれほど明確ではないものがほとんどである。本節では、「コノ」と「コンナ」の文脈指示における意味及び機能上の違いを議論している木村（1983）を確認した上、指示副詞及びベトナム語の様態・性質の指示詞が指し示す対象について考えるが、まず木村（1983）の主張を以下に紹介しよう。

⁴² ただし、金水・木村・田窪（1989）では指示副詞という用語を使用していない。

⁴³ しかし、「コンナ・ソナ・アンナ」は統語的に指示副詞と言えるかは岡崎（2010）に対する疑問の一つである。

⁴⁴ ただし、岡崎（2010）では、指示副詞も指示代名詞と同様に直示用法・照応用法・観念用法を持つとされているが、照応用法・観念用法における指示対象は明確に書かれておらず、おそらく上記の定義の〈さま〉になると思われる。

(151) 「コンナ」はもとより指示詞一般が担う‘境遇的’deictic な関係的概念に加えて、或いは〈性状〉(佐久間 1936)と呼ばれ、或いはまた〈状態〉(時枝 1950)と呼ばれるところの実質的概念をも担うものである。その実質的概念をここでは仮に〈さま〉と呼ぶことにすると「コンナとはすなわち〈さま〉を指示し、同時に〈さま〉を表す」指示詞であると言える。一方、「コノ」はそれ自身いかなる実質的概念も担わず、ただ後に来る名詞によって表される事物(即ち実質的概念)を単に指示する機能しかもたない」とされる。すなわち、「コンナ」が指し示す(同時に表す)対象は〈さま〉となる。

(木村 1983:73)

つまり、以下の例で示されるように、いずれも一冊の本を指しながらの発話だとすると、(152a)の指示表現である「この」が眼前の物理的実態としての「本」そのものを直示しているのに対して、(152b)の「こんな」は「本」そのものを直示しているわけではなく、明らかにその本の内容であるとか或いは表紙の体裁等といったようななんらかの〈さま〉を指向しているという差が読み取れるとされている。

- (152) a. 先生、この本が出ましたよ。
 b. 先生、こんな本が出ましたよ。

また、「この」と「本」が、指示し、指示される関係において結びつくものであるのに対して、「こんな」と「本」の関係はそうではなく、むしろ「こんな」がある〈さま〉を指示し、同時にその〈さま〉を担いつつ「本」を(連体)修飾していると見なされるべきであるという。ここで、木村による「この」と「こんな」の意味・機能上の違いをまとめると、次のようになる。

(153) 「この」と「こんな」の意味・機能上の違い：

	「この」	「こんな」
指す	ものごと	さま
表す	×	さま

上記の木村(1983)での主張を踏まえて、指示代名詞と指示副詞には(154)のような相違があると考えられる。さらに、その違いに基づいて、指示副詞が指示する対象については(155)のように主張したい。

(154) 指示代名詞と指示副詞の機能上の違い：

	指示代名詞	指示副詞
指す	ものごと	ものごと
表す	×	様態・性質

(155) 指示副詞が指示する対象：

・先行研究では、指示代名詞が指し示す対象はものごとであり、指示副詞が指示する対象は動作・作用の様態または何らかの性質・性状であるという立場を取っている。本研究では、日本語における指示代名詞も指示副詞もどちらも（実質的な）ものごとを指し示すと考える。なお、指示副詞の指示対象である「ものごと」とは、具体的に動作・作用の主体自体または性質・性状が形容されるもの自体のことである。たとえば、以下で示されるように、「この」も「こんなに」も指示対象である「魚」を指していると思われる。

(ウ) 「この魚はなんといいですか」
「カレイです」

(金水・木村・田窪 1989:7)

(エ) こんなに美味しい魚、はじめてです。

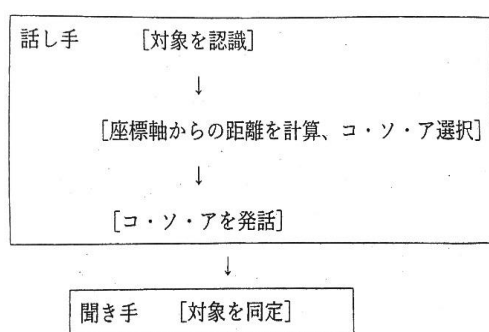
・指示代名詞のコ・ソ・アと同じく、指示副詞にも、その使い分けを決めるために「近・遠」という距離区分が必要となる。「近・遠」の特定は、認知主体である話し手と指示対象である動作主体または形容されるものとの距離によって決定される。ちなみに、距離というものは、物理的な「もの」と「もの」の間で計算されるため、先行研究のように指示副詞の指示対象を動作・作用の様態または何らかの性質・性状とすれば、話し手と対象との距離を測ることは不可能である。よって、「近・遠」の特定はできない。

・指示副詞は、「指す」という機能しか持たない指示代名詞とは異なり、「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持つ。前述のように、「指す」のは指示対象（動作・作用の主体自体、または性質・性状が形容されるもの自体）であり、「表す」のはその対象が行う動作・作用の様態、またはその対象の性質・性状である。つまり、何かを単に指したい時は指示代名詞を、何かを指しながら同時にそのものが行う動作・作用の様態またはそのものの性質・性状も表したい場合は指示副詞を使うのである。次の(オ)では、指示代名詞の「これ」は指示対象である「箸」を指している。それに対し、(カ)では、「こう」は指示対象である動作主体の「話し手」を指示しながら、対象が行う「挟む」「動かす」という動作の様態を表している。

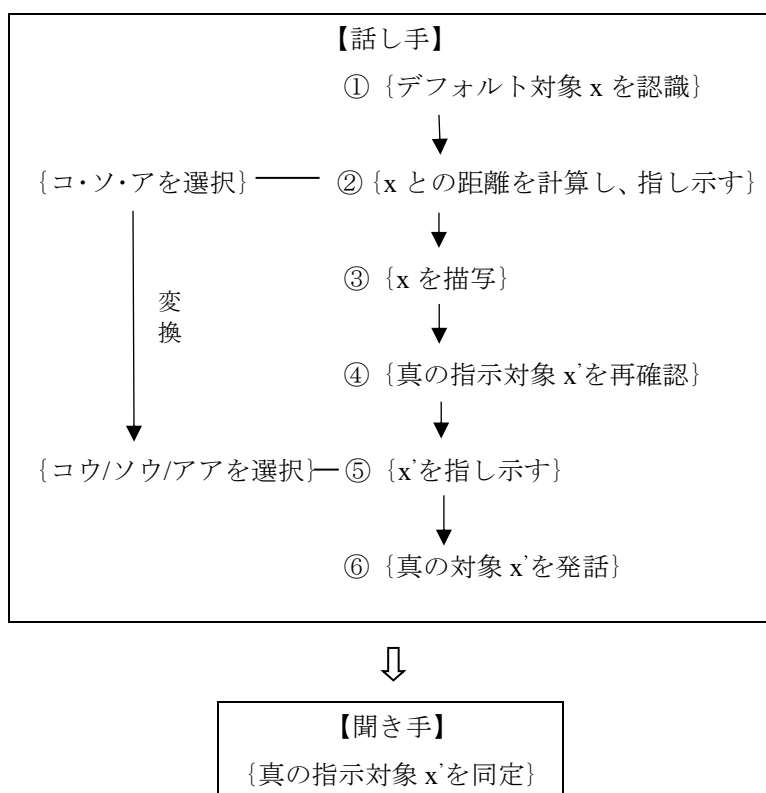
- (オ) {箸を手で持ちながら}
「これは何ですか」
- (カ) 「お箸の持ち方を教えてください」
「右手の指にこう挟んで、こう動かすのです」
「ああ、そんな風にするのですか」

(金水・木村・田窪 1989:65)

ちなみに、コ・ソ・アのいわゆる直示（ダイクシス）とは何かについて議論している岡崎（2004）では、以下の単純化した指示の過程は「話し手による対象を指示する行為」と「聞き手による対象を同定する行為」を表すものであるとされている（図3）。以上のことを踏まえ、日本語の指示副詞における「話し手の対象を指示する行為」の過程を以下のように考える（図4）。



(図3) 岡崎（2004）による指示の過程⁴⁵



(図4) 本稿による指示副詞の指示過程

⁴⁵ 図3の座標軸とは、発話場のことを指すという。（岡崎 2004:61 より）

すなわち、図 3 の指示詞における指示の過程には「対象を確認」、「指示詞を選択」、「指示詞を発話」、という三つの段階がある。それに対し、図 4 に示されるように、指示副詞における指示の過程には六つの段階に分けられる (156)。

(156) 指示副詞における指示過程：

(キ) 最初に、デフォルト対象（と呼ぶことにする）を認識する。

この時の指示対象は指示代名詞が指し示す対象と同じものである。すなわち、発話現場において、話し手が知覚的にその存在を捉えることができるすべてのものごと、または必要な時に直ちに取り出せる話し手の記憶に存在しているすべてのものごとである。

(ク) 次に、話し手は自分と対象との距離の計算に基づき、デフォルト対象を指示詞の「コ・ソ・ア」で指し示す。

ここまでは岡崎 (2004) で主張している指示の過程 (図 3) と同様である。

(ケ) さらに、話し手は指示詞で指している対象が行う動作・作用の様態、あるいはその対象が持つ性質・性状などを描写する。

日本語では、対象が行う動作・作用の様態を表すか、対象が持つ性質・性状を表すかによって指示副詞の選択が異なる。たとえば、指示対象が行う動作・作用の様態なら「コ/ソ/ア」「コンナ風ニ・ソンナ風ニ・アンナ風ニ」「コ/ソ/ア」など、指示詞対象が持つ性質・性状なら、「コ/ソ/ア」「コレホド・ソレホド・アレホド」「コレダケ・ソレダケ・アレダケ」などが用いられる⁴⁶。

(コ) 次に、(ケ) で描写されたデフォルト対象を真の対象（と呼ぶことにする）として再確認する。

(サ) ここで、(ク) の「コ・ソ・ア」から指示副詞（様態の指示詞）の「コウ/ソウ/アア」⁴⁷への変換を行い、それを用いて真の対象を指示する。

(シ) 最後に、真の対象を発話する。

なお、デフォルト対象とは、話し手による指示行為が行われる際にインプットされる最初の指示対象である。真の指示対象とは、話し手の対象への描写が加えられたデフォルト対象である。また、真の指示対象は発話の際にアウトプットされる対象になる。指示代名詞が指し示す対象はインプットされる対象とアウトプットされる対象が同じものであるのに対し、副詞指示が指し示す対象はインプットされるのはデフォルト対象だが、アウトプットされるのは話し手の対象への描写が加えられた真の指示対象である。

⁴⁶ ここでは、日本語の指示副詞を「コウ/ソウ/アア」と表記するとする。

⁴⁷ なお、指示副詞の副詞的用法については岡崎 (2010) を見られたい。

上記の(156)の具体的な例を以下に挙げてみよう。

(ウ) 「この魚はなんといいですか」

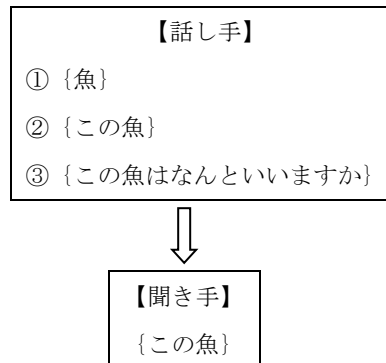
「カレイです」

(金水・木村・田窪 1989:7)

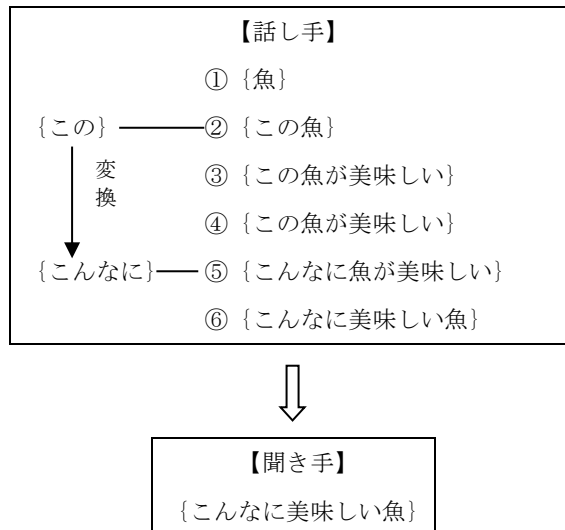
(エ) こんなに美味しい魚、はじめてです。

(155)の(ウ)における指示の過程は図3によると、話し手が最初に対象である「魚」を確認する。次に、対象との距離を計算し、指示詞の「コ」を選択する(「この魚」)。最後に指示されている対象「この魚」を発話するという三段階に分けられる。一方、(155)の(エ)では、話し手が最初にデフォルト対象である「魚」を確認し、対象との距離を計算し、指示代名詞の「コ」で指し示す(「この魚」)。次に、デフォルト指示対象「この魚」の「美味しい」という性質を描写する。次に、描写されたデフォルト対象「この魚が美味しい」を真の指示対象として再確認する。それから、真の指示対象を指し示すのに、「この」から「こんなに」への変換を行う。最後に真の対象「こんなに美味しい魚」を発話するといった六段階の指示過程が想定される。

(ウ)



(エ)

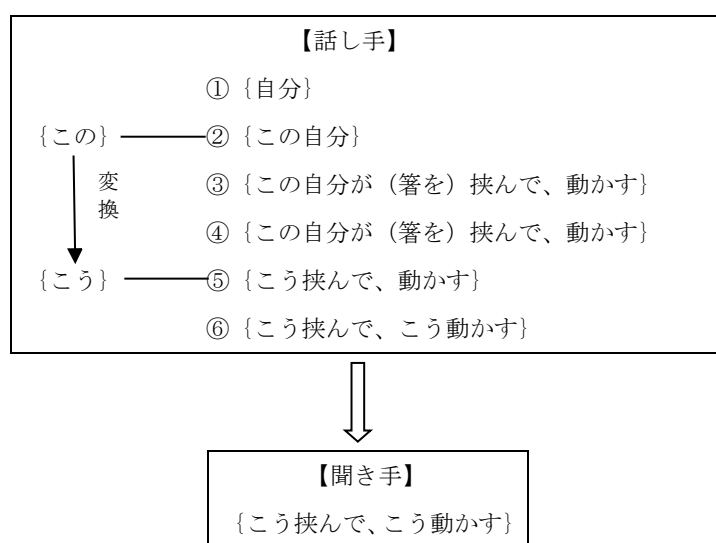


ちなみに、木村(1983)で議論されている「この」と「こんな」との意味的な相違は、「この」は図3のような指示の過程、「こんな」は図4のような指示の過程によって発話されるからであると考えられる。つまり、両者の相違は、指示代名詞である「この」が指示する対象と、名詞を修飾しているが副詞的働きを持つ「こんな」が指し示す対象とは、そもそも違うものであるという点にある。

また、以下の(カ)における指示過程も同様に考えられるが、動作主体(つまり話し手(自分)・聞き手(相手)・第三者)が指示対象となる。最初に、話し手がデフォルト対象である「自分」を確認し、対象との距離を計算するが、この場合は「コ」しか選択できない(「この自分」)。次に、デフォルト対象である「この自分」の「挟む」と「動かす」という動作を描写する。次に、描写されたデフォルト対象「この自分が(箸)を挟んで動かす」を真の指示対象として再確認する。それから、真の指示対象を指し示すのに、「この」から「こう」への変換を行う。最後に真の対象「こう挟んで、動かす」を発話することとなっている。

- (カ) 「お箸の持ち方を教えてください」
「右手の指にこう挟んで、こう動かすのです」
「ああ、そんな風にするのですか」

(金水・木村・田窪 1989:65)



上記に主張している(154)~(156)は、ベトナム語の様態・性質の指示詞 *thế này-thế thế kia* にも当てはまると考えられる。すなわち、様態・性質の指示詞は「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持ち、その指示対象は動作・作用の主体自体、または性質・性状が形容されるもの自体である。ただし、ベトナム語では「指す」機能を果たすために、対象が発話現場に存在しているか否か、または話し手から「近い」か「遠い」かを判断する必要があるが、次節でその考察を見ていきたい。

4.3 様態・性質の指示詞 *thế này-thế-thế kia* と[±現場]

4.2 節で述べたことを前提とし、ベトナム語の様態・性質の用法が第2章で前述した[±現場]にどのように反映しているかを考察していこう。ひとまず、以下に指示詞を特徴付ける[±現場]と指示詞の用法である現場指示用法・非現場指示用法についての主張を(157)として再掲しよう。

(157) [±現場] ([±spatial]) と現場指示用法・非現場指示用法

・[±現場] ([±spatial]) とは、認知主体である話し手と指示対象との距離的・知覚的な関係に基づく、ベトナム語の指示詞を特徴付ける意味論・語用論的素性である。つまり、発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す指示詞は[+現場]の特徴を持ち、発話現場に存在しているとみなされない対象を指す指示詞は[-現場]の特徴を持つ。[+現場]のものにのみ「近・遠」という距離区分がある。[-現場]のものには距離区分がない。

・指示詞の用法については、現場指示用法と非現場指示用法に分かれている。現場指示用法とは、対話・講演など話し手と聞き手が同一の空間を共有する場面において、多くの場合身ぶり・手ぶり・表情などの表現行為を伴いつつ、話し手が現に知覚していて聞き手にも知覚されるはずだとする事物を対象として指示する用法である。一方、非現場指示用法とは、現場に存在していない、あるいは話し手の記憶の中にある事物を対象として指示する用法である。

・[±現場]は指示詞の特性であり、現場指示・非現場指示は指示用法であるが、基本的に[+現場]の特徴を持つ指示詞は現場指示で用いられる。一方、[-現場]の特徴を持つ指示詞は非現場指示で用いられる。ただし、[+現場]の指示詞が非現場指示で、[-現場]の指示詞が現場指示で使われる場合もあるが、[±現場]という特性は依然として維持されている。

上記の(157)に基づき、*thế này-thế-thế kia* について以下のように主張する。

- (158) 本章で扱われる様態・性質の指示詞は、指示詞の一種であり、*thế này-thế-thế kia* (近称・中称・遠称) の三系列を持つ。様態・性質の指示詞は「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持ち、その指示対象は動作・作用の主体自体、または性質・性状が形容されるもの自体である。指示対象が発話現場に存在しているとみなされるか否か、そして認知主体である話し手から「近」か「遠」かによって様態・性質の指示詞が選ばれる。また、統語的には、*thế này-thế-thế kia* のどれも副詞相当句として使われるが、節相当句として使われるのは *thế* のみである。

以上のことをふまえながら、[±現場]という特徴付けは様態・性質の指示詞にも当てはめられるかどうかを確認するために、以下に *thế này-thế-thế kia* を現場指示と非現場指示に分けて考察する。結論を先取りして述べると、ベトナム語における様態・性質の指示詞は次のように特徴付けられると考えられる。

(159) ベトナム語における様態・性質の指示詞の特徴付け：

[+現場]	<i>thế này</i> : 近 <i>thế kia</i> : 遠
[-現場]	<i>thế</i>

つまり、空間の指示詞と同様に、[+現場]の特徴を持つのは近称の *thế này* と遠称の *thế kia* である。*thế này* と *thế kia* は認知主体である話し手が指示対象を「近」と認知するか、または「遠」と認知するかによって区別される。一方、[-現場]の特徴を持つ *thế* には距離区分がない。基本的に、[+現場]の *thế này* と *thế kia* は現場指示用法にしか用いられない。[-現場]の *thế* は非現場指示用法を基本用法とする。拡張用法として現場指示用法に用いられる *thế* もあるが、[-現場]の特徴を維持しており、「近・遠」の特定ができない時に選ばれる。一方、非現場指示用法に用いられる *thế này* も見られるが、依然として [+現場]の特徴を維持している。

4.3.1 [+現場]：近称の *thế này* と遠称の *thế kia*

4.1 で述べたように、指示対象が話し手の目の前にあるなら全て *thế* で指すとは限らず、その対象との距離によって以下に示されるように *thế này* あるいは *thế kia* を使用することもある。対象が知覚できるものであり、話し手の近くにあるものを指すなら *thế này* (例(160)~(166))、話し手から遠くに離れたものを指すなら *thế kia* (例(167)、(168)) が用いられる。

以下の(160)は話し手自身 (=指示対象) が行う「銃を持つ」という動作の様態、(161)と(162)は話し手が自分の手で持つ「ノートの落書き」 (=指示対象) の内容、または「プレゼント」 (=指示対象) の性質を表す。一方、(163)と(164)は話し手が穴や家の中にいる場面であり、「穴」や「家」を指しながら「大きい」という性質を表す。(165)と(166)は、話し手が食べている「ケーキ」または感じる「暑さ」を指示しながらそれが持っている性質 («おいしい」、「暑い») を同時に表している。いずれにおいても話し手は指示対象を「近」と判断できるため、[+現場]の近称の *thế này* が使用される。

(160) {ジョンがランに銃の使い方を教えてもらう}

Lan: *Cầm {thế này/*thế/*thế kia} nhé!*
持つ コ/ソ/ア [文末詞 (軽い命令)]

John: {Thế này/*Thế/*Thế kia} á?
 コ/ソ/ア [文末詞 (疑問)]

ラン: こう持つのよ。

ジョン: こう?

- (161) {ミン君がノートに「うちの母、マジでうるせー」と落書きしたら、お母さんに見られた。ミン君のお母さんがそのノートを持ちながら}

Con dám viết {thế này/*thế/*thế kia} hả!
2 (子供) あえて~する 書く コ/ソ/ア [文末詞 (疑問)]
よくこういう風に書けたわね!

- (162) {ランがジョンに高級なプレゼントを渡された}

Lan: Món quà quý {thế này/*thế/*thế kia}
[類別詞 (品)] プレゼント 貴重 コ/ソ/ア
 mà cho Lan à?

[関係詞 (のに)] くれる [人名] [文末詞 (疑問)]

ラン: こんなに高級なもの、私がもらっちゃっていいのかな?

- (163) {考古学者が穴の中に立ちながら}

Mất công đào cái hố to {thế này/*thế/*thế kia}
無くなる 労 掘る [類別詞 (個)] 穴 大きい コ/ソ/ア
 mà chẳng tìm được gì.

[関係詞 (のに)] [副詞 (否定)] 見つける [副詞 (できる)] 何
こんなに大きな穴を掘ったのに何も見つからないなんて。

- (164) {初めて友達の家遊びに来た}

Nhà to {thế này/*thế/*thế kia} ở sao hết?
家 大きい コ/ソ/ア 住む どのように 切れる
こんなに大きな家は使いきれないじゃない?

- (165) {おいしいケーキをご馳走になって、食べながら}

Lần đầu tiên em được ăn bánh ngon
回 初め 1 (弟/妹) [副詞 (できる)] 食べる ケーキ 美味しい
{thế này/*thế/*thế kia} đấy.
 コ/ソ/ア [文末詞 (情報提示)]

こんなにおいしいケーキははじめてですよ。

- (166) Nóng {thé này/*thé/*thé kia} chẳng muốn ăn gì,
 暑い コ/ソ/ア [副詞 (否定)] 欲しがる 食べる 何
 chỉ muốn ăn kem.
 [副詞 (だけ)] 欲しがる 食べる アイスクリーム
 こんなに暑い時は何も食べたくない。アイスクリームしか食べたくない。

その一方、(167)のような遠くに離れている指示対象である「敵」の多さの程度を表す場合は、[+現場]の遠称の *thé kia* が用いられる。(168)も(167)と同様に、遠くに離れている「家」を指しながら、対象の性質(「大きい」)を表すので、遠称の *thé kia* が使われる。

- (167) {50メートル離れた所にいる敵を見ながら}
 Dịch đông {*thé này/?thé/thé kia} sao?
 敵 多い コ/ソ/ア [疑問 (疑問)]
 敵はあんなに多かった?

- (168) {30メートル離れた所から別荘地の家を見ながら}
 Ai có nhà to {*thé này/?thé/thé kia} thì chắc
 誰 ある 家 大きい コ/ソ/ア [関係詞 (なら)] [助詞 (確か)]
 giàu lắm.
 金持ち [副詞 (とても)]
 あれくらい大きな家を持っている人は大金持ちでしょうね。

また、前章に言及されているように、以下の(169)と(170)は聞き手に属する「(喧嘩後の)顔」または「(シャツ一枚の)格好」(=指示対象)の様態を指す場合であるが、*thé kia* も *thé* も使用されることがある。ただし、*thé kia* を用いると話し手が対象に対して非常に驚いたり非難したりする気持ちを表すという語用論的効果が出てくる。この場合は、指示対象との間に疎遠感を感じる話し手は、対象を「遠」であると判断し、遠称の *thé kia* を選ぶのであろう。一方、ただ聞き手の様子を表しながら指示する場合は *thé* が使用される。なお、同例において、話し手(母)が聞き手(子供)の近くにいる場合なら *thé này* を使うこともある。

- (169) {部屋に入ってきた子供の顔を見てびっくりする母}
 Con làm sao mà mặt mũi thành ra
 2 (子供) する どのように [関係詞 (のに)] 顔 鼻 なる
 {thé này/thé/thé kia} hả? Lại đánh nhau
 コ/ソ/ア [文末詞 (疑問)] [副詞 (再び)] 喧嘩する

với ai à?
 [関係詞 (と)] 誰 [文末詞 (疑問)]
 どうして顔はそうなの？また誰かと喧嘩したの？

- (170) {真冬にシャツ一枚で出かけようとする子供を見てびっくりする母}
 Tròi rét thế này mà ăn mặc {thế này/thế/thế kia}
 天 寒い こんな [関係詞 (のに)] 食べる 着る コ/ソ/ア
 đi à?
 行く [文末詞 (疑問)]
 こんなに寒いのにそんな格好で行くの？

ちなみに、空間の指示詞の遠称である *kia* にもこのような用法がある。先述の(113)で見られるように、中称の *đây(đó)* と遠称の *kia* のどちらも適切であるが、*kia* を用いる時のニュアンスは *đây(đó)* とは異なる。*đây(đó)* を用いると、ただ聞き手に属するものを指示するが、*kia* を用いると、話し手が指示対象を非難しているというニュアンスが出てくる。また、*thế này* と *thế kia* はどちらも[+現場]であるが、「近・遠」で区別されるという特徴から、対になって「ああこう」「あれこれ」という意味で用いられることもある(例(171)~(173))。なお、空間の指示詞にも同様な形が観察される。

- (113) Xuân Lan: Chúng ta phải hi sinh bản thân chúng ta
 私たち [動詞 (べき)] 犠牲する 自分自身 私たち
 đi. Chúng ta phải từ bỏ dục tính.
 [副詞 (命令)] 私たち [動詞 (べき)] 諦める 欲情
 Chung: Tôi không tin Xuân Lan...
 1 (私) [副詞 (否定)] 信じる [人名]
 Xuân Lan không dám thành thực với mình.
 [人名] [副詞 (否定)] あえて~する 誠実 [関係詞 (に)] 自身
 Cái áo xẻ tà {*này/ây(đó)/kia}, một chút
 [類別詞 (個)] ブラウス 裂く 裾 コ/ソ/ア [副詞 (少し)]
 son phấn trên khóe miệng {*này/ây(đó)/kia}, bộ trang phục “môden”
 化粧 上 口元 コ/ソ/ア [類別詞 (着)] 服装 モダン
 {*này/ây(đó)/kia}...Tất cả là tố cáo, là bằng chứng
 コ/ソ/ア すべて [コピュラ] 告訴 [コピュラ] 証拠
 của dục vọng.
 [関係詞 (の)] 欲望
 スァン・ランさん：私たちは自分自身を犠牲にすべきです。欲望を捨てるべき

です。

チュンさん：僕はスアン・ランを信じません。あなたは自分自身に素直になっていないのです。その裾が開いたブラウス、その口元にみえるほんの少しの化粧、そのモダンな服装、すべてが欲望を訴える証拠です。

(Nguyễn H.T. 2012:184)

(171) Hôm nay thì nói thế này, ngày mai lại nói thế kia.

今日 [関係詞] 言う こう 明日 [副詞 (再び)] 言う ああ
今日はこう言って、明日はまたああ言う (=違うことを言う)。

(172) Người nói thế này, người nói thế kia. Chẳng biết đâu

人 言う こう 人 言う ああ [副詞 (否定)] 知る どこ
mà tin.

[関係詞 (のに)] 信じる

この人はこう言って、違う人はまたああいう (=違うことを言っている)。誰を信じたらいいか分からない。

(173) Đến muộn rồi còn đòi hỏi thế này thế kia.

来る 遅れる [副詞 (完了)] [関係詞 (まだ)] 要求する こう ああ
遅刻してきたくせに、ああやこうや要求するなんて...

このように、対象が知覚できるものであり、話し手の近くにあるものを指すなら *thế này* が、話し手から遠くに離れたものを指すなら *thế kia* が選ばれる。さらに、この「近・遠」の対立から *thế này* と *thế kia* が対になって「ああこう」「あれこれ」という意味で用いられることもある。その一方、次の(174)と(175)に示されているように、*thế này* は発話時点に可視的でない対象を指すこともできる。

(174) {酔っ払った夫が帰ってきたのを見て嫌がっている妻が、すぐ隣の部屋に行って友人に電話し、愚痴を言う}

Trước khi cưới nếu biết là người

前 時 結婚する [関係詞 (もし)] 知る [コピュラ] 人

như {thế này/thế/*thế kia} thì đã

[関係詞 (如く)] コソノア [関係詞 (なら)] [副詞 (過去)]

không chọn!

[副詞 (否定)] 選ぶ

結婚する前にこういう人だと知っていたら選ばなかったのに！

- (175) Tháng này ngoài ngày Chủ nhật, không có một ngày nghỉ
 今月 以外 日曜日 [副詞 (否定)] ある 1 休日
 nào khác. Sao lại có tháng vô vị {thế này/thế/*thế kia!}
 どの 他 なぜ [副詞 (また)] ある 月 無味 コ/ソ/ア
 今月は日曜日のほか、一日も休めないなんてこんなにつまんない月があるか!

(174)では話題の人物である「酔っ払った夫」、(175)では話し手自身が経験している「つまらない一ヶ月」を *thế này* で指示しながら表す。この場合は、久野 (1973:188) で言及されている日本語の指示詞のコ系と同様に、指示対象が目に見えないものではあるが、いかにも生々しく、まるで話し手の目に見えるように再現され、現場指示的色彩が強いと考えられる。すなわち、この場合に用いられる *thế này* は第3章に先述した *đây* と同様に非現場指示用法に用いられながら、[+現場]の特徴を維持していると考えられる。なお、(175)は次節で後述する[-現場]の *thế* も用いられる。(176)は、「今月」を「先月」などのような過去の時点に場面を変えれば、現場にないものを指す場合と同じく、[-現場]の *thế* が使われ、第3章に言及される非現場指示用法に用いられる近称の *đây* と中称の *đấy(đó)* の違いと同様である (3.3.2.2 参照)。

ちなみに、空間の指示詞では、近称が後方照応用法を持っているが、(176)で見られるように様態・性質の指示詞においても、近称の *thế này* が後方照応 (現場指示の一種⁴⁸) として使われる。なお、*thế kia* は非現場指示では用いられない。

- (176) Chuyện là {thế này/*thế/*thế kia}: sáng nay, trên đường đi học...
 話 [コピュラ] コ/ソ/ア 今朝 上道 行く 勉強する
 こういうことなんです。今朝、学校に行っている途中...

以上のように、[+現場]の特徴を持つ近称の *thế này* と遠称の *thế kia* は現場指示で用いられ、発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す。認知主体である話し手から「近」である対象を *thế này*、「遠」である対象を *thế kia* で指すが、必ずしも物理的距離に基づくものではない。中称の *thế* が選ばれるはずの聞き手に近いまたは聞き手に属する、いわゆる「聞き手の領域」にある対象を指す場合でも、話し手がその対象を心理的に「遠」であると判断すれば、遠称の *thế kia* を選ぶこともある。また、現場にない対象を指す *thế này* も見られるが、現場指示的色彩が強く、[+現場]の特徴を維持していると言える。一方、遠称の *thế kia* は非現場指示用法に用いられないという点では空間の指示詞である遠称の *kia* と異なる。

⁴⁸ 金水・田窪 (1992) では、後方照応のコは、あるまとまった内容について説明・解説するために談話に導入した事物を解説者が指し示す場合に典型的に用いられる「解説のコ」の一種であり、現場指示とみなせると述べている。

4.3.2 [-現場]：中称の *thế*

[-現場]の *thế* は発話現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指示する。*thế* は非現場指示用法を基本用法としているが、現場指示用法に用いられる *thế* も見られる。ただし、現場指示の *thế* は[-現場]の特徴を維持しており、「近・遠」の特定ができない時に使用される。

・非現場指示用法に用いられる *thế*：

指示対象が目の前に存在していない時は、基本的に [-現場]の *thế* が用いられる。次の(177)~(179)のような可視的でない対象（「(がみがみ言った) 母」、「(おいしかった) ケーキ」、「(たくさん配った) チラシ」）を指す場合なら、全て *thế* で指すことができる。ただし、(177)では *thế này* を使うこともあるが、これも発話現場からいなくなった指示対象（(がみがみ言った) 母）を、目の前にあるかのように生き生きと強調して叙述する場合に限られる。*thế kia* は(177)~(179)では用いられない。

(177) {母に叱られたランが父に愚痴る}

Lan: *Hồi con còn nhỏ, có bao giờ mẹ nặng lời*
 頃 1 (子共) [副詞 (まだ)] 小さい ある いつ 母 重い 言葉
 {*?thế này/thế/*thế kia*} *đâu.*
 コ/ソ/ア [文末詞 (完全否定)]

ラン：小さいころは、母にあんなにがみがみ言われなかった。

(178) {おいしいケーキをご馳走になって、次の日に会ってお礼を言う}

Lần đầu tiên em được ăn bánh ngon
 回 初め 1 (弟/妹) [副詞 (できる)] 食べる ケーキ 美味しい
 {**thế này/thế/*thế kia*}. *Cám ơn chị!*
 コ/ソ/ア 感謝する 2 (姉)

あんなに美味しいケーキははじめてです。ありがとうございました！

(179) {講演会のチラシを前日にたくさん配っていたのに誰も来ず、困っているミンとラン}

Minh: *Phát nhiều {*thế này/thế/*thế kia} mà không*
 配る 多い コ/ソ/ア [関係詞 (のに)] [副詞 (否定)]
một ai đến ư?

1 誰 来る [文末詞 (疑問)]

ミン：あんなに配ったのに一人も来ない？

・現場指示用法に用いられる **thé** :

一方、拡張用法としての現場指示用法に用いられる **thé** も存在している。それは、指示対象が一度言及されたものを指し示す場合と、指示対象が「近」か「遠」か特定できない場合に用いられる **thé** である。前者については、前述の通り、(167)のような遠くに離れている指示対象である「敵」の程度を表す場合は、[+現場]の遠称の **thé kia** が用いられる。が、以下の(180)のように、対象(敵)が先行発話で既に言及されたものであれば、**thé kia** より中称の **thé** が適切になる。

(167) {50メートル離れた所にいる敵を見ながら}

Địch đông {*thé này/?thé/thé kia} sao?
敵 多い コ/ソ/ア [疑問(疑問)]
敵はあんなに多かった?

(180) {50メートル離れた所にいる敵を見ながら部下が大將に報告する}

Cấp dưới: Địch có ít nhất 5 nghìn tên a.
敵 いる 少ない 一番 千 [類別詞(人)] [文末詞(丁寧)]
Đại tướng: Địch đông {*thé này/thé/*thé kia} sao?
敵 多い コ/ソ/ア [文末詞(疑問)]
部下: 敵は少なくとも5千はいます。
大將: そんなに多かった?

さらに、(168)においても、遠くに離れている「家」を指しながら、対象の性質(「大きい」)を表すので、遠称の **thé kia** が用いられる。(181)では、(168)と同じく、指示対象である「ランさんの家」が先行発話に言及されているものであるため、**thé** が用いられる。ただし、いずれにおいても、話し手がその現場から離れると **thé** しか使えなくなる。

(168) {30メートル離れた所から別荘地の家を見ながら}

Ai có nhà to {*thé này/?thé/thé kia} thì chắc
誰 ある 家 大きい コ/ソ/ア [関係詞(なら)] [助詞(確か)]
giàu lắm.
金持ち [副詞(とても)]
あれくらい大きな家を持っている人は大金持ちでしょうね。

(181) {30メートル離れた所から}

John: Kia là nhà của Lan đấy!
あれ [コピュラ] 家 [関係詞(の)] [人名] [文末詞(情報提示)]

Minh: Nhà to {*thế này/thế/*thế kia} chắc giàu lắm!
 家 大きい コ/ソ/ア [助詞(確か)] 金持ち [副詞(とても)]

ジョン：あれはランさんの家だよ。

ミン：あんなに大きな家！きっと大金持ちでしょうね。

この *thế* は、第3章に言及されている *đầy(đó)* と同様に、話し手と聞き手が指示対象に対して注意を向けられる場合に用いられ、すなわち対象に関する情報の認知を表すものである。対象に対する情報とは対象に対する知識と同じように扱うことができるので、記憶の中にある事物と同じように思われる。よって、この *thế* の用法は、現場指示でありながら、[-現場]の特徴を維持していると言える。

また、指示対象が「近」か「遠」か特定できない場合に使われる *thế* については、以下の(182)～(185)を見られたい。(182)では、聞き手(=指示対象)が行う動作「凧揚げをする」の様態、(183)と(184)では聞き手(=指示対象)の「うれしい」、「興奮する」という様子、(185)では聞き手(=指示対象)に属する性質「歌がうまい」を、いずれも中称の *thế* で指しながら表す。

(182) {ランが凧揚げをするのを見ているジョン}

John: Chơi kiểu như {*thế này/thế/*thế kia} à?
 遊ぶ 形 [関係詞(如く)] コ/ソ/ア [(文末詞(疑問))]

ジョン：そんな風に遊ぶの？

(183) {バラの花をもらったランを見ているジョン}

John: Được tặng có một bông hoa mà
 もらう あげる[助詞(だけ)] 1 [類別詞(本)] 花 [関係詞(のに)]

Lan vui đến {*thế này/thế/*thế kia} cơ à?
 [人名] うれしい まで コ/ソ/ア [(文末詞(評価))][文末詞(疑問)]

ジョン：花一本もらったぐらいで、そんなにうれしいかい？

(184) Bạn đọc cái gì mà khoái chí {*thế này/thế/*thế kia?}

2 (友達) 読む 何 [関係詞(のに)] 興奮する コ/ソ/ア

何を読んで、そんなに興奮してるの？

(185) Minh hát hay như {?thế này/thế/*thế kia} thì

[人名] 歌う いい [関係詞(如く)] コ/ソ/ア [関係詞(なら)]

trở thành ca sĩ được đấy!

なる 歌手 良い [文末詞(情報提示)]

ミン君、それだけ歌がうまかったら歌手を目指してもいいんじゃない。

(182)~(185)の *thé* は、聞き手に近いまたは聞き手に属するいわゆる聞き手の領域にあるものを指示する場合に用いられるものである。この場合は、前章に言及しているように、話し手は対象との距離を特定する際に、認知空間にあるのは話し手と対象のみであり、対象が自分から近いか遠いかという二つの選択肢しかない。だが、対象が聞き手に近い（あるいは聞き手に属する）ものだと、話し手は聞き手が認知空間に存在していることを無視できない。そのため、指示対象との距離を測りづらくなる。そこで、最終的手段として「近・遠」の特定ができない場合に選ばれる中称の *thé* が用いられるのであると考えられる。よって、現場指示用法に使用される *thé* は依然として[-現場]の特徴を維持していると言える (3.4.2.3 参照)。

ちなみに、本稿のアプローチとは異なるが、4.1 で述べたように、先行研究では *thé* (あるいは同じ用法を持つ *vây*⁴⁹⁾ には、直示用法と照応用法があるとされている。上記の(177)~(185)は先行研究で言う直示用法に当たるものであり、次の(186)~(188)は(前方)照応用法に当たるものである。すなわち、対話では、*thé* は先行発話の句・節、あるいは発話全体を承けることができる。以下の(186)と(187)では、先行発話の「顔を見てあざ笑った」、「ノートを貸す」を、(188)では「ベトナム人？」という発話全体を指している。なお、これらの例では、いずれも *thé này* と *thé kia* を用いることができない。

(186) *Cấp trên: Rõ ràng mà y đã nhìn vào mặt tao*
明らか 2 (お前) [副詞 (過去)] 見る 入る 顔 1 (俺)
rồi cười khẩy.
[関係詞 (それから)] あざ笑う
Cấp dưới: Không a, em đâu dám
[副詞 (否定)] [文末詞 (丁寧)] 1 (弟) [副詞 (否定)] あえて~する
*làm việc thất lễ như {*thé này/thé/*thé kia} a.*
すること 失礼 [関係詞 (如く)] コ/ソ/ア [文末詞 (丁寧)]
上司: たしかに俺の顔を見てあざ笑ったぞ。
部下: いや、そんな失礼なことは...

(187) *Minh: Lan đã nói sẽ cho Minh mượn*
[人名] [(副詞) 完了] 言う [(副詞 (未来))] あげる [人名] 貸す
vở mà!
ノート [文末詞 (反駁)]

⁴⁹ 様態・性質としての *vây* は、基本的に、中部・南部方言で用いられる。

Lan: Lan có nói {*thé này/thé/*thé kia} à?
[人名] ある 言う コ/ソ/ア [文末詞 (疑問)]

ミン: ノートを貸してくれるって言ったのに!

ラン: そう言ったっけ?

(188) A: Người Việt à?

人 越 [文末詞 (疑問)]

B: Vâng, đúng {*thé này/thé/*thé kia}.

[感動詞 (応答)] 正しい コ/ソ/ア

A: ベトナム人?

B: はい、そうです。

この *thé* の (前方) 照応用法は統語的特徴であり、本研究で主張している意味論・語用論的特徴付けである[±現場]とは直接関係しないが、対話での先行発話の句・節、あるいは発話全体を承けるというのは、言い換えれば先行発話に言及されたものを指示すると同様である。先行発話に言及されたものとは、前述の通り、話し手と指示対象との距離に関わるものではなく、対象に対する情報に関わるものであるため、記憶の中にある事物と同じように思われる。本研究が提案している[+現場]の定義によれば、先行発話に言及されたものを指し示す指示詞の特徴は[+現場]ではなく、[-現場]である。すなわち、この場合に用いられる *thé* も依然として[-現場]の特徴を持つと考えられる。

このように、[-現場]の特徴を持つ *thé* は、現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指す。発話の現場に存在しなければ、どんな対象でも *thé* で指すことができるという典型的な非現場指示用法を持つ。また、[-現場]の特徴を持つ、すなわち目に見えない対象を指すため、*thé* は指示対象との距離を考慮する必要がない時に用いられるものであると言える。現場指示用法に用いられる *thé* もこの特徴を保持しており、記憶にあるものを指示する場合と同じであると考えられる一度言及された対象、または「近・遠い」と特定ができないとされる聞き手の領域にある対象を指し示す。

4.4 第4章のまとめ

本章では、第2章で提案した指示詞の特徴付けである[±現場]をベトナム語の様態・性質の指示詞 (日本語で言う指示副詞) にも当てはめ、その妥当性を検証した。様態・性質の指示詞については、これまでの先行研究では、中称の *thé* を中心に記述しており、指示詞の一種として扱わないものが多く、その指示対象に関する言及も見られない。そのため、本章では、日本語の指示副詞に関する先行研究を踏まえた上で、様態・性質の指示詞が「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持ち、その指示対象は動作・

作用の主体自体、または性質・性状が形容されるもの自体であることを主張した。それを前提とし、様態・性質の指示詞の用法について、以下のようにまとめられる。

・様態・性質の指示詞も空間の指示詞と同様に、*thé này-thé-thé kia*（近称・中称・遠称）の三系列を持つ。指示詞の一種としての *thé này-thé-thé kia* にも指示を行いたい対象が存在する。様態・性質の指示詞は「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持ち、指示対象は動作・作用の主体自体、または性質・性状が形容されるもの自体であり、空間の指示詞が指し示す対象とは異なる。

・[+現場]の特徴を持つ *thé này* と *thé kia* は、話し手（認知主体）にとって「近」または「遠」であるとみなされる対象を指示するという典型的な現場指示用法を持つ。前章の *đây* と *kia* とは異なり、*thé này* と *thé kia* は基本的に現場指示用法にしか用いられない。なお、非現場指示用法に用いられるように見られる *thé này* もあるが、現場指示の延長とも考えることができ、近称の指示詞が持つ[+現場]の特徴を依然として維持している。一方、[-現場]の特徴を持つ *thé* は現場に存在しているとみなされない、あるいは話し手の記憶にある対象を指し示すという典型的な非現場指示用法を持つ。すなわち、対象は現場になれば、全て *thé* で指示することができる。また、拡張用法として現場指示用法に用いられる *thé* は、一度言及されたものや、動作主体である聞き手（＝指示対象）あるいは聞き手に近い（または属する）といった「聞き手の領域」にあるものを指示する。いずれにせよ、[-現場]の特徴を依然として維持していると言える。空間指示とは異なり、様態・性質の指示において、近称 *thé này* と遠称 *thé kia* の非現場指示用法が完全に見られなくなることは、本研究が主張している指示詞を一般化するための素性である[±現場]の妥当性を示す根拠となるだろう。

・統語的には、中称の *thé* は前方照応用法を持ち、対話における先行発話にある句・節、あるいは発話全体を承けることができる。近称の *thé này* と遠称の *thé kia* にはこのような用法がない。

第五章 空間から時間へ

5.1 指示詞の時間指示をめぐって

ダイクシス（直示、deixis）とは、発話の場面と相関して解釈が決まる表現体系であり、ダイクシス表現には、人称（代名）詞、指示詞、時間の表現の一部、移動動詞などが挙げられる。ダイクシスの一種である指示詞には、その時間指示も存在している。この指示詞の時間指示は、空間指示の抽象化による意味拡張であるとしている先行研究が多いが、元となる空間指示との関連性に関する記述は少ない。本章では、これまでの指示詞の時間指示に関する先行研究を踏まえ、第3章に提唱した指示詞の特徴付けである[±現場]による（空間）指示との関連性について論じる。まず、以下に指示詞の時間指示についてのこれまでの記述を挙げよう。

富田（2000:86）では、指示（代）詞の派生として時間を指し示す近称の *lúc này*（この時）、*bây giờ*（今）、*hôm nay*（今日）、*lúc này/khi này/hồi này*（さっき）、中称の *lúc ấy/lúc đó*（そのとき）、遠称の *lúc kia*（あの時）があると記述されている。また、Nguyễn P.P.（2002）では、*đây* と *nay* は「今」を表し、*đấy(đó)*は過去や未来にある時点を表す。*kia* は、*hôm kia* 「一昨日」や *ngày kia* 「明後日」のように過去も未来も意味すると述べている。以下に、第1章に言及している富田の指示詞の分類を再掲する。

	指示・疑問代詞												
	(真性)				(派生)								
	場所	指示	程度	様態	物	人	場所	方向	性質・様態	時点	時間	数量	原因・理由
近称	「ここ」 <i>đây</i>	「この」 <i>này</i> (<i>nay</i>) (<i>nây</i>)	「これほど」 <i>bây</i>	「このよう」 <i>vậy</i>	「これ」 <i>cái này,</i> <i>đây</i>	「この人」 <i>người này,</i> <i>đây</i> [自分]	「ここ」 <i>chỗ này</i>	「こちら」 <i>phía này,</i> <i>đang này</i> (具体的)	「このよう」 <i>(nhu) thế này</i>	「このとき」 <i>lúc này</i> 「今日」 <i>hôm nay</i> 「さっき」 <i>lúc này</i> <i>khi này</i> <i>hồi này</i>	「今」 <i>bây giờ</i>	「これぐらい」 <i>bây nhiêu</i>	
中称	「そこ」 <i>đấy,</i> <i>đó</i>	「その」 <i>ấy,</i> <i>đó</i>	「それほど」 <i>bấy</i>	「そのよう」 <i>vậy,</i> <i>thế</i>	「それ」 <i>cái ấy,</i> <i>cái đó,</i> <i>đấy,</i> <i>đó</i>	「その人」 <i>người ấy,</i> <i>người đó,</i> <i>đấy</i> 「あなた」	「そこ」 <i>chỗ ấy,</i> <i>chỗ đó</i>	「そちら」 <i>phía ấy,</i> <i>phía đó,</i> <i>đang ấy,</i> <i>đang đó</i>	「そのよう」 <i>(nhu) thế ấy,</i> <i>(nhu) thế đó</i>	「そのとき」 <i>lúc ấy,</i> <i>lúc đó</i>	「そのとき」 <i>bấy giờ</i>	「それほど長い時間」 <i>bấy lâu</i>	「それぐらい」 <i>bấy nhiêu</i> 「さうだか ら」 <i>vi vậy,</i> <i>vi thế</i>
遠称	「あそこ」 <i>kia</i>	「あの」 <i>kia</i>			「あれ」 <i>cái kia,</i> <i>kia</i>	「あの人」 <i>người kia</i>	「あそこ」 <i>chỗ kia</i>	「あちら」 <i>phía kia,</i> <i>đang kia</i>	「あのよう」 <i>(nhu) thế kia</i>	「あのとき」 <i>lúc kia</i>			
不定称 (疑問)	「どこ」 <i>đâu</i>	「どの」 <i>nào</i>	「どれほど」 <i>bao</i>	「どのよう」 <i>sao</i>	「どれ」 <i>cái nào</i> 「何」 <i>gì,</i> <i>cái gì</i>	「どの人」 <i>người nào</i> 「誰」 <i>ai</i>	「どこ」 <i>chỗ nào,</i> <i>nơi nào</i>	「どちら」 <i>phía nào,</i> <i>đang nào</i>	「どのよう」 <i>(nhu) thế nào,</i> <i>làm sao</i>	「いつ」 <i>lúc nào,</i> <i>khí nào,</i> <i>hồi nào</i>	「いつ」 <i>bao giờ</i> 「何時(に)」 <i>(lúc) mấy</i> <i>giờ</i>	「どれほど長い時間」 <i>bao lâu</i> 「何時間」 <i>bao nhiêu</i> <i>mấy giờ</i> <i>đồng hồ</i> 「何分間」 <i>mấy phút,</i> <i>bao nhiêu</i> <i>phút</i>	「なぜ」 <i>vi sao,</i> <i>tại sao,</i> <i>làm sao,</i> <i>vi lẽ gì,</i> <i>vi cớ gì</i>

(表2) 富田（2000）によるベトナム語の指示・疑問代詞の分類

Nguyễn Đ.D. (2009) では、指示詞の時間指示については、近称の *đây/này*、中称の *ây/đây(đó)*、遠称の *kia* が以下のように用いられるとされている。

・近称の *đây/này* は、発話時（すなわち「今」、または「今」を含む時間）を指し示す（*giờ đây* 「今・現在」、*gần đây* 「最近」、*lúc này* 「この時」、*tuần này* 「今週」など）。*này* の異形態として *nay* と *nãy* があるが、前者は *nay* と同じく「今」または「今」を含む時間を指すのに対し、後者は近い過去を指す（*hiện nay* 「現在」、*hôm nay* 「今日」、*ban nãy* 「さっき」、*vừa nãy* 「ついさっき」）。ただし、*này* と *nay* については、次の(189)と(190)に見られるように、*tháng này* はその月の間なら、どの日にも用いることができるが、*tháng nay* は月末にしか用いられないという違いがある。

(189) *Tháng này tôi phải hoàn thành phần việc*
月 この 1 (私) [動詞 (べき)] 完成する 分 事
được giao.
[副詞 (受身)] 与える
今月分の与えられた仕事を完成しなければならない。

(190) *Cả tháng nay tôi chả làm được*
全て 月 この 1 (私) [副詞 (否定)] する [副詞 (できる)]
việc gì cả.
事 何 [副詞 (完全否定)]
この一ヶ月は何もできなかった。

(Nguyễn Đ.D 2009:6)

・中称の *ây/đây(đó)* は、遠い過去にある時点を示す（*lúc ấy* 「その時・あの時」、*năm ấy* 「その年・あの年」、*sau đây* 「その後・あの後」、*hồi đây* 「その頃・あの頃」など）。

・遠称の *kia* も、遠い過去にある時点を示す（*hôm kia* 「一昨日」、*năm kia* 「一昨年」、*xưa kia* 「昔」など）。ただし、例外として未来にある時点を示すこともある（*ngày kia* 「明後日」）。

Bui L.T. (2014) では、指示詞が時間を表す場合は、主に近称と遠称が使われ、近称の指示詞である *này* と *đây* は発話時を含む時間である「今」を表す（例(191)の *mới đây* 「つい最近」、例(192)の *giờ này* 「この時」）。遠称の *kia* は過去または未来の方向にある時間を指すのに対し、*no* は過去にしか用いられない（例(193)～(195)の *trước kia* 「以前」、*ngày kia* 「明後日」、*hôm no* 「この間・この度」）。空間の指示には用いられず時間指示

としてしか現れない nay と nãy は、それぞれ発話時「今」または発話時を含む時と、近い過去を指示する (hôm nay 「今日」、lúc nãy 「さっき」) と主張している。

- (191) Quán ấy trước chỉ bán thuốc, bán nước...
store DEM.DIST before only sell cigarette sell water
Mới đây đổi sang quán ăn.
new DEM.PROX change across store food
'That store used to sell cigarettes, drinks... Recently đây (it) has changed into food-store.'

(Bui L.T. 2014:79)

- (192) Giờ này các hiệu đóng cửa rồi.
hour DEM.PROX PL shop close door already
'All of the shops are closed at hour này (-this time).'

(Bui L.T. 2014:71)

- (193) Trước kia, văn hóa Hà Nội là văn hóa Thăng Long
front DEM.DIST culture Hanoi COP culture Thang Long
'Before kia, Hanoi culture was (featured as) Thang Long culture.'

(Bui L.T. 2014: 83)

- (194) Hôm nay học toán thì mai học hóa và ngày kia sẽ
today study math TOP tomorrow study chemistry and day DEM.DIST ASP
học môn lý...
study CL physics
'(If) today (he) self-studies math, (he'll) do chemistry tomorrow and physics on ngày kia (the day after tomorrow).'

(Bui L.T. 2014:83-4)

- (195) Hôm nọ, một thằng bạn rủ nó tới câu lạc bộ.
day DEM.DIST a/one CL.boy friend entice 3SG come club
Hôm nọ, one of his friends enticed him to a club.

(Bui L.T. 2014: 86)

Components of temporal DEMs	DEMs	Meaning
Pure temporal DEMs	<i>này</i>	present
	<i>này</i>	past
Spatial DEMs	<i>đây</i>	present
	<i>này</i>	present
	<i>kia</i>	past/future
	<i>ở</i>	past

(表 15) Bui L.T. (2014) によるベトナム語の指示詞の時間指示

このように、指示詞の時間指示について、空間では近称とされる指示詞は時間を指示する場合、発話時や発話時を含む時間、または発話時から近い時を指し示す。空間では遠称とされる指示詞は過去または未来の方向にある時を意味すると、先行研究では記述されている。それに対し、空間では中称とされる指示詞に関しては、過去（または未来）にある時点を指し示す、時間を指示できるが照応的にしか用いられないといった諸説がある。また、冨田（2000）、Nguyễn Đ.D.（2009）と Bui L.T.（2014）では、これらの指示詞の時間指示としての用法は空間指示からの派生的な用法であるとされている。他方、Nguyễn P.P.（2002）は、それは空間から時間への意味拡張というより、これらの指示詞には空間的意味・時間的意味を合わせて持つことを示すと主張している。本稿では、前者の立場を取りながら、次節で金子（1995）による指示の時間表現の分類に基づき、ベトナム語の指示詞の時間指示の分類とその用法を再確認する。それを踏まえながら、前章に言及した指示詞の空間を指示する用法との関連性を明確させる。さらに、指示詞の元となる空間指示・時間指示の機能から文末詞としての機能への転用についても、第6章で後述する。

5.2 ベトナム語の指示詞における時間指示の機能

金子（1995）では、言語の時間表現は基本的なものとして、語彙アスペクト、アスペクト形式、時制と指示の時間表現がある。語彙アスペクトとアスペクト形式は、状況の内部の過程的時間の表示であり、発話時間と独立した時間である。時制は、発話時間と事態の表示状況との間の相対的関係を表す時間である。指示の時間表現は、時制より具体的かつ詳細に表示状況の成立時間を指示する。この指示の時間表現は、原則的に、直示的指示（基本的直示・派生的直示）、文脈的指示、述語的指示の3種類に分類できる。基本的直示「今」は、発話そのものの成立の時間を自己参照的に指示する要素であって、発話時間を明示させる基本的な時間指示である⁵⁰。派生的直示とは、発話時間を基点と

⁵⁰ただし、金子（1995）では、発話時間とその表示である基本的直示とは区別されなければならない。すなわち、基本的直示が一般に発話時間そのものではない。例えば、基本的直示の代表である「今」も発話時間を含む一定の時間帯を指示すると述べている。

して計算される時間指示である。例えば、発話時間を含む一日が {今日} であり、「今日」を含む一周が「今週」、発話時間を含む年の前の年が「去年」である。一方、文脈的指示は、発話時間を含むとは限らない時間の指示である。なお、述語的指示は「イタリアへ行ったとき」のような述語文によって時間が指示されている場合であるという（金子 1995:423-4）。

上記の金子（1995）による分類を踏まえ、本稿では、ベトナム語における指示詞の時間指示について、発話時を参照点とする「直示的指示」と発話時を参照点としない「非直示的指示」とに分けることとする。近称と遠称は直示的指示で、中称は非直示的指示である。具体的に、近称では、*đây/nay* は発話そのものの成立の時間を自己参照的に指示し、発話時またはそれを含む時間を明示させる時間指示である。*nay/này* は発話時を参照点として計算される時間指示であるが、発話時を含む時間を指すこともある。*nãy* は、発話時に近接する過去を表す時間指示である。遠称では、*kia/kià* は基本的に発話時を参照点として計算される時間を指示するが、発話時から遠い過去・未来の時間を指すこともある。一方、中称の *đây(đó)/áy* は発話時を参照点としない時間を指示する典型的な非直示的指示であると主張したい。次節では、指示詞の時間指示に関する先行研究の記述を確認しながら、この主張の妥当性を示していく。

(196) ベトナム語における指示詞の時間指示の分類：

直示的指示	非直示的指示
近称： <i>đây/nay/này/nãy</i> 遠称： <i>kia/kià</i>	中称： <i>đây(đó)/áy</i>

5.2.1 直示的指示としての近称の *đây/nay/này/nãy*

5.2.1.1 *đây*

đây は、単独形で代名詞として、以下の(197)～(201)に見られるように、*đây* 自身が発話時を明示させる時間指示の機能を持つ。(197)～(199)での *cách đây 3 năm/cách đây không lâu*、または *5 năm tới đây* は、発話時を指示する *đây* が動詞の *cách* と *tới* に先行されることにより、*đây* (=今) を参照点とする「今から3年前」、「今から少し前」または「これから5年間」という過去または未来の時間を意味する。一方、(200)と(201)での *sau đây/trước đây* は、発話時を指示する *đây* が関係詞の *sau/trước* に先行されていることにより、*đây* (=今) を参照点とする過去（「今から2分前」）または近い未来（「この後すぐ」）の時間を意味する。

- (197) Cách đây 3 năm tôi có gặp anh ấy ở trường.
 隔てる コ 年 1 (私) ある 会う 彼 [関係詞 (で)] 学校
 私は (今から) 3 年前に彼に学校で会った。
- (198) Tôi mới đi Nhật cách đây không lâu.
 1 (私) [副詞 (ばかり)] 行く 日本 隔てる コ [副詞 (否定)] 久しい
 私は (今から) 少し前に日本へ行ったばかりです。
- (199) Bác sĩ được dự đoán là một trong những
 医師 [副詞 (受身)] 予測する [コピュラ] 1 中 [名詞 (複数)]
 ngành nghề được ưa chuộng nhất trong 5 năm tới đây.
 職業 [副詞 (受身)] 人気 一番 中 年 来る コ
 医師はこれから 5 年間で一番人気のある職業の一つだと予想されている。
- (200) Sau đây, xin mời các bạn thưởng thức ca khúc
 後 コ 請う 招く [名詞 (複数)] 2 (友達) 鑑賞する 曲
 “Em và tôi”.
 弟/妹 [関係詞 (と)] 私
 この後すぐ、「君と僕」という曲をお聞きください。どうぞ。
 (=つづきまして、「君と僕」という曲をお聞きください。どうぞ!)
- (201) Cô ấy vừa gọi 2 phút trước đây.
 彼女 [副詞 (ばかり)] 呼ぶ 分 前 コ
 彼女から 2 分前に電話があった。

また、次の(202)～(205)に示されるように、代名詞としての *đây* はそれぞれ「この時代」、「この時」、「この時期」、「今回」を意味しており、発話時を含む時間帯を指示する。この *đây* は、発話時を表す代名詞の *bây giờ* (「今」) と同じ意味を持ち、(202)～(204)は *bây giờ* と入れ替えることができる。ただし、(205)のように、回数を指し示す場合は、*đây* (=今回) の代わりに *bây giờ* を用いることができない。なぜならば、*bây giờ* は時点または時間を表す場合にしか使用できないからである。

- (202) Ông Nhân: Hòa thượng! Đây đang là thời mạt pháp.
 和尚 コ [副詞 (現在進行)] [コピュラ] 時代 末法
 ニャンさん：和尚さん！今は末法の時代です。

(Nguyễn H.T. 2012:37)

(203) Đây là lúc phải hành động dứt khoát.
コ [コピュラ] 時 [動詞 (べき)] 行動する 思いきる
今は思い切って行動する時だ。

(204) Đây là thời điểm thuận lợi để thành lập
コ [コピュラ] 時点 有利な [関係詞 (ために)] 設立する
công ty liên doanh.
会社 合弁
今は合弁会社を設立するのにちょうど良い時期だ。

(205) Lan: Thế đây là lần đầu em lên chùa
[関係詞 (それでは)] コ [コピュラ] 初回 2 (弟/妹) 上がる 寺
à?
[文末詞 (疑問)]

Thủy: Vâng... Đây là lần đầu chị ạ...
[感動詞 (応答)] コ [コピュラ] 初回 2 (姉) [文末詞 (丁寧)]
ラン：で、今回は初めてお寺にお参りに来たの？
トウイ：はい、お姉さん。今回は初めてです。

さらに、次の(206)～(210)のように、đây は形容詞の mới (「新しい」)、gần (「近い」) に後続し、mới đây/gần đây の形で、発話時を含む過去の時間 (「(つい) 最近」、「この頃」) を表したり、名詞の trước に後続し、trước đây の形で、発話時を含む過去の時間 (「以前」) を表したりする。他に、(211)と(212)のように、関係詞の từ/rồi に先行し、từ đây/rồi đây の形で、発話時を含む未来の時間 (「これから」、「今後」) を意味する。このように、đây は発話時または発話時を含む時間帯、すなわち発話時を参照点とする時間を指示するものであると言える。

(206) Các cuộc nghiên cứu mới đây tại
[名詞 (複数)] [類別詞 (席)] 研究 新しい コ [関係詞 (で)]
bệnh viện cho biết gì về việc dùng máu?
病院 知らせる 何 [関係詞 (について)] 事 使う 血
病院を対象とした最近の調査により、血液の使用に関してどんなことが明らか
になっていますか。

(207) Chuyện vừa xảy ra mới đây thôi.
話 [副詞 (ばかり)] 起こる 新しい コ [文末詞 (限定)]
つい最近起こったことだった。

- (208) Gần đây, các nhà khoa học đã ước lượng trái đất
 近い コ [名詞 (複数)] 科学者 [副詞 (過去)] 予測 地球
 được hình thành khoảng 14 tỉ năm trước.
 [副詞 (受身)] 形成する 約 十億 年 前
 最近、地球が約 140 億年前に形成されたと科学者によって予測されている。
- (209) Lần gần đây nhất bạn khóc là khi nào?
 回 近い コ 一番 2 (友達) 泣く [コピュラ] いつ
 あなたが最後に泣いたのはいつでしたか?
- (210) Trước đây đã từng có một cây cầu
 前 コ [副詞 (~したことがある)] ある 1 [類別詞 (基)] 橋
 ở đây.
 [関係詞 (に)] ここ
 以前はここに橋があった。
- (211) Tương lai tươi sáng bắt đầu từ đây.
 未来 鮮やか 明るい 始める [関係詞 (から)] コ
 これからの未来は明るい。(=これから明るい未来が始まる)
- (212) Rồi đây ai sẽ làm nông?
 [関係詞 (それから)] コ 誰 [副詞 (未来)] する 農業
 今後は誰が農業を担うだろう?

5.2.1.2 nay

nay も đây と同様に、代名詞として、発話時を含む時間帯を指示する。例えば、次の (213) と (214) での nay は「今」や「現在」を意味しており、上記の発話時を表す代名詞の bây giờ と入れ替えられる。また、nay も (215) と (216) のように、関係詞の đến に先行されており、từ đó đến nay/từ trước đến nay の形で、発話時を含む過去の時間（「その時から今まで」、「以前から今まで」）を意味する。一方、(217) と (218) のように、関係詞の từ に先行されており、từ nay/từ nay về sau の形で、発話時を含む未来の時間（「今後から」、「今からずっと」）を意味する。

- (213) Hà Nội nay đã khác xưa rồi.
 [地名] コ [副詞 (過去)] 違う 昔 [文末詞 (完了)]
 今のハノイは昔とは違う。

- (214) Nay con đã trưởng thành và tự lập, bố mẹ
 コ 2 (子供) [副詞 (過去)] 成長する [関係詞 (と)] 自立する 1 (父母)
 cũng không phải lo lắng nữa.
 [副詞 (も)] [副詞 (否定)] [動詞 (べき)] 心配する [副詞 (もう)]
 今はあなたが大人になって自立しているし、私たちはもう心配なくていい。
- (215) Toàn bộ tài sản từ đó⁵¹ đến nay vẫn
 全部 財産 [関係詞 (から)] ソ [関係詞 (まで)] コ [副詞 (まだ)]
 còn nguyên.
 残る 依然
 全ての財産が (あの時から) 今でもそのまま残っている。
- (216) Từ trước đến nay mọi người vẫn
 [関係詞 (から)] 前 [関係詞 (まで)] コ 全て 人 [副詞 (まだ)]
 làm vậy.
 する そう
 以前から (今まで) 皆そうしてきている。
- (217) Giá tôm từ nay đến tết âm lịch
 値段 エビ [関係詞 (から)] コ [関係詞 (まで)] 旧正月
 có thể sẽ tăng trở lại.
 [副詞 (おそらく)] [副詞 (未来)] 上がる 戻る
 エビの値段は今から旧正月までの間、再び上がるかもしれない。
- (218) Từ nay về sau đừng nói dối nữa
 [関係詞 (から)] コ 帰る 後 [副詞 (禁止)] 言う 嘘 [副詞 (もう)]
 nhé!
 [文末詞 (軽い命令)]
 これからはもう嘘をつかないでね!

また、次の(219)と(220)のように、nay は名詞の ngày/hiện (「日」、「現」) や thời (「時」) に後続し、ngày nay/hiện nay や thời nay の形で、発話時を含む近傍の時間 (「現在、今時」、「現代、今日」) を指示する。他に、xưa (「昔」) と共起して、xưa nay

⁵¹ 本稿では **đấy** と **đó** はお互いに入れ替えられるとしているが、ここでは **đấy** が用いられない。ただし、その原因については今後の課題としたい。

の形で、「昔も今も」を意味する（例(221)）。いずれにしても、nay は *đây* と同じように、発話時を含む時間帯、すなわち発話時を参照点とする時間を指示するものであると考えられる。なお、代名詞としての nay と *đây* の違いは、nay より *đây* のほうがその時間帯を明示させるニュアンスが強いだらう。

(219) Tôi không thể hiểu được suy nghĩ

1 (私) [副詞 (否定)] できる 分かる [副詞 (できる)] 考え方

của giới trẻ ngày nay/hiện nay.

[関係詞 (の)] 若者 日 コ 現 コ

今時の若者の考え方はよく分からない。

(220) So với trước kia, cha mẹ thời nay dành ít thời gian hơn

比べる [関係詞 (に)] 昔 親 時 コ 取る 少ない 時間 より良い

để trò chuyện với con cái.

[関係詞 (ために)] 話す [関係詞 (に)] 子供

今日の親たちは、一昔前の親に比べると、子どもと話す時間をあまり取っていない。

(221) Xưa nay tôi chưa từng làm việc gì

昔 今 1 (私) [副詞 (否定)] [副詞 (~したことがある)] する 事 何

có lỗi với ai.

ある 過ち [関係詞 (に)] 誰

私は昔も今も人に申し訳ないことをしたことはありません。

nay は、上記のように、単独形で発話時を含む時間帯を指示するが、修飾形で *hôm/năm* (「日・夜」、「年」) または *sáng/trưa/chiều/tối/đêm* (「朝」、「昼」、「午後・夕方」、「夜」、「深夜」) に後続し、*hôm nay/năm nay* (「今日」、「今年」)、または *sáng nay/trưa nay/chiều nay/tối nay/đêm nay* (「今朝」、「今日の昼」、「今日の午後、今日の夕方」、「今夜」、「今日の深夜」) を意味する。この nay は、金子 (1995) によれば、発話時を含む一日が「今日」であり、「今日」を含む一周が「今週」、発話時を含む年の前の年が「去年」のように、発話時を参照点として計算される時間帯を表す時間指示である。なお、*giờ/tuần/tháng* (「時」、「週」、「月」) は nay ではなく、*này* と共起して *giờ này/tuần này/tháng này* (「この時、今」「今週」、「今月」) を表す。

(222) Hôm nay là thứ Sáu, ngày 13.

日 コ [コピュラ] 金曜日 日

今日は13日の金曜日だ。

- (223) Xin lỗi anh về thái độ sáng nay của tôi.
謝る 2 (兄) [関係詞 (について)] 態度 朝 コ [関係詞 (の)] 1 (私)
今朝の私の態度は申し訳ありませんでした。
- (224) Trưa nay/chiều nay/tối nay đi xem phim nhé!
昼 コ 午後 コ 夜 コ 行く 見る 映画 [文末詞 (確認要求)]
今日の昼/今日の午後/今夜、映画を見に行こうね。
- (225) Đêm nay trăng sáng quá.
深夜 コ 月 明るい [副詞 (過ぎる)]
今日の深夜は月が明るい。
- (226) Năm nay, dưa hấu giá rẻ hơn năm ngoái.
年 コ 西瓜 値段 安い より良い 去年
今年は去年よりスイカの値段が安い。

5.2.1.3 này

này は上記の通り、giờ/tuần/tháng (「時」、「週」、「月」) と組み合わせて、giờ này/tuần này/tháng này (「この時、今」「今週」、「今月」) のように、発話時を参照点として計算される時間を表す。また、名詞の lúc/đạo (「時」、「頃、時期」) や thời (「時代」) などと共に lúc này/đạo này (「今」、「この頃、この時期」) や thời này (「この時代」) などといった発話時を含む時間帯を指示する (例(227)~(231))。

- (227) Giờ này em đang làm gì?
時 コ 2 (弟/妹) [副詞 (現在進行)] する 何
君は今何しているんだ?
- (228) Tuần này/Tháng này hầu như ngày nào trời cũng mưa.
週 コ 月 コ [副詞 (ほとんど)] 日 どの 天 [副詞 (も)] 雨
今週/今月はほぼ毎日雨だ (毎日雨が降っている)。
- (229) Thời này còn ai đi xe đạp nữa.
時 コ 残る 誰 行く 自転車 [副詞 (もう)]
この時代には自転車に乗る人がもういないだろう。

(230) Có lẽ, cầu nguyện là điều duy nhất tôi có thể
 [副詞 (多分)] 祈る [コピュラ] 事 唯一 1 (私) [副詞 (できる)]
 làm trong lúc này.
 する 中 時 コ
 おそらく、今できることといたら祈るだけだ。

(231) Đạo này không thấy anh ta nhắn tin nữa.
 頃 コ [副詞 (否定)] 見える 彼 メッセージする [副詞 (もう)]
 最近は彼からメッセージが来なくなった。

また、Bui L.T. (2014) にも言及されているように、*thứ Sáu* (「金曜日」) や *tháng Ba/tháng Tư* (「3月・4月」) などのような月・曜日の表現、または名詞・関係詞の *mai/sau* (「明日」、「後」) に後続し、*thứ Sáu này* や *tháng Ba hoặc tháng Tư này* (「次の金曜日」、「来たる3月か4月」) という発話時を参照点として計算される時間を表したり、*mai này/sau này* (「将来、今後」) といった発話時を参照点とする将来の時を表したりすると考えられる (例(232)~(235))。

(232) [The encoding time is on Wednesday, 19 May 2010]
Thứ Sáu này, Villa tới Barca?
Friday DEM.PROX Villa go Barca
 ‘Is Villa going to Barca on Friday này?’

(233) [The encoding time is on Monday, 18 February 2013]
Munster tin rằng tháng Ba hoặc tháng Tư này, tín đồ Apple sẽ...
Munster believe COMP month three or month four DEM.PROX fan Apple ASP
 ‘Munster believes that in March or April này, fans of Apple will...’
 (Bui L.T. 2014:74)

(234) *Mai này lên Đắk Lắk có còn voi?*
 明日 コ 上がる [地名] [副詞 (疑問)] 残る 像
 今後はダク・ラクに行っても象が見えるのかな?

(235) *Sau này con sẽ hiểu.*
 後 コ 2 (子供) [副詞 (未来)] 分かる
 お前にもいつかは分かる。

(Nguyễn Đ.D. 2009:5)

ただし、sau này に関しては、Nguyễn Đ.D. (2009) にも言及されているように、過去の時間を示す場合もある（例(236)）。上記の(235)では、sau này は発話時から未来へ移動する時間（「今後」）を表し、その発話時（＝現在）が参照点となる。それに対し、(236)では、sau này は過去にある時点参照点とする時間帯「その後」を表すので、(236)の発話時（＝現在）は参照点とならないという。

(236) Sau này, tôi mới hiểu ra ý của ông ấy
 後 コ 1 (私) [副詞 (ばかり)] 分かる 出る 意 [関係詞 (の)] 彼 (中年)
 その後、初めて彼の言いたいことが分かった。

(Nguyễn Đ.D. 2009:5)

ちなみに、前述のように、Nguyễn Đ.D. (2009) では、này と nay については、tháng này はその月の間ならどの日にも用いることができるが、tháng nay は月末にしか用いられないという違いがあると述べている。この違いは、本稿による指示詞の時間指示の分類に基づくと、nay は基本的直示であるのに対し、này は派生的直示であるという点にあると考えられる。すなわち、tháng nay は月のはじめから発話時の nay（＝現在）までの時間を指示し、「すべて」を意味する代名詞の cả に後続すると、月のはじめから nay（＝現在）までのすべての時間帯を表すこととなるため、(237)を発話する時点はその月の末でなくてはならない。一方、tháng này は発話時を含む一ヶ月を示し、発話時を参照点として計算される時間帯であるため、(238)を発話する時点はその月の間ならどの時点でも良い。

(237) Tháng này tôi phải hoàn thành phần việc
 月 コ 1 (私) [動詞 (べき)] 完成する 分 事
 được giao.

[副詞 (受身)] 与える

今月は与えられた仕事の分を完成しなければならない。

(238) Cả tháng nay tôi chả làm được
 全て 月 コ 1 (私) [副詞 (否定)] する [副詞 (できる)]
 việc gì cả.

事 何 [副詞 (完全否定)]

この一ヶ月は何もできなかった。

(Nguyễn Đ.D. 2009:6)

5.2.1.4 nãy

nãy は、(239)～(243)に見られるように、名詞の ban/lúc/hồi/khi (「時、頃」) や副詞の vừa (「ばかり」) と組み合わせて、ban nãy/lúc nãy/hồi nãy/khi nãy (「さっき、今、今さっき、たった今」) や vừa nãy (「ついさっき」) といった発話時に近い過去の時間帯を表す。また、(244)と(245)に示される通り、(từ) nãy (đến) giờ (「さっきから今まで」) のように、単独形として用いられることもあるが、この場合の nãy も発話時に近い過去のある時点を示すものである。すなわち、nãy も発話時を参照点とする時間指示であると考えられる。

(239) Hãy nhớ lại những lời bạn nói ban nãy.

[副詞 (命令)] 思い出す [名詞 (複数)] 言 2 (友達) 言う 時 コ

Bạn có vô tình làm tổn thương ai không?

2 (友達) [副詞 (疑問)] 過失 する 痛める 誰 [副詞 (疑問)]

君がさっき言ったことを思い出さない。君は知らずに誰かを傷つけてしまっていないかった?

(240) Anh ấy vừa về lúc nãy.

彼 [副詞 (ばかり)] 帰る 時 コ

彼はさっき帰ったばかりだ。

(241) Như tôi nói hồi nãy, đây là trường hợp ngoại lệ.

[関係詞 (如く)] 1 (私) 言う 頃 コ これ [コピュラ] 場合 例外

私が先ほど言った通り、これは例外です。

(242) Khi nãy có ai đến tìm chị đây.

時 コ ある 誰 来る 探す 2 (姉) [文末詞 (情報提示)]

さっき誰かがお姉ちゃんを探しにやってきたよ。

(243) Vừa nãy có bưu kiện tới.

[副詞 (ばかり)] コ ある 郵便物 届く

さっき郵便物が届いた。

(244) Nãy giờ đã thử gửi fax đi 3 lần rồi

コ 今 [副詞 (過去)] 試す 送る ファックス 行く 回 [副詞 (完了)]

nhưng không gửi được.

[関係詞 (しかし)] [副詞 (否定)] 送る [副詞 (できる)]

さっきから (今まで) もう 3 回ファックスを送り出してみたが、送れなかった。

- (245) Từ này đến giờ cháu ở trong phòng
[関係詞 (から)] コ [関係詞 (まで)] 今 2 (孫) 居る 中 部屋
há?
[文末詞 (疑問)]
さっきから (今まで) 部屋にいたの?

5.2.2 直示的指示としての遠称の *kia/kìa*

遠称の *kia/kìa* も、*nay/này* と同様に *hôm/năm* (「日・夜」、「年」) と組み合わせて、*hôm kia/hôm kìa* (「一昨日」、「一作昨日」) または *năm kia/năm kìa* (「一昨年」、「一昨々年」) といった発話時を含む日・年の二日・二年前の日・年、または、三日・三年前の日・年を指示し、発話時を参照点として計算される過去の時間を表す (例(246)と(247))。一方、*ngày* (「日」) と組み合わせる場合、*ngày kia/ngày kìa* (「明後日」、「明々後日」) といった発話時を参照点として計算される未来の時間を表す (例(248))。なお、*hôm kia/hôm kìa* と *ngày kia/ngày kìa* の違いについては、Nguyễn P.P. (2002:127) では、*hôm* は「午後・夜」を、*ngày* は「朝」を意味するので、この *hôm* と *ngày* の「晩・朝」の対立から *hôm kia/hôm kìa* と *ngày kia/ngày kìa* の「過去・将来」という対立が生まれたわけであると主張している。

- (246) Hôm kia/kìa tôi đã mua một chiếc khăn tay
日 ア 1 (私) [副詞 (過去)] 買う 1 [類別詞 (枚)] ハンカチ
cho mẹ.
[関係詞 (に)] 母
一昨日／一昨昨日、私は母に一枚のハンカチを買ってあげた。

- (247) Chị ấy kết hôn từ năm kia/kìa.
彼女 結婚する [関係詞 (から)] 年 ア
彼女は一昨年／一作々年から結婚している。

- (248) Ngày mai là ngày hai mươi.
明日 [コピュラ] 日 二十
-Ngày kia là ngày bao nhiêu ?
日 ア [コピュラ] 日 いくら
Ngày kia là ngày hai mốt .
日 ア [コピュラ] 日 二一

-Ngày kia là ngày bao nhiêu?

日 ア [コピュラ] 日 いくら

Ngày kia là ngày hai hai.

日 ア [コピュラ] 日 二二

明日は20日です。

明後日は何日ですか？

明後日は21日です。

明々後日は何日ですか？

明々後日は22日です。

また、kia は、次の(249)～(252)に示されるように、関係詞の trước (「前」) や名詞の xưa (「昔」)、mai (「明日」) と組み合わせて、trước kia/xưa kia (「前」、「以前」、「昔」) や mai kia (「将来」) の発話時から過去または未来のある遠い時を指示する。ちなみに、前述の ngày kia (「明後日」) は数詞の một (「一」) と共起して、「将来のある日」を意味する một ngày kia という発話時から遠い将来のある時点を表すこともできる。なお、Bui L.T. (2014) では kia の時間指示の機能を表 16 のようにまとめている。

(249) Một lúc nào đó muốn về thăm nơi xưa kia

1 時 どの その 欲しい 帰る 訪問する 所 昔 ア
từng sống.

[副詞 (～したことがある)] 住む

いつかは昔住んでいたところを訪問したい。

(250) Trước kia, khi có chuyện không vui, chỉ cần ngủ

前 ア 時 ある 話 [副詞 (否定)] うれしい [副詞 (だけ)] 要る 寝る
một giấc, ăn một bữa là quên sạch.

1 [類別詞 (眠)] 食べる 1 [類別詞 (食)] [コピュラ] 忘れる [副詞 (全部)]
前は嫌なことでもあった時、一眠りしたり食べたりするだけでサッと忘れてしまうものだ。

(251) Nhất định mai kia tôi cũng sẽ đạt

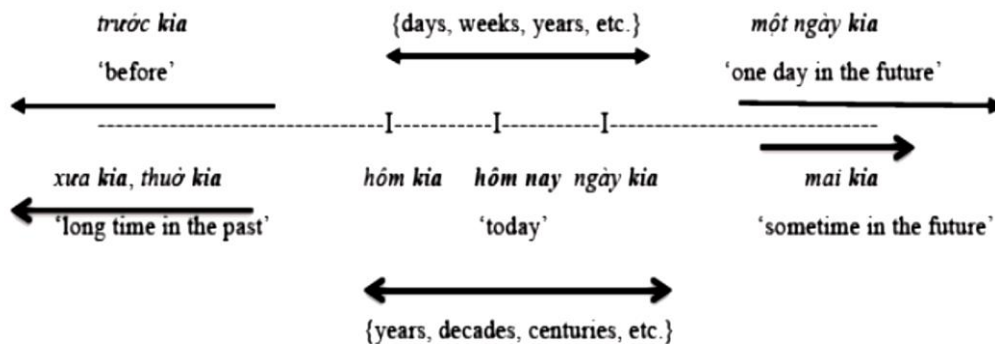
[副詞 (必ず)] 明日 ア 1 (私) [副詞 (も)] [副詞 (将来)] 得る
được thành công như mong muốn.

[副詞 (できる)] 成功 [関係詞 (如く)] 望む

私も将来は必ず望んだ通りの成功を得る。

- (252) Các con tôi đều chưa đến tuổi biết đọc
 PL child 1SG all NEGPERF come age know read
 nhưng một ngày kia, blog của tôi sẽ là...
 but one day DEM.DIST blog PREP.of 1SG ASP COP
 ‘My children cannot read yet but một ngày kia (one day in the future) my blog will be...’

(Bui L.T. 2014:83)



(表 16) Bui L.T. (2014:84) による *kia* の時間指示の機能

5.2.3 非直示的指示としての中称の *đầy(đó)/áy*

前述のように、Bui L.T. (2014) では、*đầy(đó)/áy* は照応的な表現に限られるため、時間指示の考察対象から外されている。一方、Nguyễn Đ.D. (2009) は中称の *đầy(đó)/áy* は、(遠い) 過去にある時点を指し示すと述べているのに対し、Nguyễn P.P. (2002) では *đầy(đó)/áy* は過去や未来にある時点を表すとされている。このように、中称の *đầy(đó)/áy* の時間を表す機能については諸説が存在している。本章では、5.1 節で提案したベトナムの時間指示の分類に基づき、中称の *đầy(đó)/áy* は発話時を参照点とする直示的指示の近称と遠称とは異なり、発話時を参照点としない時間を指示する典型的な非直示的指示であると主張する。*đầy(đó)/áy* は過去の時と未来の時のどちらも指示する。以下に示されているように、*đầy(đó)/áy* は、形容詞の *mới* (「新しい」) や、副詞の *vừa* (「ばかり」) と組み合わせて、*vừa đó/mới đó* の形で、過去にある時点を指し示す。具体的に、(253)では「結婚した時」、(254)では「子供が生まれた時」を表す。また、(255)に示される通り、*từ đó đến giờ* (「その時/あの時から今まで」) のように、単独形として用いられることもあるが、この場合の *đầy(đó)/áy* も過去のある時点 (「5年前」) を示すものである。なお、この場合の *đầy(đó)/áy* は照応的に用いられるものではない。

(253) Mới đó mà chúng mình đã lấy nhau
 新しい ソ [関係詞 (のに)] 我々 [副詞 (過去)] 取る お互い
 được 20 năm rồi.
 [副詞 (できる)] 年 [副詞 (完了)]
 俺たちが結婚してから、あっという間に20年経った。
 (Nguyễn P.P. 2002:130)

(254) Thời gian trôi nhanh quá. Vừa đó mà
 時間 流れる 早い [副詞 (過ぎる)] [副詞 (ばかり)] ソ [関係詞 (のに)]
 con mình đã vào lớp 1 rồi.
 子供 自分 [副詞 (過去)] 入る クラス [副詞 (完了)]
 時間が早いものだね。(生まれた時から) あっという間にうちの子も小学1年
 生になった。

(255) Chồng cô ấy mất cách đây 5 năm. Từ đó
 夫 彼女 亡くなる 隔てる 今 年 [関係詞 (から)] ソ
 đến giờ cô ấy sống một mình.
 [関係詞 (まで)] 今 彼女 住む 一人
 彼女は5年前に夫を亡くした。それから今まで (=それ以来)、一人で住んで
 いる。

また、đầy(đó)/ấy は名詞の hôm (「日・夜」) や ngày (「日」) と組み合わせて、(256) と(257)のように、hôm ấy (「あの日・その日」) といった過去の時を、 ngày ấy (「あの日・その日」) といった未来の時を意味する。逆に、(258)と(259)のように、hôm ấy 「(あの日・その日)」は未来の時を、 ngày ấy (「あの時・その時」、「あの頃・その頃」) は過去の時を意味する場合もある。なお、(259)では、ngày ấy の代わりに、hồi ấy/thời ấy (「あの頃・その頃」、「あの時・その時」) を用いることも可能である。

(256) Có một lần, tôi được đưa ra biển. Hôm ấy,
 ある 1 回 1 (私) [副詞 (受身)] 連れる 出る 海 日 ソ
 ngắm cảnh biển mà tôi xúc động vô cùng.
 眺める 景色 海 [関係詞 (のに)] 1 (私) 感動 無限
 ある日、私は海に連れて行ってもらった。その日、海の景色を眺めながら感動
 で胸がいっぱいだった。

(257) Thứ Bảy tuần sau mình tổ chức tiệc sinh nhật. Hôm ấy
 土曜日 来週 1 (自分) 催す パーティー 誕生日 日 ソ
 bạn cũng đến nhé.
 2 (友達) [副詞 (も)] 来る [文末詞 (確認要求)]
 僕は来週の土曜日に誕生日パーティーをするんだ。その日、君も来てね。

(258) Sẽ có một ngày tôi tìm thấy hạnh phúc.
 [副詞 (未来)] ある 1 日 1 (私) 探す 見える 幸せ
 Ngày ấy nhất định sẽ đến trong nay mai.
 日 ソ [副詞 (必ず)] [副詞 (未来)] 来る 中 今日 明日
 いつかは私も幸せになる。その日は必ず近いうちにやってくる。

(259) Ngày/hồi/thời ấy, chúng ta còn trẻ, còn khỏe
 頃 ソ 我々 [副詞 (まだ)] 若い [副詞 (まだ)] 元気
 không như bây giờ.
 [副詞 (否定)] [関係詞 (如く)] 今
 その頃/あの頃、私達はまだ若くて元気で、今とは違う。

さらに、đầy(đó)/ấy は名詞の khi/lúc (「時」、「頃」) や関係詞の trước/sau (「前」、「後」) などと共に起して、khi ấy や lúc ấy (「あの頃・その頃」、「あの時・その時」)、または trước đầy (đó) (「その前」) や sau đầy (đó) (「その後」) などを意味するが、文脈によって過去または未来の両方が捉えられる(例(260)~(262))。(260a)、(261a)と(262a)では、それぞれ「若い時」、「2年前」と「人に教えてもらう前」という過去の時点を示す。一方、(260b)、(261b)と(262b)では、それぞれ「結婚式を挙げる時」、「卒業した後」と「手術する前」という未来の時間を指示する。このように、đầy(đó)/ấy は発話時を参照点としない過去または未来の時を指示すると言える。

(260)a. Khi/lúc ấy tôi còn trẻ, không có kinh nghiệm.
 時 ソ 1 (私) [副詞 (まだ)] 若い [副詞 (否定)] ある 経験
 その時/あの時、私はまだ若くて、経験がありませんでした。(過去)

b. Con: Mẹ yên tâm, sẽ có ngày con tổ chức đám cưới.
 2 (母) 安心する [副詞 (未来)] ある 日 1 (子共) 催す 結婚式
 Mẹ: Khi ấy chắc mẹ già lắm rồi.
 時 ソ [副詞 (おそらく)] 1 (母) 老いる [副詞 (とても)] [副詞 (完了)]
 子: お母さん安心して! いつかは結婚式をあげるよ。
 母: その時、私はもう老いているでしょうね。(未来)

(261)a. Hai năm trước tôi có gặp Hiền ở Kyoto. Sau đấy (đó)
 2 年 前 1 (私) ある 会う [人名][関係詞 (で)][地名] 後 ソ
 không gặp lại lần nào nữa.

[副詞 (否定)] 再開する 回 どの [副詞 (もう)]

私は2年前にヒエンさんに京都で会いました。それ以来、一度も会っていません。(過去)

b. Bây giờ phải học để tốt nghiệp đã.
 今 [動詞 (べき)] 勉強する [関係詞 (ために)] 卒業する [副詞 (完了)]

Sau đấy(đó) mới tính chuyện chồng con.

後 ソ [関係詞 (上で)] 考える 事 夫 子共

今は卒業できるように勉強しなければならない。その後、結婚や子供のことを考えるのだ。(未来)

(262)a. Khi có người nói tôi mới biết anh ấy đã
 時 ある 人 言う 1 (私) [関係詞 (上で)] 知る 彼 [副詞 (過去)]
 mất. Trước đấy (đó) tôi nghĩ anh ấy chuyển vào miền Nam.

亡くなる 前 ソ 1 (私) 考える 彼 移す 入る 南部

彼が亡くなったことは人に教えてもらってから初めて知った。その前は彼が南部に移住したかと思った。(過去)

b. Tuần sau chúng tôi sẽ phẫu thuật cho chị.
 来週 我々 [副詞 (未来)] 手術する [関係詞 (に)] 2 (姉)

Nhưng trước đấy (đó) sẽ phải làm

[関係詞 (しかし)] 前 ソ [副詞 (未来)] [動詞 (べき)] する

vài xét nghiệm.

数 検査

来週、私たちがあなたの手術を行います。しかし、その前に数種の検査をしなければなりません。

5.2.4 指示詞の時間を表す機能について

以上、ベトナム語の指示詞における時間指示の機能を直示的指示・非直示的指示に分けて考察した。その結果、近称の *đây/nay/này* は発話時を参照点とする時間帯を指示する。具体的に、*đây* と *nay* は単独形で代名詞として発話時を明示させる時間指示であり、発話時を表す代名詞の *bây giờ* (「今」と同じ意味を持つ。*đây* は、*trước/sau* (「前」、「後」と組み合わせて、近い未来 (*sau đây* 「この後すぐ」) または過去 (*trước đây* 「以前、今まで、これまで」) の時間を表す。また、*mới đây/gần đây* (「新しい+*đây*」や「近い+*đây*」) の形で、発話時を含む近い過去の時間 (「(つい) 最近」、「この頃」) を

表したり、関係詞の *từ/rồi* と組み合わせて、*từ đây/rồi đây* の形で、発話時を含む未来の時間（「これから」、「今後」）を表したりする。*nay* も *đây* と同様に、関係詞の *từ/đến* と共起して、*từ đó đến nay/từ trước đến nay* や *từ nay/từ nay về sau*（「その時／あの時から今まで」、「以前から今まで」や「今後から」、「今からずっと」）の形で、発話時を含む過去や未来の時間を指示する。他に、名詞の *xưa*（「昔」）と共起して、*xưa nay* の形で、「昔も今も」を意味する。*nay* は名詞の *ngày/hiện*（「日」、「現」）や *thời*（「時」）に後続し、*ngày nay/hiện nay* や *thời nay* の形で、発話時を含む近傍の時間（「現在、今時」、「現代、今日」）を指示する。一方、*nay* は、*hôm/năm*（「日・夜」、「年」）、または *sáng/trưa/chiều/tối/đêm*（「朝」、「昼」、「午後・夕方」、「夜」、「深夜」）と組み合わせて、*hôm nay/năm nay*（「今日」、「今年」）、または *sáng nay/trưa nay/chiều nay/tối nay/đêm nay*（「今朝」、「今日の昼」、「今日の午後、今日の夕方」、「今夜」、「今日の深夜」）を意味する。*này* は *giờ/tuần/tháng*（「時」、「週」、「月」）と組み合わせて、*giờ này/tuần này/tháng này*（「この時、今」「今週」、「今月」）を意味する。この *nay* と *này* は、金子（1995）によれば、発話時を含む一日が {今日} であり、{今日} を含む一週が {今週}、発話時を含む年の前の年が {去年} のように、発話時を参照点として計算される時間を表す時間指示である。*này* は、名詞の *lúc/đạo*（「時」、「頃、時期」）や *thời*（「時代」）などと共起して *lúc này/đạo này*（「今」、「この頃、この時期」）や *thời này*（「この時代」）などといった発話時を含む時間帯を指示する。また、*thứ Sáu*（「金曜日」）や *tháng Ba/tháng Tư*（「3月・4月」）などのような月・曜日の表現や名詞・関係詞の *mai/sau*（「明日」、「後」）と組み合わせて、*thứ Sáu này* や *tháng Ba hoặc tháng Tư này*（「次の金曜日」、「来たる3月か4月」）、または *mai này/sau này*（「将来、今後」）といった将来の時を表す。いずれも、発話時を参照点とする時間帯を指示する。

遠称の *kia/kìa* も発話時を参照点とする時間を指示する直示的指示である。*kia/kìa* は *nay/này* と同様に *hôm/năm*（「日・夜」、「年」）と組み合わせて、*hôm kia/hôm kìa*（「一昨日」、「一昨作日」）または *năm kia/năm kìa*（「一昨年」、「一昨々年」）といった発話時を含む日・年の二日・二年前の日・年または、三日・三年前の日・年を指示し、発話時を参照点として計算される過去の時間を表す。一方、*ngày*（「日」）と組み合わせる場合、*ngày kia/ngày kìa*（「明後日」、「明々後日」）といった発話時を参照点として計算される未来の時間を表す。以下の表 17 に示されているように、近称の *nay/này* と遠称の *kia/kìa* が *hôm kia/hôm kia/hôm nay/ngày kia/ngày kìa*（「一昨作日」、「一昨日」、「今日」、「明後日」、「明々後日」）、*tuần này*（「今週」）、*tháng này*（「今月」）や *năm kia/năm kia/năm nay*（「一昨作年」、「一昨年」、「今年」）のような語彙化された時間表現として用いられるのは、この直示的指示の特徴を持っているからであろう。なお、表 17 から分かるように、非直示的指示である中称の *đây(đó)/ấy* は語彙化された時間表現として用いられない。

一昨昨日	一昨日	昨日	今日	明日	明後日	先明後日
hôm kia	hôm kia	hôm qua	hôm nay	ngày mai	ngày kia	ngày kia
	先々週	先週	今週	来週	再来週	
	tuần trước nữa	tuần trước	tuần này	tuần sau	tuần sau nữa	
	先々月	先月	今月	来月	再来月	
	tháng trước nữa	tháng trước	tháng này	tháng sau	tháng sau nữa	
一昨々年	一昨年	去年	今年	来年	再来年	
năm kia	năm kia	năm ngoái	năm nay	năm sau	năm sau nữa	

(表 17) ベトナム語における時間を表す言葉

また、近称の *nãy* は、名詞の *ban/lúc/hồi/khi* (「時、頃」) や副詞の *vừa* (「ばかり」) と組み合わせて、*ban nãy/lúc nãy/hồi nãy/khi nãy* (「さっき、今、今さっき、たった今」) や *vừa nãy* (「ついさっき」) といった発話時に近い過去の時間帯を表す。さらに、(*từ nãy (đến) giờ* (「さっきから今まで」)) のように、単独形として用いられることもあるが、この場合の *nãy* も発話時に近い過去のある時点を示すものである。他に、*nãy* は *đây/nay/này* とは異なり、過去の時間しか表せないが、発話時に近い過去というのは、言い換えれば発話時を参照点とする過去の時間なので、*nãy* も直示的指示であると考えられる。同様に、*kia* も関係詞・名詞の *trước/xưa* (「前」、「昔」) や名詞の *mai* (「明日」) と組み合わせて、*trước kia/xưa kia* (「前」、「以前」、「昔」) や *mai kia* (「将来」) の発話時から過去または未来の遠い時を指示する。さらに、*ngày kia* (「明後日」) に数詞の *một* (「一」) と共起して、「将来のある日」を意味する *một ngày kia* という発話時から遠い将来のある時点を表すこともできるという発話時を参照点とする直示的指示である。

さらに、以下の(263)~(267)のように、近称の *đây* には、発話時を表す代名詞の *bây giờ* (「今」) や近称の指示詞による時間指示の表現の *lúc này/lúc nãy* (「今、この時」、「さっき、今さっき」) や語彙化された時間表現の *hôm nay* (「今日」)、あるいは他の時間表現である *năm ngoái* (「昨年」) などに後続し、それらが指し示す時間は発話時 (=今) に非常に近接していることを強調するという機能が存在している。それに対し、(267)と(269)のように、遠称の *kia* には、時間表現である *ngày mai* (「明日」) や *mai sau* (「今後」、「将来」) に後続し、それらが指し示す時間は発話時 (=今) から遠隔していることを強調するという機能が存在している。なお、中称の *đây(đó)/ấy* には、このような機能を持たない。

- (263) (Bây) giờ đây, khi đã 50 tuổi, tôi vẫn không quên được chuyện đó.
 今 コ 時 [副詞 (過去)] 才 1 (私) [副詞 (まだ)] [副詞 (否定)]
 忘れる [副詞 (できる)] 話 その
 50 才になった今の私は、まだその話／あのを忘れられない。

(264) Lúc này đây, tôi mới nhận ra mình không phải
 時 コ コ 1 (私) [副詞 (初めて)] 気付く 自分 [副詞 (否定)] 正しい
 là người mạnh mẽ.

[コピュラ] 人 強い

今になったら、私は自分が強い人ではないと初めて気づいた。

(265) Và hôm nay đây, em cầu chúc cho
 [関係詞 (そして)] 日 コ コ 1 (弟/妹) 祈る [関係詞 (に)]
 hai người hạnh phúc.

二人 幸せ

そして今日、私は二人の幸せを祈ります。

(266) Nhưng vừa mới lúc này đây, họ đến bảo không
 but recent new moment short time ago DEM.PROX 3PL come say NEG
 bán thóc nữa.

sell rice more

‘But just a moment ago đây, they came to say that they wouldn’t sell rice any more.’

(Bui L.T. 2014:79)

(267) Năm ngoái đây, bữa ăn miễn phí chỉ có bát canh...
 last year DEM.PROX CL eat free only have bowl soup

‘Last year đây, the free meal only comprised a bowl of soup...’

(Bui L.T. 2014:79)

(268) Rồi (ngày) mai kia đất nước hòa bình, mình sẽ
 [関係詞 (そして)] 明日 ア 国 平和 自分 [副詞 (未来)]
 được về với gia đình.

[副詞 (できる)] 帰る [関係詞 (と)] 家族

そして将来国が平和になったら、自分も家族の元へ帰ることができる。

(269) Dù mai sau kia cuộc sống thay đổi, anh vẫn
 [関係詞 (にかかわらず)] 将来 ア 生活 変わる 1 (兄) [副詞 (まだ)]
 sẽ yêu em như ngày đầu.

[副詞 (未来)] 愛する 2 (弟/妹) [関係詞 (如く)] 日 頭

将来、世の中が変わっても、僕は君を付き合い始めの頃と同じように愛する。

一方、中称の **đây(đó)/ấy** は近称・遠称とは異なり、発話時を参照点としない時間を指示する典型的な非直示的指示である。例えば、形容詞の **mới**（「新しい」）や副詞の **vừa**（「ばかり」）と組み合わせて、**vừa đây(đó)/mới đây(đó)**（「その／あの時点からあつという間に」）の形で、また **từ đó đến giờ**（「その時／あの時から今まで」）のように、単独形で過去のある時点を示す。また、名詞の **hôm**（「日・夜」）と **ngày**（「日」）と組み合わせて、**hôm đây(đó)/ấy**（「あの日・その日」）という過去の時を、**ngày đây(đó)/ấy**（「あの日・その日」）という過去または未来の時を表す。さらに、**đây(đó)/ấy** は名詞の **khi/lúc**（「時」、「頃」）や関係詞の **trước/sau**（「前」、「後」）などと組み合わせて、**khi đây(đó)/ấy** や **lúc đây(đó)/ấy**（「あの頃・その頃」、「あの時・その時」）、または **trước đây(đó)**（「その前」）や **sau đây(đó)**（「その後」）などを意味し、文脈によって、過去または未来のいずれかを指示することもできる。ちなみに、空間から時間へと意味変化した表現である **trước/sau**（「前」、「後」）との共起に関しては、以下の(270)に示されるように、**trước**（「前」）は近称・中称・遠称のどれとも組み合わせることができる。それに対し、**sau**（「後」）は近称と中称としか組み合わせられない。いずれにせよ、近称・遠称との組み合わせからなる **trước đây/trước kia**（「以前」、「これまで」、「昔」）と **sau này**（「今後」）は発話時（=今）を参照点とする時間帯を示す。一方、中称との組み合わせからなる **trước đó** と **sau đó** は発話時（=今）ではなく、過去または未来のある時点を参照点とする時間帯を示す。なお、**trước đây** と **trước kia** の違いは、統語的には、前者は修飾語の **trước**（「前」）と被修飾語の **đây**「（今）」からなる名詞句であり、後者は語彙化された複合名詞である。意味的には、**trước kia** は **trước đây** より（過去の方へ離れた）遠い時間を表す。同じように、**sau đây** と **sau này** の違いに関しても、統語的には、前者は修飾語の **sau**（「後」）と被修飾語の **đây**「（今）」からなる名詞句であり、後者は語彙化された複合名詞である。意味的には、**sau đây**（「この後（すぐ）」）は発話時に非常に近接している未来の時間を指示するが、**sau này**（「今後」）は発話時を参照点とする未来の時間帯を指示すると考えられる。

(270)	trước 「前」	sau 「後」
近称	trước đây 「以前」「これまで」	sau đây 「この後（すぐ）」 sau này 「今後」
中称	trước đây(đó) 「その前」「あの前」	sau đây(đó) 「その後」「あの後」
遠称	trước kia 「以前」「昔」	_____

このように、ベトナム語における指示詞の時間指示には、近称と遠称は発話時を参照点とする時間を指示する直示的指示であるのに対し、中称は発話時を参照点としない時間を指示する非直示的指示であるという「近・遠」対「中」の対立が見られると言える。次節では、この時間指示の「近・遠」対「中」の対立と、元となる空間指示の用法との関連性を明確にさせる。

5.3 空間から時間へ

空間表現から時間表現への意味変化は多くの言語に存在しており、空間表現が時間概念に適用される時、元の意味のニュアンスを保つことも多くの研究で指摘されている。その代表例として、日本語の「さき」、「あと」、「まえ」が挙げられる。「さき」と「あと」は(271)～(274)に示されているように、空間的には反対の方向を示す表現であり、時間的にはそれぞれ未来も過去も意味する表現となる。「まえ」は、(275)と(276)のように、空間的には正面の側を意味し、時間的には基本的に過去を表す⁵²が、未来を表すこともあると指摘されている。

(271) バスのさきをオートバイが走っている。[空間]

(272) a. さきのことを考えよう。[時間 (未来)]

b. さきにお話した件ですが... [時間 (過去)]

(273) バスのあとをオートバイが走っている。[空間]

(274) a. あとは任せよう。[時間 (未来)]

b. あとは振り返るな。[時間 (過去)]

(275) 顔のまえをハエが飛んでいる。[空間]

(276) a. まえにもあったことですが... [時間 (過去)]

b. ようやく、まえが見えてきた。[時間 (未来)]

(阿部 2000:191-2)

また、本章の考察対象となる時間の指示詞も空間から時間へと意味変化する代表例である。日本語の指示詞の空間指示と時間指示との関連付けについては、例えば小泉(2001)では、次のように取り上げられている。談話における空間の指示詞(いわゆる文脈指示

⁵²また、「さき」と「あと」はいずれも未来を表しうるとしても、環境により以下のようにいずれか一方が不自然かあるいは碑文に近くなる場合がある。

(r) さきは明るい。

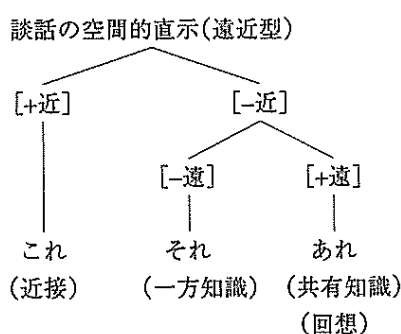
(s) ?あとは明るい。

(t) あとを見届ける必要がある。

(u) ?さきを見届ける必要がある。

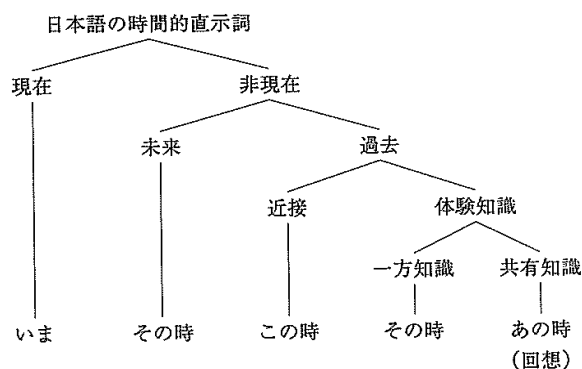
(阿部 2000:192)

や本研究でいう非現場指示に当たるもの) では、以下の図 5 に示されているように、近称のコは[+近]の特徴を持ち、話し手に近接している対象を指し示す。中称と遠称のソとアは[-近]の特徴を持ち、ソは話し手か聞き手の一方が知っているまたは体験した「一方知識」にある対象を、アは話し手と聞き手の両方が知っているまたは体験した「共有知識」にある対象を、それぞれ指し示す。なお、「±近」「±遠」は距離区分説による場所の直示の特徴付けであり、「話し手から近い／近くない」または「話し手から遠い／遠くない」ことを指す。



(図 5) 小泉 (2001) による空間指示における指示詞の使い分け

さらに、以下の図 6 に示されているように、談話における時間指示においては、現在を指す「今」と非現在を指す「この時／その時／あの時」とが対立している。「この時／その時／あの時」は過去の時を示し、空間の指示詞と平行してそれぞれ「近接」、「一方知識」、「共有知識 (回想)」を表す。ただし、「その時」は未来の時を示すこともできる。



(図 6) 小泉 (2001) による時間指示における指示詞の使い分け

一方、ベトナム語における指示詞の空間指示と時間指示との関連性について、Nguyễn Đ.D. (2009) や Bui L.T. (2014) では、次の表 18 のように言及されている。Nguyễn Đ.D. (2009) によれば、空間指示では、đây は話し手と聞き手のいる場所を直示的に指し示し、này は話し手のいる場所または話し手に近い可視的な場所を指し示す。時間指示で

は、**đây** は発話時すなわち「今」を指し示し、**này** は「今」や「今」を含む時間帯を指し示す。ただし、**đây/này** は **sau này/sau đây**（「今後」、「この後」）のように未来の時を表すこともあり、**đây cách đây 1 tuần/ngày này năm xưa**（「今から一週間前」、「過去のある年の今頃」）のように過去の時を表すこともある。また、空間指示の **này** からの派生である **nay/nãy** は、前者は発話時「今」を、後者は近い過去を指し示す。つまり、空間指示で話し手・聞き手から近い場所を指す時に用いられる指示詞は、時間指示においても発話時「今」に近い時を表すこととなる。一方、**đầy(đó)/ấy** は、空間指示では、話し手から離れた不可視的な場所、すなわち不特定の場所を指示する。**kia** は話し手から離れているが可視的な場所、すなわち特定の場所を指示する。時間指示では、**đầy(đó)** は遠い過去を表し、**ấy** は遠い過去にある不特定の時間を表す。**kia** も未来の時である **ngày kia**（「明々後日」）を除き、主に遠い過去を指し示すが、**hôm kia/năm kia**（「一昨日」、「一昨年」）などといった発話時に近接している過去の時間も表す。つまり、空間指示で話し手から遠くに離れた場所を指す時に用いられる指示詞は、時間指示においても発話時から遠い時を表すこととなると言及されている。

Bui L.T. (2014) は、前述のように、指示詞の空間指示について、**này/đây** は話し手から近い対象を指し示す。**đầy(đó)** は話し手から遠いところにある対象を指す。話し手（または話し手と聞き手）から離れた場所にある対象を指すか対比を表す。時間指示には、**này/đây** と **nay** 発話時を含む時間である「今」を指し、**nãy** は近い過去を指す。**kia** は過去または未来の方向にある時を指す。**đầy(đó)** は時間指示の機能を持たないとしている。

		Nguyễn Đ.D. (2009)	Bui L.T (2014)
đây 系	空間指示	đây : 話し手と聞き手がいる場所を直示的に指す。 này : 話し手のいる場所または話し手に近い可視的な場所を指す。	này/đây は話し手から近い対象を指す。
	時間指示	đây : 発話時「今」を指す。 này : 「今」や「今」を含む時間帯を指す。 ※ただし、 này/đây は過去の時または未来の時を表すこともある。 nay : 発話時「今」を指す。 nãy : 近い過去を指す。	này/đây と nay 発話時「今」を含む時間を指す。 nãy は近い過去を指す。
đầy(đó)系	空間指示	話し手から離れた不可視的な場所、すなわち不特定の場所を指し示す。	話し手から遠いところにある対象を指す。
	時間指示	đầy : 遠い過去を指す。 ấy/đó : 遠い過去にある不特定の時間を指す。	—————
kia 系	空間指示	話し手から離れているが可視的な場所、すなわち特定の場所を指す。	話し手（または話し手と聞き手）から離れた場所にある対象を指す、あるいは対比を表す。
	時間指示	ngày kia （「明々後日」）を除き、遠い過去を指す。また、発話時近接している過去の時間も表す。	過去または未来の方向にある時を指す。

(表 18) 先行研究による指示詞の空間指示と時間指示との関連性

以上のように、ベトナム語における指示詞に関する先行研究では、空間指示に用いられる指示詞は、その指示対象が話し手から近いか遠いかによって使い分けられる。一方、空間指示に用いられる指示詞は、その指し示される時間が現在であるかまたは未来や過去であるかで区別される。ここで、指示対象が話し手に近い場合を「近」、遠い場合を「遠」、指し示される時間が現在の場合を「現在」、未来か過去の場合を「非現在」とすれば、上記の表18を次の表19のようにまとめられる。

đây 系	空間指示：近
	時間指示：現在／非現在（過去・未来）
đầy(đó)系	空間指示：遠
	時間指示：非現在（過去）
kia 系	空間指示：遠
	時間指示：非現在（過去・未来）

(表19) 先行研究による指示詞の空間指示と時間指示との関連性

さらに、近：現在、遠：非現在という対応を仮定すれば、表 19 における空間指示と時間指示が並行していないことが分かる。具体的に、đây は空間指示では「近」であるが、時間指示では「現在」と「非現在」のどちらも取れる。また、đầy(đó)と kia は空間指示ではどちらも「遠」であるが、時間指示では kia は過去と未来のどちらも取れるのに対し、đầy(đó)は過去しか取れない。その理由は、第 3 章にも言及されているように、先行研究による（空間の）指示詞の一般化が妥当ではないからである。それに、空間指示に関しても、現在か非現在かで区別させるのも適切ではないように思われる。なぜならば、発話時「今」を表す đây/nay と近い過去を表す nãy 以外、他の指示詞の này-đầy(đó)/ây-kia/kia には過去・現在・未来といった意味がない。これらの指示詞は、先述の通り、他の hôm/ngày/lúc/thời/khi（「日・夜」、「日」、「頃」、「時代」、「時」）などのような時間を表す名詞や、trước/sau（「前」、「後」）のような方向を表す関係詞、または từ/đến などのような関係詞との組み合わせ、あるいは文脈によってはじめて過去・現在・未来の時間を表すようになるのである。また、発話時「今」を表す đây/nay に関しても、đây は trước/sau（「前」、「後」）と組み合わせると、過去 (trước đây 「以前、今まで、これまで」) または近い未来 (sau đây 「この後すぐ」) の時を表すようになる。nay は関係詞の từ/đến と共起して、từ đó đến nay/từ trước đến nay や từ nay/từ nay về sau（「その時／あの時から今まで」、「以前から今まで」や「今後から」、「今からずっと」）の形で、発話時を含む過去や未来の時間を示すようになる。つまり、過去・現在・未来の意味は（一部を除き）指示詞には内在しておらず、指示詞の特徴付けには適切ではないのであろう。本研究では、これまでの先行研究とは異なり、指示詞の時間指示については、その指し示される時間が発話時とどのように関わっているかによって指示詞が使い分けられると前節で主張している。以下に、この主張と第 3 章に言及してい

る（空間の）指示詞の一般化を踏まえながら、指示詞の空間指示と時間指示との関連性について議論する。

第3章に提案している[±現場]による指示詞の一般化では、近称の *đây* と遠称の *kia* は、発話現場に存在しているまたは視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指すという[+現場]の特徴を持つ。*đây* と *kia* は、話し手と指示対象との距離を特定させる「近・遠」で使い分けられる。中称の *đây(đó)* は、発話現場に存在しているとみなされない対象を指すという[-現場]の特徴を持ち、*đây(đó)* には「近・遠」の距離区分がない。一方、指示詞の時間指示については、5.2 節に言及しているように、近称の *đây/này/này/nãy* と遠称の *kia/kìa* は発話時を参照点とする時間を指示するという直示的指示である。*nãy* と *kia* に関しては、前者が発話時から近い過去を表し、後者は発話時から遠い過去や未来を表す。一方、中称の *đây(đó)* は発話時を参照点としない時間を指示するという非直示的指示である。つまり、空間指示は指示対象が発話現場に存在しているかどうかによってその指示詞が決められる。それに対し、時間指示は、指示される時間が発話時を参照点とするかどうかによってその指示詞が決められる。要するに、以上の表 19 に示される通り、[+現場]：直示、[-現場]：非直示、という対応を仮定すると、基本的に空間指示と時間指示が並行していることとなる。すなわち、*đây* は、空間指示では、[+現場]であり、話し手から「近」い対象を指示する（例(51)、例(130)）。時間指示で直示的指示で発話時から「近」い時を表す（例(197)、例(224)、例(240)）。*kia* も、空間指示では、[+現場]であり、話し手から「遠」い対象を指示する（例(132a)）。時間指示では直示的指示で発話時から「遠」い時を表す（例(246)、例(249)）。他方、*đây(đó)* は例(119)のように、空間指示では[-現場]であり、(256)と(257)のように、時間指示では非直示的指示である。

・近称の *đây* 系：

(51) 空間指示：発話現場にある話し手に近い対象を指す *này*

{ルオンさんが蓮の花を持って入ってきた}

Sư Huệ: Ô... Hoa sen đẹp quá!

[感動詞（驚き）] 蓮の花 美しい [副詞（とても）]

Ông Lương: Bạch thầy! Con hái bông sen

申す 2（先生） 1（子供） 摘む [類別詞（本）] 蓮

{*này/*ây(đó)/*kia*} ngoài đầm...

コ/ソ/ア 外 沼地

フェ僧侶：おや！きれいな蓮の花じゃなあ...

ルオンさん：和尚さん！外の沼地でこの蓮の花を摘んできました。

(Nguyễn H.T. 2012:52)

- (130) 空間指示：物理的に離れても心理的に近いと感じられる対象を指す này
 {10メートル離れたバナナの木を指して}

Nakata: Kia là cây chuối phải không?

あれ [コピュラ] 木 バナナ 正しい [副詞 (疑問)]

Thủy: Ủ, nhưng không giống chuối bán

[感動詞 (応答)] [関係詞 (しかし)] [副詞 (否定)] 似る バナナ 売る

ở Nhật đâu. Loại {này/?ây(đó)/*kia}

[関係詞 (で)] 日本 [文末詞 (完全否定)] 種類 コ/ソ/ア

chỉ có ở Việt Nam thôi.

[副詞 (だけ)] ある [関係詞 (に)] ベトナム [副詞 (限定)]

中田：あれはバナナの木ですか？

トウイ：うん。でも日本で売っているバナナと違うよ。この種類はベトナムにしかないものだ。

- (197) 時間指示：発話時「今」を表す đây

Cách đây 3 năm tôi có gặp anh ấy ở trường.

隔てる コ 年 1 (私) ある 会う 彼 [関係詞 (で)] 学校

私は (今から) 3年前に彼に学校で会った。

- (224) 時間指示：発話時を参照点として計算される時間を表す nay/này

Trưa nay/tuần này đi xem phim nhé!

昼 コ 週 コ 行く 見る 映画 [文末詞 (確認要求)]

今日の昼/今週、映画を見に行こうね。

- (240) 時間指示：発話時に近接している過去を表す nãy

Anh ấy vừa về lúc nãy.

彼 [副詞 (ばかり)] 帰る 時 コ

彼はさっき帰ったばかりだ。

・遠称の kia 系：

- (132a) 空間指示：発話現場にある話し手から遠くにある対象を指す kia

{姉が5メートル先のリンゴの木を指しながら、弟に言う}

Chị: Đi hái 1 quả táo ở cây

行く 摘む [類別詞 (玉)] リンゴ [関係詞 (に)] 木

{*này/*ây(đó)/kia} cho chị...

コ/ソ/ア [関係詞 (に)] 1 (姉)

姉：あの木のリンゴ一個取ってきて！

(246) 時間指示：発話時を起点として計算される時間を表す *kia/kia*

Hôm kia/kia tôi đã mua một chiếc khăn tay
日 ア 1 (私) [副詞 (過去)] 買う 1 [類別詞 (枚)] ハンカチ
cho mẹ.

[関係詞 (に)] 母

一昨日／一昨日、私は母に一枚のハンカチを買ってあげた。

(249) 時間指示：発話時から遠い過去を表す *kia*

Một lúc nào đó muốn về thăm nơi xưa kia từng sống.
一時 どの その 欲しい 帰る 訪問する 所 昔 ア [副詞 (経験)] 住む
いつかは昔住んでいた所を訪問したい。

・中称の *đầy(đó)*系：

(119) 空間指示：発話現場にない対象を指す *ây(đó)*

Vợ: Anh có thấy cái túi xách trắng hôm qua
2 (兄) [副詞 (疑問)] 見る [類別詞 (個)] バッグ 白い 昨日
em mới mua không?

1 (弟／妹) 新しい 買う [副詞 (疑問)]

Chồng; Không, anh không thấy
[副詞 (否定)] 1 (兄) [副詞 (否定)] 見る

*Vợ: Chết thật. Cái túi {*này/ây(đó)/*kia} rất đắt*
死ぬ 本当 [類別詞 (個)] バッグ コ/ソ/ア とても 高い
đắt.

[文末詞 (情報提示)]

妻：私が昨日買ったばかりの白いバッグを見なかった？

夫：いや、見てないよ。

妻：困ったわ。そのバッグは高かったのよ。

(256) 時間指示：発話時を参照点としない過去のある時を表す *ây(đó)*

Có một lần, tôi được đưa ra biển. Hôm ấy(đó),

ある 1 回 1 (私) [副詞 (受身)] 連れる 出る 海 日 ソ

ngắm cảnh biển mà tôi xúc động vô cùng.

眺める 景色 海 [関係詞 (のに)] 1 (私) 感動 無限

ある日、私は海に連れて行ってもらった。その日、海の景色を眺めながら感動で胸がいっぱいだった。

(257) 時間指示：発話時を参照点としない未来のある時を表す *ây(đó)*

Thứ Bảy tuần sau mình tổ chức tiệc sinh nhật. Hôm ấy(đó)

土曜日 来週 1 (自分) 催す パーティー 誕生日 日 ソ

bạn cũng đến nhé.

2 (友達) [副詞 (も)] 来る [文末詞 (確認要求)]

僕は来週の土曜日に誕生日パーティーをするんだ。その日、君も来てね。

ちなみに、以下に示されるように、近称の *đây* と遠称 *kia* が話し手と指示対象との距離を特定させる「近・遠」で使い分けられるという空間指示における特徴や *đây* と *kia* が対になっているという特徴 (例(132)と(277)、例(135)と(278))、または中称の *đây(đó)* の連動読み用法などは、いずれもその時間指示に反映されている (例(61)と(278))。

(132) 空間指示：話し手に近い対象を指す *này* と話し手から遠い対象を指す *kia*

a. {姉が5メートル先のリンゴの木を指しながら、弟に言う}

Chị: Đi hái 1 quả táo ở cây

行く 摘む [類別詞 (玉)] リンゴ [関係詞 (に)] 木

{**này*/**ây(đó)*/*kia*} *cho chị...*

コ/ソ/ア [関係詞 (に)] 1 (姉)

姉：あの木のリンゴ一個取ってきて！

b. {姉が弟の取ってきたリンゴを手を持って}

*Chị: Quả {*này*/**ây(đó)*/**kia*} chưa chín. Đi hái*

[類別詞 (玉)] コ/ソ/ア [副詞 (否定)] 熟する 行く 摘む

quả khác về đây!

[類別詞 (玉)] 違う 帰る ここ

姉：これはまだ熟していない。違うのを取ってきて！

(277) 時間指示：近い未来を表す *này* と遠い未来を *kia*

a. *Mai này con lớn sẽ hiểu lòng bố mẹ.*

明日 コ 2 (子共) 大きい [副詞] (未来)] 分かる 心 2 (父母)

あなたも (近い) 将来大きくなったら私たちの心が分かるようになる。

b. *Mai kia con lớn sẽ hiểu lòng bố mẹ.*

明日 ア 2 (子共) 大きい [副詞 (未来)] 分かる 心 2 (父母)

あなたも (遠い) 将来大きくなったら私たちの心が分かるようになる。

(135) 空間指示：対になっている này と kia.

Ở đâu cũng có người này người kia.
 [関係詞 (に)] どこ [副詞 (も)] いる 人 この 人 あの
 どこにでもこんな人やあんな人がいる。

(278) 時間指示：対になっている này と kia.

Vợ chồng nào cũng có lúc này lúc kia.
 夫婦 どの [副詞 (も)] ある 時 コ 時 ア
 どの夫婦でもこういう時もある。

(61) 空間指示：連動読みの đây(đó)

Đại tá: Cái này ông nói rất thật lòng, nếu như
 これ 1 (祖父) 言う [副詞 (とても)] 本心 [関係詞 (もし)]
 con muốn thì con đi đâu ông
 2 (子供) 欲しい [関係詞 (なら)] 2 (子供) 行く どこ 1 (祖父)
 sẽ đi theo { *đây/đấy(đó)/*kia } ...
 [副詞 (未来)] ついて行く コ/ソ/ア
 大佐：これは本心から言うのだが、お前も良いと言ってくれば、お前がどこ
 に行ってもわしがそこについて行く...

(Nguyễn H.T. 2012:285)

(279) 時間指示：連動読みの đây(đó)

Phim hay quá! Xem đến đâu cười vỡ bụng đến đây(đó).
 映画 面白い [副詞 (過ぎる)] 見る 来る どこ 笑う 割れる 腹 来る ソ
 映画が面白かった！どのシーンを観ても (そのシーンが面白くて) 腹筋が割れ
 るほど笑っていた。

以上のように、指示詞における空間指示と時間指示との関連性についての本研究の主張をまとめると、以下の表 20 となる。

[+現場]	đây 系	空間指示：現場指示・近 時間指示：直示・近
	kia 系	空間指示：現場指示・遠 時間指示：直示・遠
[-現場]	đấy(đó)系	空間指示：非現場指示
		時間指示：非直示

(表20) 本研究による指示詞の空間指示と時間指示との関連性

5.4 第5章のまとめ

本章では、空間の指示詞の派生的用法であると考えられる指示詞による時間指示の機能について議論した。本章で扱われる指示の時間表現とは、他の時間表現である語彙アスペクト、アスペクト形式、時制と同様に、言語の時間表現の基本的なものであり、時制より具体的かつ詳細に表示状況の成立時間を指示する。指示の時間表現は、原則的に、直示的指示（基本的直示・派生的直示）、文脈的指示、述語的指示の3種類に分類できる。ベトナム語の指示詞における時間指示は、基本的に、近称の *đây/nay/này* と遠称の *kia/kìa* は発話時を参照点とする時間を指示する直示的指示であるのに対し、中称の *đây(đó)* は発話時を参照点としない時間を指示する非直示的指示である。

また、本章での指示詞の時間指示用法についての主張をふまえ、その元となる用法の空間指示との関連性について、[+現場]の特徴を持つ近称と遠称の指示詞は、空間指示では発話現場に存在しているまたは視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指すという現場指示用法に用いられ、話し手と指示対象との距離に基づく「近・遠」という（物理的・心理的に）距離区分によって区別される。時間指示では、発話時を参照点とする時間を指示する直示的用法に用いられ、前者が現在または発話時から近い過去を表し、後者は発話時から遠い過去や将来を表す。すなわち、発話時から「近」いか「遠」いかで区別されると言える。一方、[-現場]の特徴を持つ中称の指示詞は、空間指示では発話現場に存在しているとみなされない対象を指すという非現場指示用法に用いられ、時間指示では発話時を参照点としない時間を指示するという非直示的指示に用いられる。このように、本研究で提唱している空間指示及び時間指示の一般化に従うと、この二つの用法が並行していることが分かる。

第六章 文末詞としての指示詞

6.1 本研究で扱われる文末詞について一品詞論とモダリティ論から見て一

ベトナム語には、以下のような文末に置かれて、話し手の態度、心的状態や感情などを表す文末詞（または語気詞、文末助詞など）と呼ばれるものがある。文末詞は、これまでの先行研究では、ベトナム語の品詞体系に属する独立の品詞であり、モダリティ表現の一種であるとされている。本節では、文末詞としての指示詞を考察する前に、品詞論とモダリティ論から見たいわゆる文末詞の位置付けについて議論し、その結果を本論の前提としたい。

(280) Em chưa ngủ à?
1 (弟/妹) [副詞 (否定)] 寝る [文末詞 (疑問)]
まだ寝てないのか?

(281) Mẹ về rồi đấy!
母 帰る [副詞 (完了)] [文末詞 (情報提示)]
母ちゃんが帰ってきたよ。

(282) Vợ: Anh đi đám cưới với em không?
2 (兄) 行く 結婚式 [関係詞 (と)] 1 (弟/妹) [副詞 (疑問)]
Chồng: Đi chứ!
行く [文末詞 (確信)]
妻: あなた、一緒に結婚式に行く?
夫: (もちろん) 行くよ。

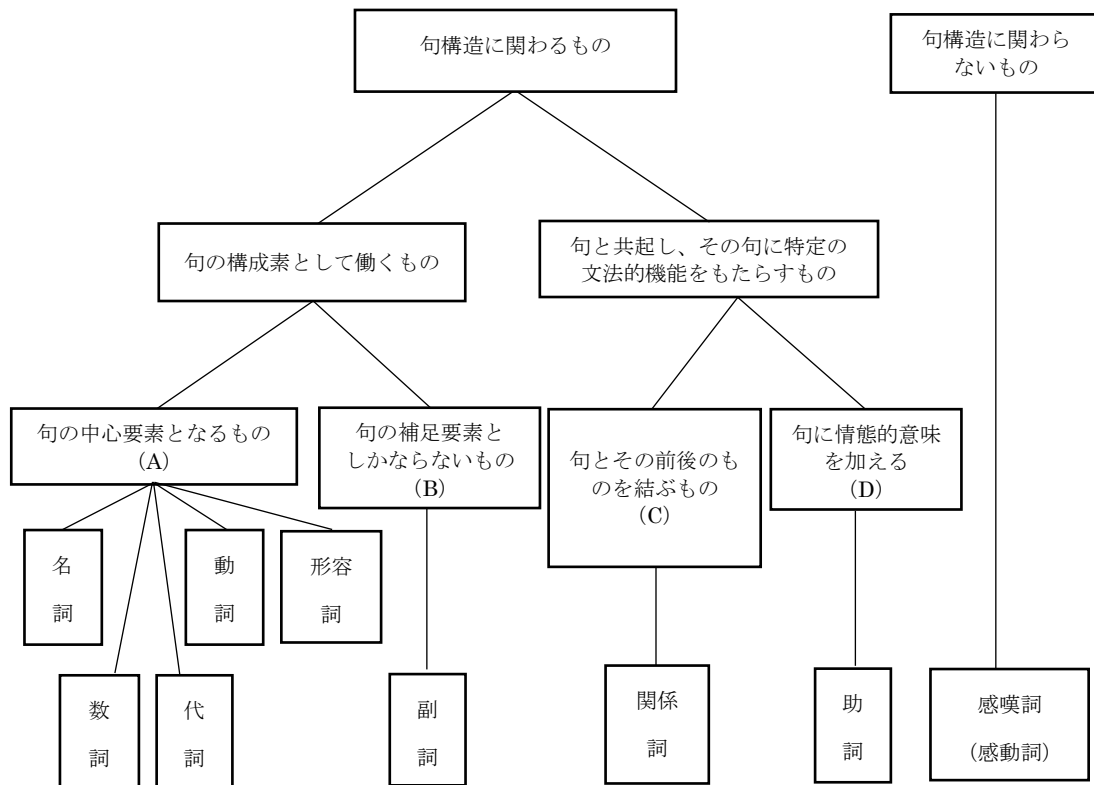
(283) Hôm nay trời đẹp nhỉ.
今日 天 きれい [文末詞 (軽い断定)]
今日はいい天気だね。

まず、ベトナム語の品詞体系については、先行研究によって「語義（語彙的意味）による分類」（Trần T.K. (1940)、Bùi Đ.T. (1952)、富田 (2000) など）、「文法的機能による分類」（Lê V.L. (1948)、Nguyễn T.C. (1975)、Nguyễn A.Q. (1988) など）、または「複数の基準による分類」（Nguyễn K.T. (1963)、Đinh V.Đ. (1986) など）といった様々な品詞分類に関する記述が見られる。その中で、語義（語彙的意味）による分類を採用してい

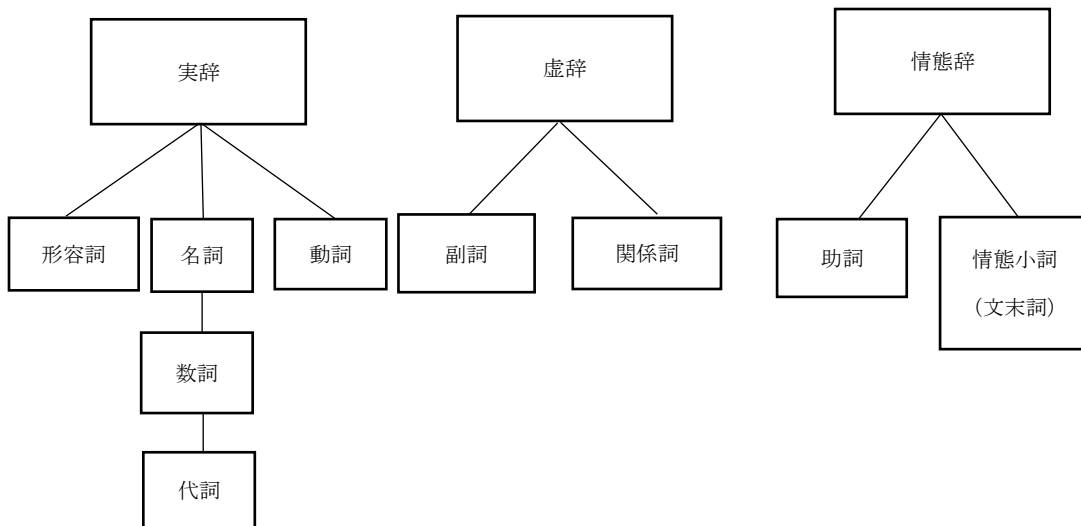
る富田（2000）は、ベトナム語には名詞、動詞、形容詞、数詞・数量詞、代詞、副詞、関係詞、助詞、感嘆詞、表象詞といった品詞が存在するとし、助詞の一種として語気詞（＝文末詞）がある。この語気詞（＝文末詞）は、命令・勧誘、確認・自認、同意の要求、尊敬などといった話し手の気持ちや感情、態度を表明するものであると言及されている（富田 2000:98）。

文法的機能による分類を採用している Nguyễn T.C.（1975）では、「品詞分類」と呼ばれる枠組みを提唱し、語彙的意味を一切考慮せず、句の構造との関連付けに従って品詞を分類している。ここで言う句とは、「文の中のいくつかの語彙項目が修飾・被修飾の関係により、形成されるひとまとまり（p.148）」と定義されている。また、句の構造は、基本的に一つの中心要素となる主要部と、その前後で主要部を意味的に修飾している一つ以上の補部からなる。Nguyễn T.C.（1975）は、句構造に関わるか否かで、感嘆詞とそれ以外とに分けることができると主張している。一方、句構造に関わるものには、句の構成素として働くことができるものと、句の構成素にはなれず、句と共に起してその句に特定の文法的機能をもたらすものに分けられる。句の構成素として働くものには、句の中心要素である主要部になり得るもの（A群）と、句の補足要素である補部にしかなり得ないもの（B群）がある。ただし、A群に属するものは補部としても機能できるが、B群に属するものは主要部としての機能を持たない。A群に属するものには、名詞、動詞、形容詞、数詞と代詞がある。B群には副詞がある。また、句と共に起してその句に特定の文法的機能をもたらすものには、さらに句と先行するものを結び、その句が担う特定の文法的機能を示すもの（C群）と、句に情態的意味を加えるもの（D群）とに分けられ、前者は関係詞、後者は助詞がある。本章の研究対象である文末詞はこの Nguyễn T.C.のいう助詞に含まれる。

一方、Đinh V.Đ.（1986）は、語義、結合可能性、文成分としての機能という複数の基準に基づき、ベトナム語の品詞を実辞、虚辞と情態辞とに分類している。実辞は最も数が多い品詞で、語彙的意味を持ち、句の主要部・補部または文の成分（文要素）としての機能を持つ。名詞、動詞、形容詞が実辞に含まれ、数詞は語彙的に実辞に近い。代詞（指示詞・人称代名詞が含まれる）は、実辞の代わりという照応的機能を持つものである。虚辞は、文法的な機能を示す。句の主要部・修飾部とはなれない。虚辞のみでは文を成さず、文成分としてもみなされない。連詞（＝関係詞）、介詞（＝前置詞）などがある。情態辞とは語彙的意味も文法的機能も持たず、意味論的範疇であるモダリティに関わるものである。話し手の命題の真偽に対する態度を表し、話し手と命題との関係を示す。また、句や文の成分にはならない。情態辞には、情態小詞（＝文末詞）と助詞がある。



(図7) Nguyễn T.C. (1975) によるベトナム語の品詞分類



(図8) Đinh V.Đ. (1986) によるベトナム語の品詞分類

本研究では、ベトナム語の品詞体系に関しては、上記の Nguyễn T.C. (1975) の文法的機能による分類を採用する。ちなみに、Phạm H.V. (2003) では、Nguyễn T.C. (1975) で

言う助詞 (=文末詞) には、文中に置かれるものと文末に置かれるものとに分かれているとされている。さらに、Nguyễn T.C. (1975) の立場を取っている Nguyễn A.Q. (1988) では、ベトナムの品詞を句の主要部・補部かつ文の成分 (文要素) としての機能を持つ「実辞」 (=内容語) とそうでない「虚辞」 (=機能語) とに分けている。虚辞には、句の内部構造において修飾部として機能しているものと、各修飾部の関係を示すもの、そして句の外部構造にあるものの3種類に分けている。句の外部にあるものには、取り立て助詞として働くものと、文の種類を特定するあるいは話し手の態度を表す語気詞というものがある。文の種類を特定する語気詞 (=文末詞) は、文の最後に付加することによって疑問文 (à/ư/nhĩ/chứ/chẳng/hả)、命令文 (đi/đã/thôi/nào/với)、感嘆文 (thay) を表示する。一方、話し手の態度を表す語気詞 (=文末詞) には、丁寧 (ạ)、親密 (ạ/kia/đấy/nhé)、皮肉 (nhé)、強調 (kia/đây/đấy/này/đâu/mà)、不可避 (vậy)、対比 (vậy/áy)、動作の開始 (đây)、新規情報の提供 (đấy)、教示・説明 (này/áy)、怒気 (này)、驚き (mà) を表すものがある。これらの先行研究の記述を踏まえ、本研究では、品詞論から見た文末詞について、以下のように主張する。

(284) 品詞論から見たベトナム語の文末詞の位置付け：

文末詞は、助詞の一種であり、文末に置かれるものである。文末詞は、文の種類を特定する、もしくはモダリティ的意味を表す。

以上、品詞論から見た文末詞の位置づけを紹介したが、文末詞の先行研究にはモダリティの表現として研究するものも数多く存在している。しかし、先行研究によって様々な見解が見られている。モダリティの定義について議論されている研究には、東欧伝統文法論の影響を受けながらモダリティを広く捉える Lê Đ. & Nguyễn V.H. (2003) (後に Nguyễn V.H. (2012) にも言及されている)、話し手の主観性的態度を表すとされる Phạm H.V. (1994、2003)⁵³、または文の二大要素の一つとして扱っている Cao X.H. (1991) や Nguyễn T.L. (1996) が挙げられる。Lê Đ. & Nguyễn V.H. (2003) は、命題以外のすべてがモダリティであるとし、次のように述べている。

- ・モダリティは、Austin の発話内行為によって表現される意味 (質問・命令・依頼・勧誘・否定など) を表し、話し手と聞き手との相互作用に関わる。
- ・命題内容に対する話し手の判断・態度・気持ちを表し、命題内容の肯定・否定や主語と述語の関係とそれが意味する事態に関わる。

⁵³ Phạm H.V. (2003) はベトナム語の品詞体系におけるいわゆる「助詞」についての研究であり、助詞には文末助詞と文中助詞がある。前者は à/ạ/áy/chắc/chứ/đâu/đấy/gi/hả/kia/mà/nào/này/nhé/nhĩ/vậy など、後者は cái/chẳng/chính/cứ/đã/được/mãi/ngay/thì などが挙げられるとしている。

・話し手の聞き手への態度、発話場における聞き手の持つ情報への判断などを表す。

また、Cao X.H. (1991) では、文（発話）は命題とモダリティからなると捉えられ、モダリティは「発話行為のモダリティ」と「発話のモダリティ」とに分かれる。前者は平叙文・疑問文・命令文の区別に関わる、後者は話し手の発話事態への態度あるいは命題における主語と述語との関係を示すものであるとされている。

一方、本研究で言う文末詞を含んだ助詞の意味・機能を記述している Pham H.V. (1994、2003) では、発話の命題内容と現実との関わりを示す「客観的モダリティ」と、発話事態に対する話し手の判断・情意を表す「主観的モダリティ」の2種類のモダリティが存在し、助詞の機能に関わるのは主観的モダリティであると言及している。助詞の機能を「命題や現実、あるいは対話者に対する話し手の判断・態度・情意、または発話内行為を表す (p.71)」と定義している。つまり、モダリティは助詞の機能の一つであると考えられる。さらに、助詞の品詞分類における位置付けについては、前述の Đinh V.D. (1986) の複数の基準による分類を採用し、助詞は「話し手の命題の真偽に対する態度を表し、話し手と命題との関係を示す」情態辞の範疇に属しているとしている。また、Nguyễn T.L. (1996) においても、Bally (1965) による「文は *modus* と *dictum* から成る」という考え方を取り、モダリティは *modus* に当たるとされている。文末詞 (Nguyễn T.L. (1996) では「文末の情態小詞」と呼んでいる) はモダリティを表すものであるが、発話内行為を示す表現にもなれるとされている。

	モダリティの定義	モダリティと文末詞との関係
Cao X.H. (1991)	文（発話）＝命題＋モダリティ (ただし、すべての文（発話）に対してモダリティがかかっている)	モダリティの一種であり、文全体に関わるモダリティを表す
Nguyễn T.L. (1996)	文は <i>modus</i> と <i>dictum</i> から成り、モダリティは <i>modus</i> に当たる	モダリティを表す
Pham H.V. (1994、2003)	文（発話）の内容と現実との関わり、またはその内容に対する話し手の主観的態度	話し手の文（発話）と現実や聞き手に対する判断・態度を表す主観的モダリティ
Lê Đ. & Nguyễn V.H. (2003) Nguyễn V.H. (2012)	発話行為、話し手の態度、命題の肯否、主語と述語の関係、話し手の聞き手への態度など	モダリティを表す表現の一つ

(表 21) ベトナム語の研究者が扱っているモダリティと文末詞との関係

ちなみに、モダリティは元々哲学上の概念であり、言語学で使用される際はその定義は様々で、研究者の間で必ずしも意見が一致していない。モダリティを文法カテゴリーとして捉えるべきかどうか、また捉えるべきだとしてもどのレベルで認識すれば良いか

についてもまた研究者によって見解が異なる。言語学におけるモダリティという概念には、「必然性と可能性」、「文のあり方」、「事実未定あるいは非現実」、「話し手の態度あるいは主観性」、「文の二大要素の一つ」といった捉え方がある⁵⁴が、本研究では、Cao X.H. (1991) や Nguyễn T.L. (1996) と同じく、文（発話）は命題とモダリティからなり、すなわちモダリティは文の二大要素の一つであるという概念を採用する。また、日本語記述文法研究会 (2003) は、「命題は、その文が伝える事柄的な内容を担う。一方、モダリティは、その文の内容に対する話し手の判断、発話状況や他の文との関係、聞き手に対する伝え方といった文の述べ方を担う (p.1)」ものであり、モダリティを4つのタイプに分けている。それは、文の伝達的な表し分けを表す表現類型のモダリティ、事態の捉え方を表す評価のモダリティと認識のモダリティ、文と先行文脈の関係づけを表す説明のモダリティ、聞き手に対する伝え方を表す伝達のモダリティ（丁寧さのモダリティと伝達態度のモダリティ）である。これらの先行研究を踏まえると、モダリティ論から見た文末詞について、以下のことが言える。

⁵⁴ ナロック (2014) によれば、これまで以下のような言語学における主要な定義が提唱されている。

・「必然性」と「可能性」としてのモダリティ：必然性と可能性に関わる推論を扱う様相論理学が元となる捉え方である。ナロック (2002:219) によると、論理的に定義されたモダリティとは、真理値を担う「命題 (proposition)」に属するもので、必然性 (necessity) または可能性 (possibility) を表現するものでなければならない。また、様相論理における命題の分類は、「必ず真になるはずの命題を (中略) 「必然命題」、必ず偽になるはずの命題を「不可能な命題」、必然でも不可能でもない命題を「偶然命題」という。ある偶然命題は、もちろん真であり、またあるものは偽である。もし命題が不可能でなければ、それを「可能命題」という」 (ヒューズ・クレスウェル1981:21)。

・「文のあり方」としてのモダリティ：平叙文・疑問文・命令文・感嘆文など文の類型はモダリティと呼ばれ、発話行為 (speech act) と密接に関わる。特に、モダリティを広く捉えるロシア・東欧伝統文法論では、こうした「文のあり方」としてのモダリティはモダリティ全体の概念の重要な部分を示す。

・「事実未定」あるいは「非現実」としてのモダリティ：論理学では、事態のあり方を大きく「事実」と「事実以外」に分類した場合、モダリティは事態に関する言語的カテゴリーとして捉えられる。この「文と現実との関係」のカテゴリーとしてのモダリティは、1970年代以降から広く認識されており、研究者によって用語が異なる。主に「事実性 (factual status/factivity または factuality)」 (Lyons (1968, 1977)、「現実・非現実 (realis/irrealis)」 (Givón (1995))、「妥当性 (validity)」 (Kiefer (1987))、または「現実性・非現実性」の対立軸 (Palmer (1999, 2001)) といったものが挙げられる。野村 (2003) や Langacker (2003) もモダリティを「文内容と現実との関わり」や「非現実」のカテゴリーとしている。さらに、ナロックはこれらの用語の適切さを検討したところ、「事実」がモダリティを定義する上で一番ふさわしいという結論を導き、Narrog (2005:184) は、モダリティを「事態の事実性に関するカテゴリーであり、ある事態が「事実未定」として標識された場合、それをモジュールとする」と定義している。

(285) モダリティ論から見たベトナム語の文末詞：

文末詞は、(本研究で採用しているモダリティの定義によれば) モダリティの一種であり、文の伝達的な表し分けを表す表現類型のモダリティと聞き手に対する伝え方を表す伝達のモダリティを表す。

ここで、上述の(284)と(285)を合わせると、本研究で扱われるベトナム語の文末詞について(286)のように主張する。なお、(285)における「文の種類を特定する」機能は(286)における「表現類型のモダリティ」に当たると考えられる。

(286) 本研究で扱われるベトナム語の文末詞：

文末詞は統語的には助詞の一種であり、文末に置かれるものである。機能的にはモダリティ表現であり、表現類型のモダリティと伝達のモダリティを表す。

本章では、この(286)の定義を前提とした上で、ベトナム語における文末詞としての指示詞 (*đây/này/đây/ấy(ý)/kia(cơ)/kia*) について、平叙文・疑問文・命令文・感嘆文といった文の表現類型を表示できないため、表現類型のモダリティとしての機能を持たず、これらの文末詞には聞き手に対する伝え方を表す伝達のモダリティとしての機能しか持たないと主張する。ただし、文の表現類型によって、それと共起できる文末詞の機能が異なるので、次節では、本校で扱われる発話機能による表現類型の分類を踏まえながら、それと共起できる文末詞としての指示詞の振る舞いを考察していく。なお、*đây/này/đây/ấy(ý)/kia(cơ)/kia* 以外の他の文末詞と文の表現類型との関係については付録を参照されたい。

・話し手の態度あるいは主観性としてのモダリティ：モダリティを最も早く「発話に対する話し手態度 (the attitude of the speaker toward the utterance)」と定義したのはムードをモダリティの特徴をもつ表現手段と位置づける Oertel (1901) である。その後、Jespersen (1924) もこの考え方を採用し、Lyons (1968, 1977) においても「文における命題またはその命題が表す事態に対して、話し手の意見や態度を加えるのに用いられる (used by the speaker in order to express, parenthetically, his opinion or attitude towards the proposition that the sentence expresses or the situation that the proposition describes)」とされている。また、日本では、後述の益岡 (1991) や、モダリティを「現実との関わりにおける、発話時の話し手の立場からした、言表事態に対する把握の仕方、および、それらについての話し手の発話・伝達の態度のあり方の表し分けに関わる文法的表現である」と暫定的に定義している仁田 (1989, 1991) がある。この話し手の態度あるいは主観性としてのモダリティの使い方と、哲学や論理学での「様相 (modality)」との間のギャップは大きく、それをめぐる論考は土屋 (1999) や飯田 (2014) などがある。土屋 (1999:90-1) では「(自然言語) の分析に様相についての論理的分析の手法が使えるとしても、(中略) 哲学や論理学におけるモダリティは、すなわち様相が主観的なものとは限らない」、またこのギャップの要因は、明かに哲学・論理学からきた「命題」という概

6.2 文末詞としての指示詞

文の表現類型は、一般的に、話し手と聞き手との情報のやりとりに関わる情報系の表現、聞き手に行為の実行を要求する行為系の表現、話し手の感動を表す特殊な表現に分けることができる。情報系の表現には、基本的に聞き手に情報を与える機能を持つ平叙文と聞き手から情報を引き出すことを目的とする疑問文がある。行為系の表現には命令文がある。一方、これらとは異なっている特殊な表現である感嘆文も表現類型の一つである。なお、ベトナム語の場合、情報系の表現である平叙文をさらにその下位分類すれば、描写の平叙文（動詞述語文）、関係叙述の平叙文（名詞述語文）、属性叙述の平叙文（形容詞述語文）があり、一般的に肯定文と否定文とに分けられる。疑問文は、一般の疑問文（真偽疑問文・選択疑問文・補充疑問文）と疑似疑問文（確認要求の疑問文、疑いの疑問文）とに下位範疇として分類できる。また、命令文は、ある行為の実行を聞き手に要求する命令文と、その行為を実行しないことを要求する禁止の命令文とに分けることができる。

以上の分類に基づき、本章で扱われる文末詞としての指示詞の統語的特徴をまとめると以下の表 22 となる。すなわち、文末詞としての指示詞 (*đây/này-đây/ây(y)-kia(cơ)/kia*) は、文の表現類型を表示する機能を持たず、複数の表現類型と共起する。具体的に、近称では、*đây* は肯定の平叙文、選択疑問文、補充疑問文、命令文と、*này* は肯定の平叙文と命令文と共起する。中称では、*đây* は疑いの疑問文と感嘆文以外すべての文の表現

念を言語事象の説明する時、その借用を濫用しているからであると述べている。一方、ナロック (2014:14) は、「主観性、あるいは話し手態度は特定の文法範疇には還元できないのである。それ故モダリティを主観性で定義するのではなく、むしろ「主観性」（あるいは話し手の態度）とモダリティをそれぞれ独立した概念として扱い、モダリティと主観性の相互作用を研究したほうが有意義である」と批判している。その論証についてはナロック (2014 など) を参照されたい。

・文の二大要素の一つとしてのモダリティ：文は「命題」と「モダリティ」からなる、という考え方で、Fillmore (1968) (Sentence→Modality+Proposition) や益岡 (1991) などが挙げられる。益岡 (1991:6) では、「(中略) 文構造の観点から「命題」と「モダリティ」という二つの大きな対象領域を認めることにする。「命題」と「モダリティ」は、文を構成する二大要素であり、それぞれ、客観的な事柄を表す要素、主観的な判断・態度を表す要素、と規定される」、すなわち命題以外の文の要素を主観的要素とされており、上記の「話し手の態度あるいは主観性としてのモダリティ」と「文の二大要素の一つとしてのモダリティ」を併用すると言える。また、必ずしも一致しないが似たような捉え方を有する Bally (1965) は、思想の伝達の単純な形式である文を *dictum* と *modus* とに分けている。前者は外界と内界（感覚または記憶、想像）から受けた表象を構成するもの、後者は *dictum* の相補項である様態動詞 (*verbe modal*) と様態主辞 (*subject modal*) を構成する (シャルル・バイイ 1970:28)。

類型と共起することができるのに対し、*ây(y)*は平叙文としか共起できない。遠称では、*kia(co)/kia* はどちらも肯定の平叙文と共起するが、*kia(co)*は補充疑問文とも共起できるのに対し、*kia* は否定の平叙文や命令文と共起することができる⁵⁵。

		近称		中称		遠称	
		<i>đây</i>	<i>này</i>	<i>đây</i>	<i>ây(y)</i>	<i>kia(co)</i>	<i>kia</i>
平叙文	肯定文	共起	共起	共起	共起	共起	共起
	否定文	—	—	共起	共起	—	共起
疑問文	一般疑問文	真偽疑問文 (肯定)	—	—	共起	—	—
		真偽疑問文 (否定)	—	—	—	—	—
		選択疑問文	共起	—	共起	—	—
		補充疑問文	共起	—	共起	—	共起
	擬似疑問文	確認要求の疑問文	—	—	共起	—	—
		疑いの疑問文	—	—	—	—	—
命令文	命令文	共起	共起	共起	—	—	共起
	禁止の命令文	—	—	共起	—	—	—
感嘆文		—	—	—	—	—	—

(表 22) 表現類型に反映された文末詞としての指示詞の統語的特徴

6.2.1 近称の *đây/này* の文末詞としての機能

6.2.1.1 *đây*

6.2.1.1.1 平叙文と *đây*

近称の *đây* は、肯定の平叙文、選択疑問文、補充疑問文、命令文と共起することができる。まず、肯定の平叙文と共起する場合の *đây* の機能を見てみよう。動きを表す描写の平叙文 (=動詞述語文) の文末に表れる *đây* は、以下の(287)~(293)に示されるように、話し手が今から行う動作の始まり (例(287)~(289))、進行中の動作 (例(290)と(291))、または終りかけの動作 (例(292)と(293)) に対して、話し手が聞き手の注意を向かせるような場合に用いられる。いずれにおいても、動作の主体が一人称の場合に限られる (Nguyễn K.T. 1963:422)。(287)~(289)では、*đây* を用いることによって、発話の直後に動作 (「ご飯を炊く」、「出る」、「取ってくる」) が始まることを表す。(290)と(291)では、*đây* を現在進行の副詞 *đang* と一緒に使うことによって、動作 (「聞く」、「頑張る」) が現在行われている最中にあることを表す。(292)と(293)では、*đây* を完了の副詞 *rồi* と一緒に用いることで、動作がまもなく完了することを表す。いずれにせよ、*đây* は動作の始まり・最中・終りかけを聞き手に注意を向かせるために使用される。

⁵⁵ ベトナム語における表現類型の分類とそれに反映された文末詞全体の統語的特徴について詳しくは後述の付録を参照されたい。

【動きを表す描写の平叙文と共起する *đây*】（動きの主体が一人称の場合）

(287) *Hiền: Thôi em phải đi nấu cơm*

[関係詞 (とにかく)] 1 (弟/妹) [動詞 (べき)] 行く 炊く ご飯
đây.

[文末詞 (注意喚起)] (コ)

ヒェン：(とにかく話しはここまでで) さあ、私は今からご飯を炊かないと。

(Đinh V.Đ. 1996:116)

(288) *Thu Hiền: Anh Vinh ơi! Anh Vinh có nhà*

2 (兄) [人名] [感動詞 (呼びかけ)] 2 (兄) [人名] いる 家
không đấy?

[副詞 (疑問)] [文末詞 (情報提示の要求)]

Vinh: Ai? Có! Thu Hiền phải không? Anh ra ngay

誰 いる [人名] 正しい [副詞 (疑問)] 1 (兄) 出る すぐに
đây! Em vào nhà đi!

[文末詞 (注意喚起)] (コ) 2 (弟/妹) 入る 家 [文末詞 (命令)]

トゥ・ヒェン：ヴィンさん！ヴィンさん、いますか？

ヴィン：誰だ？いるよ！トゥ・ヒェンか？すぐ出るから、上がって来いよ。

(Lê V. 1999:10)

(289) *Ông Trường: Bà xuống lấy cho tôi chiếc*

2 (祖母) 降りる 取る [関係詞 (に)] 1 (私) [類別詞 (枚)]

khăn...

タオル

Bà Trường: Vâng, tôi lấy ngay đây⁵⁶...

[感動詞 (応答)] 1 (私) 取る [副詞 (すぐに)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)

チュオン (旦那)：(下に) 降りて、タオルを取ってきてくれないか？

チュオン (婦人)：はい、すぐに取って来るね。

(Lê V. 1999:26)

⁵⁶ ちなみに、先行研究にはこの *đây* は *bây giờ* (「今・現在」) と同じであるとしているものが多い。以上の (287)~(289)では、*đây* は *bây giờ* に置き換えられるが、*bây giờ* を用いると、「話し手が今から行おうとする動作をその場で始めることを聞き手に伝えたい」という、*đây* でしか表せないニュアンスがなくなる。また、*bây giờ đây* という形式も存在しており、基本的に今から行う動作の場合に用いられる *đây* と同様な意味で使われる。

- (290) Hùng: (nói với ông lão) Vàng, xin cụ cứ nói,
 [感動詞 (応答)] 請う 2 (曾祖父) [副詞 (思い切り)] 言う
 cháu đang nghe đây!
 1 (孫) [副詞 (現在進行)] 聞く [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 フン (おじいさんに言う) : はい、どうぞおっしゃってください。聞いていま
 すよ。

(Lê V. 1999:76)

- (291) A: Làm xong trong sáng nay nhé!
 する 終わる 中 朝 この [文末詞 (軽い命令)]
 B: Ủ, đang cố đây!
 [感動詞 (応答)] [副詞 (現在進行)] 頑張る [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 A : 今日の午前中に終わって欲しいね。
 B : うん、頑張っているよ。

- (292) Mẹ xuống rồi đây!
 1 (母) 降りる [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 (今降りていて) まもなく着くよ。

- (293) Anh chuẩn bị xong rồi đây!
 1 (兄) 準備する 終わる [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 まもなく準備が終わるよ。

đây は、動作主体が一人称以外の動きを表す描写の平叙文 (= 動詞述語文) と共起する時、発話場で発話時に得られたばかりの情報に基づく話し手の判断を表す。以下の(294)と(295)に示されているように、**đây** は、(294)では話し手の男の子のサッカーの腕前、(295)では話し手の敵の動き (「罖を仕掛ける」) に対する判断を表す。

【動きを表す動詞述語文と共起する **đây**】 (動きの主体が一人称以外の場合)

- (294) {男の子がサッカーをしているところを見て}

Cậu này đá được đây.

君 この 蹴る 良い [文末詞 (判断)] (コ)

この子はサッカーがよくできるね。

(Nguyễn V.H. 2007:151)

(295) {部下から敵についての報告を聞いて}

Đại tướng: Tôi đoán bọn chúng định gài bẫy

1 (私) 当てる あいつら 罠る はめる 罠

chúng ta đây.

我々 [文末詞 (判断)] (コ)

大将：俺は、あいつらが我々に罠を仕掛けるのを計画していると思うな。

一方、存在・所有を表す平叙文 (=動詞述語文) に使用される *đây* は、話し手が発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものの存在を聞き手に見せようとする、という伝達態度を表す。(296)と(297)では、「チケットがポケットにある」または「お金がある」様子に対する聞き手への注意喚起を表す。

【存在・所有を表す描写の平叙文と共起する *đây*】

(296) Vé vẫn ở trong túi đây.

チケット [副詞 (まだ)] 居る 中 ポケット [文末詞 (注意喚起)] (コ)

チケットはまだポケットにあるよ、ほら！

(297) Tôi có tiền đây.

1 (私) ある 金 [文末詞 (注意喚起)] (コ)

私はお金を持っているよ、ほら！

同様に、関係叙述の平叙文 (=名詞述語文) と共起する *đây* も、(298)と(299)で分かるように、話し手は発話現場にあるまたは恰も発話現場にあるかのようなもの(「話し手であるロアンさん」、「以前ハム・イエン産のオレンジを栽培した所」)を取り立てて、聞き手にそれに対する意識をさせようとする機能を持つ。

【関係叙述の平叙文と共起する *đây*】

(298) Vàng ạ, thưa Bác cháu là Loan

[感動詞] [文末詞 (丁寧)] 申し上げる 叔父 1 (孫) [コピュラ] [人名]

đây (ạ).

[文末詞 (注意喚起)] (コ) [文末詞 (丁寧)]

はい、私はロアンですよ、ホーチミン叔父さん！

(Phạm H.V. 2003:196-7)

- (299) Vùng này là nơi ngày trước trồng cam Hàm Yên
 地区 この [コピュラ] 所 日 前 植える オレンジ [地名]
 nổi tiếng đây.
 有名な [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 この地区は、以前ハム・イエン産のオレンジを栽培した所だよな。

また、属性叙述の平叙文（形容詞述語文）に使用される *đây* は、描写の平叙文（＝動詞述語文）と共起する時と同様に、発話場で発話時に得られたばかりの情報に基づく話し手の判断を表す。次の(300)～(302)では、それぞれ「今日の一日の天気」、「今見ている葡萄の房」または「女性の昔の外見」に対する話し手の「寒い」、「美味しい」または「綺麗」という判断を表す。このように、平叙文と共起する時の文末詞としての *đây* の機能をまとめると、以下の(303)となる。

【属性叙述の平叙文と共起する *đây*】

- (300) {朝ドアを開けたら、冷たい風が吹いてきて}
 Hôm nay trời rét lắm đây.
 今日 天 寒い [副詞 (とても)] [文末詞 (判断)] (コ)
 今日は絶対寒いよな～。
 (Nguyễn A.Q. 1985:236)

- (301) {新鮮でみずみずしい葡萄の房を見て}
 Nho này ngon đây.
 葡萄 この 美味しい [文末詞 (判断)] (コ)
 この葡萄きっと美味しいよな。
 (Nguyễn V.H. 2007:151)

- (302) {50代の女性の写真を見て}
 Chị này ngày xưa chắc xinh lắm đây.
 姉 この 昔 [副詞 (きっと)] 綺麗な [副詞 (とても)]
 đây.
 [文末詞 (判断)] (コ)
 このお姉さんは昔（＝若い頃）きっと綺麗だったでしょうね～。

(303) 平叙文と共起する時の **đây** の機能：

	描写の平叙文 (動詞述語文)		関係叙述の平叙文 (名詞述語文)	属性叙述の平叙文 (形容詞述語文)	
	動き				
	一人称	一人称以外	存在・所有		
đây	話し手が行う動作の始まり・最中・終わりかけに対する聞き手への注意喚起	発話場で発話時に得られたばかりの情報に基づく話し手の判断	発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものの存在に対する聞き手への注意喚起	発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものに対する聞き手への注意喚起	発話現場で発話時に得られたばかりの情報に基づく話し手の判断

6.2.1.1.2 疑問文・命令文と **đây**

疑問文の下位分類として、真偽疑問文、選択疑問文、補充疑問文と確認要求の疑問文、疑いの疑問文があるが、**đây** と共起できるのは選択疑問文、補充疑問文のみである。いずれの場合においても、**đây** は聞き手にその場で直ちに返答をするように催促するという機能をしている。(304)では「賛成するか反対するか」、(305)では「行くか残るか」、(306)では「手伝ってもらいたいかな否か」に対する聞き手の即答を催促するのに **đây** が用いられる。また、(307)~(309)では、**đây** は「誰」、「どうしたい」、「どう解決するつもりなのか」という質問に対して、話し手が聞き手にその返答を迫ろうとする、といったニュアンスを表す。ただし、(310)と(311)に示されているように、即答が求められない場合なら、**đây** が用いられにくくなる。

【選択疑問文と共起する **đây**】

(304) **Chị đồng ý hay phản đối đây?**

2 (姉) 賛成する [関係詞 (それか)] 反対する [文末詞 (即答の催促)] (コ)
お姉さんは賛成するのでしょうか?それとも反対するのでしょうか?(すぐに教えてください)

(305) **Anh định đi hay ở đây?**

2 (兄) 出る 行く [関係詞 (それか)] 居る [文末詞 (即答の催促)] (コ)
あなたは行くのでしょうか?それとも残るのでしょうか?(すぐに教えてください)

(306) **Bạn có muốn tôi giúp hay**

2 (友達) [副詞 (疑問)] 好む 1 (私) 手伝う [関係詞 (それか)]
không đây?

[副詞 (疑問)] [文末詞 (即答の催促)] (コ)

君は、私に手伝ってもらいたいかな否かどっちだというのは?(すぐに教えてください)

【補充疑問文と共起する *đây*】

(307) A: Ai *đây*?

誰 [文末詞 (即答の催促)] (コ)

B: *Chồng chị Ninh đây.*

夫 姉 [人名] [文末詞 (情報提示)]

A: 誰なの? (すぐに教えてください)

B: ニンさんの夫だよ。

(308) *Chị muốn kiểu gì đây?*

2 (姉) 好む 形 何 [文末詞 (即答の催促)] (コ)

あなたは、どうしたいというのですか? (すぐに教えてください)

(309) *Vấn đề này anh định giải quyết thế nào đây?*

問題 この 2 (兄) 図る 解決する どのよう [文末詞 (即答の催促)] (コ)

この問題に対して、あなたはどう解決するつもりですか? (すぐに教えてください)

(310) *Chị đồng ý hay phản đối *đây?*

2 (姉) 賛成する [関係詞 (それか)] 反対する [文末詞 (即答の催促)] (コ)

Tôi sẽ đợi chị 1 tuần nữa, tuần sau

1 (私) [副詞 (未来)] 待つ 2 (姉) 週 [副詞 (もう)] 来週

phải trả lời nhé!

[動詞 (べき)] 答える [文末詞 (軽い命令)]

お姉さんは賛成というのですか? それとも反対というのですか? あと一週間待つから、来週は答えを教えてください。

(311) *Vấn đề này anh định giải quyết thế nào *đây?*

問題 この 2 (兄) 図る 解決する どのよう [文末詞 (即答の催促)] (コ)

Ngày mai báo cho tôi nhé!

明日 知らせる [関係詞 (に)] 1 (私) [文末詞 (軽い命令)]

この問題に対して、あなたはどう解決するつもりというのですか? 明日私に教えてくださいね。

また、以下の(312)と(313)のように、補充疑問文で独り言の場合なら、*đây* は聞き手に即答を求めるのではなく、話し手の不安・ためらいという態度・気持ちを表すのである。

【補充疑問文と共起する **đây**】(独り言の場合)

(312) **Thất nghiệp rồi biết làm gì đây?**
失業する [副詞 (完了)] 知る する 何 [文末詞 (不安・ためらい)] (コ)
失業したらどうすれば良いだろうな～。

(313) **Phải nói thế nào để bố mẹ đồng ý cho mình lấy anh ấy đây?**
[動詞 (べき)] 言う どのよう [関係詞 (ために)] 父母 賛成する 与える
自分 取る 彼 [文末詞 (不安・ためらい)] (コ)
親に彼との結婚を許してもらうためにどうすれば良いだろう。

一方、命令文と共起する **đây** は、話し手が聞き手に対してその場ですぐに何らかの動作を行うように要求する時に用いられる。次の(314)と(315)で見られるように、**đây** を用いることによって、話し手が聞き手にそれぞれ「我が子を返す」、「金を返す」という行為をすぐに実行してほしいという意味を表す。ただし、これらの文は **đây** がなくても命令文として成り立つが、**đây** でしか表せない「すぐに話し手の目の前で行動を行う」というニュアンスがなくなる。すなわち、**đây** は「すぐに話し手の目の前で行動を行う」というニュアンスを表すため、**đây** を使うと発話の終了と同時に行為の実行が求められるので、逆に直ちに行為の実行を求めない場合は **đây** が用いられない (例(316))。

【命令文と共起する **đây**】

(314) **Hiền: ...hay là chính ông đã bắt cóc con tôi?**
[関係詞 (それか)] [助詞 (こそ)] 2 (祖父) [副詞 (過去)] 拉致する
子供 1 (私)
Toại: Này này...
[感動詞 (注意喚起)] [感動詞 (注意喚起)]
Hiền: Đúng rồi, trả con tôi đây!
正しい [文末詞 (完了)] 返す 子供 1 (私) [文末詞 (即時命令)] (コ)
ヒェン：もしかして、あなたが我が子を拉致したの？
トアイ：おいおい…
ヒェン：やっぱり！今すぐ我が子を返しなさい！

(Đinh V.Đ. 1996:150)

(315) **Hồng Lân: (nói với Người gõ cửa)...Có chịu làm không**
[副詞 (疑問)] 耐える する [副詞 (疑問)]

thì đưa tiền đây.

[関係詞 (なら)] 渡す 金 [文末詞 (即時命令)] (コ)

ホン・ラン (ドアをノックした人) : やるかやらないか決めろ! やらなければ、今すぐ (渡した) 金を返せ!

(Đinh V.Đ. 1996:340)

(316) Ngày mai hãy đưa con tôi ra chỗ hẹn
明日 [副詞 (命令)] 連れる 子供 1 (私) 出る 所 約束

*đây! Tôi sẽ mang tiền đến.

[文末詞 (即時命令)] (コ) 1 (私) [副詞 (未来)] 持つ 金 来る

明日、指定した所へ我が子を連れて行け。私は金を持っていくから。

以上を踏まえ、疑問文・命令文と共起する *đây* の機能を以下にまとめる。

(317) 疑問文・命令文と共起する *đây* の機能:

	疑問文			命令文
	選択疑問文	補充疑問文		
		対話	独り言	
<i>đây</i>	話し手の質問に対する聞き手への即答の催促	話し手の質問に対する聞き手への即答の催促	話し手の不安・ためらいの気持ち	聞き手へのその場での行動実行の要求

6.2.1.2 *này*

平叙文に用いられる *này* は、動きを表す平叙文と存在・所有を表す平叙文のどちらとも共起することができる。動きを表す平叙文と共起する時、発話現場に行われる動作に対する聞き手への注意喚起を表す。存在・所有を表す平叙文と共起する場合、発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものの存在に対する聞き手への注意喚起を表す。以下の(318)では、話し手である「母」が行っている「野菜を食べる」、(319)では第三者の「赤ちゃん」が行っている「笑う」、(320)では話し手である「上司」が行った「チェックする」といった動作に対して、聞き手の注意を向かせるのに *này* が用いられる。同じように、(321)では「プレゼントがある」、(322)では「手紙がある」、(323)では「死んでいるネズミがいる」、といったものの存在に対して聞き手の注意を呼び起こすために *này* が用いられる。なお、動きを表す平叙文と共起する場合は *này* は *đây* と異なり、動作の主体が一人称でなければならないという制限はない。

【動きを表す平叙文と共起する *này*】

(318) {野菜が嫌いな子供に}

Mẹ ăn rau này!

1 (母) 食べる 野菜 [文末詞 (注意喚起)] (コ)

Con cũng phải ăn rau mới
2 (子共) [副詞 (も)] [動詞 (べき)] 食べる 野菜 [関係詞 (それから)]
mau lớn được.

速い 成長する [副詞 (できる)]

お母さんが野菜を食べているよ、ほら！あなたも野菜を食べたら早く大きくなるよ。

(319) {可愛い赤ちゃんを抱っこしながら}

Em bé cười này! Trông đáng yêu không?
赤ん坊 笑う [文末詞 (注意喚起)] (コ) 見る 可愛い [副詞 (疑問)]
赤ちゃんが笑っているよ、ほら！可愛いでしょ！

(320) Cấp dưới: Anh kiểm tra hộ em cái này ạ.
2 (兄) 検査する 手伝う 1 (弟/妹) これ [文末詞 (丁寧)]

Cấp trên: Đẻ đây.

置く そこ

{しばらくして}

Cấp trên: Làm xong rồi này.

する 終わる [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)

部下：このチェックをしていただけませんか？

上司：そこに置いといて。

{しばらくして}

上司：終わったよ、これ！

【存在・所有を表す平叙文と共起する này】

(321) Có quà cho em này.

ある プレゼントあげる 2 (弟/妹) [文末詞 (注意喚起)] (コ)

君のプレゼント、ほら、これ！

(322) Người hàng xóm: Bà Hoài có thư này!

2 (祖母) [人名] ある 手紙 [文末詞 (注意喚起)] (コ)

近所の人：ホアイさん、手紙があります。ほら、これ！

(Lê V. 1999:108)

(323) {妹が兄の部屋にいる死んだネズミを指して}

Có con chuột chết trong phòng anh này!
いる[類別詞(匹)]ねずみ死ぬ中 部屋 2(兄) [文末詞(注意喚起)] (コ)
お兄ちゃんの部屋に死んでいるネズミがいるよ、ほら!

さらに、関係叙述の平叙文(=名詞述語文)や属性叙述の平叙文(=形容詞述語文)と共起する này は発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものまたはもの様態・性質に対する聞き手への注意喚起を表す機能を持つ。例えば、(324)と(325)では発話現場にある「社長」、「お年玉」といった人・物、(326)と(327)では「よりかっこいい」、「より大きい」といった人・物の様態・性質に対して、聞き手の注意を向かせるのに này が用いられる。

【関係叙述の平叙文と共起する này】

(324) A: Chào giám đốc.

挨拶する 社長

B (chỉ tay vào người ngồi cạnh): Không, anh không phải
[副詞(否定)] 1(兄) [副詞(否定)] 正しい

là giám đốc. Anh Phong đây mới là

[コピュラ] 社長 兄 [人名] ここ [助詞(こそ)] [コピュラ]

giám đốc này.

社長 [文末詞(注意喚起)] (コ)

A: 社長さん、こんにちは。

B: いや、僕は社長ではありません。ここにいるフォンさんこそが社長ですよ、ほら!

(325) Ông: Đây là tiền mừng tuổi của cháu

これ [コピュラ] お年玉 [関係詞(の)] 2(孫)

này. Còn đây là tiền mừng tuổi

[文末詞(注意喚起)] (コ) [関係詞(また)] これ [コピュラ] お年玉

của mẹ cháu này. Cháu mang về

[関係詞(の)] 母 2(孫) [文末詞(注意喚起)] (コ) 2(孫) 運ぶ 帰る

đưa cho mẹ nhé.

渡す [関係詞(に)] 母 [文末詞(軽い命令)]

祖父: これはお前のお年玉だ、ほら!そしてこれはお母さんのお年玉だ、ほら!持って帰ってお母さんに渡すんだよ。

【属性叙述の平叙文と共起する này】

(326) (友人と何人かのお見合い写真を見て)

Anh **đây** không được. Anh **này** đẹp trai hơn
兄 その [副詞 (否定)] 良い 兄 この かつこいい より良い
này.

[文末詞 (注意喚起)] (コ)

あの人は良くない。この人のほうがかつこいいよ、ほら！

(327) {スーパーで果物を選ぶ}

Quả **này** to hơn này.

果 この 大きい より良い [文末詞 (注意喚起)] (コ)

こっこのほうが大きいよ、ほら！

này は先述の **đây** と同様に、命令文において、話し手が聞き手に対してその場ですぐに何らかの動作を行うように要求する時に用いられる。ただし、này を用いると、**đây** より聞き手への親密な態度を表すことができる。具体的に(328)～(330)では、聞き手に対して、それぞれ「言うことを聞く」、「見る」という行為をすぐに実行してほしいという軽い命令を表す。このように、平叙文・命令文と共起する này の機能をまとめると、以下の(331)となる。

【命令文と共起する này】

(328) **Mày** nghe tao nói này!

2 (君) 聞く 1 (俺) 言う [文末詞 (注意喚起)] (コ)

君！俺の言うことを聞けよ。

(Phạm H.V. 2003:209)

(329) Anh xem này!

2 (兄) 見る [文末詞 (注意喚起)] (コ)

あなた、見てよ。

(330) Nghe cho rõ này!

聞く [助詞 (強調)] [副詞 (はっきり)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)

よく聞けよ！

(331) 平叙文・命令文と共起する *này* の機能：

	平叙文				命令文
	描写の平叙文 (動詞述語文)		関係叙述の平叙文 (名詞述語文)	属性叙述の平叙文 (形容詞述語文)	
	動き	存在・所有			
<i>này</i>	発話現場に行われる動作の様子に対する聞き手への注意喚起	発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものの存在に対する聞き手への注意喚起	発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものに対する聞き手への注意喚起	発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものの様態・性質に対する聞き手への注意喚起	聞き手へのその場で行動の実行を要求軽い命令

6.2.1.3 *đây* と *này*

近称の *đây* と *này* は平叙文・命令文と共起できることで共通しているが、*đây* が疑問文とも共起できるのに対し、*này* は疑問文とは共起できない。動きを表す平叙文に用いられる *đây* はその動作主体が一人称の場合とそれ以外の場合とで異なる。前者は聞き手への注意喚起を、後者は話し手の評価・判断を表す。一方、動きを表す平叙文に用いられる *này* はその動作主体の人称制限がない。動作主体が一人称の動きを表す平叙文 *đây* と *này* は、時制が現在の場合、*đây* は動作の始まり、*này* は動作の様子に対する聞き手への注意喚起を表す。一方、時制が過去の場合、*đây* は動作の終わりかけ、*này* はすでに終わった動作の結果に対する聞き手への注意喚起を表す。また、現在進行形の平叙文と共起する *đây* は動作の最中に対する聞き手への注意喚起を表し、*này* は用いられない。前述に示されているように(288)では、*đây* は「出る」の始まりに対する聞き手の注意を向かせるのに使われる。他方、(318)では、*này* は「野菜を食べる」の様子に対する聞き手の注意を向かせるのに使われる。

- (288) Thu Hiền: Anh Vinh oi! Anh Vinh có nhà
 2 (兄) [人名][感動詞(呼びかけ)] 2 (兄) [人名] いる 家
 không *đây*?
 [副詞(疑問)] [文末詞(情報提示の要求)]
 Vinh: Ai? Có! Thu Hiền phải không? Anh ra ngay
 誰 いる [人名] 正しい [副詞(疑問)] 1 (兄) 出る すぐに
 {*đây*/**này*}! Em vào nhà đi!
 [文末詞(注意喚起)] (コ) 2 (弟/妹) 入る 家 [文末詞(命令)]
 トウ・ヒェン：ヴィンさん！ヴィンさん、いますか？
 ヴィン：誰だ？いるよ！トウ・ヒェンか？すぐ出るから、上がって来いよ。
 (Lê V. 1999:10)

(318) {野菜が嫌いな子供に}

Mẹ ăn rau { *đây/này }!

1 (母) 食べる 野菜 [文末詞 (注意喚起)] (コ)

Con cũng phải ăn rau mới

2 (子供) [副詞 (も)] [動詞 (べき)] 食べる 野菜 [関係詞 (それから)]

mau lớn được.

速い 成長する [副詞 (できる)]

お母さんが野菜を食べているよ、ほら！あなたも野菜を食べたら早く大きくなるよ。

また、(239)での *đây* は「準備する」という動作の終わりかけを、(320)での *này* は発話時にすでに終わった「チェックする」という動作の結果を表す⁵⁷。

(293) Anh chuẩn bị xong rồi {đây/?này}!

1 (兄) 準備する 終わる [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)

まもなく準備が終わるよ。

(320) Cấp dưới: Anh kiểm tra hộ em cái này ạ.

2 (兄) 検査する 手伝う 1 (弟/妹) これ [文末詞 (丁寧)]

Cấp trên: Đê đây.

置く そこ

{しばらくして}

Cấp trên: Làm xong rồi {?đây/này}.

する 終わる [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)

部下：これのチェックをしていただけませんか？

上司：そこに置いといて。

{しばらくして}

上司：終わったよ、これ！

⁵⁷ なお、近い未来の副詞 *sắp* (「もうすぐ」) と完了の副詞 *rồi* を伴う場合の *đây* は現在行われている動作が終わるところを表す。

(v) Bố sắp về đến nhà rồi đây.

1 (父) [副詞 (もうすぐ)] 帰る 来る 家 [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)

お父さんは (今帰っていて) もうすぐ着くよ。

また、存在・所有を表す平叙文と共起する *đây* と *này* は、どちらも発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものの存在に対する聞き手への注意喚起を表す。が、話し手と聞き手の共有知識にあるものの存在であれば、*này* が用いられない。以下の(322)と(333)では、「チケット」と「社長」はいずれも話し手と聞き手がすでにその存在についての知識を持っている物・人である時は、*này* が用いられない。一方、前述の(322)と(323)のように、「手紙」と「ネズミ」に対して、話し手にしかその存在についての知識を持たない時（一方知識）は *này* が用いられる。

(332) Vợ: Vé lúc này em đưa cho anh đâu?

チケット さっき 1 (弟/妹) 渡す [関係詞 (に)] 1 (兄) どこ

Chồng (sờ vào túi): Vé vẫn ở trong túi

チケット[副詞 (まだ)] 居る 中 ポケット

{*đây*/**này*}.

[文末詞 (注意喚起)] (コ)

妻：さっきあなたに渡したチケットはどこなの？

夫（ポケットに触って）：チケットはまだポケットにあるんだよ、ほら！

(333) Cấp dưới: Giám đốc về rồi ạ?

社長 帰る [副詞 (完了)] [文末詞 (疑問・丁寧)]

Cấp trên (mở cửa phòng giám đốc): Không, vẫn ở trong phòng

[副詞 (否定)] [副詞 (まだ)] 居る 中 部屋

{*đây*/**này*}.

[文末詞 (注意喚起)] (コ)

部下：社長は帰られたのでしょうか？

上司（社長室のドアを開けて）：いや、まだいらっしゃるよ、ほら！

(322) Người hàng xóm: Bà Hoài có thư {?*đây*/*này*}!

2 (祖母) [人名] ある 手紙 [文末詞 (注意喚起)] (コ)

近所の人（ホアイさんに言う）：ホアイさん、手紙があります。ほら、これ！

(LÊ V. 1999:108)

(323) {妹が兄の部屋にいる死んだネズミを指して}

Có con chuột chết trong phòng anh {**đây*/*này*}!

いる[類別詞 (匹)]ねずみ 死ぬ 中 部屋 2 (兄) [文末詞 (注意喚起)] (コ)

お兄ちゃんの部屋に死んでいるネズミがいるよ、ほら！

関係叙述の平叙文と共起する *đây* と *này* は、どちらも話し手は発話現場にあるまたは恰も発話現場にあるかのようなものに対する聞き手への注意喚起を表す。この *đây* と *này* の違い⁵⁸については、前者はそのものに関する話し手の知識を聞き手に提示するために、後者はそのものに関する話し手の知識を聞き手に共有するために使用されるという点で異なる。すなわち、(298)では、話し手はただ聞き手に「自分がロアンである」という知識を提示するために、聞き手の注意を向かせる。それに対し、(324)では、話し手は聞き手に「フォンさんこそが社長である」という知識を共有するために、聞き手の注意を向かせるのであろう。そのため、(324)の後に、例えば聞き手に対して「今後、間違えないように気をつけてください」というような注意の文が後続しても良い。一方、(298)には、そのような文が後続する必要がない。

- (298) *Vâng a, thưa Bác cháu là Loan*
 [感動詞] [文末詞 (丁寧)] 申し上げる 叔父 1 (孫) [コピュラ] [人名]
*{đây/*này}* (a).
 [文末詞 (注意喚起)] (コ) [文末詞 (丁寧)]
 はい、私はロアンですよ、ホーチミン叔父さん！
 (Phạm H.V. 2003:196-7)

- (324) A: *Chào giám đốc.*
 挨拶する 社長
 B (chỉ tay vào người ngồi cạnh): *Không, anh không phải*
 [副詞 (否定)] 1 (兄) [副詞 (否定)] 正しい
là giám đốc. Anh Phong đây mới là
 [コピュラ] 社長 兄 [人名] ここ [助詞 (こそ)] [コピュラ]
giám đốc {?đây/này}.
 社長 [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 A: 社長さん、こんにちは。
 B: いや、僕は社長ではありません。ここにいるフォンさんこそが社長ですよ、ほら！

⁵⁸ Bui L.T. (2014:166) では、*đây* と *này* の違いについて '*đây* is mainly used to inform, and thus prepare the hearer's attention for the speaker's next plans, actions, and behaviour, while *này* (*nè*) is generally used to direct the hearer's attention to the speaker's actual plans, actions, and behaviour'

属性叙述の平叙文（形容詞述語文）と共起する *đây* と *này* の違いは、先述のように、前者は、発話場で発話時に得られたばかりの情報に基づく話し手の判断を表す(例 301)。一方、後者は発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものまたはものの様態・性質に対する聞き手への注意喚起を表す（例 326）。

(301) {新鮮でみずみずしい葡萄の房を見て}

Nho này ngon {*đây/?này*}.

葡萄 この 美味しい [文末詞 (判断)] (コ)

この葡萄きっと美味しいよな。

(Nguyễn V.H. 2007:151)

(326) (友人と何人かのお見合い写真を見て)

Anh *đây* không được. Anh này đẹp trai hơn

兄 その [副詞 (否定)] 良い 兄 この かつこいい より良い

{*?đây/này*}.

[文末詞 (注意喚起)] (コ)

あの人は良くない。この人のほうがかつこいいよ、ほら！

さらに、命令文と共起する *đây* と *này* の相違点は、先述の通り、*này* のほうが軽い命令を表す。このように、文の表現類型から見た文末詞としての *đây* と *này* の機能をまとめると、次の(334)となる。

(334) 文の表現類型から見た文末詞としての *đây* と *này* の機能：

文の表現類型			<i>đây</i>	<i>này</i>
平叙文	描写の平叙文 (動詞述語文)	動き	一人称	聞き手への注意喚起
			一人称以外	聞き手への注意喚起
		存在・所有	話し手の判断	聞き手への注意喚起 (一方知識)
	関係叙述の平叙文 (名詞述語文)	聞き手への注意喚起	聞き手への注意喚起 (知識共有の志向)	
	属性叙述の平叙文 (形容詞述語文)	話し手の判断	聞き手への注意喚起	
疑問文	選択疑問文		聞き手への即答の催促	—————
	補充疑問文	対話	聞き手への即答の催促	—————
		独り言	話し手の不安・ためらいの気持ち	
命令文			即時命令	即時命令 (軽い)

ちなみに、平叙文に用いられる文末詞としての *đây* と *này* は近称の指示詞と共起し、その現場指示的機能を強める働きを持つ。基本的に、指示詞の *đây* の後に文末詞の *này* が来る (例(335)と(336))、または、その逆で NP-*này* (名詞修飾形) の後に *đây* が来る (例(337)~(338)) が、指示詞の NP-*này* の後に文末詞の *này* が来ることもある (例(339)と(340))。 *này* は(335)と(336)では、それぞれ「ここ」と「これ」、(339)と(340)では「こう」と「こっち」といった様態・性質や場所・方向または物の現場指示的機能を強めるために用いられる。一方、(337)と(338)での *đây* は、「この罪深く、不幸な私」と「こんなめっちゃくちゃなもの」といった人・物の現場指示的機能を強めるために用いられる。なお、*đây* の後に *đây* が来るという形が見られない。また、先行する指示詞は必ず近称のものでなければならず、逆に、共起する近称の指示詞の後には、中称や遠称から転用した文末詞は現れない。 *này* は先述のように、*đây* とは多少異なり、指示詞の現場指示的機能を強める他、話し手が発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなもの・動作に対する話し手の知識を聞き手に共有したいという聞き手志向の表現であると考えられる。

(335) *Tôi ở đây này! Đền bắt tôi đi.*
 1 (私) 居る ここ [文末詞 (注意喚起)] (コ) 来る 捕まえる 1 (私)

[文末詞 (命令)]

私はここにいるんだよ、ほら！捕まえに来い！

(336) *Anh giúp em một tay nhé! Đây này! Anh là cái áo vét này cho em.*
 2 (兄) 手伝う 1 (妹) 1 手 [文末詞 (軽い命令)] これ
 [文末詞 (注意喚起)] (コ) 2 (兄) アイロンをかける [類別詞 (個)]

スーツ この [関係詞 (に)] 1 (弟/妹)

手伝ってくれないかしら？これね、ほら！このスーツをアイロン掛けしてくれない？

(Lê V. 1999:67)

(337) Vinh: (nói một mình) *Sao lúc này tôi thương mẹ vô cùng.*
 なぜ 頃 この 1 (私) 哀れむ 母 無限
Giờ này chắc mẹ đang đi tìm đứa
 時 この [副詞 (きっと)] 母 [副詞 (現在進行)] 行く 探す [類別詞 (人)]

con tội lỗi và bất hạnh này đây.
 子 罪深い [関係詞 (と)] 不幸 この [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 Mẹ ơi, mẹ hãy tha lỗi
 母 [感動詞 (呼びかけ)] 母 [副詞 (命令)] 許す 過ち
 cho con.

[関係詞 (に)] 1 (子)

ヴィン (独り言で) : なぜか、今でこそ母親のことを言いようがないほど哀れ
 んでいる。今頃、きっと母親が、ほら、この罪深く、不幸な私を探しに行っ
 ているのだろう。お母さん！どうか許してください。

(Lê V. 1999:32)

(338) Đây, anh xem, một mớ hỗn độn thế này đây!
 これ 2 (兄) 見る 1 束 混沌な こんなに [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 これ、見てください。こんなめちゃくちゃなもので、ほら！

(339) Làm thế này này!
 する こう [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 こうしてよ、ほら！

(Phạm H.V. 2003:209)

(340) Đi lối này này.
 行く 道 この [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 こっちの方に行ってください、ほら！

(Nguyễn K.T. 1963:423)

さらに、đây と này が合わせた形の đây này も平叙文と共起して、文末詞としての機能を持っている。以下の(341)に示されているように、đây này は đây と同じく、時制が現在進行の動きを表す平叙文と共起できるが、đây は「叱られている」(đang bị mắng) という発話時に行われている最中の動作を表すのに対し、đây này は「叱られている」状態に対する聞き手への注意喚起を表す。一方、(290)では、đây は「聞いている」(đang nghe) という発話時に行われている最中の動作を表すのに対し、đây này はこの場合には用いられない。それは「聞いている」は動作の進行中としか捉えられないからであろう。ちなみに、先述の通り、này は進行時制の場合には使用不可能である。

(341) Anh đang họp, không nghe điện thoại
 1 (兄) [副詞 (現在進行)] 会議する [副詞 (否定)] 聞く 電話

được. Đang bị sắp mắng
 [副詞 (できる)] [副詞 (現在進行)] [動詞 (受身)] ボス 叱る
 {đây/đây này}.

[文末詞 (注意喚起)] (コ)

俺は会議中で、電話できない。ボスに叱られているんだよ。

(290) Hùng: (nói với ông lão) Vàng, xin cù cứ nói,
 [感動詞 (応答)] 請う 2 (曾祖父) [副詞 (思い切って)] 言う
 cháu đang nghe {đây/*đây này}!

1 (孫) [副詞 (現在進行)] 聞く [文末詞 (注意喚起)] (コ)

ブン (おじいさんに言う) : はい、どうぞおっしゃってください。聞いていますよ。

(Lê V. 1999:76)

また、先述の(320)で見られるように、時制が過去の動きを表す平叙文と共起できる *đây này* は、*này* と同様にすでに終わった動作の結果を表す。それに対し、(293)では *đây* を用いると、動作の終わりかけを表す (例(293a)) が、*đây này* を用いると終わった動作の結果を表すこととなる (例(293b))。いずれにせよ、*đây/này/đây này* が動作の終わりかけまたは動作の結果に対する聞き手への注意喚起を表すことは変わらない。

(320) Cấp dưới: Anh kiểm tra hộ em cái này a.
 2 (兄) 検査する 手伝う 1 (弟/妹) これ [文末詞 (丁寧)]

Cấp trên: Đê đấy.

置く そこ

{しばらくして}

Cấp trên: Làm xong rồi {này/đây này}.

する 終わる [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)

部下：これのチェックをしていただけませんか？

上司：そこに置いといて。

{しばらくして}

上司：終わったよ、これ！

(293)a. Anh chuẩn bị xong rồi đây!

1 (兄) 準備する 終わる [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)

まもなく準備が終わるよ。

b. Anh chuẩn bị xong rồi đây này!

1 (兄) 準備する 終わる [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)
もう準備が終わったよ、ほら!

存在・所有を表す平叙文と共起する *đây này* は、発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものの存在に対する聞き手への注意喚起を表す。*đây này* は、(333)と(323)に示されているように、話し手と聞き手の共有知識にあるものであっても、話し手の一方知識にあるものであっても、*đây này* が用いられる。(333)では、*đây này* を *đây* に、(323)では *đây này* を *này* に入れ替えることができる。

(333) *Cấp dưới: Giám đốc về rồi ạ?*

社長 帰る [副詞 (完了)] [文末詞 (疑問・丁寧)]

Cấp trên (mở cửa phòng giám đốc): Không, vẫn ở trong phòng
[副詞 (否定)] [副詞 (まだ)] 居る 中 部屋

{*đây/đây này*}

[文末詞 (注意喚起)] (コ)

部下: 社長は帰られたのでしょうか?

上司 (社長室のドアを開けて): いや、まだいらっしゃるよ、ほら!

(323) {妹が兄の部屋にいる死んだネズミを指して}

Có con chuột chết trong phòng anh {này/ đây này!}

いる[類別詞 (匹)]ねずみ 死ぬ 中 部屋 2 (兄) [文末詞 (注意喚起)] (コ)

お兄ちゃんの部屋に死んでいるネズミがいるよ、ほら!

関係叙述の平叙文と共起する *đây này* に関しても、同様なことが言える。(299)では、話し手は聞き手に「この地区は以前ハムイ・エン産のオレンジを栽培した所だ」という知識を提示するために、聞き手の注意を向かせる。一方、(324)では、話し手は聞き手に「フォンさんこそが社長だ」という知識を共有するために、聞き手の注意を向かせる。なお、上記の存在・所有を表す平叙文と共起する場合と同じように、(299)では *đây này* を *đây* に、(324)では *đây này* を *này* に入れ替えることができる。

(299) *Vùng này là nơi ngày trước trồng cam Hàm Yên*

地区 この [コピュラ] 所 日 前 植える オレンジ [地名]

nổi tiếng {đây/đây này}.

有名な [文末詞 (注意喚起)] (コ)

この地区は、以前ハムイエン産のオレンジを栽培した所だよな。

(324) A: Chào giám đốc.

挨拶する 社長

B (chỉ tay vào người ngồi cạnh): Không, anh không phải
[副詞 (否定)] 1 (兄) [副詞 (否定)] 正しい

là giám đốc. Anh Phong đây mới là

[コンピュータ] 社長 兄 [人名] ここ [助詞 (こそ)] [コンピュータ]

giám đốc {này/đây này}.

社長 [文末詞 (注意喚起)] (コ)

A: 社長さん、こんにちは。

B: いや、僕は社長ではありません。ここにいるフォンさんこそが社長ですよ、ほら!

属性叙述の平叙文と共起する *đây này* は *này* と同様に、発話現場にあるまたは恰も発話現場にあるかのようなものまたはものの様態・性質に対する聞き手への注意喚起を表す機能を持つ。以下の(326)と(327)では、*đây này* を *này* に入れ替えることができる。なお、前述の属性叙述の平叙文と共起する *đây* が持っている発話場で発話時に得られたばかりの直接経験に基づく話し手の評価・判断を表す機能を持たない。

(326) (友人と何人かのお見合い写真を見て)

Anh *đây* không được. Anh *này* đẹp trai hơn

兄 その [副詞 (否定)] 良い 兄 この かつこいい より良い

{*này/đây này*}.

[文末詞 (注意喚起)] (コ)

あの人は良くない。この人のほうがかつこいいよ、ほら!

(327) (スーパーで果物を選ぶ)

Quả *này* to hơn {*này/đây này*}.

果 この 大きい より良い [文末詞 (注意喚起)] (コ)

こっこのほうが大きいよ、ほら!

以上、肯定の平叙文に用いられる *đây/này/đây này* を考察したが、否定の平叙文の場合は、次の(342)~(345)に示されるように、*đây* と *này* は用いられにくく、*đây này* のほうがよく使用される。ただし、これらの否定の平叙文と共起する *đây này* も、肯定の平叙文と共起する場合と同じように、(342)では「キム・トウさんは今何もしていない」、(343)では「一ドンも残っていない」、(344)では「日本製じゃない」、(345)では「点数はあまり良くなかった」といったことに対して、聞き手の注意を向かせるのに使われる。

(342) Thảo: Thủy oi, giúp chị một tay.

[人名][感動詞(呼びかけ)] 手伝う 1(姉) 1 手

Thủy: Em đang bận.

2(弟/妹)[副詞(現在進行)] 忙しい

Thảo: Một mình chị không làm được.

一人 1(姉)[副詞(否定)] する [副詞(できる)]

Thủy (chỉ vào người ngồi bên cạnh):

Kim Thu đang không làm gì

[人名] [副詞(現在進行)] [副詞(否定)] する 何

{?đây/?này/đây này}. Chị nhò đi!

[文末詞(注意喚起)] (コ) 2(姉) 頼む [文末詞(命令)]

タオ: トウイ! ちょっと手を貸して。

トウイ: 私は忙しいのよ。

タオ: 私は一人でできなくて...

トウイ (隣にいる人を指して): キム・トウさんは今何もしていないよ、ほら! (彼女に) 頼みなさい!

(343) Vợ: Anh đưa cho em 5 trăm nghìn.

2(兄) 渡す [関係詞(に)] 1(弟/妹) 百 千

Chồng (mở ví ra): Anh chẳng còn đồng nào

1(兄) [副詞(否定)] 残る ドン どの

{?đây/?này/đây này}!

[文末詞(注意喚起)] (コ)

妻: あなた、50万ドンをください。

夫(財布を開けて): 俺には(お金が)一ドンも残っていないよ、ほら!

(344) Mẹ: Mẹ mới mua cái áo khoác của

1(母) [副詞(ばかり)] 買う [類語詞(個)] コート [関係詞(の)]

Nhật này.

日本 [文末詞(注意喚起)] (コ)

Con: Bao nhiêu tiền ạ?

いくら 金 [文末詞(疑問・丁寧)]

Mẹ: 7 trăm nghìn.

百 千

Con: Hàng Nhật mà rẻ thế á?

品 日本 [関係詞(のに)] 安い そんな [文末詞(疑問・驚き)]

Mẹ: Có cái khác còn rẻ hơn
ある [類語詞 (個)] 違う [副詞 (比較)] 安い より良い
kia (cơ).

[文末詞 (情報提示)]

Con (xem mác áo): Không phải là hàng Nhật
[副詞 (否定)] 正しい [コピュラ] 品 日本
đâu {?đây/?này/đây này}! Hàng Trung Quốc

[文末詞 (完全否定)] [文末詞 (注意喚起)] (コ) 品 中国

mẹ ạ.

2 (母) [文末詞 (丁寧)]

母: 新しく買った日本製のコートだよ、ほら!

子: いくらだった?

母: 70万ドン。

子: 日本製なのにそんなに安いのか?

母: これより安いものもあったわよ。

子 (タグを見て): 日本製じゃないのよ、ほら! 中国製なのよ、お母さん!

(345) {教員がテストの採点をしながら話す}

Giáo viên 1: Lớp chị có em Minh học giỏi nhất
クラス 2 (姉) いる 弟/妹 [人名] 勉強する 上手な 一番
nhỉ?

[文末詞 (確認要求)]

Giáo viên 2 (cầm bài thi): Ủ, nhưng điểm lần này
[感動詞 (応答)] [関係詞 (しかし)] 点 回 この
của em ấy không tốt lắm

[関係詞 (の)] 弟/妹 その [副詞 (否定)] 良い [副詞 (とても)]
đâu {?đây/?này/đây này}.

[文末詞 (完全否定)] [文末詞 (注意喚起)] (コ)

教員 1 : あなたのクラスにはミンさんが一番できる子ですね?

教員 2 : はい。しかし、今回のあの子の点数はあまりよくなかったんですよ、ほら!

以上のように、文の表現類型から見た文末詞としての *đây* と *này* または *đây này* の機能をまとめると、次の(346)となる。

(346) 文の表現類型から見た文末詞としての **đây** と **này** または **đây này** の機能：

文の表現類型			đây (肯定)	này (肯定)	đây này (肯定・否定)
平叙文	描写の平叙文 (動詞述語文)	動き	一人称 聞き手への注意喚起	聞き手への注意喚起	聞き手への注意喚起
			一人称以外 話し手の評価・判断		
		存在・所有 聞き手への注意喚起	聞き手への注意喚起 (一方知識)	聞き手への注意喚起	
	関係叙述の平叙文 (名詞述語文)		聞き手への注意喚起	聞き手への注意喚起 (聞き手志向)	聞き手への注意喚起
	属性叙述の平叙文 (形容詞述語文)		話し手の評価・判断	聞き手への注意喚起	聞き手への注意喚起
疑問文	選択疑問文		聞き手への即答の催促	—————	—————
	補充疑問文	対話	聞き手への即答の催促	—————	—————
		独り言	話し手の不安・ためらい の気持ち		—————
命令文			聞き手への命令	聞き手へ軽い命令	—————
その他 (近称の指示詞との共起)			này+đây 現場指示的機能を強める	này+này đây+này 現場指示的機能を強める (聞き手志向)	—————

6.2.2 遠称の **kia(cơ)**/**kia** の文末詞としての機能

6.2.2.1 **kia(cơ)**

遠称の **kia** は、肯定の平叙文と選択疑問文と共起することができる。平叙文では、**kia(cơ)**は描写の平叙文(=動詞述語文)または関係叙述の平叙文(=名詞述語文)と共起して、話し手が聞き手の想定している情報と異なる情報を提示する機能を持つ。一方、属性叙述の平叙文(=形容詞述語文)と共起する場合は、話し手の知識にあるものへの評価を表す。下記の描写の平叙文である(347)では、聞き手は明日に報告書を書こうと思っているが、話し手は聞き手に対して今日書いてほしいという聞き手の想定と異なる情報を提示するために、**kia(cơ)**を使用している。同様に、(348)と(349)では、聞き手(「母」、 「夫」)の想定に反して、話し手(「子共」、 「妻」)がそれに反する情報(「子供は行かないで残る」、 「女性はどこに行っても二人じゃないとだめ」といった情報を聞き手に伝えるために、**kia(cơ)**を使用していると考えられる。

【描写の平叙文と共起する **kia(cơ)**】

(347) **Cấp dưới: Ngày mai tôi sẽ viết báo cáo.**

明日 1 (私) [副詞 (未来)] 書く 報告

Cấp trên: Tôi cần anh làm ngay hôm nay

1 (私) 要る 2 (兄) する [副詞 (すぐに)] 今日

kia(cơ). Không đợi được

[文末詞 (情報提示)] (ア) [副詞 (否定)] 待つ [副詞 (できる)]

đến ngày mai đâu!

[関係詞 (まで)] 明日 [文末詞 (完全否定)]

部下：明日報告書を書きます。

上司：すぐに今日書いてほしいんだ。明日まで待てないよ。

(348) Con không đi đâu, u cho con
1 (子供) [副詞 (否定)] 行く [文末詞 (完全否定)] 2 (母) あげる 1 (子供)
ở nhà với u kia(cơ).

居る 家 [関係詞 (と)] 2 (母) [文末詞 (情報提示)] (ア)

俺行かないよ。母ちゃんと家に居させてよ。

(Nguyễn A.Q. 1985:232)

(349) Chồng: Đã là vợ chồng thì việc gì
[副詞 (過去)] [コピュラ] 夫婦 [関係詞 (なら)] 事 何
phải dính lấy nhau.

[動詞 (べき)] 粘る 取る 互い

Vợ: Nhưng phụ nữ lại nghĩ khác. Đi đâu
[関係詞 (しかし)] 女性 [副詞 (また)] 考える 別な 行く どこ
cũng phải có đôi kia(cơ).

[副詞 (も)] [動詞 (べき)] ある ペア [文末詞 (情報提示)] (ア)

夫：もう夫婦だから、いつもくっついていなくてもいいんだろ？

妻：女性は違うのよ。どこに行くにも二人じゃないとだめなのよ。

さらに、関係叙述の平叙文 (=名詞述語文) と共起する *kia(cơ)* も、次の(350)に見られるように、話し手が聞き手の想定している「昨日の話」とは違う「話」をしたいことを聞き手に提示するために用いられる。

【関係叙述の平叙文と共起する *kia(cơ)*】

(350) Em gái: Chị gọi cho em về
2 (姉) 呼ぶ [関係詞 (に)] 1 (弟/妹) [関係詞 (について)]

chuyện hôm qua à?

話 昨日 [文末詞 (疑問・確認)]

Chị gái: Không phải chuyện đó, là chuyện khác
[副詞 (否定)] 正しい 話 その [コピュラ] 話 別な
kia(cơ).

[文末詞 (情報提示)] (ア)

妹：お姉さん、昨日の話で電話をくれたの？

姉：あれじゃなくて、別の話だよ。

一方、属性叙述の平叙文（＝形容詞述語文）と共起する **kia(co)** は、描写の平叙文と関係叙述の平叙文とは異なり、話し手の評価を表す機能を担っている。以下に示されているように、(351)と(352)では、話し手の聞き手に対する「気難しい」または「すごい」という評価を、(353)では話題の「ハロン湾」に対する「美しい」という評価を表すのであろう。このように、同じ平叙文でも述語の違いによって、**kia(co)** は聞き手の想定している情報と異なる情報を提示したり、話し手の評価を表したりする。

【属性叙述の平叙文と共起する **kia(co)**】

(351) Em gái (nói với anh trai): Anh khó tính quá **kia(co)**.
2 (兄) 難しい 気 [副詞 (過ぎる)] [文末詞 (評価)]
Khó tính thế thì ai lấy?
難しい 気 そんな [関係詞 (なら)] 誰 取る
妹 (兄に言う) : お兄さんは気難しすぎるよ。そんなの誰も結婚してくれないよ。

(352) Mẹ chồng (nói với con dâu): Chị giỏi quá **kia(co)**!
2 (姉) 上手な [副詞 (過ぎる)] [文末詞 (評価)] (ア)
Chị cứ đi chơi đi.
2 (姉) [副詞 (継続)] 行く 遊ぶ [文末詞 (命令)]
Tôi sẽ gọi cho chồng chị biết!
1 (私) [副詞 (未来)] 呼ぶ [関係詞 (に)] 夫 2 (姉) 知る
姑 (嫁に言う) : あなたすごいね! どうぞ遊びに行きなさい! あなたの旦那さんに電話して知らせるわ。

(353) Cảnh vịnh Hạ Long đẹp lắm **kia(co)**.
風景 湾 ハロン 美しい [副詞 (とても)] [文末詞 (評価)] (ア)
ハロン湾の景色は本当に美しいなあ。

また、先述のように、疑問文はその下位分類として、一般の疑問文（真偽疑問文・選択疑問文・補充疑問文）と疑似疑問文（確認要求の疑問文、疑いの疑問文）とに分けられるが、そのうち **kia(co)** と共起できるのは補充疑問文のみである。ちなみに、補充疑問文とは、その命題の中に不明な情報が含まれていることを表し、その不明な情報の部分を補充することを聞き手に求めるものである。この補充疑問文と共起する場合の **kia(co)** は、話し手が聞こえなかったり、十分に理解できなかったりすることで、聞き手からの情報を確認できないため、それを再び補充するように求める時に用いられる。例えば、

(354)では、母のご飯を作る要求に対して、テレビを見ている子供はその要求を聞こえなかったため、kia(co)を伴う補充疑問文を用いることで、母にその要求をもう一度伝えてもらうように求めている。同様に、(355)でのkia(co)も、トアンさんという人物について聞かれた話し手(「妻」)が、聞き手(「夫」)に対して、どのトアンさんを聞いているのかを確認してもらうのに用いられる。

【補充疑問文と共起するkia(co)】

(354) Mẹ: Con oi đi nấu cơm đi.
2 (子供) [感動詞(呼びかけ)] 行く 炊く ご飯 [文末詞(命令)]

Con (đang xem ti vi): Mẹ bảo con làm gì
2 (母) 教える 1 (子供) する 何

kia(co)?

[文末詞(情報補充の要求)] (ア)

B: Mẹ bảo con đi nấu cơm.

1 (母) 教える 2 (子供) 行く 炊く ご飯

母: (子供よ) ご飯作りなさい!

子: お母さん、私に何をしてほしいと言っていた?

母: ご飯作りなさいと言っていたの。

(355) Chồng: Em có biết anh Toàn không?
2 (弟/妹) [副詞(疑問)] 知る 兄 [人名] [副詞(疑問)]

Vợ: Toàn nào kia(co)?

[人名] どの [文末詞(情報補充の要求)]

夫: トアンさんを知っているか?

妻: どのトアンさんなの? (トアンさんって誰なの?)

さらに、次の(356)と(357)では、相手に与えられた情報(「皆知っている」)や相手の要求(「少し手伝って欲しい」)を十分に理解していない話し手は、kiaを伴う補充疑問文を用いることによって、聞き手に対してより詳細な情報(「何を知っている」、「何を手伝ってほしい」)の補充を求めている。なお、(354)~(357)ではkiaがなくても、補充疑問文であるため、情報補充の要求が成り立っている。しかし、kiaがないと、聞き手に与えられた情報や要求に対して、話し手が聞こえなかったり、十分に理解できなかったりしているなどといったニュアンスがなくなる。以上に言及している文末詞としてのkiaの機能をまとめると、下記の(358)となる。

(356) Chuong: Mọi người biết hết rồi!
 all person know end already

‘Everybody already knows!’

Them: Biết gì kia?

know what DEMPART

‘Knows what kia?’

(Bui L.T. 2014:177)

(357) A: Anh vào đây, tôi nhờ một tí.

2 (兄) 入る ここ 1 (私) 頼む 少し

B: Việc gì kia (cơ)?

事 何 [文末詞 (情報補充の要求)] (ア)

A : (そこの) お兄さん、入って！少し手伝って！

B : 何を (手伝うって) ?

(Nguyễn K.T. 1963:419)

(358) 文の表現類型から見た文末詞としての kia の機能 :

	平叙文 (肯定文)			疑問文 (補充疑問文)
	描写の平叙文 (動詞述語文)	関係叙述の平叙文 (名詞述語文)	属性叙述の平叙文 (形容詞述語文)	
kia	聞き手の想定と異なる 情報の提示	聞き手の想定と異なる 情報の提示	話し手の評価	聞き手に対する情報補充の要求

6.2.2.2 kia

遠称の kia と声調が異なる異形態の kia は、文末詞として、平叙文と共起し、発話現場にある遠くに離れた可視的なもの・動作に対する聞き手への注意喚起を表す。次の肯定の平叙文である(359)～(362)に示されているように、kia は遠くにあるもの・動作(「バスが来た」、「犬がいる」、「富士山」)またはもの・動作の様態・性質(「きれい」)に対して、話し手が聞き手の注意を向かせる時に用いられる。さらに、否定の平叙文である(363)～(366)についても、同様なことが言える。すなわち、(363)～(366)での kia も、それぞれ「反応しない」、「誰もいない」、「ベトナム人ではない」、「派手ではない」といったことに対する聞き手への注意喚起を表すのである。

【肯定の平叙文と共起する kia】

(359) Xe buýt đến rồi kia!

バス 来る [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (ア)

バスが来たよ、ほら！

- (360) **Đãng kia có con chó kia!**
 あちら いる [類別詞 (匹)] 犬 [文末詞 (注意喚起)] (ア)
 あちらに犬がいるよ、ほら!
- (361) **Kia là núi Phú Sĩ kia!**
 あれ [コピュラ] 山 富士 [文末詞 (注意喚起)] (ア)
 あれは富士山だよ、ほら!
- (362) **Bông hoa kia đẹp hơn kia!**
 [類別詞 (本)] 花 あの 綺麗な より良い [文末詞 (注意喚起)] (ア)
 あのお花のほうがきれいだよ、ほら!

【否定の平叙文と共起する **kia**】

- (363) {遠くにいる犬を見て}
Mang đồ ăn đến tận nơi mà nó không phản ứng gì kia.
 運ぶ 食べ物 来る [関係詞 (まで)] 所 [関係詞 (のに)] あいつ
 [副詞 (否定)] 反応する 何 [文末詞 (注意喚起)] (ア)
Hay nó ốm rồi sao?
 [関係詞 (それか)] あいつ 病気 [副詞 (完了)] [文末詞 (疑問・疑い)]
 食べ物を近くまで持っていても全然反応していないよ、ほら! あの子はもしかして病気にでもなったのかな?
- (364) {遠くにある場所を指して}
Chỗ kia không có ai kia!
 所 あの [副詞 (否定)] いる 誰 [文末詞 (注意喚起)] (ア)
 あそこは誰もいないよ、ほら!
- (365) {外国人と英会話をしたい子供が金髪の人を指しながら、母に言う}
Chị kia không phải người Việt kia!
 姉 あの [副詞 (否定)] 正しい 人 ベトナム [文末詞 (注意喚起)] (ア)
Con đến đó thử nói tiếng Anh với chị ấy
 1 (子供) 来る そこ 試す 言う 英語 [関係詞 (と)] 姉 その
xem sao nhé?
 見る そのよう [文末詞 (確認要求)]
 あのお姉さんはベトナム人じゃないよ、ほら! 僕はそこに行ってあのお姉さん

に英語で話しかけてみてもいい？

(366) {遠くにあるシャツを指して}

Cái áo xanh kia không lòe loẹt
[類別詞 (個)] シャツ 青い あの [副詞 (否定)] 派手な
lắm kia!
[副詞 (とても)] [文末詞 (注意喚起)] (ア)
あの青いシャツはあまり派手じゃないよ、ほら！

kia は、kia が共起できない命令文と共起し、聞き手に対するその場での行動実行を催促する時に用いられる。ただし、命令文の中でも、kia は文末詞 đi と伴う形の命令文としか共起できない。以下の(367)と(368)のように、話し手は聞き手に、それぞれ「先生に挨拶する」、「店をオープンする」といった行動をその場で実行してもらうように催促するために、kia を用いるのである。

(367) {家に訪ねてきた恩師を見て}

Mẹ (nói với con): Con ra chào thầy đi
2 (子供) 出る 挨拶する 先生 [文末詞 (命令)]
kia! Lũng thưng ở đây làm gì!
[文末詞 (催促)] (ア) ぐずぐずする 居る そこ する 何
母 (子供に言う): あんた、先生に挨拶に行きなさいよ。そこでぐずぐずしてどうする？

(368) Chị bán hàng oi, chị mau mở cửa
2 (姉) 売る 品 [感動詞 (呼びかけ)] 2 (姉) 速い 空ける 扉
cho khách vào mua đồ đi kia!
[関係詞 (に)] 客 入る 買う 物 [文末詞 (命令)] [文末詞 (催促)]
店員さんよ、客に買い物に入ってもらうために、早く店をオープンしてくださいよ。

また、平叙文に用いられる文末詞としての kia は遠称の指示詞である kia と共起し、その現場指示的機能を強める働きを持つ。以下の(369)と(370)で見られるように、kia はそれぞれ xe màu xanh kia (「あの青い自転車」)、または ngoài cổng kia 「あの門の外」における kia の現場指示的意味を強調しながら、それに対する聞き手への注意喚起を表すと考えられる。

(369) Xe đạp của tôi là xe màu xanh
 自転車 [関係詞 (の)] 1 (私) [コピュラ] 車 色 青い
 kia kia!

あの [文末詞 (注意喚起)] (ア)

私の自転車はあの青いのだよ、ほら！

(370) Bà Hoài: Kim Anh oi! Hai bố con chuẩn bị
 [人名] [感動詞 (呼びかけ)] 二 父 子 準備する
 xong chưa? Chú An đã đỗ xe ngoài cổng
 終わる [副詞 (疑問)] 叔父 [人名] [副詞 (過去)] 駐車する 外 門
 kia kia.

あそこ [文末詞 (注意喚起)] (ア)

ホアイ婦人：キム・アン！あんたとお父さんはもう準備できた？アンさんはあの門の外に車を止めているよ、ほら！

(Lê V. 1999:63)

さらに、近称の場合と同様に、kia と kia が合わせた形の kia kia は平叙文と共起し、聞き手の注意を向かせるのに用いられる。例えば、次の(371)では「人が私たちを見てい
 る」、(372)では「クッキーがまだいっぱいある」といった動作・存在に対して、話し手
 が聞き手の注意を喚起するために、kia kia を使用しているのであろう。なお、これらの
 例では、kia kia も kia もどちらも使用可能であり、kia は用いられない。

(371) Người ta đang nhìn {kia/kia kia}!
 人々 [副詞 (現在進行)] 見る [文末詞 (注意喚起)] (ア)
 (あの) 人たちは (私たちを) 見ているよ、ほら！

(372) Linh: Này! Chú em có đói không?
 [感動詞 (注意喚起)] 2 (弟分) [副詞 (疑問)] 空腹 [副詞 (疑問)]
 Thiện: Không! Còn ồi bánh bích quy {kia/kia kia}.

[副詞 (否定)] 残る 多い クッキー [文末詞 (注意喚起)] (ア)

リンさん：おい、君！腹減っていないか？

ティエンさん：いや、クッキーがまだいっぱいあるんだよ、ほら！

(Lê V. 1999: 113)

ただし、kia kia と kia の違いは、次のような聞き手に属するものや聞き手自身が行う動作またはそのもの・動作の様態・性質に対する聞き手への注意喚起の場合である。(373)では聞き手に属しているもの(「手が汚れる」)、(374)では聞き手が行っている動作(「順番を間違える」)、(375)では聞き手に属する顔の様態(「赤い」)に対して、話し手は聞き手にそれに注意してもらうために、kia を用いる。これらの例には kia kia は用いられにくい。なお、この場合の文末詞としての kia の用法は、空間指示に使用される kia や様態・性質の指示に使用される *thế kia* における聞き手に属するものを指す用法と共通しているが、その関連性については 6.3 節で後述する。

(373) Tay bạn bị bẩn rồi {kia/?kia kia}
手 2 (友達) [動詞 (受身)] 汚れる [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (ア)
君の手が汚れているよ、ほら!

(374) Anh làm không đúng trình tự rồi
2 (兄) する [副詞 (否定)] 正しい 順序 [副詞 (完了)]
{kia/?kia kia}
[文末詞 (注意喚起)] (ア)
お兄さん、順番を間違えているよ、ほら!

(375) Mặt em đỏ lên {kia/?kia kia}
顔 2 (弟/妹) 赤い 上がる [文末詞 (注意喚起)] (ア)
お前の顔、赤くなっているよ、ほら!

以上を踏まえ、文の表現類型から見た文末詞としての遠称の *kia* と *kia* または *kia kia* の機能をまとめると、次の(376)となる。

(376) 文の表現類型から見た文末詞としての遠称の *kia* と *kia* または *kia kia* の機能:

	平叙文			疑問文 (補充疑問文)	命令文	その他 (遠称の指示詞との共起)
	描写の平叙文 (動詞述語文)	関係叙述の平叙文 (名詞述語文)	属性叙述の平叙文 (形容詞述語文)			
<i>kia</i> (肯定)	聞き手の想定と異なる情報の提示		話し手の評価	聞き手に対する 情報補充の要求	—	—
<i>kia</i> (肯定・否定)	発話現場にある遠くに離れたもの・動作または その状態・性質に対する聞き手への注意喚起			—	聞き手 への催促	<i>kia+kia</i> 現場指示的機能を強める
<i>kia kia</i> (肯定・否定)	発話現場にある遠くに離れたもの・動作または その状態・性質に対する聞き手への注意喚起			—	—	—

6.2.3 中称の **đây/ấy(y)** の文末詞としての機能

6.2.3.1 **đây**

中称の **đây** は、肯定または否定の平叙文、疑問文、命令文と共起することができる。属性叙述の平叙文 (= 形容詞述語文) を除き、肯定の平叙文と共起する場合の **đây** は、話し手が物事を新しい情報として聞き手に提示する時に用いられる。以下に示されているように、話し手は聞き手に対して、描写の平常文 (= 動詞述語文) である(377)~(380)では「先生が来た」、「あなた聞き手が怖い」、「ベルが鳴っている」、「先生はまだお部屋にいる」、または関係叙述の平叙文 (= 名詞述語文) である(381)と(382)では「人生はうれしいことよりも悲しいことが多い」、「彼は大企業の社長さんだ」といった聞き手にとって新しいと判断される情報を提示するために、**đây** を使用している。さらに、(383)と(384)のような否定の平叙文に用いられる **đây** についても同様なことが言える。すなわち、(383)では「喧嘩して以来、あいつは話し手と話していない」、(384)では「お手伝いさんにならない」といった情報を聞き手に示すために、**đây** が使われるのである。なお、否定の平叙文に用いられる **đây** は完全否定を表す文末詞の **đâu** の後に来ることが多い。

【描写の平叙文と共起する **đây**】

(377) **Thầy giáo đến rồi đây.**
先生 来る [副詞 (完了)] [文末詞 (情報提示)] (ソ)
先生が来たよ。

(378) Vinh: **Cô như một mẹ phù thủy**
2 (叔母) [関係詞 (如く)] 1 [類別詞 (婆)] 呪い師
ấy! Tôi sợ cô **đây!**
[文末詞 (情報提示)] 1 (私) 怖がる 2 (叔母) [文末詞 (情報提示)] (ソ)
ヴィン (トゥイに言う) : あなたはマジで呪い師みたいだな。怖いよ。
(Lê V. 1999:16)

(379) Kim Anh: Anh Hùng ơi! Anh xem có ai đến nhà,
2 (兄) [人名] [感動詞 (呼びかけ)] 2 (兄) 見る いる 誰 来る 家
có tiếng chuông reo đây!
ある 音 鐘 鳴る [文末詞 (情報提示)] (ソ)
Hùng: Được rồi, anh ra ngay **đây!**
良い [副詞 (完了)] 1 (兄) 出る [副詞 (すぐに)] [文末詞 (注意喚起)]
キム・アン: フンさん! ちょっと誰が来たか見てよ! ベルが鳴っているよ。
フン: はいはい、すぐ見てくるから。

(Lê V. 1999:67)

- (380) Thầy vẫn ở trong phòng đấy.
先生 [副詞 (まだ)] 居る 中 部屋 [文末詞 (情報提示)] (ソ)
Em vào chào thầy đi.
2 (弟/妹) 入る 挨拶する 先生 [文末詞 (命令)]
先生はまだお部屋にいるよ。入って挨拶でもしなさい。

【関係叙述の平叙文と共起する **đấy**】

- (381) Cuộc sống là thế đấy. Vui ít,
生活 [コピュラ] そんな [文末詞 (情報提示)] (ソ) うれしい 少ない
buồn nhiều.
悲しい 多い
人生はそういうものだよ。うれしいことよりも悲しいことが多いのだ。

- (382) Ông ấy trông thế thôi nhưng là
祖父 その 見る そんな [助詞 (限定)] [関係詞 (しかし)] [コピュラ]
giám đốc một công ty lớn đấy.
社長 1 会社 大きい [文末詞 (情報提示)] (ソ)
彼はああ見ても大企業の社長さんだよ。

- (383) Sau khi cãi nhau nó không nói chuyện với
後 時 喧嘩する あいつ [副詞 (否定)] 話す [関係詞 (と)]
tôi nữa đấy.
1 (私) [副詞 (継続)] [文末詞 (情報提示)] (ソ)
喧嘩して以来、あいつは私と話していないよ。

- (384) Em đồng ý làm trợ lý cho anh
1 (弟/妹) 同意する する アシスタント [関係詞 (に)] 2 (兄)
nhưng em không phải là
[関係詞 (しかし)] 1 (弟/妹) [副詞 (否定)] 正しい [コピュラ]
osin đâu đấy.
手伝い人 [文末詞 (完全否定)] [文末詞 (情報提示)] (ソ)
私はあなたのアシスタントになってもいいけど、お手伝いさんにはならないよ。

一方、属性叙述の平叙文 (= 形容詞述語文) と共起する **đấy** は相手または話題の人物や内容への話し手の評価を表す。次の(385)と(386)のように、(385)では聞き手に対する「きれいだ」という評価を、(386)では第三者に対する「すごい」という評価を伝えるた

めに **đây** を使用している。

【属性叙述の平叙文と共起する **đây**】

(385) Em đẹp thật **đây**.
2 (弟/妹) 綺麗な [文末詞 (程度の強調)] [文末詞 (評価)] (ソ)
君は本当にきれいだね。

(386) Anh Nam giỏi quá **đây**. 30 tuổi
兄 [人名] 上手 [副詞 (過ぎる)] [文末詞 (評価)] (ソ) 歳
đã mua được 3 cái nhà.
[副詞 (完了)] 買う [副詞 (できる)] [類別詞 (個)] 家
ナムさんはすごいですね。30歳で家を3軒持っているなんて。

ちなみに、**đây** と **đây** はどちらも属性叙述の平叙文 (=形容詞述語文) と共起することができるが、前者は発話現場で発話時に得られたばかりの情報に基づく話し手の判断を表す。一方、後者は話し手の直接経験から得られた情報に基づく評価を表す。前述の(301)では、話し手は発話現場にある新鮮でみずみずしい葡萄の房を見て、それに対する「美味しい」という判断を伝えるために、**đây** を用いている。しかし、例えば(301)を発言した後、話し手はその場で葡萄を試食したら、その時点で **đây** が用いられなくなり、(387)のように **đây** を用いることによって、話し手の葡萄に対する「美味しい」という評価を表すこととなる。同様に、(388)では、話し手は過去に食べた経験がある葡萄に対して、「美味しい」という評価を表すために、**đây** を使用している。この場合も、**đây** が用いられない。

(301) {新鮮でみずみずしい葡萄の房を見て}
Nho này ngon **đây**.
葡萄 この 美味しい [文末詞 (判断)] (コ)
この葡萄きっと美味しいよな。

(Nguyễn V.H. 2007:151)

(387) {葡萄を試食して}
Nho này ngon **đây**.
葡萄 この 美味しい [文末詞 (評価)] (ソ)
この葡萄美味しいな。

(388) {前に食べたことがある高級な葡萄を指して}

Nho này ngon đấy.

葡萄 この 美味しい [文末詞 (評価)] (ソ)

この葡萄美味しいよ。

なお、動きを表す平叙文と共起する **đấy** は相手または話題の人物や内容への評価を表すこともあるが、副詞的に用いられる形容詞を伴う「動詞+形容詞」の構文に限られる。例えば、以下に示されているように、**đấy** は(389)では話し手が話題の人物であるトゥイさんに対する「歌がうまい」、(390)で聞き手の奥さんに対する「料理が上手だ」という評価を表すために使用されている。

(389) Thủy hát hay lắm đấy.

[人名] 歌う 良い [副詞 (とても)] [文末詞 (評価)] (ソ)

トゥイさんは歌がうまいですよ。

(390) Vợ cậu nấu ăn ngon đấy.

妻 2 (君) 料理する 美味しい [文末詞 (評価)] (ソ)

君の奥さんは料理が上手だね。

đấy は、疑問文の中で、真偽疑問文、選択疑問文、補充疑問文または確認要求の疑問文と共起することができるが、いずれの場合においても、聞き手に関する情報提示の要求を表す。以下に示されているように、話し手は(392)では聞き手がトゥイさんなのか、(392)では聞き手である夫がご飯を炊いてくれたか、(393)では聞き手が冗談を言っているのか本当のことを言っているのかを問う。同じく、(394)では聞き手である母が何をしているか、(395)では聞き手である夫が給料をどこに隠しているのを問う。また、(396)では、聞き手が本当にアンちゃんのお母さんなのかを問う。いずれにしても、**đấy** を用いることによって、聞き手自身に関する情報を迫って問い立てるというニュアンスを表している。

【真偽疑問文と共起する **đấy**】

(391) Chị có phải là chị Thủy không

2 (姉) [副詞 (疑問)] 正しい [コピュラ] 姉 [人名] [副詞 (疑問)]

đấy?

[文末詞 (詰問)] (ソ)

あなたはトゥイさんなのですか？

- (392) Vợ: Anh đã nấu cơm hộ em
 2 (兄) [副詞 (過去)] 炊く ご飯 手伝う 1 (弟/妹)
 chưa đây?
 [副詞 (疑問)] [文末詞 (詰問)] (ソ)
 妻：あなた、ご飯を炊いてくれた？

【選択疑問文と共起する đây】

- (393) Anh đang nói đùa hay nói thật
 2 (兄) [副詞 (現在進行)] 言う 冗談 [関係詞 (それか)] 言う 本当に
 đây?
 [文末詞 (詰問)] (ソ)
 お兄さん、冗談を言っているの？それとも、本当のことを言っているの？

【補充疑問文と共起する đây】

- (394) Mẹ đang làm gì đây?
 2 (母) [副詞 (現在進行)] する 何 [文末詞 (詰問)] (ソ)
 お母さん、何をしているの？

- (395) Vợ: Anh giấu tiền lương ở đâu đây?
 2 (兄) 隠す 給料 [関係詞 (に)] どこ [文末詞 (詰問)] (ソ)
 妻：あなた、給料をどこに隠しているの？

【確認要求の疑問文と共起する đây】

- (396) Có đúng chị là mẹ của cháu
 [副詞 (疑問)] 正しい 2 (姉) [コピュラ] 母 [関係詞 (の)] 孫
 An không đây?
 [人名] [副詞 (疑問)] [文末詞 (情報提示の要求)] (ソ)
 あなたが本当にアンちゃんのお母さんですか？

このように、疑問文と共起すること đây は聞き手に関する情報提示の要求を表すために用いられるので、次の(397)で見られる通り、聞き手以外の情報を聞く場合には用いられにくい。(397a)は、空港で待っている母が迎えに来てくれる子供に電話して、子供が出発しているのかを聞いている、という聞き手に関する情報を求める例である。この場合は、đây が使用可能である。一方、(397b)は、妻が自分の子供に電話して、迎えに来てくれる夫が出発しているのかを聞いている、という第三者に関する情報を求める例である。この場合は、đây が使用不可能である。ただし、(397a)は、文末詞の đây がなくて

も、聞き手に対する情報提示を要求する疑問文として成り立っている。

(397)a. {空港で、母が自分を迎えに来てくれる子供に電話して}

Con xuất phát chưa đây?

2 (子) 出発する [副詞 (疑問)] [文末詞 (情報提示の要求)] (ソ)

あんた、もう出発した?

b. {空港で夫が迎えに来てくれる妻がその子供に電話して}

Mẹ gọi cho bố không được.

1 (母) 呼ぶ [関係詞 (に)] 父 [副詞 (否定)] [副詞 (できる)]

Bố xuất phát chưa ?đây?

父 出発する [副詞 (疑問)] [文末詞 (情報提示の要求)] (ソ)

お父さんに電話したけど出なかった。お父さんはもう出発した?

また、命令文と共起する *đây* は、相手に対する軽い命令や注意を表す。以下の(398)と(399)では、「約束は守らないといけない」、「ドアを閉めるのを覚える」といったことについて聞き手を注意するために、*đây* が使用されている。一方、(400)では、*đây* は聞き手に対する「ご飯を食べなさい」という軽い命令を表す。また、禁止の命令文である(401)と(402)においても、話し手の聞き手への「飲みすぎない」、「見てはだめ」といった注意を *đây* で表している。

【命令文と共起する *đây*】

(398) Đã hứa thì phải giữ
[副詞 (過去)] 約束する [関係詞 (なら)] [動詞 (べき)] 守る
lời *đây*!

言葉 [文末詞 (注意)] (ソ)

約束するからには守らないといけないよ!

(399) Cậu nhớ đóng cửa *đây*!

2 (君) 覚える 閉める 扉 [文末詞 (注意)] (ソ)

君、ドアを閉めるのを忘れないで!

(400) Mẹ: Con ăn đi *đây*!

2 (子供) 食べる [文末詞 (命令)] [文末詞 (軽い命令)] (ソ)

食べなさいよ!

(401) Đùng uông nhiều quá đậy!
 [副詞 (～てはいけない)] 飲む 多い [副詞 (過ぎる)] [文末詞 (注意)] (ソ)
 飲みすぎないでよ!

(402) Cấm nhìn đậy!
 禁じる 見る [文末詞 (注意)] (ソ)
 見ちゃだめだよ!

以上を踏まえ、文の表現類型から見た文末詞としての đậy の機能を以下にまとめる。

(403) 文の表現類型から見た文末詞としての đậy の機能:

	平叙文			疑問文	命令文
	描写の平叙文 (動詞述語文) (肯定・否定)	関係叙述の平叙文 (名詞述語文) (肯定・否定)	属性叙述の平叙文 (形容詞述語文) (肯定)		
đậy	聞き手に対する情報の提示		話し手の話題の もの・内容への評価	聞き手に関する 情報提示の要求	聞き手に対する 注意・軽い命令

6.2.3.2 áy(y)

文末詞としての中称の áy(y)は、平叙文としか共起できない。描写の平叙文 (=動詞述語文) や関係叙述の平叙文 (=名詞述語文) と共起する áy(y)は đậy と同じように、話し手が物事を新しい情報として聞き手に提示する時に用いられる。例えば、以下の(404)と(405)では、話し手は「おかずが冷蔵庫の中においてある」、「マンゴの木がある家」といった情報を聞き手に提示するために、áy(y)を使用している。

【描写の平叙文・関係叙述の平叙文と共起する áy(y)】

(404) Mẹ (nói với con): Vào ăn cơm đi con, thức ăn
 入る 食べる ご飯 [文末詞 (命令)] 2 (子供) おかず

mẹ để trong tủ lạnh {đậy/áy(y)}.

1 (母) 置く 中 冷蔵庫 [文末詞 (情報提示)] (ソ)

母 (子供に言う) : 中に入ってご飯を食べなさい。おかずは冷蔵庫の中においてあるよ。

(405) Oanh: Vậy chiều mai anh với em đi hén?

such afternoon tomorrow older-brother PREP.with younger-sibling go PART

‘So tomorrow afternoon, you go with me, ok?’

Long: đi đâu?

go where

‘Go where?’

Oanh: Thì đi tới nhà bạn em! Nhà nó có cây xoài đây/ây(y)!

TOP go to house friend younger-sibling house 3SG have tree mango DEMPART

‘Go to my friend’s house! The house that has the mango tree ay!’

(Bui L.T. 2014:184)

ただし、(406)と(407)のような未分化文⁵⁹ (Lịch sử nói chung 「いわゆる歴史です」または Thái độ với đám cưới này (「この結婚式に対する態度だ」) では、đây は不適切であり、ây(y)しか用いられない。

【未分化文と共起するây(y)】

(406) Luông: Lịch sử? Lịch sử là cái gì?

歴史 歴史 [コピュラ] 何

Thoa: Ôi cái bác này! Lịch sử tức

[感動詞 (驚き)] [類別詞 (個)] 2 (叔父) この 歴史 [関係詞 (つまり)]

là... Nghĩa là... lịch sử nói chung {?đây/ây(y)}...

[コピュラ] 意味 [コピュラ] 歴史 一般的な [文末詞 (情報提示)] (ソ)

ルオン: 歴史? 歴史は何だ?

トア: あれ、叔父さんよ! 歴史はつまり... つまりいわゆる歴史ですよ。

(Lê V. 1999:139)

⁵⁹ 益岡・田窪 (1992:175) によれば、文には述語を中心として組み立てられた分化文と、そのような組み立てを持たない未分化文がある。分化文と未分化文はどちらにも平叙文、疑問文、命令文と感嘆文が存在している。詳しくは益岡・田窪 (1992) を参照されたい。

(w) A: Xe đạp của chị là cái nào?

自転車 [関係詞 (の)] 2 (姉) [コピュラ] もの どの

B: Xe của tôi là cái này

車 [関係詞 (の)] 1 (私) [コピュラ] これ

A: あなたの自転車はどれですか? (分化文)

B: 私の自転車はこれです。(分化文)

(x) A: Xe đạp của chị là cái nào?

自転車 [関係詞 (の)] 2 (姉) [コピュラ] もの どの

B: Cái này.

これ

A: あなたの自転車はどれですか? (分化文)

B: これ。(未分化文)

- (407) Hòa: Thế bác có biết thái độ
 [関係詞 (それで)] 2 (叔父) [副詞 (疑問)] 知る 態度
 của ông giám đốc thế nào không?
 [関係詞 (の)] 祖父 社長 どんな [副詞 (疑問)]
 Người gõ cửa: Thái độ gì?
 態度 何
 Hòa: Thái độ với đám cưới này {?đây/ây(y)}.
 態度 [関係詞 (に)] 結婚式 この [文末詞 (情報提示)] (ソ)
 ホア: で、社長さんがどんな態度を取っておられるか知っていますか?
 ドアをノックした人: 何の態度?
 ホア: この結婚式に対する態度だよ。

(Đinh V.Đ. 1996:331)

属性叙述の平叙文 (=形容詞述語文) と共起する *ây(y)* も *đây* と同様に、相手または話題の人物や内容への話し手の評価を表す。次の(408)と(409)では第三者の「姑」または「ミス・ワールド」に対する話し手の評価(「とても気難しい」、「ちっとも可愛くない」)を表すために、*ây(y)*を用いる。

【属性叙述の平叙文と共起する *ây(y)*】

- (408) Mẹ chồng mình khó tính lắm *ây(y)*.
 姑 1 (自分) 気難しい [副詞 (とても)] [文末詞 (評価)] (ソ)
 私の姑さんはとても気難しいですよ。
- (409) Hoa hậu thế giới mà chẳng xinh một chút nào
 ミス・ワールド[関係詞 (のに)][副詞 (否定)] 可愛い [副詞 (少し)] どの
ây(y).
 [文末詞 (評価)] (ソ)
 ミス・ワールドなのにちっとも可愛くないね。

属性叙述の平叙文 (=形容詞述語文) に用いられる *ây(y)* と *đây* の違いは、前者は単なる話し手の評価を表すのに対し、後者は話し手の評価を表しながら、その評価に対する聞き手の共感や理解を求める聞き手志向のものである。例えば、次の(410)と(411)での *ây(y)* と *đây* は、いずれも話し手である嫁の第三者である姑に対する「気難しい」という評価を表すのに使われる。しかし、(410)では、話し手はただ同居している姑がとても気難しい人であると聞き手に文句を言っている。それに対し、(411)では、話し手は同居している姑がとても気難しい人で、聞き手にそれを理解してほしいというニュアンスがあ

る。ちなみに、前述のように、遠称の *kia* にも話し手の評価を表す機能があるが、*ây(y)* と *đáy* とは異なる。次の(412)で見られるように、*kia* を用いると、話し手は自分の姑が必要以上に気難しいと文句を言っている、といったニュアンスが出てくる。

- (410) Vợ chồng mình đang tính ra ở riêng.
 夫婦 1 (自分) [副詞 (現在進行)] 計算する 出る 別居する
 Mẹ chồng mình khó tính lắm {?đáy/ây(y)}.
 姑 1 (自分) 気難しい [副詞 (とても)] [文末詞 (評価)] (ソ)
 Không chịu được.
 [副詞 (否定)] 耐える [副詞 (できる)]
 私達夫婦は (現在姑と同居している) 家を出ようと思っている。姑さんはとても気難しくてね。耐えられないんだよね (一緒に住めないんだよね)。

- (411) {家に遊びに来る予定の友達に電話して}
 Mẹ chồng mình khó tính lắm {đáy/?ây(y)}.
 姑 1 (自分) 気難しい [副詞 (とても)] [文末詞 (評価)] (ソ)
 Khi cậu đến nhà thì chào bà ấy
 時 2 (君) 来る 家 [関係詞 (なら)] 挨拶する 叔母 その
 một câu nhé.
 1 文 [文末詞 (軽い命令)]
 私の姑さんはとても気難しい人なの。家に来たら私の姑さんに挨拶でもしてね。

- (412) Mẹ chồng mình khó tính lắm kia(cơ).
 姑 1 (自分) 気難しい [副詞 (とても)] [文末詞 (評価)] (ア)
 Hay kêu là vợ chồng mình lười biếng.
 [副詞 (よく)] 鳴く [コピュラ] 夫婦 1 (自分) 怠け者
 私の姑さんは (必要以上に) 気難しい人なのよ。よく私達夫婦を怠け者だと言っている。

また、否定の平叙文と共起する *ây(y)* は、肯定の平叙文の場合と同様に、以下の(413)と(414)のような話し手が聞き手にとって新しいと思われる情報 (「子供に宿題をするように言ったが聞いてくれない」、「1 万ドンすら持っていない」) を提示する時に用いられる機能と、(415)のような話し手の評価 (「彼女が可愛くもないし、全然優しくもない」) を表す機能を持つ。なお、これらの例では、*đáy* が用いられない。

【否定の平叙文と共起する *áy(y)*】

(413) {夫が妻に電話して}

Chồng: Em bảo con Thu làm bài tập chưa?

2 (弟/妹) 言う 子共 [人名] する 宿題 [副詞 (疑問)]

Vợ: Em nói rồi nhưng nó cứ

1 (弟/妹) 言う [副詞 (完了)] [関係詞 (しかし)] あいつ [副詞 (継続)]

không nghe *áy(y)*. Nó vẫn

[副詞 (否定)] 聞く [文末詞 (情報提示)] (ソ) あいつ [副詞 (まだ)]

đang ngồi chơi điện tử.

[副詞 (現在進行)] 座る 遊ぶ ゲーム

夫：トウちゃんに宿題をするように言ったか？

妻：言ったけど、聞いてくれないのよ。まだゲームをしているわ。

(414) Thảo: Thủy ơi cho chị vay ít tiền.

[人名] [感動詞 (呼びかけ)] [関係詞 (に)] 2 (姉) 借りる 少ない 金

Thủy: Em 10 nghìn cũng không có *áy(y)*.

1 (弟/妹) 千 [副詞 (も)] [副詞 (否定)] ある [文末詞 (情報提示)] (ソ)

タオ：トウイさん、少しお金を貸して。

トウイ：私は1万ドンすら持っていないわよ。

(415) Cô ấy không xinh và cũng không

彼女 [副詞 (否定)] 可愛い [関係詞 (と)] [副詞 (も)] [副詞 (否定)]

hiền chút nào *áy(y)*.

優しい 少量 どの [文末詞 (評価)] (ソ)

彼女は可愛くもないし、全然優しくもないね。

また、*áy(y)*は平叙文において、関係詞 *như* (如く) で表示される比況の構文と共起し、話し手が聞き手に情報を提示する時に用いられる。例えば、以下の(416)と(417)では、「話し手とある第三者が兄弟のように親しい」または「聞き手が呪い師みたいだ」といった話し手が新しい情報だと判断する情報を聞き手に提示するために、*áy(y)*を使っている。この場合は、*đáy* は使われない。

【比況の構文+*áy(y)*】

(416) Chúng tôi thân nhau như anh em *áy(y)*.

1 (我々) 親しい 互い [関係詞 (如く)] 兄弟 [文末詞 (情報提示)] (ソ)

僕らは兄弟のように親しい。

- (417) Vinh: Cô như một mẹ phù thủy
 2 (叔母) [関係詞 (如く)] 1 [類別詞 (婆)] 呪い師
 ấy!
 Tôi sợ cô đấy!
 [文末詞 (情報提示)] (ソ) 1 (私) 怖がる 2 (叔母) [文末詞 (情報提示)]
 ヴィン (トゥイに言う) : あなたはマジで呪い師みたいだな。怖いよ。
 (Lê V. 1999:16)

さらに、*ấy(y)*は平叙文において、*làm sao/thế nào/gì* (「どのよう」、「どんな」、「何」) などのような疑問詞に後続し、真性が分からない物事・状態への疑いを表すこともある。以下に示されるように、*ấy(y)*は、(418)では第三者である「彼女」の最近の機嫌、(419)では第三者である「お母さん」の今日の様子、(420)では聞き手自身の言っていることに対してよく理解できないという話し手の気持ちを表すために使用されている。なお、これらの例では、比況の構文の場合と同じように、*đấy* は用いられない。

【疑問詞+*ấy(y)*】 (真性が分からない物事・状態への疑いを表す)

- (418) Đạo này tính tình cô ta làm sao ấy(y).
 最近 性格 彼女 どのよう [文末詞 (疑い)] (ソ)
 最近、彼女はなぜか機嫌が悪そうだね。
- (419) Hùng: Kim Anh ơi! Hôm nay anh thấy mẹ
 [人名] [感動詞 (呼びかけ)] 今日 1 (兄) 見る 母
 thế nào ấy(y). Hay em nói gì
 どのよう [文末詞 (疑い)] (ソ) [関係詞 (それか)] 2 (弟/妹) 話す 何
 làm mẹ buồn?
 する 母 悲しい
 フン: キム・アンさあ、今日お母さんに何かあったのかな。それか、お前は何か言ってお母さんを悲しませたのか?

(Lê V. 1999:106)

- (420) Thục (nói với bà Luận): Mẹ ngồi mẹ cứ nói
 2 (母) 座る 2 (母) [副詞 (継続)] 言う
 chuyện gì ấy(y), khô lắm, mẹ
 話 何 [文末詞 (疑い)] (ソ) 困る [副詞 (とても)] 2 (母)
 a.
 [文末詞 (親密)]

トウック（ルアンさんに言う）：お母さんはずっと（そこに）座って、何かわけ分からないことを言っている。困ったよ、お母さん！

(Lê V. 1999:28)

上記を踏まえて、文の表現類型から見た文末詞としての **đây** と **ây(y)** の機能をまとめると、次の(421)となる。

(421) 文の表現類型から見た文末詞としての **đây** と **ây(y)** の機能：

	平叙文		疑問文	命令文
	描写の平叙文（動詞述語文） 関係叙述の平叙文（名詞述語文）	属性叙述の平叙文 （形容詞述語文）		
		肯定		
đây	聞き手に対する情報の提示	話し手の評価 （聞き手志向）	聞き手に関する 情報提示の要求	聞き手に対する 注意・軽い命令
ây(y)	聞き手に対する情報の提示 （比況の構文+ ây(y) ） （疑問詞+ ây(y) ）	話し手の評価	———	———

6.3 指示詞及び指示詞から転用した文末詞—[±現場]との関連性を基に—

上記の通り、文末詞としての指示詞（**đây/này-đây/ây(y)-kia(co)/kia**）は、文の表現類型と共起し、伝達のモダリティの表現として主に話し手の聞き手への注意喚起・情報提示、情報補充の要求・即答の催促または聞き手に対する命令・注意・催促を表す機能と、話し手の判断・評価または不安・ためらいの気持ちを表す機能を持っている。具体的に、平叙文では、近称の **đây/này** はどちらも発話現場にあるまたは恰も発話現場にあるかのようなもの・動作に対する聞き手への注意喚起を表す。**đây** は平叙文において、発話場で発話時に得られたばかりの情報に基づく話し手の判断を表すこともある。一方、中称の **đây/ây(y)** は話し手が物事を新しい情報として聞き手に提示する時に用いられる、あるいは聞き手または話題の人物や内容への評価を表す。遠称では、**kia(co)** は話し手が聞き手の想定している情報と異なる情報を提示する場合に用いられ、話し手の評価を表したりする。**kia** は発話現場にある遠くに離れた可視的なもの・動作に対する聞き手への注意喚起を表す。なお、聞き手への注意喚起を表す近称の **đây/này** と遠称の **kia** の違いは、**kia** は遠くに離れた可視的なもの・動作の場合にしか用いられない。近称の **đây/này** は可視的なもののみでなく、話し手にとって心理的に近いもの・動作にも用いられ、それらに対する聞き手への注意喚起に使用される。また、聞き手への情報提示を表す中称の **đây/ây(y)** と遠称の **kia(co)** の違いは、前者は聞き手にとって新しいと思われる情報を、後者は聞き手の想定と異なる情報を提示するという点にある。一方、話し手の評価を表す中称の **đây/ây(y)** と遠称の **kia(co)** の違いは、前述のように、**kia** は話し手によって評価されるものの性質が普通以上に程度が大きいことを表す。

疑問文と共に起る近称の **đây** は聞き手にその場で直ちに返答をするように催促する時に用いられるが、独り言の場合は話し手の不安・ためらいの気持ちを表す。中称の **đáy** は、疑問文では、聞き手に関する情報提示の要求を表す。遠称の **kia(co)** は、聞き手に対してより詳細な情報を補充するように求める場合に用いられる。

命令文では、近称の **đây/này** は話し手が聞き手に対してその場ですぐに何らかの動作を行うように要求する時に使用される。中称の **đáy** は、聞き手に対する軽い命令や注意を表す。遠称の **kia** は、聞き手に対するその場での行動実行を催促する時に用いられる。

		近称		中称		遠称		
		đây	này	đáy	áy(y)	kia(co)	kia	
平叙文	肯定文	注意喚起 判断 (này+đây)	注意喚起 (đây+này) (này+này)	情報提示 評価	情報提示 評価	情報提示 評価	注意喚起 (kia+kia)	
	否定文	—	—	情報提示	情報提示 評価	—	注意喚起 (kia+kia)	
疑問文	一般疑問文	真偽疑問文 (肯定)	—	—	情報提示の要求	—	—	
		真偽疑問文 (否定)	—	—	—	—	—	
		選択疑問文	即答の催促	—	情報提示の要求	—	—	—
		補充疑問文	即答の催促 気持ち・態度	—	情報提示の要求	—	情報補充の要求	—
	擬似疑問文	確認要求の疑問文	—	—	情報提示の要求	—	—	—
		疑いの疑問文	—	—	—	—	—	—
命令文	命令文	即時命令	即時命令	注意・軽い命令	—	—	催促	
	禁止の命令文	—	—	注意・軽い命令	—	—	—	
感嘆文		—	—	—	—	—	—	

(表 23) 文の表現類型から見たベトナム語の指示詞から転用した文末詞の機能

一方、前章に言及しているように、[±現場] ([±spatial]) とは、認知主体である話し手と指示対象との距離的・知覚的な関係に基づく、ベトナム語の指示詞を特徴付ける意味論・語用論的素性である。すなわち、発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す指示詞は[+現場]の特徴を持ち、発話現場に存在しているとみなされない対象を指す指示詞は[-現場]の特徴を持つ。[+現場]のものにのみ「近・遠」という距離区分があるのに対し、[-現場]のものには距離区分がない。ベトナム語における空間指示においても様態・性質指示においても、[+現場]の特徴を持つのは近称の **đây** と遠称の **kia** であり、[-現場]の特徴を持つのは中称の **đáy(đó)** である。また、[+現場]の **đây** と **kia** は基本的に現場指示用法でしか用いられない。[-現場]の **đáy(đó)** は基本的に非現場指示用法でしか用いられない。第 3 章で主張している指示詞の特徴付けを以下に再掲する。

[+現場]	đây : 近 kia: 遠
[-現場]	đây(đó)

(表 14) ベトナム語における指示詞の特徴付け

この指示詞の特徴付けを本章で考察した指示詞から転用した文末詞に反映させると、[+現場]の特徴を持つ近称及び一部の遠称は、文末詞として機能する際にも、基本的に指示詞の性質を維持している。それに対し、[-現場]の特徴を持つ中称及び一部の遠称は、指示詞の性質を維持しておらず、典型的な文末詞として機能している。

指示詞から転用した文末詞	指示詞の性質を維持しているもの	近称 đây/này
		遠称 kia
	指示詞の性質を維持していないもの	中称 đây/ây(y)
		遠称 kia(cơ)

(表 24) 指示詞から転用した文末詞と元となる指示詞との関連性

・指示詞の性質を維持している đây/này と kia :

近称の đây/này は、前述の通り、平叙文では、近称の指示詞と共に起し、その現場指示的機能を強める働きを持つ。指示詞の đây の後に文末詞の này が来る形、または、その逆で NP-này の後に đây が来る形、指示詞の NP-này の後に文末詞の này が来る形がある(例(335)、(337)、(340))。遠称の kia にも同じ用法が見られる(例(370))。これは、他のいわゆる文末詞にはない用法であるため、文末詞としての đây/này と kia には、発話現場に存在している、または、視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す[+現場]の特徴を持つ近称と遠称の指示詞の性質がまだ残っていると言うことができる。なお、文末詞としての中称の đây/ây(y)にはこのような用法が見られない。

(335) Tôi ở đây này! Đến bắt tôi
 1 (私) 居る ここ [文末詞 (注意喚起)] (コ) 来る 捕まえる 1 (私)
 đi.
 [文末詞 (命令)]
 私はここにいるんだよ、ほら！捕まえに来い！

(337) Vinh: (nói một mình) Sao lúc này tôi thương mẹ vô cùng.
 なぜ 頃 この 1 (私) 哀れむ 母 無限

Giờ này chắc mẹ đang đi tìm đứa
 時 この [副詞 (きっと)] 母 [副詞 (現在進行)] 行く 探す [類別詞 (人)]
 con tội lỗi và bất hạnh này đây.
 子 罪深い [関係詞 (と)] 不幸 この [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 Mẹ ơi, mẹ hãy tha lỗi
 母 [感動詞 (呼びかけ)] 母 [副詞 (命令)] 許す 過ち
 cho con.

[関係詞 (に)] 1 (子)

ヴィン (独り言で) : なぜか、今でこそ母親のことを言いようがないほど哀れ
 んでいる。今頃、きっと母親が、ほら、この罪深く、不幸な私を探しに行っ
 ているのだろう。お母さん！どうか許してください。

(Lê V. 1999:32)

(340) Đi lối này này.
 行く 道 この [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 こっちの方に行ってください、ほら！

(Nguyễn K.T. 1963:423)

(370) Bà Hoài: Kim Anh ơi! Hai bố con chuẩn bị
 [人名] [感動詞 (呼びかけ)] 二 父 子 準備する
 xong chưa? Chú An đã đỗ xe ngoài cổng
 終わる [副詞 (疑問)] 叔父 [人名] [副詞 (過去)] 駐車する 外 門
 kia kia.

あそこ [文末詞 (注意喚起)] (ア)

ホアイ婦人: キム・アン！あんたとお父さんはもう準備できた？アンさんはあ
 の門の外に車を止めているよ、ほら！

(Lê V. 1999:63)

さらに、đây と này はどちらも話し手は発話現場にある、または恰も発話現場にある
 かのようなものに対する聞き手への注意喚起を表す。先述の(333)と(323)では、話し手
 は社長がまだ社長室にいる、または聞き手の部屋に死んでいるネズミがいるといったこ
 とに対して、聞き手の注意を向かせるために、đây と này が用いられる。この場合は、
 話題となる「社長」と「ネズミ」は、いずれも話し手と聞き手には可視的なもの、すな
 わち発話現場にあるものである。しかし、(333)と(323)での「社長」と「ネズミ」のよう
 な話し手と聞き手には可視的なものでなければ、đây と này は用いられない。

- (333) **Cấp dưới: Giám đốc về rồi ạ?**
 社長 帰る [副詞 (完了)] [文末詞 (疑問・丁寧)]
Cấp trên (mở cửa phòng giám đốc): Không, vẫn ở trong phòng
 [副詞 (否定)] [副詞 (まだ)] 居る 中 部屋
đây.
 [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 部下: 社長は帰られたのでしょうか?
 上司 (社長室のドアを開けて): いや、まだいらっしゃるよ、ほら!

- (323) {妹が兄の部屋にいる死んだネズミを指して}
Có con chuột chết trong phòng anh này!
 いる[類別詞 (匹)] ねずみ 死ぬ 中 部屋 2 (兄) [文末詞 (注意喚起)] (コ)
 お兄ちゃんの部屋に死んでいるネズミがいるよ、ほら!

kia にも、発話現場にある遠くに離れた可視的なもの・動作に対する聞き手への注意喚起を表す。前述の(359)では、**kia** は、遠くにあるバスが来たことに対して、話し手が聞き手の注意を向かせる時に用いられる。この場合は、話題となる「バス」は話し手と聞き手には可視的なもの、すなわち発話現場にあるものである。しかし、(422)のように、「バス」が話し手か聞き手のどちらか一方にとって可視的でないものであれば、**kia** は使用されない。このように、注意喚起を表す近称の **đây/này** と遠称の **kia** は、発話現場にあるもの・できごとに対する聞き手への注意喚起を表す場合にしか用いられないため、この場合の **đây/này** と **kia** は、原型となる指示詞の近称と遠称が持つ[+現場]の特徴を維持していると言えるだろう。

- (359) **Xe buýt đến rồi kia!**
 バス 来る [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (ア)
 バスが来たよ、ほら!

- (422) {バス停にいる話し手が、バスが見えないデパートの中にいる聞き手と電話で話す}
Xe buýt đến rồi *kia! Chị
 バス 来る [副詞 (完了)] [文末詞 (注意喚起)] (ア) 2 (姉)
về trước nhé!
 帰る 先 [文末詞 (親密)]
 バスが来たから、先に帰るね。

ちなみに、注意喚起の *đây* は、発話の直後に行われる動作、発話時に進行中の動作、または発話時に終りかけの動作に対して、聞き手の注意を向かせる時に用いられる。いずれの場合も、発話時を基準点とする出来事時を表すので、この場合の *đây* も時間指示における近称の指示詞の性質を維持していると考えられる。なお、第5章に言及するように、時間指示では、近称の *đây/này/này/nây* は発話時を参照点とする時間を指示する特徴を持っている。

疑問文と共に起る *đây* は、話し手が聞き手にその場で直ちに返答をするように催促する時に用いられる。前述のように、例えば(309)では、話し手は聞き手に「賛成するか反対するか」といったことに対する即答を催促するのに *đây* が用いられる。*đây* は、話し手が聞き手にその場ですぐに返答して欲しいというニュアンスを表すため、(311)のような即答が求められない場合は、*đây* が用いられない。

(309) *Vấn đề này anh định giải quyết thế nào đây?*
 問題 この2(兄) 凶る 解決する どのよう [文末詞 (即答の催促)] (コ)
 この問題ですが、あなたはどうか解決するつもりですか?
 (すぐに教えてください)

(311) *Vấn đề này anh định giải quyết thế nào *đây?*
 問題 この2(兄) 凶る 解決する どのよう [文末詞 (即答の催促)] (コ)
Ngày mai báo cho tôi nhé!
 明日 知らせる [関係詞 (に)] 1(私) [文末詞 (軽い命令)]
 この問題ですが、あなたはどうか解決するつもりというのですか?明日私に教えてくださいね。

また、命令文と共に起る *đây/này* は、話し手が聞き手に対してその場ですぐに何らかの動作を行うように要求する時に用いられる。(314)と(423)で見られるように、*đây* と *này* を用いることによって、話し手が聞き手に「我が子を返す」、「ご飯を食べる」という行為をすぐに実行してほしいという意味を表す。一方、(316)と(424)のような、直ちに行為の実行を求めない場合は *đây* と *này* が用いられない。

(314) *Hiền: ...hay là chính ông đã bắt cóc con tôi?*
 [関係詞 (それか)] [助詞 (こそ)] 2(祖父) [副詞 (過去)] 拉致する
 子共 1(私)
Toại: Này này...
 [感動詞 (注意喚起)] [感動詞 (注意喚起)]

Hiền: Đúng rồi, trả con tôi đây!

正しい [文末詞 (完了)] 返す 子供 1 (私) [文末詞 (即時命令)] (コ)

ヒェン: もしかして、あなたが我が子を拉致したの?

トアイ: おいおい…

ヒェン: やっぱり! 今すぐ我が子を返しなさい!

(Đinh V.Đ. 1996:150)

(423) {母が部屋で受験勉強をしている子供にご飯を出して}

Mẹ làm món con thích đây.

2 (母) する [類別詞 (料理)] 1 (子供) 好む [文末詞 (注意喚起)] (コ)

Con ăn đi này.

1 (子供) 食べる [文末詞 (命令)] [文末詞 (軽い命令)] (コ)

あんたの好きなものを作ったよ。食べてね。

(316) Ngày mai hãy đưa con tôi ra chỗ hẹn

明日 [副詞 (命令)] 連れる 子供 1 (私) 出る 所 約束

*đây! Tôi sẽ mang tiền đến.

[文末詞 (即時命令)] (コ) 1 (私) [副詞 (未来)] 持つ 金 来る

明日、指定した所へ我が子を連れて行け。私は金を持っていくから。

(424) {母が部屋で受験勉強をしている子供に話す}

Mẹ làm món con thích để trong tủ lạnh ấy(y).

2 (母) する 料理 1 (子供) 好む 置く 中 冷蔵庫 [文末詞 (情報提示)]

Học xong con ăn đi *này.

学ぶ 終わる 1 (子供) 食べる [文末詞 (命令)] [文末詞 (軽い命令)] (コ)

あんたの好きなものを作ったよ。勉強が終わったら食べてね。

kìa も、聞き手に対するその場での行動実行を催促する時に用いられる。先述の(367)のように、話し手は聞き手に「先生に挨拶する」といった行動をその場で実行してもらうように催促するために、kìa を用いる。一方、(425)のような即答が求められない場合は、kìa が用いられない。

(367) {家に訪ねてきた恩師を見て}

Mẹ (nói với con): Con ra chào thầy đi

2 (子供) 出る 挨拶する 先生 [文末詞 (命令)]

これは、指示詞における発話現場に存在しているものを指し示す機能と関係していると考えられる。よって、この場合の *đây* は指示詞の性質を維持していると言えるだろう。また、命令文と共起する *đây* に関しては、聞き手に対する軽い命令や注意を表す、言い換えれば、聞き手に対する動作の実行を求める聞き手志向の表現である。中称の指示詞にも聞き手領域のものを指す機能を持っているが、本研究ではこのような人称区分ではなく、距離区分による指示詞の使い分けの立場を取っている。そのため、命令文に用いられる文末詞としての *đây* と原型の指示詞の *đây* とは関連性が見られないこととなる。このように、情報提示の *đây/ây(y)* と *kia(co)*、情報提示・情報補充要求の *đây* と *kia(co)*、判断の *đây* と *kia(co)*、または軽い命令や注意の *đây* は、いずれも原型の指示詞の特徴である[±現場]との関連性が見られない。

6.4 第6章のまとめ

本章では、指示詞から転用した文末詞 (*đây/này-đây/ây-kia(co)/kia*) の用法を記述し、元となる指示詞の用法との関連性についての主張を示した。その前提として、品詞論とモダリティ論から見た *đây/này-đây/ây-kia(co)/kia* が含まれたいわゆる文末詞の位置づけについて論じた。本研究で扱われる文末詞とは、統語的には助詞の一種であり、文末に置かれるものである。また、機能的にはモダリティ表現であり、表現類型のモダリティと伝達のモダリティを表す。中には、*đây/này-đây/ây-kia(co)/kia* は伝達のモダリティを表すものである。さらに、これまでの先行研究とは異なったアプローチを採用し、ベトナム語における文の表現類型を確認した上で、それにおける文末詞としての *đây/này-đây/ây-kia(co)/kia* の用法を考察した。

その結果、平叙文では、近称の *đây/này* はどちらも発話現場にあるまたは恰も発話現場にあるかのようなもの・動作に対する聞き手への注意喚起を表す。*đây* は平叙文において、発話場で発話時に得られたばかりの情報に基づく話し手の判断を表すこともある。一方、中称の *đây/ây(y)* は、話し手が物事を新しい情報として聞き手に提示する時に用いられる、あるいは聞き手または話題の人物や内容への評価を表したりする。遠称では、*kia(co)* は、話し手が聞き手の想定している情報と異なる情報を提示する場合に用いられる、話し手の評価を表したりする。*kia* は発話現場にある遠くに離れた可視的なもの・動作に対する聞き手への注意喚起を表す。

疑問文と共起する近称の *đây* は聞き手にその場で直ちに返答をするように催促する時に用いられるが、独り言の場合は話し手の不安・ためらいの気持ちといった話し手の態度を表す。中称の *đây/ây(y)* は、疑問文では、聞き手に関する情報提示の要求を表す。遠称の *kia(co)* は、聞き手に対してより詳細な情報を補充するように求める場合に用いられる。

命令文では、近称の **đây/này** は話し手が聞き手に対してその場ですぐに何らかの動作を行うように要求する時に使用される。中称の **đây/ây(y)** は、聞き手に対する軽い命令や注意を表す。遠称の **kia** は、聞き手に対するその場での行動実行を催促する時に用いられる。

以上の主張をまとめると、以下の表 23 となる。

		近称		中称		遠称		
		đây	này	đây	ây(y)	kia (cơ)	kia	
平叙文	肯定文	注意喚起 判断 (này+đây)	注意喚起 (đây+này) (này+này)	情報提示 評価	情報提示 評価	情報提示 評価	注意喚起 (kia+kia)	
	否定文	—	—	情報提示	情報提示 評価	—	注意喚起 (kia+kia)	
疑問文	一般疑問文	真偽疑問文 (肯定)	—	—	情報提示の要求	—	—	
		真偽疑問文 (否定)	—	—	—	—	—	
		選択疑問文	即答の催促	—	情報提示の要求	—	—	—
		補充疑問文	即答の催促 気持ち・態度	—	情報提示の要求	—	情報補充の要求	—
	擬似疑問文	確認要求の疑問文	—	—	情報提示の要求	—	—	—
		疑いの疑問文	—	—	—	—	—	—
命令文	命令文	即時命令	即時命令	注意・軽い命令	—	—	催促	
	禁止の命令文	—	—	注意・軽い命令	—	—	—	
感嘆文		—	—	—	—	—	—	

(表 23) 文の表現類型から見たベトナム語の指示詞から転用した文末詞の機能

これを踏まえ、本章では、指示詞から転用した文末詞と元となる指示詞の用法の関連性については、[+現場]の特徴を持つ近称及び一部の遠称は、文末詞として機能する時においても、基本的に指示詞の性質を維持している。それに対し、[-現場]の特徴を持つ中称及び一部の遠称は、指示詞の性質を維持しておらず、典型的な文末詞として機能していると主張している。

第七章 結語

本研究では、対照言語学的方法を探り、談話管理に関する理論を応用するという新しい視点から、ベトナム語における指示詞の体系的記述を行い、理論化している。本章では、これまで言及してきた指示詞とその関連用法の一般化についての主張をまとめる。さらにそれを踏まえ、これまでの先行研究による記述との違いを示す。また、本研究で考慮できなかった今後の課題について述べる。

7.1 これまでの議論のまとめ

7.1.1 ベトナム語の指示詞を特徴付ける[±現場]とそれに基づく指示詞の用法解釈

本研究の主な理論的枠組みとなる[±現場] ([±spatial]) とは、日本語の指示詞や終助詞を統一の原理で一般化できる談話管理に関する理論を元に提案する意味論・語用論的特徴付けであり、これによりベトナム語の指示詞を統一的に記述できる。この[±現場]は認知主体である話し手と指示対象との距離的・知覚的な関係に基づく指示詞を特徴付ける素性であり、発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す指示詞は[+現場]の特徴を持つ。発話現場に存在しているとみなされない対象を指す指示詞は[-現場]の特徴を持つ。[+現場]のものにのみ「近・遠」という距離区分があるのに対し、[-現場]のものには距離区分がない。

これまでの先行研究では、ベトナム語の指示詞を形態的に近称・中称・遠称の3分割とする説、近称・遠称の2分割とする説、または形態的には3分割、機能的には2分割とする説など諸説がある。これらの研究は、いずれも中称の指示詞を特別扱いしており、指示詞の用法のうち距離区分または人称区分による眼前指示用法と、話し手と聞き手との共有知識による非眼前指示用法とを、それぞれ別の原理で記述しているため、一貫性をもった理論化がなされていない。本研究では、前述の通り、ベトナム語の指示詞は形態的に近称・中称・遠称の対立を、そして機能的に「近・遠」と「中」の対立を持つとしている。指示詞の用法に見られるこのような「近・遠」と「中」の対立は、指示詞が持つ特徴に反映されている。言い換えれば、[-現場]の特徴を持つ中称の *đây(đó)* は[+現場]の特徴を持つ近称・遠称の *đây-kia* とは性質が異なるので、その用法には「近・遠」と「中」の対立が見られるわけである。また、「近・遠」と[±現場]は語用論的性質で独立しているが、「近」と「遠」は[+現場]しか取れず、[+現場]の *đây* と *kia* は基本的に現場指示用法でしか用いられない。それに対し、「近・遠」の距離区分がない[-現場]の *đây(đó)* は基本的に非現場指示用法でしか用いられない。すなわち、[+現場]の *đây* と *kia* は現場指示用法を、[-現場]の *đây(đó)* が非現場指示用法を、それぞれ基本用法としているのである。拡張用法として非現場指示用法に用いられる *đây-kia*、または現場指示用法に用

いられる *đây(đó)* も存在している。ただし、非現場指示用法に用いられる *đây* と *kia* は、基本用法である現場指示用法における「近・遠」の特徴を、拡張用法として現場指示用法に用いられる *đây(đó)* は[-現場]の特徴を依然として維持している。

具体的に、[+現場]の特徴を持つ近称の *đây* 系と遠称の *kia* 系は現場に存在している、または視覚的に確認できなくても談話の現場に存在しているとみなされる、かつ話し手から「近」か「遠」であると認知される対象を指示する。一方、[-現場]の特徴を持つ中称の *đây(đó)* 系は、現場に存在しているとみなされない、あるいは記憶の中にある対象を指し、典型的な非現場指示用法を基本用法としている。つまり、発話の現場にさえ存在しなければ、基本的にどんな対象でも *đây(đó)* で指すことができる。*đây* と *kia* は、基本用法である現場指示用法においても、拡張用法である非現場指示用法においても、認知主体である話し手と指示詞対象との距離に基づいて計算される「近・遠」の物理的または心理的な距離区分で区別される。また、*đây(đó)* と *kia* の違いについては、現場指示用法では、*kia* は話し手と指示詞との（物理的または心理的）距離を「遠」と判断されるものを指し示すのに対し、*đây(đó)* は指示対象が「近」か「遠」か判断できない場合に用いられる。非現場指示用法においては、指示対象が発話の現場には存在しているとみなされなければ、基本的にどんな対象でも非現場指示を基本用法とする *đây(đó)* で指示できる。それに対し、非現場指示を拡張用法とする *kia* は限られた場合にしか用いられない。

さらに、「指す」と「表す」という二つの機能をあわせて持つ性質・様態の指示詞 *thế này-thế-thế kia*（日本語で言う指示副詞）についても同様なことが言える。[+現場]の特徴を持つ *thế này* と *thế kia* は、話し手（認知主体）にとって「近」または「遠」とみなされる対象を指示する。*thế này* と *thế kia* は基本的に現場指示用法にしか用いられない。なお、非現場指示用法に用いられるように見られる *thế này* もあるが、近称の指示詞が持つ[+現場]の特徴を依然として維持している。一方、[-現場]の特徴を持つ *thế* は現場に存在しているとみなされない、あるいは話し手の記憶にある対象を指し示すという典型的な非現場指示用法を持つ。すなわち、他の中称の指示詞と同様に、対象が現場になれば全て *thế* で指示することができる。拡張用法として現場指示用法に用いられる *thế* は、一度言及されたものや、動作主体である聞き手（＝指示対象）あるいは聞き手に近い（または属する）といったような「聞き手の領域」にあるものを指示する。いずれにせよ、[-現場]の特徴を依然として維持している。また、統語的には、中称の *thế* は前方照応用法を持ち、対話における先行発話にある句・節、あるいは発話全体を承けることができる。近称の *thế này* と遠称の *thế kia* にはこのような用法がない。

7.1.2 空間指示と時間指示

金子（1995）によると、言語の時間表現には基本的なものとして、語彙アスペクト、アスペクト形式、時制と指示の時間表現がある。指示の時間表現は、時制より具体的か

つ詳細に表示状況の成立時間を指すものであり、原則的に、直示的指示（基本的直示・派生的直示）、文脈的指示、述語的指示の3種類に分類できる。中でも、基本的直示「今」は発話そのものの成立の時間を自己参照的に指示する要素であって、発話時を明示させる基本的な時間指示である。派生的直示とは、発話時を基点として計算される時間指示である。これに基づくと、ベトナム語における指示詞の時間指示は、発話時を参照点とする「直示的指示」と発話時を参照点としない「非直示的指示」とに分けることができる。近称と遠称は直示的指示で、中称は非直示的指示である。

具体的に、近称では、*đây/nay* は発話そのものの成立の時間を自己参照的に指示し、発話時またはそれを含む時間を明示させる時間指示である。*nay/này* は発話時を参照点として計算される時間指示であり、発話時を含む時間を指すこともある。*nãy* は、発話時に近接する過去を表す時間指示である。遠称では、*kia/kìa* は基本的に発話時を参照点として計算される時間を指示するが、発話時から遠い過去・未来の時を指すこともある。一方、中称の *đây(đó)/áy* は発話時を参照点としない時間を指示する典型的な非直示的指示であると考えられる。

また、指示詞の時間指示用法とその元となる用法の空間指示との関連性については、[+現場]の特徴を持つ近称と遠称の指示詞は、空間指示では発話現場に存在しているまたは視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指すという現場指示用法に用いられ、話し手と指示対象との距離に基づく「近・遠」という（物理的・心理的な）距離区分によって区別される。時間指示では、発話時を参照点とする時間を指示する直示的用法に用いられ、近称は発話時から近い過去を表し、遠称は発話時から遠い過去や将来を表し、発話時から「近」いか「遠」いかで区別されると言える。一方、[-現場]の特徴を持つ中称の指示詞は、空間指示では発話現場に存在しているとみなされない対象を指すという非現場指示用法に用いられ、時間指示では発話時を参照点としない時間を指示するという非直示的指示に用いられる。よって、指示詞の空間指示用法と時間指示用法が並行しているといえることができる。

7.1.3 指示詞から転用したいわゆる文末詞

他のいわゆる文末詞と同様に、ベトナム語における文末詞としての指示詞は、助詞の一種であり、文末に置かれる伝達のモダリティを表すものである。これらの文末詞は共起する文の表現類型によって、その機能が異なる。具体的に、近称では、*đây* は肯定の平叙文、選択疑問文、補充疑問文、命令文と、*này* は肯定の平叙文と命令文と共起する。中称では、*đây* は疑いの疑問文と感嘆文以外のすべての文の表現類型と共起することができるのに対し、*áy(y)* は平叙文としか共起できない。遠称では、*kia(co)/kìa* はどちらも肯定の平叙文と共起するが、*kia(co)* は補充疑問文とも共起できるのに対し、*kìa* は否定の平叙文や命令文と共起することができる。

平叙文と共起する近称の *đây/này* はどちらも発話現場にあるまたは恰も発話現場にあるかのようなもの・動作に対する聞き手への注意喚起を表す。*đây* は発話場で発話時に得られたばかりの情報に基づく話し手の判断を表すこともある。一方、中称の *đây/ây(y)* は、平叙文において、話し手が物事を新しい情報として聞き手に提示する時に用いられる、あるいは聞き手または話題の人物や内容への評価を表したりする。平叙文と共起する遠称の *kia(co)* は、話し手が聞き手の想定している情報と異なる情報を提示する場合に用いられ、話し手の評価を表したりする。*kia* は発話現場にある遠くに離れた可視的なもの・動作に対する聞き手への注意喚起を表す。

疑問文と共起する近称の *đây* は聞き手にその場で直ちに返答をするように催促する時に用いられるが、独り言の場合は話し手の不安・ためらいの気持ちを表す。中称の *đây/ây(y)* は、疑問文では、聞き手に関する情報提示の要求を表す一方、遠称の *kia(co)* は、聞き手に対してより詳細な情報を補充するように求める場合に用いられる。命令文と共起する近称の *đây/này* は、話し手が聞き手に対してその場ですぐに何らかの動作を行うように要求する時に使用される。命令文と共起する場合の中称の *đây/ây(y)* は、聞き手に対する軽い命令や注意を表す。それに対し、遠称の *kia* は、聞き手に対するその場での行動実行を催促する時に用いられる。これを踏まえながら、指示詞から転用した文末詞と元となる指示詞の用法の関連性について考えると、[+現場]の特徴を持つ近称及び一部の遠称は、文末詞として機能する時においても、基本的に指示詞の性質を維持している。それに対し、[-現場]の特徴を持つ中称及び一部の遠称は、指示詞の性質を維持しておらず、典型的な文末詞として機能しているといえることができる。

具体的に、文末詞としての *đây/này* と *kia* は、平叙文では、近称の指示詞 (*đây/này*) または遠称の指示詞 (*kia*) と共起し、その現場指示的機能を強める働きを持つ。これは、他のいわゆる文末詞にはない用法である。また、*đây* と *này* はどちらも話し手は発話現場にある、または恰も発話現場にあるかのようなものに対する聞き手への注意喚起を表す。*kia* にも、発話現場にある遠くに離れた可視的なもの・動作に対する聞き手への注意喚起を表す。いずれも、発話現場に存在している、または視覚的に確認できなくても発話現場に存在しているとみなされる対象を指す[+現場]の特徴を持つという原型の近称と遠称の性質が残っていると言える。ちなみに、注意喚起の *đây* は、発話の直後に行われる動作、発話時に進行中の動作、または発話時に終りかけの動作に対して、聞き手の注意を向かせる時に用いられる。どちらの場合も、発話時を基準点とする出来事時を表すので、この場合の *đây* は時間指示における近称の指示詞の性質を維持していると考えられる。疑問文と共起する *đây* は、話し手が聞き手にその場で直ちに返答をするように催促する時に、命令文と共起する *đây/này* は、話し手が聞き手に対してその場ですぐに何らかの動作を行うように要求する時に用いられる。*kia* も、命令文において、聞き手に対するその場での行動実行を催促する場合に使用される。いずれも、聞き手に対するその場での即答または行動実行の要求・催促を表すという発話時や発話現場によって

解釈が決まる特徴を持ち、いわゆるダイクシスの色彩が強いと考えられる。よって、近称・遠称の指示詞の[+現場]という特徴を保持していると言える。

他方、文末詞としての中称と一部の遠称は、談話における情報管理に関わる機能を持っている。平叙文では **đây/ây(y)** は聞き手にとって新しいと思われる情報を、**kia(co)** は聞き手の想定と異なる情報を提示する。疑問文では、**đây** は、聞き手に関する情報提示の要求を表し、遠称の **kia(co)** は、聞き手に対してより詳細な情報を補充するように求める場合に用いられる。この情報管理の **đây/ây(y)** と **kia(co)** は、いずれも空間指示の **đây(đó)** と **kia** との関連性が見られず、原型となる空間の指示詞の性質を維持していないと思われる。話し手の評価を表す **đây/ây(y)** と **kia(co)** についても、話し手の経験に基づく評価を表すため、同様なことが言える。また、命令文と共起する **đây** に関しては、聞き手に対する軽い命令や注意を表す、言い換えれば、聞き手に対する動作の実行を求める聞き手志向の表現である。中称の指示詞にも聞き手領域に属するものを指す機能を持っているが、本研究ではこのような人称区分の立場を取っていないため、この **đây** も原型の指示詞の **đây** とは関連性が見られないこととなる。このように、平叙文では現場指示的機能を強める、または注意喚起を表す **đây/này** と **kia**、疑問文では即答の催促を表す **đây**、命令文では即時命令の **đây/này** と行動実行の催促の **kia** は[+現場]の特徴を持つ近称と遠称の指示詞の性質を維持している。一方、情報提示の **đây/ây(y)** と **kia(co)**、情報提示・情報補充要求の **đây** と **kia(co)**、判断の **đây** と **kia(co)**、または軽い命令や注意の **đây** は、原型の指示詞の特徴である[±現場]との関連性が見られないと考えられる。

以上を踏まえて、ベトナム語における指示詞とその関連用法または指示詞から転用した文末詞の用法をまとめると以下のようとなる。

		近称	中称	遠称
指示詞とその関連用法	指示詞	đây/này [+現場]・近	đây/ây(đó) [-現場]	kia [+現場]・遠
	様態・性質の指示詞	thế này [+現場]・近	thế [-現場]	thế kia [+現場]・遠
	時間の指示詞	đây/này/này/nãy 直示≒[+現場] (現在/近い過去)	đây/ây(đó) 非直示≒[-現場] (過去/未来)	kia/kia 直示≒[+現場] (遠い過去/未来)
指示詞からの転用	đây/này [+現場] 伝達のモダリティ { 注意喚起/判断/態度 } 即答催促 即時命令	đây/ây(y) 伝達のモダリティ { 情報提示/評価 } { 情報提示の要求 } 注意・軽い命令	kia(co)/kia [+現場] 伝達のモダリティ { 注意喚起/情報提示/評価 } { 情報補充の要求 } 催促	

(表 25) ベトナム語における指示詞の諸用法

7.2 先行研究との比較

前述のように、これまでの先行研究では、指示詞を主なテーマとして取り上げているのは Nguyễn P. P. (2002)、Bui L.T. (2014) や安達 (2016 など) である。Nguyễn P. P. (2002) では、指示詞の形態的特徴を分析した上で、認知的概念である内空間・外空間に基づいて指示詞の機能を説明している。近称の *đây* は常に内空間にあり、遠称の *kia* は外空間にある一方、同じ遠称の *đây(đó)* は内空間に入ったり外空間に入ったりする。また、指示詞には、眼前の対象を指示する場合と照応的に用いられる場合という二つの機能があるとされている。さらに、指示詞には時間を表す用法もあるが、それは空間から時間への意味拡張というより、ベトナム語の指示詞には空間的意味・時間的意味を合わせて持つのであると主張している。

Brown & Yule (1983) を理論的枠組みとする Bui L.T. (2014) はベトナム語の指示詞を談話分析 (discourse analysis) の視点からベトナム語の指示詞の用法を考察している研究である。ベトナム語の指示詞には、話し手と指示対象との物理的・心理的距離に基づく *spatial usage* (空間指示用法) は元となる用法であり、指示対象が話し手から近い場合に用いられる近称と、指示対象が話し手から遠い場合に用いられる中称と遠称という二系列の指示詞があるとされている。そこから拡張された意味として、*temporal usage* (時間指示用法)、*discourse usage* (談話指示用法)、*first mention usage* (新規導入用法)、*demonstrative particles* (文末詞) としての用法と、*demonstrative interjections* (感動詞) としての用法があるとされている。*temporal usage* (時間指示用法) では、近称の指示詞は「現在」の時を表すのに対し、遠称は過去または未来の方向にある時を指す。*discourse usage* (談話指示用法) については、*này/đây/ây/đây(đó)/kia/nọ* のどれも空間指示から談話指示に転用され、近称の指示詞は重要性・連続性のある話題を指示する時、遠称はそうでない時に使用される。遠称の *ây* をはじめとする *first mention usage* (新規導入用法) に用いられる指示詞においても、話し手に知識があるものを指す場合は近称が使用され、そうでない場合は遠称が用いられる。一方、*demonstrative particles* (文末詞) としての用法については、Kamio (1994) の「情報のなわ張り理論」⁶⁰ を基にして分析した結果、近称は話し手のなわ張りに属する情報を表し、中称は話し手のなわ張りかつ聞き手のなわ張りに属する情報を表すとしている。遠称も話し手のなわ張りかつ聞き手のなわ張りに属する情報を表すが、完全に聞き手のなわ張りに属する情報、または話し手と聞き手のなわ張りのどちらにも属していない情報を表すこともあると言及されている。このように、*temporal usage* (時間指示用法)、*discourse usage* (談話指示用法)、*first mention usage* (新規導入用法)、*demonstrative particles* (文末詞) としての用法のいずれも、元となる *spatial usage* (空間指示用法) の用法と並行しており、指示詞の多義性を現わしていると Bui L.T. (2014) は主張している。

⁶⁰ 情報のなわ張り理論とは、話し手あるいは聞き手にとって近い情報が「内」、遠い情報が「外」という様に、話し手・聞き手と情報の物理的距離・心理的距離を定義したものである。詳しくは Kamio (1994 など) を見られたい。

安達（2016 など）は、金水・岡崎・曹（2002）による指示詞の一般化を採用し、三系列を持つベトナム語の指示詞には主に、直示用法・照応用法・記憶指示用法を持ち、直示用法において近称は話し手の周囲を、遠称は近称より広い可視的な範囲を、中称は距離に中立的であり広い範囲において用いられるという。先行詞を持つ照応用法においては中称が使われ、不特定の対象や連動的解釈を持つ対象も指示できる。近称については言語的テキストとして提示された先行詞を指示する *textual deixis* の用法がある。遠称は照応用法では使用できないが、過去の知識を先行詞なしで直接指示する記憶指示用法においては使用可能なことがある。時間を指示する場合、近称は発話時を、遠称は発話時から離れた時間を表し、中称は照応的に時を示す。指示詞から文法化された文末詞と感動詞は、一つの談話のまとまりを超えて話し手や聞き手が持っている体験・情報と発話の場を繋ぐという語用論的機能が強化されている。指示詞から文法化された文末詞は、中称は話し手が聞き手に新情報を提示する時、あるいは話し手が聞き手に対して新情報を求める場合や、既に共有しているはずの情報を聞き手に思い出させるために使われる。遠称はある情報の量や質について話し手と聞き手との間に甚だしい認識差がある場合に用いられ、話し手が聞き手の想定を修正したり、話し手が自身の想定を覆されるような情報を聞き手から受け取った時の驚きを表したりする。近称は話し手の発話の場での直接経験に基づく判断を表す時や、話し手がある情報についての例を列挙する時に用いられると安達（2016 など）では主張されている。

このように、Nguyễn P. P.（2002）では内空間・外空間といった一般化に基づいて指示詞の用法を記述しているが、主に眼前指示（本研究で言う現場指示用法）に焦点を置いており、他の用法の考察がされていないため、ベトナム語の指示詞に対する包括的な記述とは言えない。Bui L.T.（2014）と安達（2016 など）はより広範囲で指示詞関連語彙を記述している。しかし、金水・岡崎・曹（2002）による日本語における指示詞の用法の一般化をベトナム語の指示詞に応用する安達（2016 など）では両言語の共通点・相違点について言及されておらず、指示詞の基本となる空間指示用法と他の用法との関連性も明確にされていない。一方、Bui L.T.（2014）は特に指示詞の語用論的機能の分析を試み、Brown & Yule（1983）の談話分析（*discourse analysis*）と Kamio（1994）の「情報のなわ張り理論」を理論的枠組みとしているが、指示詞の意味的特性に対する考察が Bui L.T.（2014）では十分になされていない。いずれの研究においても、先述のように、元の用法とされている空間指示用法を距離区分または人称区分による眼前指示用法と、話し手と聞き手との共有知識による非眼前指示用法と、別々の原理で記述されている。これが、空間指示用法の一般化はもちろん、他の時間指示用法や文末詞としての用法との関連性を明確にできない要因となる。

本研究では、以上のような先行研究における問題点を意識しながら、指示詞を特徴付ける統一の原理である[±現場]という素性を提案した。[±現場]は指示詞を特徴付ける意味論・語用論的素性であり、指示対象が発話現場に存在しているとみなされるなら[±現

場]、存在しているとみなされないなら[-現場]の特徴を持つこととなる。本研究は、この指示詞の用法解釈における拠り所となる一般化のための素性である[±現場]に基づき、指示詞の最も基本的な用法である空間指示用法の記述を行った上で、[±現場]の妥当性を検証した。さらに、指示詞の副詞的な用法である様態・性質の指示詞としての用法においても、この[±現場]に基づけば、空間指示用法と同様な解釈ができることを示した。具体的に、指示詞の空間指示用法及び様態・性質の指示詞としての用法では、[+現場]の特徴を持つのは近称と遠称 (*đây-kia* と *thé này-thé kia*)、[-現場]の特徴持つのは中称 (*đây(đó)*と *thé*) である。*đây-kia* と *thé này-thé kia* は「近・遠」で使い分けられる。一方、*đây(đó)*と *thé* には距離区分がない。指示詞の基本となる用法である空間指示用法からの派生的な用法である時間指示用法においても、元となる用法と並行して「近称・遠称 vs. 中称」という対立を成している。[+現場]の特徴を持つ近称と遠称は、時間指示用法では発話時を参照点とする時間を指示する直示的用法に用いられる (*đây/này/này/nãy* と *kia/kià*)。[-現場]の特徴を持つ中称は、時間指示では発話時を参照点としない時間を指示する典型的な非直示的用法に用いられる (*đây(đó)/áy*)。時間指示としての *đây/này/này/nãy* と *kia/kià* の違いは、前者は発話時から近い過去を表し、後者は発話時から遠い過去や将来を表すことである。指示詞から転用されたモダリティ表現の一種とされている文末詞としての用法については、平叙文と共起して聞き手への注意喚起を表す *đây/này* と *kià*、疑問文と共起して発話場での即答催促を表す *đây/này*、または命令文と共起して即時命令を表す *đây/này* と行動実行の催促を表す *kià* のように、近称と遠称は文末詞として機能する時においても、基本的に[+現場]という指示詞の特徴を維持している。それに対し、平叙文と共起して情報提示を、疑問文と共起して情報提示または情報補充の要求を、命令文と共起して軽い命令や注意を表す中称の *đây/áy(y)*と一部の遠称の *kià* は、指示詞の性質を維持しておらず、談話における情報管理をはじめとする典型的な文末詞としての機能を果たしている。なお、本研究の記述と先行研究の記述を比較してまとめると、表 26 のようになる。

これまでの先行研究とは異なり、本研究で提唱している[±現場]という意味論・語用論的素性を使用することにより、指示詞の特徴を明らかにすることができた。また、前述の通り、本研究では、指示詞とその指示対象を特定しやすいと対話から成り立った戯曲における会話文を分析対象として利用しており、これまでの先行研究に言及されていない中称・遠称の使い分けを明示する用法、様態・性質の指示詞としての用法、時間表現の分類に基づいた指示詞の時間指示用法、モダリティ論・品詞論から見た伝達のモダリティを表す文末詞的に用いられる指示詞の用法への記述も行った。このように、本論文は、ベトナム語における指示詞関連語彙を包括的かつ統一的に記述し、理論化できたとと言える。

		Nguyen P.P. (2002)	Bui L.T. (2014)	安達 (2016など)	本研究				
指示詞とその関連用法	指示詞	近	đây/này 内空間	近	đây/này 直示/照応/曖昧	近	đây/này [+現場]・近		
		遠	đầy/(n)ầy/đó 内空間/外空間	遠	đầy/ầy/đó 既知	中	đầy/đó/ầy/ý 直示/照応/曖昧/ 記憶指示/placeholder	中	đầy/ầy(đó) [-現場]
			kia 外空間	遠	kia 未知	遠	kia 直示/記憶指示	遠	kia [+現場]・遠
	様態・性質の指示詞	—	—	—	—	近	thế này [+現場]・近		
		—	—	—	—	中	thế [-現場]		
		—	—	—	—	遠	thế kia [+現場]・遠		
	時間の指示詞	近	đây/này 現在	近	đây/này/này/này 過去/現在	近	đây/này/này/này 直示≒[+現場] (現在/近い過去)		
		遠	đầy/đó 過去/未来	遠	—	中	đầy/đó/ầy/ý 照応	中	đầy/ầy(đó) 非直示≒[-現場] (過去/未来)
			kia 過去/未来	遠	kia 過去/未来	遠	kia/kia 発話時から離れた時間	遠	kia/kia 直示≒[+現場] (遠い過去/未来)
	指示詞からの転用	文末詞	—	近	đây/này 話し手のなわ張り内	近	đây/này {判断/即時行動/即答 要求/切迫感/推測/ 列挙/眼前/個別化}	近	đây/này [+現場] 伝達のモダリティ {注意喚起/判断/態度 即答催促 即時命令}
—			中	đầy/ầy/đó 話し手のなわ張り内 かつ 聞き手のなわ張り内	中	đầy/đó/ầy/ý {情報共有の志向/知識 差の解消/新情報の提 示・要求/興味関心・ 友好的/既知の情報 の思い出させ}	中	đầy/ầy(ý) 伝達のモダリティ {情報提示/評価 情報提示の要求 注意・軽い命令}	
—			遠	kia(kia) 聞き手のなわ張り外 話し手のなわ張り内 かつ 聞き手のなわ張り内 話し手のなわ張り外 かつ 聞き手のなわ張り外	遠	kia {認知差の解消/想定/ 修正/驚き/判断的}	遠	kia(co)/kia [+現場] 伝達のモダリティ {注意喚起/情報提示/評価 情報補充の要求 催促}	

(表 26) 先行研究による記述と本稿の主張との比較

7.3 今後の課題

本論文では、先行研究における問題点を指摘しながら、指示詞を統一の原理で一般化するための意味論・語用論的素性である[±現場]に基づき、指示詞の諸用法を再解釈した。指示詞関連語彙には、空間指示用法または時間指示用法に用いられる指示詞、様態・性質の指示詞、文末詞・感動詞としての指示詞があるが、本研究では感動詞として機能する指示詞を考察の対象外としている。この指示詞から転用した感動詞については、Bui L.T. (2014) では、demonstrative interjections (感動詞)としての用法では、近称は命題に対する聞き手への注意喚起や話し手の気持ちを表す時に、遠称は聞き手の反応や反発を和らげる時に使用される。また、安達 (2016 など) では、聞き手の注意を向けさせたいと考えて

いる、発話の場における方向、あるいは談話上の方向を表すとされている。しかし、感動詞というのは、Nguyễn T.C. (1975) の句構造による品詞分類によれば、句の構造に関わらないものであり、感動詞のみで一つの未分化文が成立するので、他の品詞とは統語的に異なる。また、Nguyễn A.Q. (1983) に言及されているように、文の構成成分にはなれず、他の文成分とは独立して用いられる感動詞は主に驚き・怒り・喜び・痛み・不快などといった話し手の気持ちや心的態度を表すものであり、命題に対する話し手の伝達態度を表す文末詞とも根本的に異なる。従って、感動詞は文法範疇として扱われるべきではないと考えられる。そのため、意味論・語用論的研究である本論文では感動詞を考察の対象外とし、今後は談話分析 (discourse analysis) の観点から談話標識 (discourse) の一つとしてその機能解釈を試みたい。

また、本研究で扱われるモダリティ表現である文末詞としての指示詞は、後述の付録にも言及されるように、ベトナム語において数多く存在しているいわゆる文末詞の一部にすぎない。しかし、これまでは文末詞全体を包括的に記述または一般化した研究が少ないため、文末詞をはじめ、ベトナム語におけるモダリティ表現を意味論・語用論の観点から研究する余地はあると考えられる。その際、本研究は草分け的研究となりうるだろう。

付録 表現類型と文末詞

8.1 発話機能による文の表現類型の分類

文は言語による表現・伝達における最も基本的な単位である。話し手は様々な目的を持って文を発話する。聞き手に情報を伝える、聞き手に行為を要求する、話し手の感嘆の気持ちを表す、といった伝達的な機能を持つ文を用いることによって、多種多様な発話の目的を果たす。このような表現・伝達において果たす機能のあり方により、文の表現類型を情報系の表現（平叙文・疑問文）、行為系の表現（命令文）、特殊的な表現（感嘆文）に分けることができる。情報系の表現には、話し手と聞き手との情報のやりとりに関わるもので、基本的に聞き手に情報を与える機能を持つ平叙文と、聞き手から情報を引き出すことを目的とする疑問文がある。一方、行為系の表現は、聞き手に行為の実行を要求する命令文がある。また、これらとは異なり、話し手の感動を表す特殊的な表現の感嘆文がある。本稿では、ベトナム語における表現・伝達的な機能による文の表現類型とその統語的特徴を確認した上、さらにこれまでの先行研究とは異なる表現類型の下位分類を試みる。しかる後に、これらの表現類型との関係に反映された文末詞の統語的特徴をまとめる。

8.1.1 平叙文

平叙文は、何らかの情報を述べ伝える機能を担っている。平叙文には、客観的世界の現象をそのまま言語化して述べるものと、二つの概念を話者の責任において一つに結びつけることによって文のレベルで高次の概念を創出するものとに分けられる。また、後者は名詞的概念同士を結びつけるものと、名詞的概念と属性的概念を結びつけるものがある。ここで、それぞれ〈描写〉の平叙文、〈関係叙述〉の平叙文、〈属性叙述〉の平叙文と呼ぶことにしよう。なお、平叙文には肯定文と否定文とに一般的に分けられる。

8.1.1.1 肯定文

・描写の平叙文には、客観的世界の現象をそのまま言語化して述べるものであり、動きを表すまたは存在・所有を表す動詞述語文が含まれる。

【動きを表す文】

(426) Xe buýt đang chạy với tốc độ khá cao.
バス [副詞 (現在進行)] 走る [関係詞 (と)] 速度 [副詞 (かなり)] 高い
バスはかなり早い速度で走っている。

(427) Họ đã vào đến Sài Gòn.

彼ら [副詞 (過去)] 入る 来る [地名]

彼らは (すでに) フエに行った。

(428) Khách khứa đều về hết rồi.

客 [副詞 (全部)] 帰る [副詞 (尽きる)] [副詞 (完了)]

お客さんはもう全員帰った。

(429) Tôi sẽ hoàn thành luận án trong tháng 9.

1 (私) [副詞 (未来)] 完成する 論文 中 月

私は9月中旬に論文を完成する。

【存在・所有を表す文】

(430) Giám đốc vẫn còn trong phòng họp.

社長 [副詞 (まだ)] 残る 中 会議室

社長はまだ会議室にいます。

(431) Bạn tôi có nhiều sách quý.

友達 1 (私) ある [副詞 (たくさん)] 本 貴重な

私の友達は貴重な本をたくさん持っている。

(432) Gạo nhà mình hết rồi.

米 家 自分 無くなる [文末詞 (完了)]

うちのお米が無くなった。

・関係叙述の平叙文は、名詞的概念同士を結び付けるものであり、コンピュータ là が主語と述語の間に介される名詞術語文である。

(433) Hà Nội là thủ đô của nước Việt Nam.

[地名] [コンピュータ] 首都 [関係詞 (の)] 国 ベトナム

ハノイはベトナムの首都である。

(434) Đây là quê hương của tôi.

ここ [コンピュータ] 故郷 [関係詞 (の)] 1 (私)

ここは私の故郷です。

・属性叙述の平叙文は、名詞的概念と属性的概念を結びつける形容詞述語文である。

(435) Hoa đẹp quá.
花 綺麗な [副詞 (過ぎる)]
花がとてもきれいですね。

(436) Quán phở này khá ngon.
店 フォー この [副詞 (かなり)] 美味しい
このフォーのお店は結構美味しい。

・その他の構文 (変化・授受・受身・比況など)

(437) Hai người đã thành vợ chồng.
二人 [副詞 (過去)] 成る 夫婦
二人は夫婦になりました。

(438) Cô ấy được tặng một chiếc ô tô.
彼女 [副詞 (受身)] プレゼントする 1 [類別詞 (台)] 車
彼女は一台の車をプレゼントされた。

(439) Tôi bị mẹ mắng.
1 (私) [動詞 (受身)] 母 叱る
私は母に叱られた。

(440) Chúng tôi thân nhau như anh em.
我々 親しい 互い [関係詞 (如く)] 兄弟
僕らは兄弟のように親しい。

8.1.1.2 否定文

ベトナム語では、述語の前に否定の意味を表す副詞を置くことで否定文が作られる。名詞述語文には không/chẳng (～ない)、chưa (まだ～ない) が、動詞述語文・形容詞述語文には không phải là/chẳng phải là (～ではない)、chưa phải là (まだ～ではない) が使われる。

(441) Vết thương chưa lành. (描写の平叙文)
傷 [副詞 (否定)] 治る

傷がまだ治っていない。

(442) Tôi không phải là sinh viên. (関係叙述の平叙文)

1 (私) [副詞 (否定)] 正しい [コピュラ] 学生

私は学生ではありません。

(443) Bức ảnh này chẳng đẹp.

[類別詞 (枚)] 写真 この [副詞 (否定)] 綺麗な

この写真はきれいではない。

8.1.2 疑問文

疑問文は、様々な機能を果たすが、最も基本的なのは聞き手から情報を聞き出そうとする〈質問〉である。質問は、返答すなわち肯定否定を表明することを求めたり、ことごとについてを選択や説明を求めたりするものである。〈質問〉の機能を持つ疑問文を成立させる条件として以下の二つがある。

(444) 〈質問〉の成立条件

- ・話し手には命題内容の真偽判断、あるいはその命題を構成する情報の一部が欠けている。(不確定性条件)
- ・話し手はそれを聞き手に問いかけることによって充足することを意図する。(問いかけ性条件)

(安達 1999:12)

この二つの条件を満たす一般の疑問文(真偽疑問文・選択疑問文・補充疑問文)と、二つの条件のどちらかを満たさない疑似疑問文(前者は確認要求の疑問文、後者は疑いの疑問文)とに、下位範疇として分類できる。

8.1.2.1 一般疑問文

一般疑問文には真偽疑問文、選択疑問文と補充疑問文がある。

・真偽疑問文とは、その情報の真偽が不明であり、聞き手に肯定否定を表明することを求めるものである。肯定疑問文と否定疑問文とに分けられる。肯定疑問文では、述語が名詞の場合は có phải là~không の構文、動詞の場合は có~không の構文また副詞の chưa、形容詞の場合は có~không の構文がそれぞれ用いられる。一方、否定疑問文は命題の真偽を尋ねるといった質問の中心的な機能以外のところにあり、話し手の感情を表す用法と、ある判断への傾きを含んだ問いかけを表す方法がある。前者は願望・不安といった感情

を表し、後者はその肯定命題とは逆方向の肯定命題の成立に話し手が傾いているという前提の下で質問するものである。否定疑問文は基本的に否定文に特定の文末詞が付加されることによって形成される。

【肯定疑問文】

(445) Bạn có phải là sinh viên không?
2 (友達) [副詞 (疑問)] 正しい [コピュラ] 学生 [副詞 (疑問)]

- Phải (đúng), tôi là sinh viên.

正しい 1 (私) [コピュラ] 学生

- Không, tôi không phải là sinh viên.

[副詞 (否定)] 1 (私) [副詞 (否定)] 正しい [コピュラ] 学生

あなたは学生ですか。

はい、私は学生です。

いいえ、私は学生ではありません。

(446) {妻が夫に聞く}

Vợ: Anh có đi với em không?

2 (兄) [副詞 (疑問)] 行く [関係詞 (と)] 1 (弟/妹) [副詞 (疑問)]

Chồng: Có, anh có đi.

[副詞 (肯定)] 1 (兄) [副詞 (肯定)] 行く

Không, anh không đi.

[副詞 (否定)] 1 (兄) [副詞 (否定)] 行く

妻：あなた、私と一緒にいかない？

夫：うん、俺（も）行く。

いや、俺は行かない。

(447) {母が子供に聞く}

Mẹ: Ông (đã) về chưa?

祖父 [副詞 (過去)] 帰る [副詞 (疑問)]

Con: (Rồi), ông về rồi.

[副詞 (完了)] 祖父 帰る [副詞 (完了)]

(Chưa), ông chưa về.

[副詞 (否定)] 祖父 [副詞 (否定)] 帰る

母：お祖父ちゃんが帰った？

子：うん、帰った。

いや、まだ帰っていない。

(448) Anh ta có đẹp trai không?
彼 [副詞 (疑問)] ハンサム [副詞 (疑問)]

- Có, anh ta (có) đẹp trai.

[副詞 (肯定)] 彼 [副詞 (肯定)] ハンサム

- Không, anh ta không đẹp trai.

[副詞 (否定)] 彼 [副詞 (否定)] ハンサム

彼はハンサムですか。

はい、ハンサムです。

いいえ、ハンサムではありません。

【否定疑問文】

(449) Bạn không phải là sinh viên à?

2 (友達) [副詞 (否定)] 正しい [コピュラ] 学生 [文末詞 (疑問)]

あなたは学生ではないのですか？

(450) {祖母が孫に聞く}

Ông chưa về à?

祖父 [副詞 (否定)] 帰る [文末詞 (疑問)]

お祖父ちゃん、まだ帰らないの？

(451) Anh ta không đẹp trai như trong ảnh à?

彼 [副詞 (否定)] ハンサム [関係詞 (如く)] 中 写真 [文末詞 (疑問)]

彼は写真ほどハンサムではなかったのですか。

・選択疑問文は、判断要求の命題が二つ（または二つ以上）、特殊の形で連結し、そのどちらかの判断を相手に選択することを要求するものである。選択疑問文は、形の上で真偽疑問文に似ているが、機能の上では補充疑問文と近い性質を持っている。その回答の候補が選択肢として文中に提示されているため、いずれかの選択肢を選んで答えなければならない（日本語記述文法研究会 2003:25）。選択疑問文は、選択の関係詞 hay で表示される。

【選択の関係詞 hay】

(452) Bạn là sinh viên hay là giáo viên?

2 (友達) [コピュラ] 学生 [関係詞 (それか)] [コピュラ] 先生

あなたは学生ですか？それとも、先生ですか？

(453) **Chồng chị cao hay thấp?**

夫 2 (姉) 高い [関係詞 (それか)] 低い

あなたの旦那さんは背が高いですか？それとも、低いですか？

(454) **Chúng ta đi xem phim, đi dạo, hay ở nhà?**

我々 行く 見る 映画 行く 散歩 [関係詞 (それか)] 居る 家

私たちは映画を見に行く？散歩に出かける？それとも家にいる？

・補充疑問文は、その命題の中に不明な情報が含まれていることを表す。不明な情報を疑問詞で表して、その部分を補充することを聞き手に求める。疑問詞 **ai** (誰)、**đâu** (どこ)、**gì** (何)、**sao** (どのよう)、**nào** (どの) などを用いた疑問文である。

(455) **Ai đi?**

誰 行く

誰が行きますか。

Cô đi đâu?

2 (叔母) 行く どこ

貴女はどこに行きますか。

Cô làm gì?

2 (叔母) する 何

貴女は何をしますか。

Cô nói sao?

2 (叔母) 言う どのよう

貴女はどう言いますか。

Cô thích sách nào?

2 (叔母) 好む 本 どの

貴女はどの本が好きですか？

(富田 2000:137)

8.1.2.2 疑似の疑問文

疑似の疑問文には、確認要求の疑問文と疑いの疑問文とに分けられる。

・確認要求の疑問文とは、話し手には、命題内容の真偽判断、あるいはその命題を構成する情報の一部がかけており、聞き手に問いかけることによって不確定を解消することを意図するものである。確認要求の疑問文の文末に付く **(có) phải/đúng không** の構文、または特定の文末詞で表示される。ただし、形容詞述語文に関しては、文末詞のほうがよく用いられる。

- (456) Bạn là sinh viên, (có) phải/đúng không?
 2 (友達) [コピーラ] 学生 [副詞 (疑問)] 正しい [副詞 (疑問)]
 あなたは学生ですよ？
- (457) Tối hôm qua anh đến chỗ cô ta, (có) phải không?
 夜 昨日 2 (兄) 来る 所 彼女 [副詞 (疑問)] 正しい [副詞 (疑問)]
 昨日はあの女性のところに行ったでしょ？
- (458) Bông hoa này đẹp hơn bông kia
 [類別詞 (本)] 花 この 綺麗な より良い [類別詞 (本)] あの
 nhi?
 [文末詞 (同意の要求)]
 この花のほうがあの花よりきれいですよね？
- (459) Tối qua anh đến chỗ cô ta à?
 夜 昨日 2 (兄) 来る 所 彼女 [文末詞 (確認の要求)]
 昨日はあの女性のところに言ったでしょ？

・疑いの疑問文は、話し手にとって不明な点があることだけを表すものであり、聞き手に問いかける機能を持たず、返答を要求するわけではない。そのため、対話的に用いられることが多い。疑いの疑問文は **phải chăng** の構文または特定の文末詞で表示される。

- (460) Phải chăng anh ta muốn lừa chúng ta?
 正しい [副詞 (疑問)] 彼 欲しい 騙す 我々
 彼は我々を騙すつもりではないのかな？
- (461) A: Hôm qua anh ấy nói chán làm việc ở công ty
 昨日 彼 言う 飽きる する 仕事 [関係詞 (で)] 会社
 là có ý gì?
 [コピーラ] ある 意 何
 B: Có thể là muốn tăng lương chăng?
 [副詞 (おそらく)] [コピーラ] 欲しい 上げる 給料 [文末詞 (疑い)]
 A: 彼が昨日会社の仕事を辞めると言ったのはどういう意味ですかね？
 B: もしかしたら給料を上げてほしいという意味ではないのかな？

8.1.3 命令文

聞き手にある行為の実行を要求する機能を持つ行為系の表現の代表として、命令文がある。行為要求の表現はその行為が意志的であり、行為要求文が成り立つために、以下の三つの条件が考えられる。一方、話し手がある動作の非実行を聞き手に要求するのが禁止の命令文である。

(462) 〈命令〉の成立条件

第一条件：

- ・話し手は、相手たる聞き手に対して働きかけ（要求）を行いうる立場・状況にある。
- ・話し手は、相手たる聞き手がある動きを実現することを望んでいる（この話し手の願望は命令文が発せられるためには前提となる）。
- ・話し手にとって相手が実現する事態は都合のよい・望ましい・好ましいものである。

第二条件：

- ・話し手の働きかけ（要求）を遂行する相手が聞き手として存在する。
- ・聞き手は自分の意志でもって、その動きの実現化を計り、その動きを遂行・達成することができる。

第三条件：

- ・命令されている事態は、未だ実現されていない事態である。

(仁田 1991:329-40)

命令文は、上位者が下位者に対してある行為の実行を強制するという機能を持ち、聞き手にその要求を受け入れるかどうかに対する判断の余地を与えないほど強い強制力を持つものである。ベトナム語では、命令文にはイントネーションを伴う主語が対称（二人称）の平叙文を代用する形、その主語を省略した動詞句を使用する形、または特定の副詞や文末詞を用いた形がある。

【主語が対称（二人称）である平叙文の形】

(463) Con quỳ xuống!

2 (子共) 跪く 下

お前、跪け！

(464) Anh ngồi đây!

2 (兄) 座る ここ

あなた、ここに座れ！

【動詞句のみの形】

(465) Ăn cơm!

食べる ご飯

ご飯食べろ！

(466) Nói nhanh!

言う 早い

早く言い出せ！

(467) Đưa tiền cho tôi!

渡す 金 [関係詞 (に)] 1 (私)

金を渡してくれ！

※ただし、名詞句で表示されることもあるが、非常に少ない。

(468) Trật tự!

秩序

秩序！（＝静かにしろ！）

(469) Nước!

水

水！（＝水をくれ！）

【副詞を用いた形】

(470) Hãy nghe lời tôi!

[副詞 (命令)] 聞く 言葉 1 (私)

私の言うことを聞いてください！

(471) Em hãy tiến lên phía trước!

2 (弟／妹) [副詞 (命令)] 進める 方 前

君、前の方に進めてください！

【文末詞を用いた形】

(472) Anh im đi!

2 (兄) 黙る [文末詞 (命令)]

あなた、黙れ！

(473) Về đi!
帰る [文末詞 (命令)]
帰れ!

また、ある行為の実行を聞き手に要求する〈命令〉に対して、その行為を実行しないことを要求するのが〈禁止〉である。禁止の命令文はその意味で否定事態への命令文と呼ぶこともでき、不許可を意味する *không được* の構文や、禁止を意味する動詞の *cấm*、副詞の *đừng*, *chớ* によって表される。なお、前者は肯定の命令文と同様に、主語が対称 (二人称) またはそれを省略した動詞句のいずれの形も見られる。

(474) Con không được khóc!
2 (子供) [副詞 (否定)] [副詞 (できる)] 泣く
お前は泣かなくてはいけない!

(475) Cấm hút thuốc ở đây!
禁じる 吸う タバコ [関係詞 (で)] ここ
ここで喫煙を禁じる。(=ここでタバコを吸うな!)

(476) Đừng làm việc phạm pháp!
[副詞 (禁止)] する 事 違法な
違法なことをしてはいけない!

(477) Chớ nói rồi không giữ lời!
[副詞 (禁止)] 言う [関係詞 (それから)] [副詞 (否定)] 保つ 言
約束したことなのに守らないようなことをしてはいけない!

ちなみに、動詞の *mời* (招く)、*xin* (請う)、*đề nghị* (申し出る)、*yêu cầu* (要求する) などを用いて、丁寧な要請の表現を作ることができる。

(478) Mời anh dùng cơm!
招く 2 (兄) 使う ご飯
ご飯を召し上がってください。

(479) Xin nhớ lời nhau!
請う 覚える 言 互い
お互いの言ったことを覚えてください。

(480) Đè nghị anh không vào trong này!
申し出る 2 (兄) [副詞 (否定)] 入る 中 この
この中に入らないでください。

(481) Yêu cầu chị xuất trình hộ chiếu!
要求する 2 (姉) 提示する パスポート
パスポートを提示してください。

8.1.4 感嘆文

感嘆文は、話し手と聞き手との情報のやりとりに関わる情報系と聞き手に対する行為を実行する要求に関わる行為系の表現と異なり、何らかの誘因によって引き起こされる話し手の感動（喜び・怒り・恐れ・驚き・意外など）を表す表現である。感嘆文は、特定の聞き手を持たないという非対話的な特徴がある。感嘆文は狭義では、その特有の言語形式や統語特徴を備えた文を指す。ただし、あらゆる発話には多少ある種の感動が含まれているため、広義では、強い感嘆や感動を表出された平常文や疑問文または命令文も感嘆文になりうる。ここでは狭義の感嘆文を扱うこととする。ベトナム語における感嘆文には以下の形式があると考えられる。

【感動詞で表示される形】

(482) Ô! Sao Hoa lại nói thế?
[感動詞 (驚き)] なぜ [人名] [副詞 (また)] 言う そのよう
あれ? なぜまたホアちゃんがそう言うの?

(483) Ô! Hôm nay em đẹp quá!
[感動詞 (驚き)] 今日 2 (弟/妹) 綺麗な [副詞 (過ぎる)]
おや! 今日お前はなんてきれいなんだろう。

(484) Ôi trời ơi! Mất hết
[感動詞 (驚き)] 天 [感動詞 (呼びかけ)] 無くなる [副詞 (尽きる)]
rồi!
[副詞 (完了)]
神様よ (=なんてこった) ! 全部無くなった!

【文末詞で表示される形】

(485) Cuộc đời vẫn đẹp sao!
人生 [副詞 (まだ)] 綺麗な [文末詞 (感嘆)]
人生はまだまだきれいだわ。

- (486) Kỳ lạ thay! Chẳng biết tại sao lúc bé mình
 不思議な [文末詞 (感嘆)] [副詞 (否定)] 知る なぜ 頃 小さい 自分
 luôn thích sờ vào những vật ở trên cao.
 [副詞 (いつも)] 好む 障る [関係詞 (に)] [名詞 (複数)] 物 居る 上 高い
 不思議なことに、私は小さい頃、高い所にある物に触るのが好きだったものだ。

8.2 文の表現類型と文末詞

次に、これらの表現類型との関係に反映された文末詞の統語的特徴を見ていきたい。以下に、文の表現類型を表示する文末詞と文の表現類型と共起する文末詞とに分類することとする。文の表現類型を表示する文末詞は、それが命題に付加されることによって、疑問文または命令文を作るものである。すなわち、その文末詞は、それが付加されることによって作られた疑問文の〈疑問〉の標識、または、命令文の〈命令〉の標識である。一方、表現類型と共起する文末詞は、文の表現類型である平叙文・疑問文・命令文の文末に表れ、〈疑問〉と〈命令〉以外のモダリティを表すものである。

8.2.1 文の表現類型を表示する文末詞

・疑問文を表示するもの

【否定疑問文を表示する à, á, ạ, ư, hả, sao, chắc, chứ, nhé, nhi】

- (487) Bạn không phải là sinh viên

2 (友達) [副詞 (否定)] 正しい [コピュラ] 学生

à/á/ạ/ư/hả/sao?

[文末詞 (確認・驚き・丁寧・不快・驚き・驚き)]

あなたは学生ではありませんか？

- (488) {祖母が孫に聞く}

Ông chưa về à/á/ạ/ư/hả/sao?

祖父 [副詞 (否定)] 帰る [文末詞 (確認・驚き・丁寧・不快・驚き・驚き)]

お祖父ちゃん、まだ帰ってきていないの？

- (489) Anh ta không đẹp trai như trong ảnh

彼 [副詞 (否定)] ハンサム [関係詞 (如く)] 中 写真

à/á/ạ/ư/hả/sao?

[文末詞 (確認・驚き・丁寧・不快・驚き・驚き)]

彼は写真ほどハンサムではなかったのですか。

(490) Thế anh không có lỗi chắc?
[関係詞 (それでは)] 2 (兄) [副詞 (否定)] ある 誤り [文末詞 (非難)]
じゃ、あなたは悪くなかったというの？

(491) Cô ấy không từ chối chứ?
彼女 [副詞 (否定)] 断る [文末詞 (確認)]
彼女は断らなかったのですか。

(492) Vậy không đi nữa nhé/nhì?
[関係詞 (それでは)][副詞 (否定)] 行く [副詞 (もう)][文末詞 (確認)]
それでは、もう行かないのですね？

【確認要求の疑問文を表示する à, á, ạ, ư, hả, sao, chắc, chứ, nhé, nhì】

(493) A: Anh Sơn mất rồi.
兄 [人名] 亡くなる [副詞 (完了)]
B: Anh cũng biết chuyện này à/á/ạ/ư/sao?
兄 [副詞 (も)] 知る 話 この [文末詞 (確認要求)]
A : ソンさんが亡くなったんだ。
B : この話、(あなたも) 知っていますか。

(494) Con: Bố đi làm rồi hả mẹ?
父 行く する [副詞 (完了)][文末詞 (確認要求)] 2 (母)
子 : 父ちゃんは仕事に行ったの、お母さん？

(495) Anh tưởng tôi muốn làm như vậy chắc?
2 (兄) 想う 1 (私) 欲しい する [関係詞 (如く)] そう [文末詞 (確認要求)]
あなたは私がそのようにしたいと思っているの？

(496) Kế hoạch vẫn thực hiện như dự kiến chứ?
計画 [副詞 (まだ)] 実施する [関係詞 (如く)] 予定 [文末詞 (確認要求)]
計画は予定通りに実施しますかね？

(497) Con: Con ăn cơm trước nhé?
1 (子供) 食べる ご飯 前 [文末詞 (確認要求)]
子 : 先にご飯を食べるね。

- (497) Chỗ này vào được, đúng không nhỉ?
 所 この 入る 良い 正しい [副詞 (疑問)] [文末詞 (確認要求)]
 この場所は入ってもいいよね?

【疑いの疑問文を表示する chẳng】

- (461) A: Hôm qua anh ấy nói chán làm việc ở công ty
 昨日 彼 言う 飽きる する 仕事 [関係詞 (で)] 会社
 là có ý gì?
 [コピュラ] ある 意 何
 B: Có thể là muốn tăng lương chẳng?
 [副詞 (おそらく)] [コピュラ] 欲しい 上げる 給料 [文末詞 (疑い)]
 A: 彼が昨日会社の仕事を辞めると言ったのはどういう意味ですかね?
 B: もしかしたら給料を上げてほしいという意味ではないのかな?

【命令文を表示する đi】

- (472) Anh im đi!
 2 (兄) 黙る [文末詞 (命令)]
 あなた、黙れ!

【感嘆文を表示する sao, thay】

- (485) Cuộc đời vẫn đẹp sao!
 人生 [副詞 (まだ)] 綺麗な [文末詞 (感嘆)]
 人生はまだまだきれいだわ。

- (486) Kỳ lạ thay! Chẳng biết tại sao lúc bé mình
 不思議 [文末詞 (感嘆)] [副詞 (否定)] 知る なぜ 頃 小さい 自分
 luôn thích sờ vào những vật ở trên cao.
 [副詞 (いつも)] 好む 障る [関係詞 (に)] [名詞 (複数)] 物 居る 上 高い
 不思議なことに、私は小さい頃、高い所にある物に触るのが好きだったものだ。

8.2.2 文の表現類型と共起する文末詞

・平叙文と共起するもの

【肯定の平叙文と共起する a, ấy(y), chứ, đã, đâu, đây, đây, đi, kia(cơ), kia, mà, màt, nào, này, nhé, nhi, thế, thôi, vậy, với】

- (498) Ông: cháu hiểu chưa?
 2 (孫) 分かる [副詞 (疑問)]

Cháu: Cháu hiểu rồi ạ.

1 (孫) 分かる [副詞 (完了)] [文末詞 (丁寧)]

祖父：もうわかったのかい？

孫：わかりました。

(418) Đạo này tính tình cô ta làm sao ấy(ý).

最近 性格 彼女 どのよう [文末詞 (疑い)]

最近、彼女はなぜか機嫌が悪そうだね。

(499) A: Tối nay có đi xem pháo hoa không?

今夜 [副詞 (疑問)] 行く 見る 花見 [副詞 (疑問)]

B: Có chứ! Đi chứ!

[副詞 (肯定)] [文末詞 (確信)] 行く [文末詞 (確信)]

A: 今夜の花見には行く？

B: はいよ。行くよ。

(500) Chồng: Em không đi nấu cơm à?

2 (弟/妹) [副詞 (否定)] 行く 炊く ご飯 [文末詞 (確認)]

Vợ: Em xem xong bộ phim này đã.

1 (弟/妹) 見る 終わる [類別詞 (部)] 映画 この [文末詞 (完了)]

夫：ご飯作って！

妻：この映画を見てからね。

(501) A: Bác cần gì?

2 (叔父) 要る 何

B: Tôi có cần gì đâu.

1 (私) [副詞 (肯定)] 要る 何 [文末詞 (完全否定)]

A: おじさん、何ほしいの？

B: 何もほしくないんだよ。

(502) Tôi đi đây.

1 (私) 行く [文末詞 (動作の始まり)]

今から行きます。

(503) Chị nhầm rồi đấy!

2 (姉) 間違える [副詞 (完了)] [文末詞 (情報提示)]

勘違いでしたよ。

(504) Thằng đó thật bản thiu! Ghét quá đi!
あいつ [副詞 (本当に)] 汚らわしい 嫌う[副詞 (過ぎる)] [文末詞 (極度)]
あいつは本当に卑怯なやつだ。すごく嫌いわ!

(505) Tôi cần anh đi ngay hôm nay kia(cơ).
1 (私) 要る 2 (兄) 行く[副詞 (すぐに)] 今日 [文末詞 (情報提示)]
今日すぐに行ってほしいんだ。

(360) Đằng kia có con chó kia!
あそこ いる [類別詞 (匹)] 犬 [文末詞 (注意喚起)]
あそこに犬がいるよ。

(506) Em cũng muốn đi mà!
1 (弟/妹) [副詞 (も)] 欲しい 行く [文末詞 (反駁)]
あたしも行きたいのに!

(507) Nhanh lên không muộn mất.
速い 上がる [副詞 (疑問)] 遅れる [文末詞 (残念)]
もっと急がないと遅れちゃうよ。

(508) Để tôi thử xem nào.
[副詞 (使役)] 1 (私) 試す みる [文末詞 (意志表明)]
僕にさせてみよう! (=僕がしてみよう!)

(327) {スーパーで果物を選ぶ}
Quả này to hơn này.
果物 この 大きい より良い [文末詞 (注意喚起)]
こっちのほうが大きいよ、ほら!

(509) Đã hứa thì phải giữ lời
[副詞 (過去)] 約束する [関係詞 (なら)] [動詞 (べき)] 守る 言葉
nhé!
[文末詞 (軽い注意)]
約束するからには守らないといけないよ!

- (510) Ra ngoài chơi tí nhi!
 出る 外 遊ぶ 少し [文末詞 (意志の肯定)]
 少し遊びに外に出ようっと!
- (511) Chị hát hay thê!
 2 (姉) 歌う 良い [文末詞 (驚き)]
 わ～、歌が上手ですね～。
- (512) Anh ấy mới đến Nhật hôm qua thôi.
 彼 [副詞 (ばかり)] 来る 日本 昨日 [文末詞 (限度)]
 彼は昨日日本に来たばかりなんだ。
- (513) Bố: Hôm nay mẹ không nấu cơm, bố con mình ăn mì tôm vậy!
 今日 母 [副詞 (否定)] 炊く ご飯 父 子供 自分 食べる
 インスタントラーメン [文末詞 (不本意)]
 父: 今日はお母さんがご飯を作ってくれないから、俺らはインスタントラーメンを食べるしかないんだ。
- (514) Em làm vói!
 1 (弟/妹) する [文末詞 (懇願)]
 あたしにもさせて!
- 【否定の平叙文 a, ấy(y), đâu, đấy, kia, mà, nhé, nhỉ, thôi, vậy】
- (515) A: Cháu là con mẹ Minh à?
 2 (孫) [コピュラ] 子供 母 [人名][文末詞 (疑問)]
 B: Không a.
 [副詞 (否定)] [文末詞 (丁寧)]
 A: 君はミンさんの子供なの?
 B: いいえです。
- (414) Thảo: Thủy ơi cho chị vay ít tiền.
 [人名][感動詞 (呼びかけ)][関係詞 (に)] 2 (姉) 借りる 少ない 金
 Thủy: Em 10 nghìn cũng không có ấy(y).
 1 (弟/妹) 千 [副詞 (も)] [副詞 (否定)] ある [文末詞 (情報提示)]
 タオ: トゥイさん、少しお金を貸して。
 トゥイ: 私は1万ドンでも持っていないわよ。

(516) Các anh chưa về được đâu.
[名詞(複数) 2(兄) [副詞(否定)] 帰る [副詞(できる)] [文末詞(完全否定)]
あなたたちはまだ帰れないよ。(あなたたちは帰れるわけないよ)

(383) Sau khi cãi nhau nó không nói chuyện với
後 時 喧嘩する あいつ [副詞(否定)] 話す [関係詞(と)]
tôi nữa đây.
1(私) [副詞(継続)] [文末詞(情報提示)]
喧嘩して以来、あいつは私と話していないよ。

(364) {遠くにある場所を指して}
Chỗ kia không có ai kia!
所 あの [副詞(否定)] いる 誰 [文末詞(注意喚起)] (ア)
あそこは誰もいないよ、ほら!

(517) Em không nói dối mà!
2(弟/妹) [副詞(否定)] 言う 嘘 [文末詞(反駁)]
私は嘘をついていないよ。

(518) A: Hiền có đi ăn tối với bọn mình không?
[人名][副詞(疑問)] 行く 食べる 晩ご飯 [関係詞(と)] 我々 [副詞(疑問)]
B: Hiền không đi (đâu) nhé!
[人名][副詞(否定)] 行く [文末詞(完全否定)] [文末詞(親密)]
A: ヒエンさんは僕らと一緒に晩ご飯を食べに行く?
B: いや、ヒエンさんは行かないね。

(519) A: Món này không ngon lắm
[類別詞(料理)] この [副詞(否定)] 美味しい [副詞(あまり)]
nhi.
[文末詞(軽い断定)]
B (ăn thử): Đúng là không ngon thật!
正しい [コピュラ] [副詞(否定)] 美味しい [文末詞(程度の強調)]
A: この料理はあまり美味しくないね。
B (試食して): 本当だ、美味しくないね。

- (520) A: Sao cô ấy xinh thế mà chưa
 なぜ 彼女 可愛い そのよう [関係詞 (のに)] [副詞 (否定)]
 có người yêu?
 いる 恋人
 B: Chỉ là cô ấy không muốn thôi.
 [副詞 (だけ)] [コピュラ] 彼女 [副詞 (否定)] 欲しい [副詞 (限定)]
 A: 彼女は可愛いのになぜまだ恋人がいないのでしょうか？
 B: 欲しくないだけじゃないの？

- (521) Thôi không đi du lịch nữa vậy.
 止まる [副詞 (否定)] 行く 旅行 [副詞 (もう)] [文末詞 (不本意)]
 Tiết kiệm tiền mua ô tô.
 節約する 金 買う 車
 もう旅行に行くのをやめよう。お金を節約して、車を買おう。

・疑問文と共起するもの

【真偽疑問文と共起する a, đây, hả, nhỉ, nào】

- (522) Chị có phải là chị Thủy không
 2 (姉) [副詞 (疑問)] 正しい [コピュラ] 姉 [人名] [副詞 (疑問)]
 a/đây/hả/nhỉ?
 [文末詞 (丁寧・情報共有の志向・疑問 (目下の人に)・同意の要求)]
 あなたはトゥイさんか？／ですか？／ですね？

- (523) Thế có đi không
 [関係詞 (それでは)] [副詞 (疑問)] 行く [副詞 (疑問)]
 nào?
 [文末詞 (意志表明の要求)]
 じゃ、いったい行くというの？

【選択疑問文と共起する a, đây, đây, hả, nào, nhỉ, chứ】

- (524) Vậy chị đồng ý hay phản đối
 [関係詞 (それでは)] 2 (姉) 同意する [関係詞 (それか)] 反対する
 a/đây/đây/hả/nào/nhỉ?
 [文末詞 (丁寧・即答の要求・情報共有の志向・疑問 (目下の人に)・意志表明の要求・同意の要求)]
 それじゃ、あなたは反対するというのか？／ですか？／ですね？

- (525) Anh bảo tôi đi hay ở mới
 2 (兄) 教える 1 (私) 行く [関係詞 (それか)] 居る [関係詞 (なら)]
 được chứ?
 良い [文末詞 (確認の要求)]
 あなたはいったい私に行ってほしいか残ってほしいかかどっちだというのよ?

【補充疑問文と共に起する ạ, chứ, đây, đây, kia(cơ), hả, nào, nhỉ, thế, vậy】

- (526) Con: Mẹ bảo con làm gì ạ/chứ/đây?
 2 (母) 教える 1 (子共) する 何 [文末詞 (丁寧・確認の要求・即答の要求)]
 子：お母さん、あたしに何をしてほしいというの？/ですか？

- (527) Bác là ai đấy?
 2 (叔父) [コピュラ] 誰 [文末詞 (情報共有の要求)]
 叔父さんは誰ですか？

- (528) Chị bảo sao kia(cơ)?
 2 (姉) 教える どのよう [文末詞 (情報補充の要求)]
 お姉さん、どういうことなの？

- (529) Mà nói cái gì hả?
 2 (君) 言う 何 [文末詞 (驚き)]
 君、何言っているんだ。

- (530) Anh ấy quyết hết rồi. Ai nói gì được
 彼 決める 全て [副詞 (完了)] 誰 言う 何 [副詞 (できる)]
 nữa nào?
 [副詞 (もう)] [文末詞 (意志表明の要求)]
 彼が全部決めた。誰も何も言えなくなったではないの？

- (531) Tại sao nhỉ?
 なぜ [文末詞 (親密)]
 なぜですかね？

- (532) Mẹ về khi nào thế?
 2 (母) 帰る いつ [文末詞 (具体的な説明の要求)]
 お母さん、いつ帰ってきたの？

- (533) A: Quà của em đây.
 プレゼント [関係詞 (の)] 2 (弟/妹) [文末詞 (注意喚起)]]
 B: Đẹp thế! Anh mua ở đâu
 綺麗な [文末詞 (驚き)] 2 (兄) 買う [関係詞 (に)] どこ
 vậy?
 [文末詞 (具体的な説明の要求)]]
 A: はい、君のプレゼント！ほら！
 B: わ～、綺麗！どこで買ったの？

【確認要求の疑問文と共起する a, đây, hả, nào, nhỉ】

- (534) Giám đốc muốn nói chuyện với em, phải
 2 (社長) 欲しい 言う 話 [関係詞 (と)] 1 (弟/妹) 正しい
 không a?
 [副詞 (疑問)] [文末詞 (丁寧)]]
 社長、私に話があるのでしょうか？
- (535) Có đúng chị là mẹ của cháu An
 [副詞 (疑問)] 正しい 2 (姉) [コピュラ] 母 [関係詞 (の)] 孫 [人名]
 không đây?
 [副詞 (疑問)] [文末詞 (情報提示の要求)]]
 あなたが本当にアンちゃんのお母さんですか？
- (536) Anh ấy cũng biết, đúng không hả chị?
 彼 [副詞 (も)] 知る 正しい [副詞 (疑問)] [文末詞 (疑問 (親密))] 2 (姉)
 彼も知っているよね、お姉さん？
- (537) Là cha mẹ thì phải cố gắng vì
 [コピュラ] 父母 [関係詞 (なら)] [動詞 (べき)] 頑張る [関係詞 (ために)]]
 hạnh phúc của con cái. Có phải vậy không
 幸福 [関係詞 (の)] 子供 [副詞 (疑問)] 正しい そのよう [副詞 (疑問)]]
 nào/nhỉ?
 [文末詞 (意志表明の要求・同意の要求)]]
 親である以上、子供の幸せのために頑張らなければならない。それが正しいで
 しょう？

・命令文と共起するもの

【平叙文・動詞句と共起する chú, đây, đây, nào, này, nhé, vói】

(538) Anh nói nhỏ chú! Con thức giấc bây giờ!

2 (兄) 言う 小さい [文末詞 (当然)] 子供 目覚める 今
あなた、声を小さくして！子供が目を覚ましちゃうよ！

(314) Hiền: ...hay là chính ông đã bắt cóc

[関係詞 (それか)] [助詞 (こそ)] 2 (祖父) [副詞 (過去)] 拉致する

con tôi?

子共 1 (私)

Toại: Này này...

[感動詞 (注意喚起)] [感動詞 (注意喚起)]

Hiền: Đúng rồi, trả con tôi đây!

正しい [文末詞 (完了)] 返す 子共 1 (私) [文末詞 (即時命令)]

ヒェン：もしかして、あなたが我が子を拉致したの？

トアイ：おいおい...

ヒェン：やっぱり！今すぐ我が子を返しなさい！

(Đinh V.Đ. 1996:150)

(398) Đã hứa thì phải giữ lời

[副詞 (過去)] 約束する [関係詞 (なら)] [動詞 (べき)] 守る 言葉
đấy!

[文末詞 (注意)]

約束するからには守らないといけないよ！

(539) Đứng lên xem nào!

立つ 上がる 見る [文末詞 (意志表明)]

立ってみろよ。

(329) Vợ: Anh xem này!

2 (兄) 見る [文末詞 (注意喚起)]

妻：あなた、見てよ。

(540) Ông đến ngay nhé!

2 (祖父) 来る [副詞 (すぐに)] [文末詞 (軽い命令)]

お祖父さん、すぐ来てね！

- (541) Đợi em vói!
 待つ 2 (弟/妹) [文末詞 (懇願)]
 待ってくださいよ！

【副詞 hãy を用いた命令文と共起する đã, nào, vói】

- (542) Hãy bỏ súng xuống đã!
 [副詞 (命令)] 止める 銃 下 [文末詞 (完了)]
 とりあえず、銃をおろせ！

- (543) Hãy vui lên nào!
 [副詞 (命令)] 喜ぶ 上がる [文末詞 (意志表明)]
 さあ、楽しくしましょう！

- (544) Hãy giúp tôi vói!
 [副詞 (命令)] 手伝う 1 (私) [文末詞 (懇願)]
 私を手伝ってください！

【文末詞 đi を用いた命令文と共起する chứ, kia, thôi】

- (545) Ăn đi chứ!
 食べる [文末詞 (命令)] [文末詞 (当然)]
 食べるんだよ／とりあえず、食べろよ！

- (546) {家に訪ねてき恩師を見て}

Mẹ (nói với con): Con ra chào thầy đi
 2 (子供) 出る 挨拶する 先生 [文末詞 (命令)]
 kia! Lững thững ở đấy làm gì!
 [文末詞 (催促)] ぐずぐずする [関係詞 (に)] そこ する 何
 母 (子供に言う) : あんた、先生に挨拶に行きなさいよ。そこでぐずぐずして
 どうする？

- (547) Về đi thôi!
 帰る [文末詞 (命令)] [文末詞 (限度)]
 帰りなさいよ！

【禁止の命令文と共起する *chứ, đâu, đây, nào, nhé*】

(548) *Con không được ăn nói thế*
 2 (子供) [副詞 (否定)] [副詞 (できる)] 食べる 言う そのよう
chứ/đâu!
 [文末詞 (当然・完全否定)]
 お前、そんな言い方をしちゃだめだよ！

(402) *Cấm nhìn đây!*
 禁じる 見る [文末詞 (注意)]
 見ちゃだめだよ！

(549) *Đừng nói linh tinh nữa nào*
 [副詞 (禁止)] 言う でたらめ [副詞 (もう)] [文末詞 (軽い注意)]
 もうでたらめなことを言うな！

(550) *Đừng về muộn nhé!*
 [副詞 (禁止)] 帰る 遅い [文末詞 (軽い命令)]
 遅く帰らないでね！

情報系	平叙文	肯定文		共起	<i>a, ấy(y), chứ, đã, đâu, đây, đấy, đi, kia(cơ), kia, mà, mắt, nào, này, nhé, nhi, thế, thôi, vậy, với</i>
		否定文		共起	<i>a, ấy(y), đâu, đây, kia, mà, nhé, nhi, thôi, vậy</i>
	疑問文	一般疑問文	真偽疑問文	共起 (肯定疑問文)	<i>a, đây, hà, nhi, nào</i>
				表示 (否定疑問文)	<i>à, á, a, u, hà, sao, chắc, chứ, nhé, nhi</i>
			選択疑問文	共起	<i>a, đây, đây, hà, nào, nhi, chứ</i>
		補充疑問文	共起	<i>a, chứ, đây, đây, kia(cơ), hà, nào, nhi, thế, vậy</i>	
		疑似疑問文	確認要求	表示	<i>à, á, a, u, sao, hà, chắc, chứ, nhé, nhi</i>
				共起	<i>a, đây, hà, nào, nhi</i>
			疑い	表示	<i>chăng</i>
	行為系	命令文	命令文		表示
			共起	<i>đã, chứ, đây, đây, kia, nào, này, nhé, thôi, với</i>	
禁止の命令文			共起	<i>chứ, đâu, đây, nào, nhé</i>	
その他	感嘆文		表示	<i>sao, thay</i>	

(表 27) 文の表現類型から見たベトナム語の文末詞の機能⁶¹

⁶¹ ベトナム語の文末詞には二つの文末詞からなる複合形も存在しているが、本論文の考察の対象外とする。

ベトナム語の品詞体系

- 名詞** 事物を指示する、または概念を表す。固有名詞、物質名詞、時間名詞、位置・方向名詞、地位・職業名詞、親族名詞、事物名詞、動・植物名詞、概念化名詞、集合名詞がある。
- 動詞** 事物の行為及び状態を表す。感情動詞、状態動詞、意志・能力・願望動詞、方向・移動動詞、使役・命令・作用動詞、授与・受納動詞、知覚動詞、受動動詞、変化動詞、結果動詞、一般動詞がある。
- 形容詞** 事物の性質・様態を表す。孤立語のベトナム語においては、形容詞の機能は動詞とほとんど同じである。状態形容詞、性格形容詞、数量形容詞がある。
- 数詞** 数・量を示す。
- 代詞** 名詞・名詞句または動詞・動詞句、さらには、句・節（命題）全体の代わりとなるものを全て含む。指示詞と人称詞がある。
- 副詞** 語彙的意味を持たず、動詞や形容詞に、ある文法的意味を賦与する働きをする。同一性・継続性副詞、時制副詞、否定・疑問副詞、命令副詞、程度副詞、比較副詞、強意副詞、限定副詞、増進副詞、時間副詞、終了・完了副詞がある。
- 関係詞** 句あるいは節の中における各要素の間の文法的関係、または文と文の関係を表す。繫詞（コピュラ）は関係詞の一種とされている。
- 助詞** 付随している句を取り立てる。句の冒頭に置かれるものと句末に置かれるものがある。後者は文末詞とも呼ばれる。
- 感動詞** 話し手の感動・呼びかけを表す。文頭や文中に現れる。なお、感嘆して発する語も感動詞の一種とする。

(Nguyễn T.C. (1975) 及び富田 (2000) による)

参考文献

- Austin, J.L. (1962) *How to do things with words*. Harvard University Presses.
- Bally, Charles (1965) *Linguistique générale et linguistique française* (Quatrième édition revue et corrigée). Francke.
- Brown, Gillian, & Yule, George (1983) *Discourse analysis*. Cambridge University Press.
- Bùi, Đức Tịnh (1953) *Văn phạm Việt Nam* [ベトナムの文法]. Nhà xuất bản Phạm Văn Tươi.
- Bui, Linh Thuy (2014) *Vietnamese demonstratives: A spatially-based polysemy network*.
Doctoral dissertation, The University of Queensland.
- Cao, Xuân Hạo (1991) *Tiếng Việt - Sơ thảo ngữ pháp chức năng tiếng Việt* [ベトナム語：機能文法概説]. Nhà xuất bản Khoa học Xã hội.
- Đào, Thân (1979) Về nhóm từ có ý nghĩa thời gian trong tiếng Việt [ベトナム語における時間表現について]. *Ngôn ngữ 1*, 40-5.
- Diessel, Holger (2006) Demonstratives, joint attention, and the emergence of grammar. *Cognitive Linguistics 17*, 463-89.
- Đinh, Văn Đức (1986) *Ngữ pháp tiếng Việt: Từ loại* [ベトナム語文法：品詞]. Nhà xuất bản Đại học và Trung học Chuyên nghiệp.
- Emeneau, Murray B. (1951) *Studies in Vietnamese (Annamese) Grammar*. University of California Press.
- Fauconnier, Gilles (1985) *Mental Spaces*. MIT Press.
- Fillmore, Charles (1968) The case for case. In Bach, E., Harms, R, T. (eds) *Universals in Linguistic Theory*, 1-88.
- G.E.ヒューズ, M.J.クレスウエル (1981) 『様相論理入門』 三浦聡訳 恒星社厚生閣.
- Givón, Talmy (1995) *Functionalism and Grammar*. John Benjamins.
- Hoàng, Phê (1989) đầu, đây, đây [đầu, đây, đây をめぐって]. *Ngôn ngữ 3*, 7.
- Hoàng, Trọng Phiến (2008) *Từ điển giải thích hư từ Tiếng Việt* [越語虚詞解析詞典]. Nhà xuất bản Tri Thức.
- Hoji, Hajime, Satoshi Kinsui, Yukinori Takubo, and Ayumi Ueyama (2003) The Demonstratives in modern Japanese. Yen-hui Audrey Li and Andrew Simpson (eds.) *Functional Structure(s) Form and Interpretation: Perspectives from East Asian Languages*, 97-128.
- Jespersen, Otto (1992) *The Philosophy of Grammar*. University of Chicago Press.
- Kamio, Akio (1994) The theory of territory of information: The case of Japanese. *Journal of Pragmatics 21*(1), 67-100.
- Kiefer, Ferenc (1987) On defining modality. *Folia Linguistica 21*(1), 67-94.
- Langacker, Ronald W. (2003) Extreme subjectification, English tense and modals. In Cuyckens, Hubert et al. (eds) *Motivation in Language*, 3-26.
- Lê, Đông & Nguyễn Văn Hiệp (2003a) Khái niệm tình thái trong Ngôn ngữ học [言語学におけ

- るモダリティの定義について]. *Ngôn ngữ* 7, 17-26.
- Lê, Đông & Nguyễn Văn Hiệp (2003b) Khái niệm tình thái trong Ngôn ngữ học (tiếp) [言語学におけるモダリティの定義について (続き)]. *Ngôn ngữ* 8, 56-63.
- Lê, Thị Minh Hằng (2010) thể/vậy dưới góc độ thực hành tiếng [thể/vậy について—ベトナム語教育の視点から—]. *Ngôn ngữ số* 1, 68-79.
- Lê, Văn Lý (1948) *Le parler vietnamien (essai d'une grammaire vietnamienne)*. Hương Anh.
- Lyons, John (1968) *Introduction to Theoretical Linguistics*. Cambridge University Press.
- Lyons, John (1977) *Semantics I* (2), Cambridge University Press.
- Maynard, Senko K. (1993) *Discourse Modality: Subjectivity, emotion and voice in the Japanese Language*. John Benjamins.
- Narrog, Heiko (2002) 「意味的カテゴリーとしてのモダリティ」大堀壽夫 (編) 『認知言語学 2 : カテゴリー化』 東京大学出版会, 217-51.
- Narrog, Heiko (2005) On defining modality again. *Language Sciences* 27(2), 165-192.
- Narrog, Heiko (2009) *Modality in Japanese: The Layered Structure of the Clause and Hierarchies of Functional Categories*. John Benjamins.
- Narrog, Heiko (2012) *Modality, Subjectivity, and Semantics Change: A Cross-Linguistic Perspective*. John Benjamins.
- Nguyễn, Anh Quế (1988) *Hư từ trong tiếng Việt hiện đại* [現代ベトナム語の虚詞]. Nhà xuất bản Khoa học Xã hội.
- Nguyễn, Đình Hòa (1997) *Vietnamese – Tiếng Việt không son phấn* [かざりのないベトナム語]. John Benjamins.
- Nguyễn, Đức Dân (2009) Tri nhận thời gian trong tiếng Việt [ベトナム語における時間認知をめぐって]. *Ngôn ngữ* 12 (247), 1-14.
- Nguyễn, Hữu Quỳnh (2001) *Ngữ pháp tiếng Việt* [ベトナム語文法]. Nhà xuất bản Từ điển bách khoa.
- Nguyễn, Kim Thán (1963) *Nghiên cứu về ngữ pháp tiếng Việt* [ベトナム文法研究]. Nhà xuất bản Khoa học xã hội.
- Nguyễn, Kim Thán (1996) *Cơ sở ngữ pháp tiếng Việt* [基礎ベトナム語文法]. Nhà xuất bản Khoa học xã hội.
- Nguyễn, Phú Phong (2002) *Những vấn đề ngữ pháp tiếng Việt-Loại từ và chỉ thị từ* [ベトナム語文法の諸問題—類別詞と指示詞]. Nhà xuất bản Đại học Quốc gia Hà Nội.
- Nguyễn, Tài Cẩn (1975) *Ngữ pháp tiếng Việt: Tiếng-Từ ghép-Đoạn ngữ* [ベトナム語文法 : 語・複合語・句構造]. Nhà xuất bản Đại học và Trung học Chuyên nghiệp.
- Nguyen, Thi Ha Thuy (2014) 「ベトナム語指示詞について—日本語・韓国語の指示詞との対照を基に—」『京都大学言語学研究』 33, 167-95.
- Nguyen, Thi Ha Thuy (2015) 「ベトナム語における様態・性質の指示詞—現場指示・非現

- 場指示をめぐって」『京都大学言語学研究』34, 41-68.
- Nguyễn, Thị Lương (1996) *Tiểu từ tình thái dứt câu dùng để hỏi với việc biểu thị các hành động ngôn từ trong tiếng Việt* [ベトナム語における文末小辞と発話行為]. Luận án tiến sĩ, Đại học sư phạm Hà Nội.
- Nguyễn, Văn Hiệp (2001) Hướng đến một cách miêu tả và phân loại tiểu từ tình thái cuối câu tiếng Việt [ベトナム語における文末小辞の分類と意味解釈へ]. *Ngôn ngữ* 5, 54-63.
- Nguyễn, Văn Hiệp (2007) Một số phạm trù tình thái chủ yếu trong ngôn ngữ [言語におけるモダリティの定義について]. *Ngôn ngữ* 8, 14-28.
- Nguyễn, Văn Hiệp (2012) *Cơ sở ngữ nghĩa phân tích cú pháp* [統語分析のための意味論入門]. Nhà xuất bản Giáo dục Việt Nam.
- Oertel, Hanns (1901) *Lectures on the Study of Language*. Edward Arnold.
- Palmer, F. R. (1999) *Mood and Modality* 2nd edition. Cambridge University Press.
- Palmer, F. R. (1999) Mood and Modality: further developments. In Brown, Keith, Jim, Miller (eds.) *Concise Encyclopedia of Grammatical Categories*, 235-9.
- Phạm, Hùng Việt (1994) Vấn đề tình thái với việc xem xét chức năng ngữ nghĩa của trợ từ tiếng Việt [モダリティとベトナム語における助詞の意味・機能について]. *Ngôn ngữ* 2, 48-53.
- Phạm, Hùng Việt (2003) *Trợ từ trong tiếng Việt hiện đại* [現代ベトナム語における助詞について]. Nhà xuất bản Khoa học Xã hội.
- Thompson, Laurence C. (1987) *A Vietnamese Reference Grammar*. University of Hawaii Press.
- Tomasello, Michael (1999) *The cultural origins of human cognition*. Harvard University Press.
- Trần, Ngọc Thêm (1985) *Hệ thống liên kết văn bản tiếng Việt* [ベトナム語のテキストにおける結束性をめぐって]. Nhà xuất bản Khoa học xã hội.
- Trần, Trọng Kim (1940) *Việt Nam văn phạm* [ベトナムの文法]. Nhà xuất bản Sài Gòn.
- Ueyama, Ayumi (1998) *Two Types of Dependency*. PhD dissertation, University of Southern California.
- Yoshimoto, Kei (1986) On Demonstratives KO/SO/A in Japanese. 『言語研究』90, 48-72.
- 安達太郎 (1999) 『日本語疑問文における判断の諸相』くろしお出版.
- 安達真弓 (2008) 「ベトナム語指示詞 *đây, đó, kia* の直示用法と照応用法—日本語指示詞との対照を基に—」『東京大学言語学論集』27, 207-216.
- 安達真弓 (2009) 「ベトナム語指示詞の直示用法における聞き手の位置と記憶指示用法の *kia* について」『東京大学言語学論集』28, 1-11.
- 安達真弓 (2016) 「ベトナム語における指示詞と指示詞に由来する文末詞・感動詞」博士論文 東京大学.
- 阿部宏 (2000) 「空間から時間へ：さき、あと、まえ」『言語と文化』15, 191-204.
- 飯田隆 (2014) 「論理学におけるモダリティ」澤田治美 (編) 『ひつじ意味論講座 モダ

- リティ I』ひつじ書房.
- 庵功雄 (1995) 「テキストの意味の付与について—文脈指示における「この」と「その」の使い分けを中心に—」『日本学報』14, 179-93.
- 上山あゆみ (2000) 「日本語から見える「文法」の姿」『日本語学』19(5) 明治書院, 169-181.
- 梅田博之 (1982) 「朝鮮語の指示詞」『講座日本語学 12』明治書店.
- 岡崎友子 (2004) 「「コソアで指示する」ということ—直示 (ダイクシス) についての覚書」『語文』第 83 輯, 59-70.
- 岡崎友子 (2010) 『日本語指示詞の歴史的研究』ひつじ書房.
- 金子亨 (1995) 『言語の時間表現』ひつじ書房.
- 木村英樹 (1983) 「「こんな」と「この」の文脈照応について」『日本語学』2, 11 月号, 71-83.
- 金善美 (2006) 『韓国語と日本語の指示詞の直示用法と非直時用法』風間書店.
- 金水敏・岡崎友子・曹美庚 (2002) 「指示詞の歴史的・対照言語学研究 —日本語・韓国語・トルコ語—」生越直樹(編)『シリーズ言語科学 4 対照言語学』, 217-247.
- 金水敏・田窪行則(編) (1990) 「談話管理理論から見た日本語の指示詞」『認知科学の発展』[金水・田窪(編) (1992), 123-149に再録].
- 金水敏・木村英樹・田窪行則 (1989) 『日本語文法セルフ・マスターシリーズ 4 指示詞』くろしお出版.
- 金水敏・田窪行則(編) (1992) 『日本語研究資料集 1 指示詞』ひつじ書房.
- 金水敏 (1999) 「日本語の指示詞における直示 用法と非直示用法の関係について」『自然言語処. 理』6 (4), 67-91.
- 久野暉 (1973) 『日本文法研究』大修館書店.
- 小泉保 (2001) 『入門語用論研究: 理論と応用』研究社.
- 黒田成幸 (1979) 「(コ)・ソ・アについて」『林栄一教授還暦記念論文集・英語と日本語と』くろしお出版.
- 阪田雪子 (1971) 「指示語『コ・ソ・ア』の機能について」『東京外国語大学論集』21 [金水・田窪 (編) (1992), 54-68に再録].
- 坂原茂 (1996) 「英語と日本語の名詞句限定表現の対応関係」『認知科学』3 (3), 38-58.
- 佐久間鼎 (1936) 『現代日本語の表現と語法』初版 厚生閣.
- 佐久間鼎 (1951) 『現代日本語の表現と語法 (改訂版)』厚生閣.
- 佐久間鼎 (1966) 『現代日本語の表現と語法 (補正版)』厚生閣 (1983 年くろしお出版より復刊).
- シャルル・バイイ(1970) 『一般言語学とフランス言語学』小林英夫訳 岩波書店.
- 正保勇 (1981) 「「コソア」の体系」『日本語の指示詞』日本語教育指導参考書8, 51-122.

- 申恵璟 (1985) 「韓国語の指示詞 i, ku, choと日本語の指示詞コ、ソ、ア」『Sophia linguistica』18, 102-112.
- 田窪行則 (1992) 「談話管理の標識について」文化言語学編集委員会 (編)『文化言語学—その提言と建設—』, 96-106.
- 田窪行則・金水敏 (1996a) 「複数の心理領域による談話管理」『認知科学』3(3), 59-71.
- 田窪行則 (2008) 「日本語指示詞の意味論と統語論—研究史的概説—」『言語の研究—ユーラシア諸言語からの視座—語学教育フォーラム』16 [田窪行則著 (2010), 289-316 に再録] .
- 田窪行則 (2010) 『日本語の構造 推論と知識管理』くろしお出版.
- 田窪行則 (2015) 「日本語指示詞の意味論と統語論：研究史的概説および直示のソについて」立命館大学大学院言語教育情報研究科主催 学術講演会.
- 田村マリ子 (1978) 「指示詞—朝鮮語이・코・저系列と日本語コ・ソ・ア系列との対照—」『待兼山論叢 日本語学編』12, 3-14.
- 土屋俊 (1999) 「モダリティの議論のために」『言語』28(60), 84-91.
- 時枝誠記 (1950) 『日本文法 口語篇』岩波書店.
- 富田健次著 (2000) 『ヴェトナム語の世界—ヴェトナム語基本文典』大学書林.
- ナツロク・ハイコ (2014) 「モダリティの定義をめぐって」澤田治美 (編)『ひつじ意味論講座 モダリティ I 』ひつじ書房.
- 仁田義雄・益岡隆志 (1989) 『日本語のモダリティ』くろしお出版.
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房.
- 日本記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語文法4 モダリティ』くろしお出版.
- 野村剛史 (2003) 「モダリティ形式の分類」『国語学』54(1), 17-31.
- 服部四郎 (1961) 「コレ、ソレとthis、that」『英語青年』107-8 [金水・田窪 (編) (1992), 47-53に再録] .
- 平田未季 (2014) 「注意概念を用いたソ系の直示用法と非直示用法の統一的分析」『言語研究』146, 83-108.
- 堀口和吉 (1978) 「指示語の表現性」『日本語・日本文化』8, 23-44.
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』くろしお出版.
- 三上章 (1955) 『現代語法新説』くろしお出版.
- 吉本啓 (1992) 「日本語の指示詞コソアの体系」『日本語研究資料集 指示詞』ひつじ書房, 105-122.

用例採集

Nguyễn Huy Thiệp (2012) *Tuyển tập kịch Nguyễn Huy Thiệp* [Nguyen Huy Thiep 戯曲選集].

Nhà xuất bản Trẻ.

Chu Ngọc (1997) *Có Thục* [トウツクさん]. Nhà xuất bản Sân khấu.

Đinh Văn Đức (1996) *Chứng chỉ thời gian* [時の跡]. Nhà xuất bản Sân khấu.

Lê Văn (1999) *Kịch Lê Văn* [レ・バン劇集]. Nhà xuất bản Sân khấu.